

課題番号: 20CA2065

**令和２年度厚生労働行政推進調査事業
(厚生労働科学特別研究事業)
コロナ禍における子どもへの影響と支援方策
のための横断的研究**

**機関調査：③市町村調査：教育委員会、学校調査
報告書**

2021年3月

研究代表 公立大学法人大阪 大阪府立大学 山野則子研究室

目次

厚生労働行政推進調査事業：コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査内容	1
(4) 調査対象者	2
(5) 調査実施日	2
(6) 調査配布・回収率（数）	3
(7) 調査実施主体	3
(8) 研究者一覧	3
(9) 研究対象者の人権の養護とデータの取り扱い	4
I. 市町村調査：教育委員会	5
1. 調査概要	6
(1) 調査目的	6
(2) 調査対象	6
(3) 調査方法	6
(4) 調査期間	6
(5) 回収状況	6
(6) クロス分析の軸について	6
2. 調査結果	8
(1) 自治体概要	8
(2) 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置	9
(3) 他機関・他部局との連携体制	11
1) 学校との連携	11
2) 学校への情報照会	13
3) 母子保健部局との連携	15
4) 母子保健部局への情報照会	17
5) 児童相談部局との連携	19
6) 児童相談部局への情報照会	21
7) 女性母子相談部局との連携	23
8) 女性母子相談部局への情報照会	25
9) 保育部局との連携	27
10) 保育部局への情報照会	29
11) 警察との連携	31
12) 警察への情報照会	33
13) 児童相談所との連携	35
14) 児童相談所への情報照会	37
15) 児童相談所からの専門的助言	39

1 6)	児童相談所からのバックアップ	41
(4)	教育委員会における支援状況	43
1)	コロナ感染者数別	43
2)	自治体規模別	65
(5)	支援人材の有無	72
3.	考察	73
(1)	関連各部局との連携の頻度の変化	73
(2)	教育委員会管轄の統計値・各種問題に関する相談・対応件数の推移	73
(3)	連携・支援状況の推移に関する考察	74
II.	学校調査	76
1.	調査概要	77
(1)	調査目的	77
(2)	調査対象	77
(3)	調査方法	77
(4)	調査期間	77
(5)	回収状況	77
(6)	クロス分析の軸について	77
2.	調査結果	78
(1)	基本情報	78
(2)	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置	80
(3)	コロナ禍における子ども・保護者・学校の状況の変化	82
1)	児童間のいじめ	82
2)	子どもの他児との関係性	84
3)	子どもの学習意欲	86
4)	子どものストレス・精神状態	88
5)	保護者と子どもの関係性	90
6)	保護者と教職員の関係性	92
7)	保護者のストレス・精神状態	94
8)	子どもの家庭の経済状況	96
9)	教職員同士の関係性	98
1 0)	子どもが希望を話す	100
1 1)	子どもが過去を話す	102
1 2)	子どもが家族を話す	104
1 3)	子どもの忘れ物の数や回数	106
1 4)	子どもの学校の遅刻	108
1 5)	子どもの学校の欠席	110
1 6)	子どもの問題行動	112
1 7)	子ども間のいじめ	114

18)	子ども間の友人関係トラブル	116
19)	子どもの自傷行為	118
20)	保護者の問題行動	120
21)	保護者からの苦情の回数	122
22)	家庭訪問の回数	124
23)	保護者との連絡回数	126
24)	ケース会議の実施	128
25)	他機関との連絡回数	130
26)	他機関への訪問回数	132
27)	制度やサービスの利用	134
28)	特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目	136
(4)	学校における支援状況	138
(5)	新型コロナウイルス感染防止を理由とした課題	150
3.	考察	151
(1)	学校調査に関するまとめ	151
1)	コロナ禍における子どもの状況の変化	151
2)	コロナ禍における保護者の状況の変化	151
3)	コロナ禍における学校の状況の変化	151
4)	学校と他機関との連携状況の変化	151
5)	学校における支援状況の変化	151
(2)	まとめ	152
Ⅲ.	資料	167
1.	調査票：教育委員会調査	168
2.	調査票：学校調査	172

厚生労働行政推進調査事業:コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究

(1) 調査の目的

本調査の目的は、新型コロナウイルス感染症により生じた社会システムの急激な変化による子どもの生活への影響について、以下の調査から検討し、政策提言を行うことである。(1) 新型コロナウイルス感染症の影響を検討する保護者とその子どもを対象とした調査(以下、保護者調査・子ども調査)、(2) 困難を抱える子どもの対応をする機関の実態把握・対応状況の変化を検討するための調査(以下、機関調査)。

本研究では、上述した2つの調査をととして、新型コロナウイルスが招いた災難や危機的状況(以下、「コロナ禍」)の影響を受けて困難を抱えている子どもの実態を明らかにし、声を上げにくい子どもを主体とした社会的課題の同定を目指す。具体的には、保護者調査によって、親の就労状況の変化等の全体像を把握し、機関調査によって、経済的な問題に加えて、虐待や親の精神疾患等の多重的に困難を抱える深刻な子どもに対応する児童相談所・一時保護所、市町村(児童相談・母子相談部門、母子保健部門、教育委員会、学校)等の機関の実態と対応状況を把握する。そして、保護者、機関の実態を踏まえた対応策について、感染症による特徴的な変化を同定することで、これまでの自然災害に加え、新たに感染症対応に関して独立した子ども支援計画の設定や方向性を示し、また通常課題に対する対策のなかで、より強化すべき方向性を明確化し新たな示唆を提言する。

(2) 調査方法

保護者調査・子ども調査は、研究代表者・共同研究者が調査票を設計し、インターネット調査会社に調査を委託して実施した。保護者調査・子ども調査では、調査を委託するインターネット調査事業者のモニターの中から、0～19歳未満(2020年10月時点)の子どもを持つ保護者を対象とした。保護者調査は、0～19歳未満(2020年10月時点)の子どもを持つ保護者の中から調査に協力ができるモニターを対象とした。子ども調査については、保護者調査に協力したモニターの中で、子どもの年齢が小学校高学年(9歳～)から高校生・高専生等(19歳未満)の子どもで、事前に子ども調査への参加協力についての同意が得られた保護者の子どもに対して調査を行った。

機関調査では、市町村調査、児童相談所調査、学校調査の3つを対象とした調査票調査を実施した。調査方法は、郵送による配布・回収を行った。市町村調査については、Excel調査票をダウンロードし、メールにて返送する方法も併用した。

(3) 調査内容

保護者調査・子ども調査では、新型コロナウイルスによる仕事への影響、コロナ禍で利用した公的支援制度(給付金・貸付・猶予や減免等の制度)、新型コロナウイルス感染症で不安に感じたこと、子どもに関する新型コロナウイルスで日々困っていると感ずること、休校の影響、家族の状況について、子どもとの関係について、心身の状態、まわりの人や配偶者との関係、生活について、家計について、毎日の生活で感ずていること、等の172設問(20項目)で構成した。

機関調査では、新型コロナウイルスによる業務への影響、他機関・他部局との連携体制の変化、コロナ禍で利用した公的支援制度の実態等について調査した。各部門の調査票構成については、次のとおりであ

る。調査票については、児童相談・母子相談は、675 設問（5 項目）、児童相談所・一時保護所では、315 設問（9 問）、児童相談所では、485 設問（11 問）、母子保健では、228 設問（7 項目）、教育委員会は、415 設問（5 項目）、学校では、50 設問（10 項目）で構成されている。

（4）調査対象者

保護者調査・子ども調査は事前に 3 万人のモニターに対してスクリーニングの事前調査を行い、子どもの年齢条件（0～19 歳未満の子ども）を満たし、かつ保護者調査・子ども調査の両方（小学校高学年から高校生・高専生等の子どもがいる保護者に限る）、または保護者調査のみ調査協力の同意の得られた保護者（0～19 歳未満の子どもを持つ保護者）を抽出した。本調査では、調査協力の得られた保護者に対して調査を実施し、保護者調査のみの保護者と、保護者調査と子ども調査の両方ともに協力した保護者に対して実施した。本調査では、貧困の状況が厳しいと考えられる、世帯年収が低いサンプルが少なかったため、年収 400 万以下の世帯でかつ保護者調査と子ども調査の両方ともに協力することができる保護者に対して、本調査と統一の項目で追加調査を実施した。

機関調査では、全市町村（1,741 件）の児童相談・母子相談部門・母子保健部門・教育委員会の 3 部署（調査対象機関は 5,223 件（全市町村 1,741 件×3 部署））として、困難を抱える子どもへの支援活動の実態を調査した。児童相談所調査では、児童相談所（全国の支所を含む児童相談所：237 件）と一時保護所（全国の一時保護所：144 件）を調査対象として、著しく困難な子どもの把握実態・対応状況の変化を調査した。児童相談所では、都道府県の児童相談所担当課宛に調査票を送付し、都道府県から各児童相談所に調査票を配布した。回答された調査票は各児童相談所から直接、委託業者へ返送する形を取った。一時保護所においても、都道府県の児童相談所担当課宛に調査票を送付し、都道府県から各一時保護所に調査票を配布し、回答された調査票は各一時保護所から直接、委託業者へ返送する形を取った。

学校調査では、教育委員会宛に調査票を送付し、教育委員会にて対象校の学校 50 校を選定のうえ、学校における困難な子どもの把握実態・対応状況の変化について、新型コロナウイルス感染症の状況による違いについて聞いている。市町村のうち、2020 年 9 月末時点の都道府県別コロナ感染者数（人口 10 万人あたり累計）をもとに、以下の基準で各層 3 自治体ずつ、合計 9 自治体を選定し、1 自治体あたり小中あわせて最大 50 校に対して調査を依頼し、合計 450 校を対象として調査を実施した。そして、教育委員会宛に調査票を送付し、教育委員会にて対象校 50 校を選定のうえ、各学校に調査票を配布した。回答した調査票は各学校から直接、委託業者へ返送する形を取った。

第 1 層：コロナ感染者数が多い自治体

第 2 層：コロナ感染者数が中程度の自治体

第 3 層：コロナ感染者数が少ない自治体

（5）調査実施日

保護者調査・子ども調査の本調査は、2020 年 10 月 29 日～ 2020 年 10 月 30 日、追加調査は、2020 年 11 月 25 日～2020 年 11 月 26 日に実施した。機関調査は、2020 年 11 月 11 日～2020 年 12 月 11 日に実施した。

(6) 調査配布・回収率(数)

保護者調査・子ども調査は、本調査は保護者調査・子ども調査の両方とも参加の有効サンプル数は 515、保護者調査のみ参加の有効サンプル数は 1,550 の総サンプル数は 2,065 であった。追加調査は、保護者調査・子ども調査の両方とも参加の有効サンプル数は 517 であった。両調査で得られた総サンプル数は 2,582 となった。

機関調査のうち、各市区町村の児童相談・母子相談・母子保健の各部門、また教育委員会への調査に関しては、全市町村 1,741 内の 3 部署、総計 5,223 件の調査依頼を行った結果、2,298 件の回答が得られ、うち有効回答数は 2,198 件となった。したがって、回収率は 44.0%、有効回答率は 42.1%であった。

担当部局ごとの内訳に関して、児童相談・母子相談部門の回答数は 751 件、うち有効回答数は 720 件で、回収率は 43.1%、有効回答率は 41.4%となった。母子保健部門からの回答数は 923 件、うち有効回答数は 900 件で、回収率は 53.0%、有効回答率は 51.7%であった。教育委員会の回答数は 624 件、うち有効回答は 578 件で、回収率は 35.8%、有効回答率は 33.2%であった。

また全国の児童相談所・一時保護所に対する調査依頼の結果、児童相談所に関しては総数 237 か所のうち 134 件、一時保護所に関しては総数 146 か所のうち 79 件の有効回答を得た。回収率と有効回答率はともに、児童相談所 56.5%、一時保護所 54.9%であった。

加えて 2020 年 9 月末時点での都道府県別新型コロナウイルス感染状況に基づき選定された、深刻度「大」・「中程度」・「小」と考えられる 3 市区を選定し、その市区内の小・中学校 50 校に向け送付した調査票（総数 450 件）の有効回答数は 189 件、回収率と有効回収率はともに 42.0%であった。

(7) 調査実施主体

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科
外部委託業者は以下の 2 社である。

- ・ 株式会社マクロミル（保護者調査・子ども調査）
- ・ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（機関調査）

(8) 研究者一覧

研究代表者

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 教授 山野 則子

共同研究者

花園大学 社会福祉学部 教授 和田 一郎

兵庫県こころのケアセンター研究部 副センター兼副部長 亀岡 智美

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 准教授 木曾 陽子

会津大学 短期大学部 幼児教育学科 准教授 鈴木 勲

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 伊藤 ゆかり

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 小倉 康弘

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 シランカ 実希

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 李 慧慧

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 林 萍萍

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 研究員 伊藤 莉央

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 博士前期課程 石田 まり

(9) 研究対象者の人権の養護とデータの取り扱い

本研究に関する説明を十分に行った後、自由意思により同意の得られた人のみを対象とした。研究への協力はあくまでも自由意思に基づくものであり、調査票への回答の可否によって不利益が生じることがないことを保障した。また、調査によって回答者に苦痛や極度の疲労を与えることが無いよう配慮した。保護者調査・子ども調査では、事前調査で調査対象者の保護者と子どもに対して、調査説明書をウェブ上で読んでもらい、調査協力の承諾が得られた家庭にのみ調査を実施した。子どもの心的な負担にならないように調査票の作成をした。

本研究により得た情報は研究における利用以外では一切使用せず、研究室として保有する調査データの保存に用いる媒体はパスワード管理を行っている。委託先の調査事業者との電子ファイルの授受の際には、必ず暗号化した上で実施した。保護者調査と子ども調査では、調査事業者は対応表の作成はしない、モニターの回答状況の確認をする目的でアクセスログを取った。研究者側へは匿名加工情報のみの提供のため、アクセスログは研究者側には提供されていない。機関調査においても、本研究室は調査事業者より市町村・施設の特定が出来ない形式にてデータを受け取った。

I. 市町村調査：教育委員会

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、上記厚生労働省特別研究の一環として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会生活の急激な変化の下、子どもの生活・またその公的支援体制への影響を明らかにし、政策提言を行うことを目的として実施した。

(2) 調査対象

全国の市町村における教育委員会：1,741 件

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

(Excel 調査票をダウンロードし、メールにて返送する方法も併用)

(4) 調査期間

2020 年 11 月 11 日（水）～2020 年 12 月 14 日（月）（当初締切 12 月 4 日（金））

(5) 回収状況

回収数 624 件（回収率 35.8%）

うち有効回収数 578 件（有効回収率 33.2%）

(6) クロス分析の軸について

以下では、基本的に新型コロナウイルス感染者数（以下、コロナ感染者数）別のクロス集計結果を掲載している。軸の作成にあたっては、2020 年 9 月末時点の都道府県別コロナ感染者数（人口 10 万人あたり累計）をもとに、都道府県を感染者数高位群／中位群／低位群の 3 つに区分した。都道府県の分類は以下のとおりである。

＜コロナ感染者数 3 区分＞

高位群	東京都、沖縄県、大阪府、福岡県、神奈川県、愛知県、京都府、石川県、埼玉県、千葉県
中位群	兵庫県、奈良県、富山県、北海道、群馬県、滋賀県、宮崎県、熊本県、福井県、岐阜県、佐賀県、三重県、和歌山県、鹿児島県、山梨県、茨城県、栃木県、島根県、広島県、徳島県、高知県、長崎県、宮城県、長野県、静岡県、山口県、大分県、福島県
低位群	香川県、愛媛県、岡山県、新潟県、山形県、鳥取県、秋田県、青森県、岩手県

また、一部設問については自治体規模別のクロス集計結果も掲載している。軸の作成にあたっては、各調査票の問 1 「自治体規模」の設問より、政令指定都市・中核市／人口 10 万人以上の市／人口 10 万人

以下の市／町村の4区分を設定した。

2. 調査結果

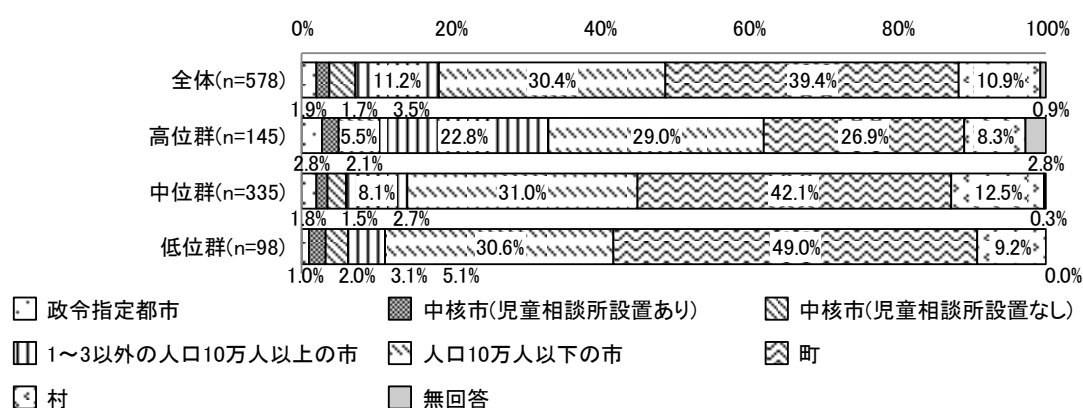
(1) 自治体概要

Q1 自治体の規模

「全体」では、「町」が 39.4%でもっとも割合が高く、次いで「人口 10 万人以下の市」が 30.4%となっている。

「高位群」では、「人口 10 万人以下の市」が 29.0%でもっとも割合が高く、次いで「町」が 26.9%となっている。「中位群」では、「町」が 42.1%でもっとも割合が高く、次いで「人口 10 万人以下の市」が 31.0%となっている。「低位群」では、「町」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「人口 10 万人以下の市」が 30.6%となっている。

図表 I-1 Q1 コロナ感染者数別 自治体の規模:単数回答



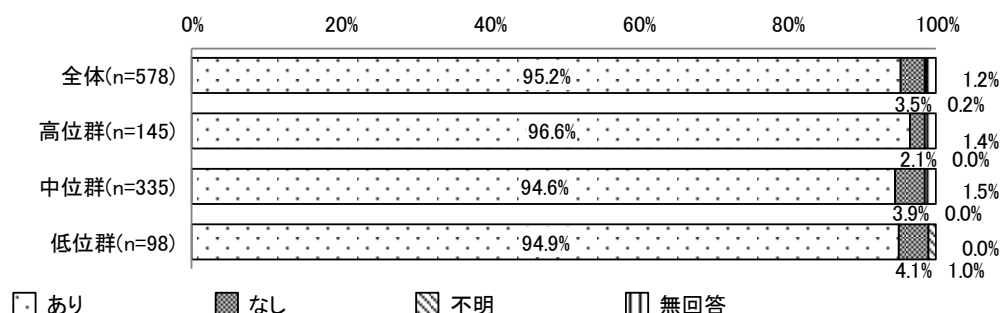
(2) 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置

Q2-1 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_公立小・中学校

「全体」では、「あり」が 95.2%でもっとも割合が高く、次いで「なし」が 3.5%となっている。

「高位群」では、「あり」が 96.6%、「なし」が 2.1%となっている。「中位群」では、「あり」が 94.6%、「なし」が 3.9%となっている。「低位群」では、「あり」が 94.9%でもっとも割合が高く、次いで「なし」が 4.1%となっている。

図表 I-2 Q2-1 コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_公立小・中学校:単数回答

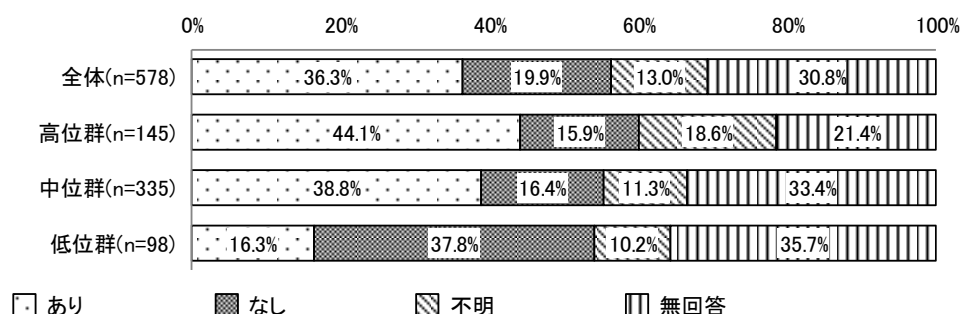


Q2-2 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_幼稚園

「全体」では、「あり」が 36.3%でもっとも割合が高く、次いで「なし」が 19.9%となっている。

「高位群」では、「あり」が 44.1%でもっとも割合が高く、次いで「不明」が 18.6%となっている。「中位群」では、「あり」が 38.8%でもっとも割合が高く、次いで「なし」が 16.4%となっている。「低位群」では、「なし」が 37.8%でもっとも割合が高く、次いで「あり」が 16.3%となっている。

図表 I-3 Q2-2 コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_幼稚園:単数回答

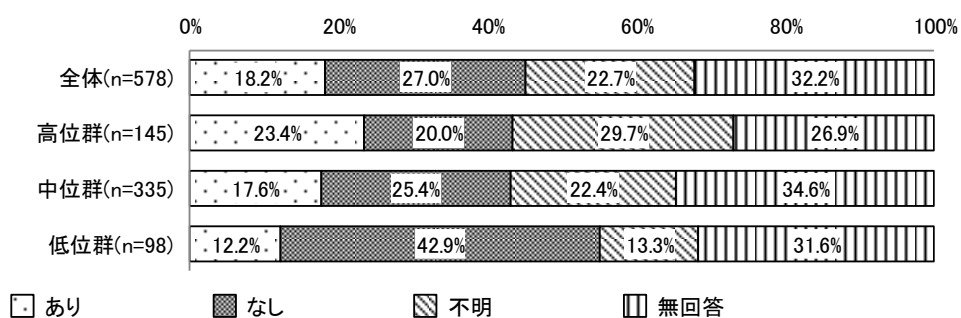


Q2-3 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_認定こども園など

「全体」では、「なし」が 27.0%でもっとも割合が高く、次いで「不明」が 22.7%となっている。

「高位群」では、「不明」が 29.7%でもっとも割合が高く、次いで「あり」が 23.4%となっている。「中位群」では、「なし」が 25.4%でもっとも割合が高く、次いで「不明」が 22.4%となっている。「低位群」では、「なし」が 42.9%でもっとも割合が高く、次いで「不明」が 13.3%となっている。

図表 I-4 Q2-3 コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染症に伴う休校・休園措置_認定こども園など:単数回答



(3) 他機関・他部局との連携体制

以下では、①新型コロナウイルス感染症拡大前（～2020年2月）（以下、コロナ前）、②休校期間中（2020年3月～）、③学校再開直後（2020年6月頃）における他機関・他部局との連携体制について確認する。ただし、休校措置をとっていない場合は②休校期間中について分析から除外している。

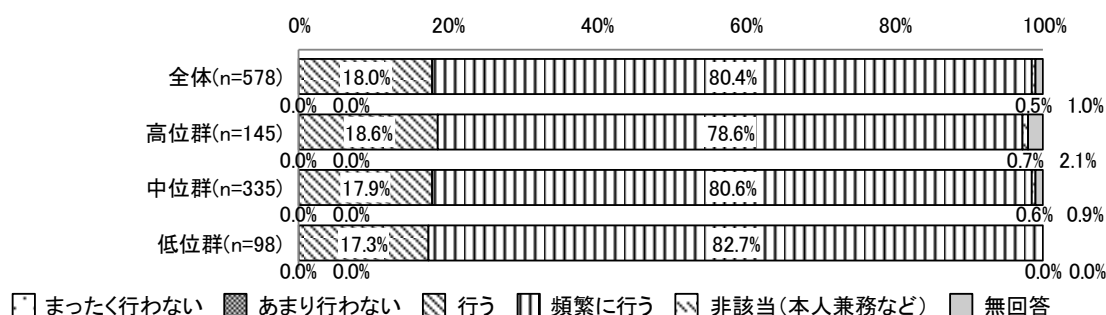
1) 学校との連携

Q3-1-1① コロナ前_学校との連携

「全体」では、「頻繁に行く」が80.4%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が18.0%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が78.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が18.6%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が80.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が17.9%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が82.7%、「行く」が17.3%となっている。

図表 I-5 Q3-1-1① コロナ感染者数別 コロナ前_学校との連携:単数回答

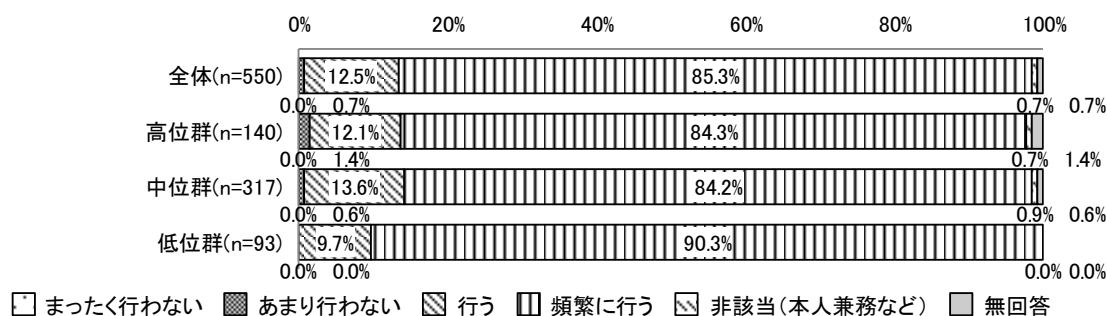


Q3-1-1② 休校期間中_学校との連携

「全体」では、「頻繁に行く」が85.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が12.5%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が84.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が12.1%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が84.2%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が13.6%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が90.3%、「行く」が9.7%となっている。

図表 I-6 Q3-1-1② 休校期間中_学校との連携:単数回答

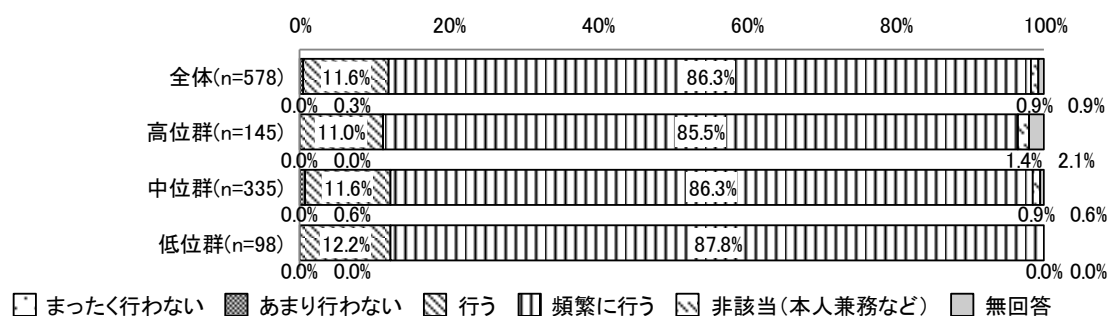


Q3-1-1③ 学校再開後_学校との連携

「全体」では、「頻繁に行く」が 86.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 11.6%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が 85.5%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 11.0%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が 86.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 11.6%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が 87.8%、「行く」が 12.2%となっている。

図表 I-7 Q3-1-1③ コロナ感染者数別 学校再開後_学校との連携:単数回答



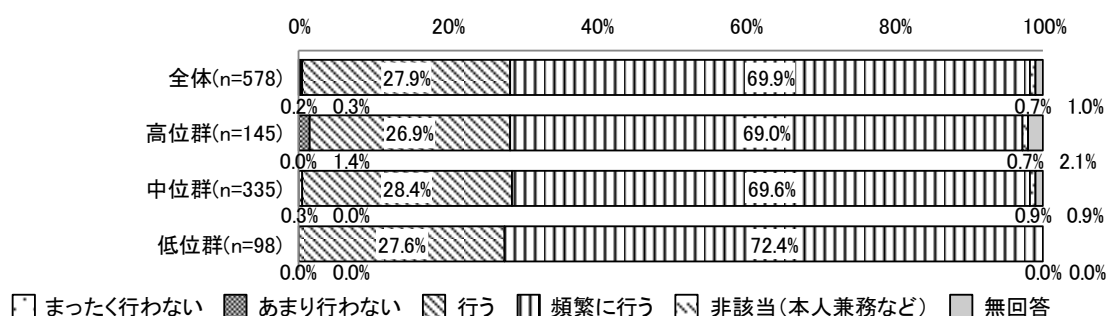
2) 学校への情報照会

Q3-1-2① コロナ前_学校への情報照会

「全体」では、「頻繁に行く」が 69.9%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 27.9%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が 69.0%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 26.9%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が 69.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 28.4%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が 72.4%、「行く」が 27.6%となっている。

図表 I-8 Q3-1-2① コロナ感染者数別 コロナ前_学校への情報照会:単数回答

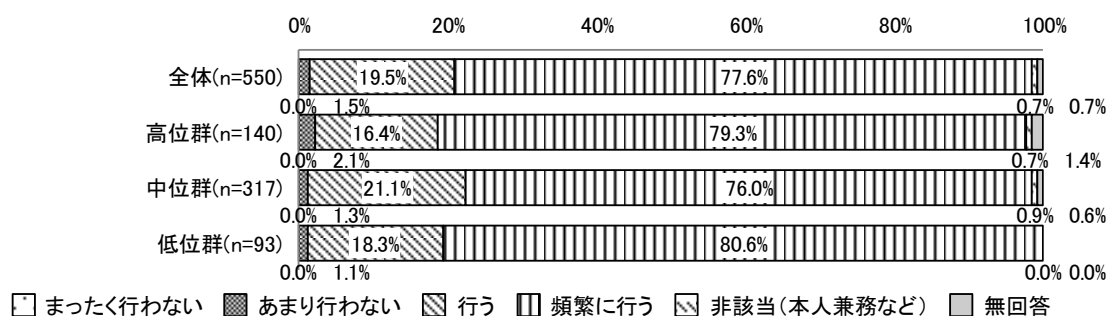


Q3-1-2② 休校期間中_学校への情報照会

「全体」では、「頻繁に行く」が 77.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 19.5%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が 79.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 16.4%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が 76.0%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 21.1%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が 80.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が 18.3%となっている。

図表 I-9 Q3-1-2② コロナ感染者数別 休校期間中_学校への情報照会:単数回答

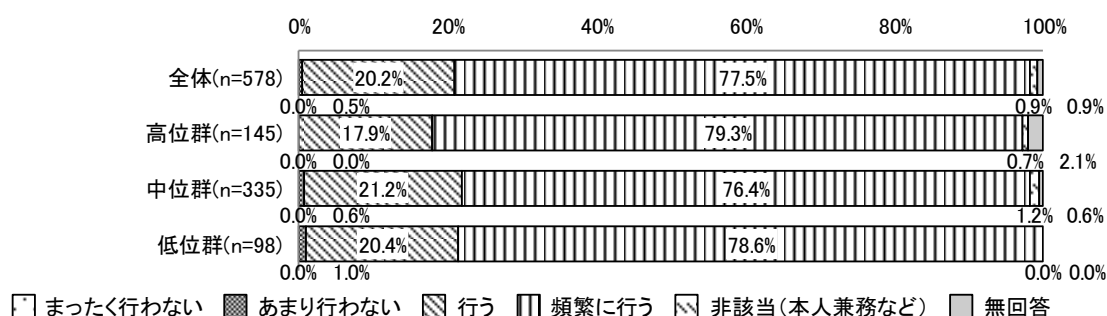


Q3-1-2③ 学校再開後_学校への情報照会

「全体」では、「頻繁に行く」が77.5%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が20.2%となっている。

「高位群」では、「頻繁に行く」が79.3%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が17.9%となっている。「中位群」では、「頻繁に行く」が76.4%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が21.2%となっている。「低位群」では、「頻繁に行く」が78.6%でもっとも割合が高く、次いで「行く」が20.4%となっている。

図表 I-10 Q3-1-2③ コロナ感染者数別 学校再開後_学校への情報照会:単数回答



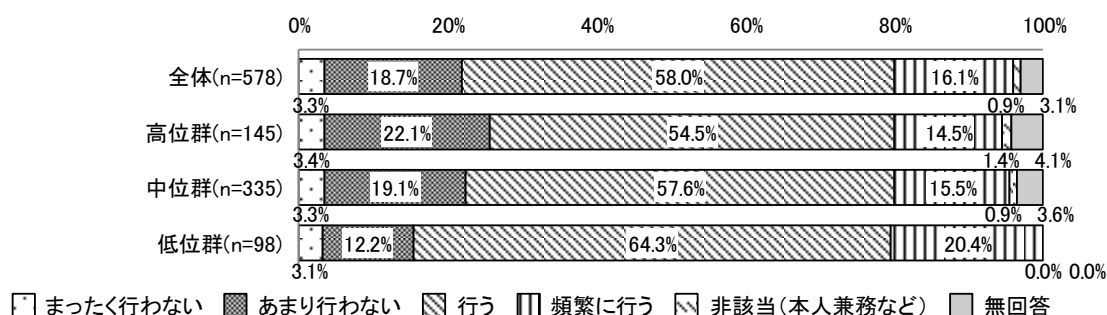
3) 母子保健部局との連携

Q3-2-1① コロナ前_母子保健部局との連携

「全体」では、「行う」が 58.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 18.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が 54.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が 57.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 19.1%となっている。「低位群」では、「行う」が 64.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 20.4%となっている。

図表 I-11 Q3-2-1① コロナ感染者数別 コロナ前_母子保健部局との連携:単数回答

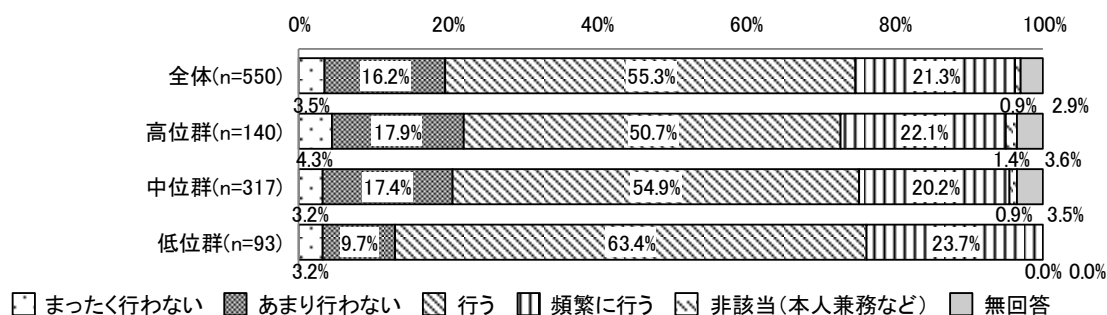


Q3-2-1② 休校期間中_母子保健部局との連携

「全体」では、「行う」が 55.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 21.3%となっている。

「高位群」では、「行う」が 50.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 20.2%となっている。「低位群」では、「行う」が 63.4%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 23.7%となっている。

図表 I-12 Q3-2-1② コロナ感染者数別 休校期間中_母子保健部局との連携:単数回答

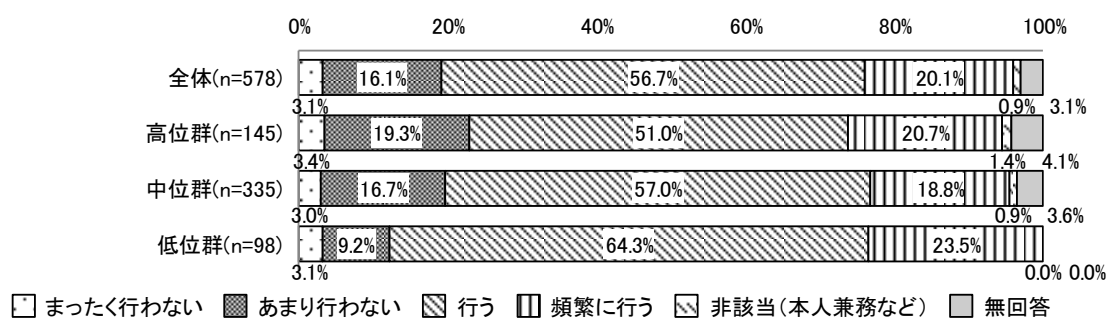


Q3-2-1③ 学校再開後_母子保健部局との連携

「全体」では、「行う」が 56.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 20.1%となっている。

「高位群」では、「行う」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 20.7%となっている。「中位群」では、「行う」が 57.0%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 18.8%となっている。「低位群」では、「行う」が 64.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 23.5%となっている。

図表 I-13 Q3-2-1③ コロナ感染者数別 学校再開後_母子保健部局との連携:単数回答



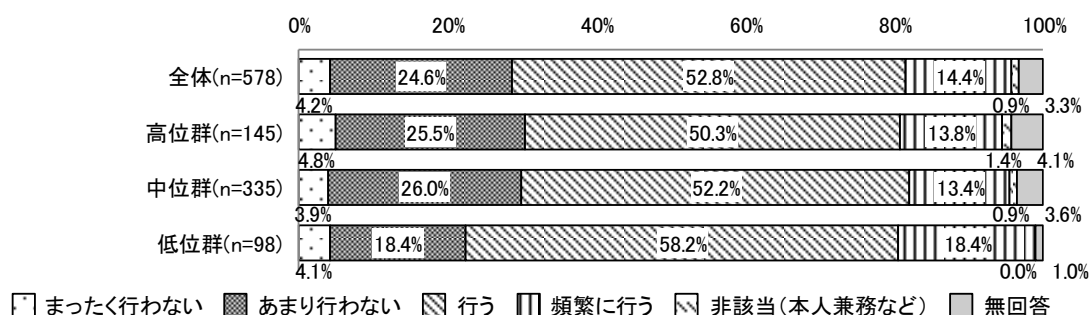
4) 母子保健部局への情報照会

Q3-2-2① コロナ前_母子保健部局への情報照会

「全体」では、「行う」が52.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が24.6%となっている。

「高位群」では、「行う」が50.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.5%となっている。「中位群」では、「行う」が52.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.0%となっている。「低位群」では、「行う」が58.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」「頻繁に行う」が18.4%となっている。

図表 I-14 Q3-2-2① コロナ感染者数別 コロナ前_母子保健部局への情報照会:単数回答

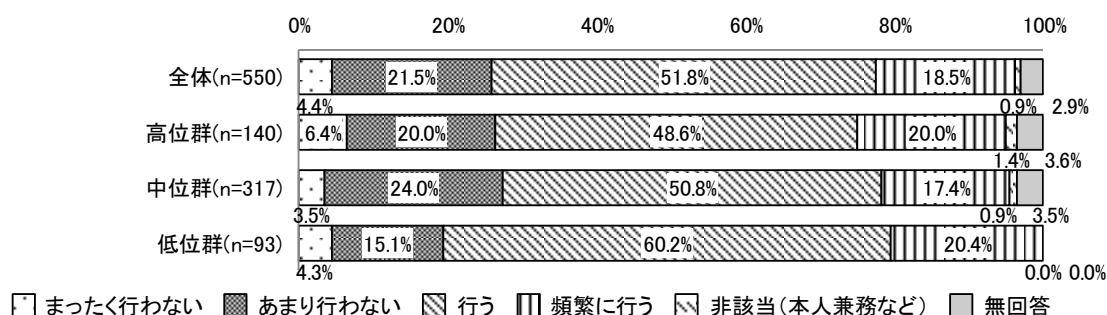


Q3-2-2② 休校期間中_母子保健部局への情報照会

「全体」では、「行う」が51.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が21.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が48.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」「頻繁に行う」が20.0%となっている。「中位群」では、「行う」が50.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が24.0%となっている。「低位群」では、「行う」が60.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が20.4%となっている。

図表 I-15 Q3-2-2② コロナ感染者数別 休校期間中_母子保健部局への情報照会:単数回答

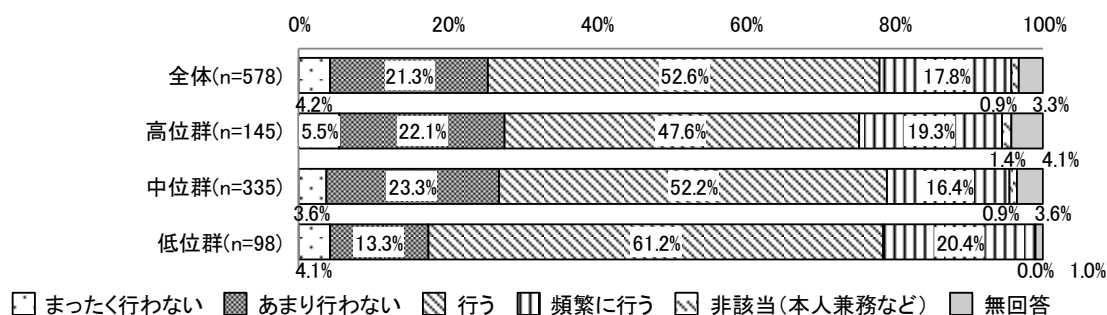


Q3-2-2③ 学校再開後_母子保健部局への情報照会

「全体」では、「行う」が 52.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 21.3%となっている。

「高位群」では、「行う」が 47.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が 52.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 23.3%となっている。「低位群」では、「行う」が 61.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 20.4%となっている。

図表 I-16 Q3-2-2③ コロナ感染者数別 学校再開後_母子保健部局への情報照会:単数回答



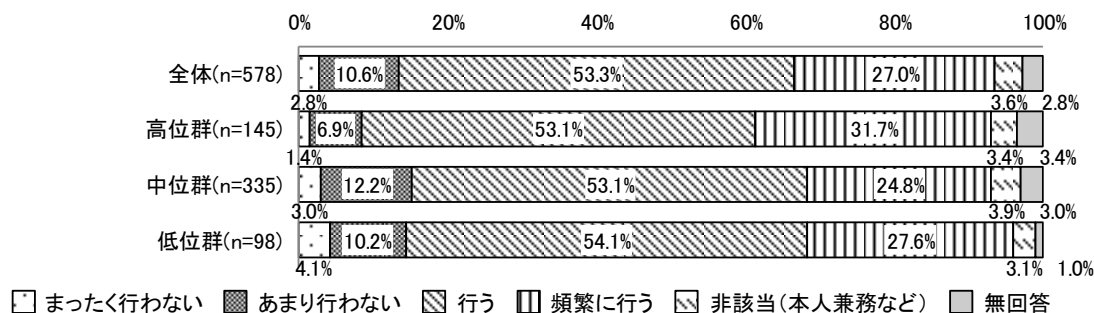
5) 児童相談部局との連携

Q3-3-1① コロナ前_児童相談部局との連携

「全体」では、「行う」が 53.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「行う」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 31.7%となっている。「中位群」では、「行う」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 24.8%となっている。「低位群」では、「行う」が 54.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 27.6%となっている。

図表 I-17 Q3-3-1① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談部局との連携:単数回答

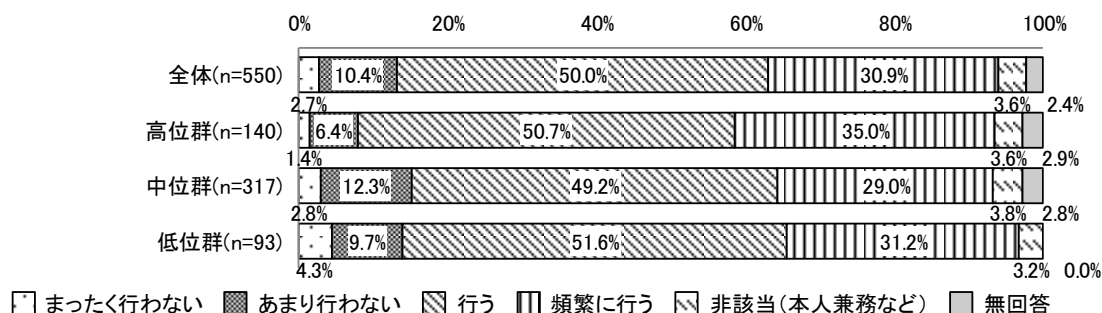


Q3-3-1② 休校期間中_児童相談部局との連携

「全体」では、「行う」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 30.9%となっている。

「高位群」では、「行う」が 50.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 35.0%となっている。「中位群」では、「行う」が 49.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 29.0%となっている。「低位群」では、「行う」が 51.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 31.2%となっている。

図表 I-18 Q3-3-1② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談部局との連携:単数回答

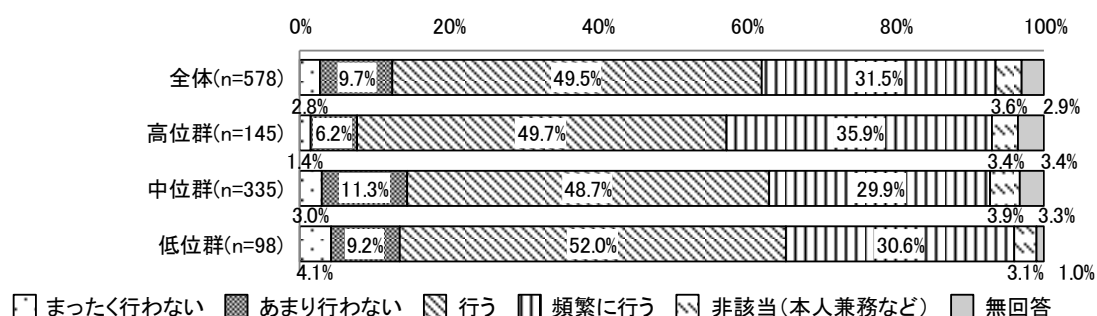


Q3-3-1③ 学校再開後_児童相談部局との連携

「全体」では、「行う」が 49.5%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 31.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が 49.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 35.9%となっている。「中位群」では、「行う」が 48.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 29.9%となっている。「低位群」では、「行う」が 52.0%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 30.6%となっている。

図表 I-19 Q3-3-1③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談部局との連携:単数回答



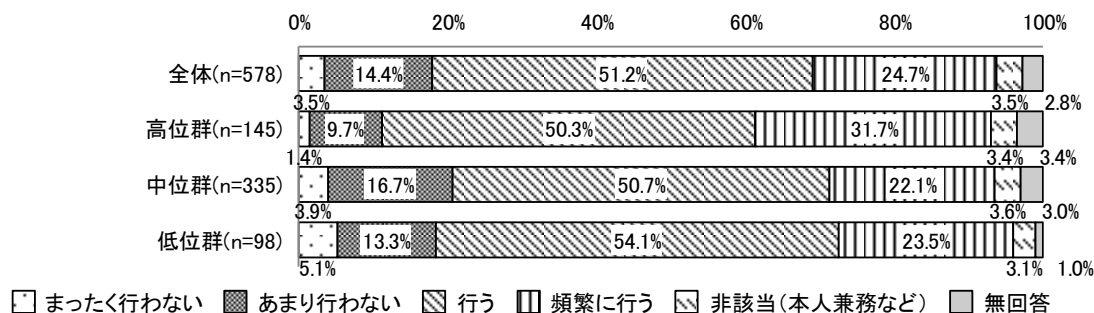
6) 児童相談部局への情報照会

Q3-3-2① コロナ前_児童相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が51.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が24.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が50.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が31.7%となっている。「中位群」では、「行う」が50.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が22.1%となっている。「低位群」では、「行う」が54.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が23.5%となっている。

図表 I-20 Q3-3-2① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談部局への情報照会:単数回答

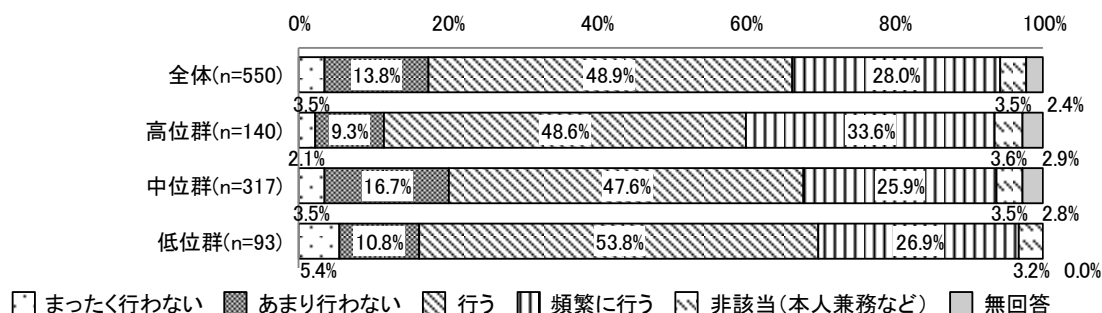


Q3-3-2② 休校期間中_児童相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が48.9%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が28.0%となっている。

「高位群」では、「行う」が48.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が33.6%となっている。「中位群」では、「行う」が47.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が25.9%となっている。「低位群」では、「行う」が53.8%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が26.9%となっている。

図表 I-21 Q3-3-2② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談部局への情報照会:単数回答

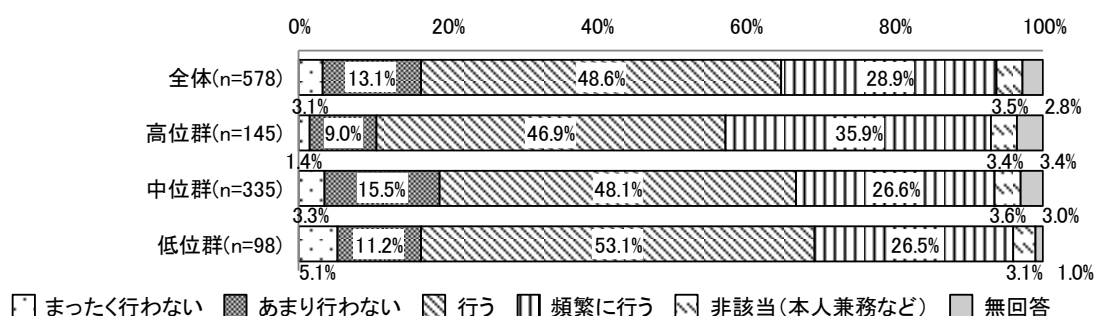


Q3-3-2③ 学校再開後_児童相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が48.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が28.9%となっている。

「高位群」では、「行う」が46.9%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が35.9%となっている。「中位群」では、「行う」が48.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が26.6%となっている。「低位群」では、「行う」が53.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が26.5%となっている。

図表 I-22 Q3-3-2③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談部局への情報照会:単数回答



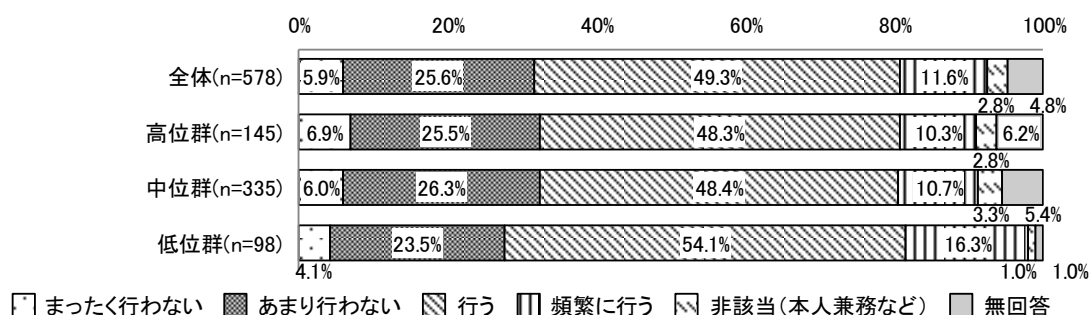
7) 女性母子相談部局との連携

Q3-3-4① コロナ前_女性母子相談部局との連携

「全体」では、「行う」が49.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.6%となっている。

「高位群」では、「行う」が48.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.5%となっている。「中位群」では、「行う」が48.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.3%となっている。「低位群」では、「行う」が54.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が23.5%となっている。

図表 I-23 Q3-3-4① コロナ感染者数別 コロナ前_女性母子相談部局との連携:単数回答

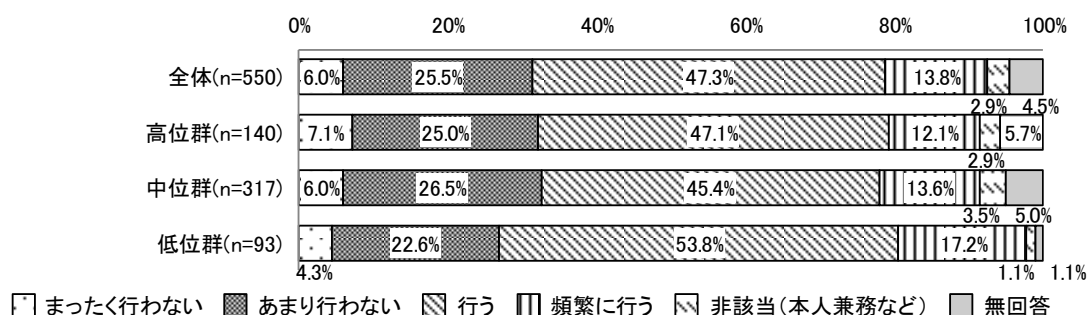


Q3-3-4② 休校期間中_女性母子相談部局との連携

「全体」では、「行う」が47.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が47.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.0%となっている。「中位群」では、「行う」が45.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.5%となっている。「低位群」では、「行う」が53.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が22.6%となっている。

図表 I-24 Q3-3-4② コロナ感染者数別 休校期間中_女性母子相談部局との連携:単数回答

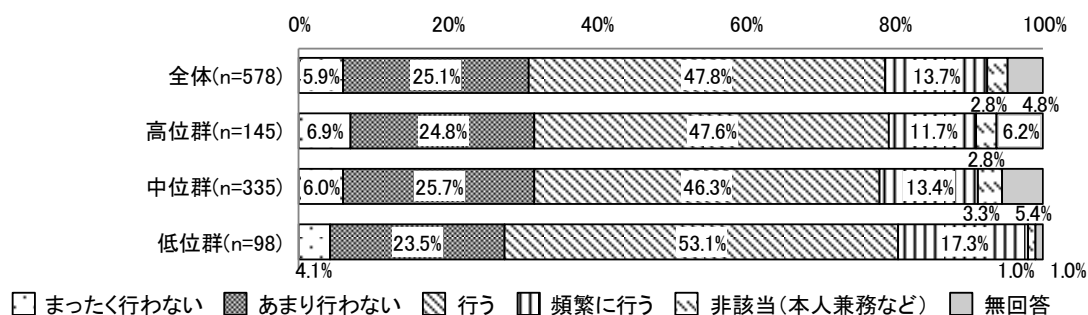


Q3-3-4③ 学校再開後_女性母子相談部局との連携

「全体」では、「行う」が 47.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 25.1%となっている。

「高位群」では、「行う」が 47.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 24.8%となっている。「中位群」では、「行う」が 46.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 25.7%となっている。「低位群」では、「行う」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 23.5%となっている。

図表 I-25 Q3-3-4③ コロナ感染者数別 学校再開後_女性母子相談部局との連携:単数回答



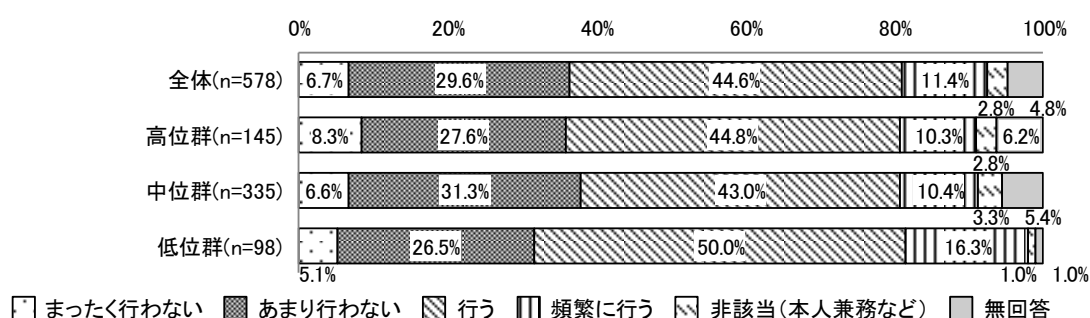
8) 女性母子相談部局への情報照会

Q3-3-5① コロナ前_女性母子相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が44.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が29.6%となっている。

「高位群」では、「行う」が44.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が27.6%となっている。「中位群」では、「行う」が43.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が31.3%となっている。「低位群」では、「行う」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.5%となっている。

図表 I-26 Q3-3-5① コロナ感染者数別 コロナ前_女性母子相談部局への情報照会:単数回答

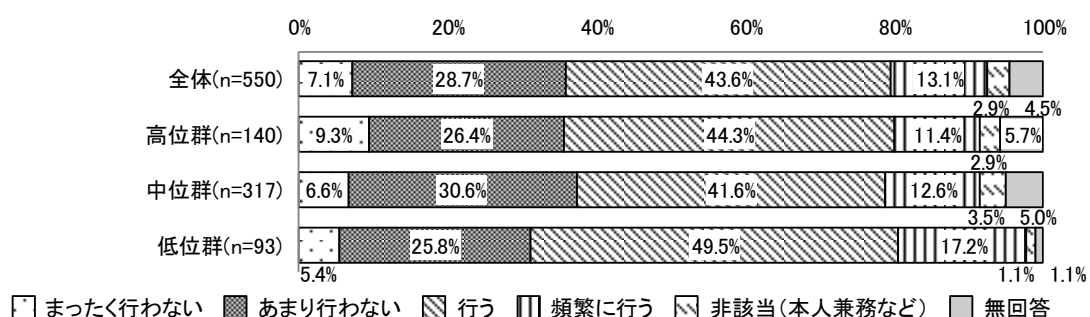


Q3-3-5② 休校期間中_女性母子相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が43.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が28.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が44.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.4%となっている。「中位群」では、「行う」が41.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が30.6%となっている。「低位群」では、「行う」が49.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.8%となっている。

図表 I-27 Q3-3-5② コロナ感染者数別 休校期間中_女性母子相談部局への情報照会:単数回答

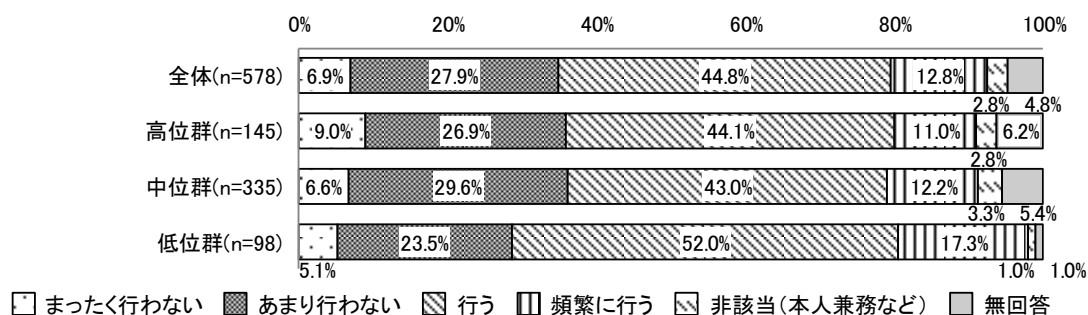


Q3-3-5③ 学校再開後_女性母子相談部局への情報照会

「全体」では、「行う」が44.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が27.9%となっている。

「高位群」では、「行う」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.9%となっている。「中位群」では、「行う」が43.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が29.6%となっている。「低位群」では、「行う」が52.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が23.5%となっている。

図表 I-28 Q3-3-5③ コロナ感染者数別 学校再開後_女性母子相談部局への情報照会:単数回答



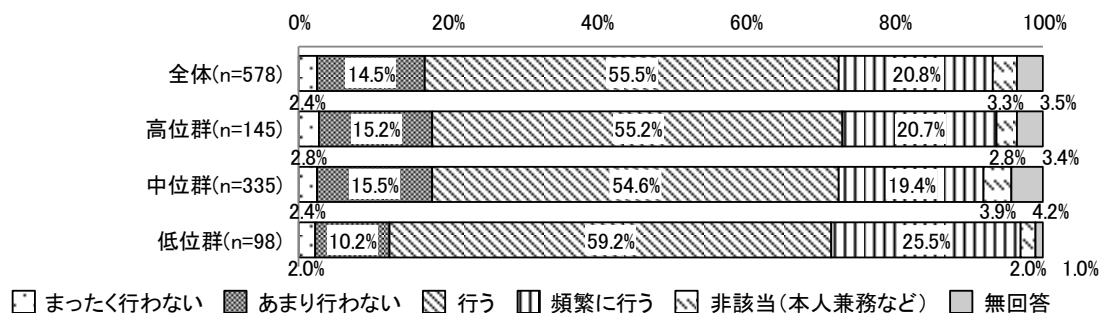
9) 保育部局との連携

Q3-3-6① コロナ前_保育部局との連携

「全体」では、「行う」が55.5%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が20.8%となっている。

「高位群」では、「行う」が55.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が20.7%となっている。「中位群」では、「行う」が54.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が19.4%となっている。「低位群」では、「行う」が59.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が25.5%となっている。

図表 I-29 Q3-3-6① コロナ感染者数別 コロナ前_保育部局との連携:単数回答

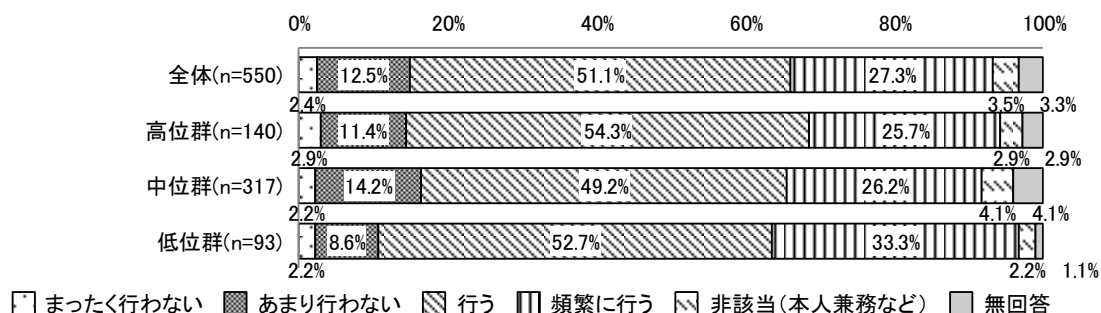


Q3-3-6② 休校期間中_保育部局との連携

「全体」では、「行う」が51.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が27.3%となっている。

「高位群」では、「行う」が54.3%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が25.7%となっている。「中位群」では、「行う」が49.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が26.2%となっている。「低位群」では、「行う」が52.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が33.3%となっている。

図表 I-30 Q3-3-6② コロナ感染者数別 休校期間中_保育部局との連携:単数回答

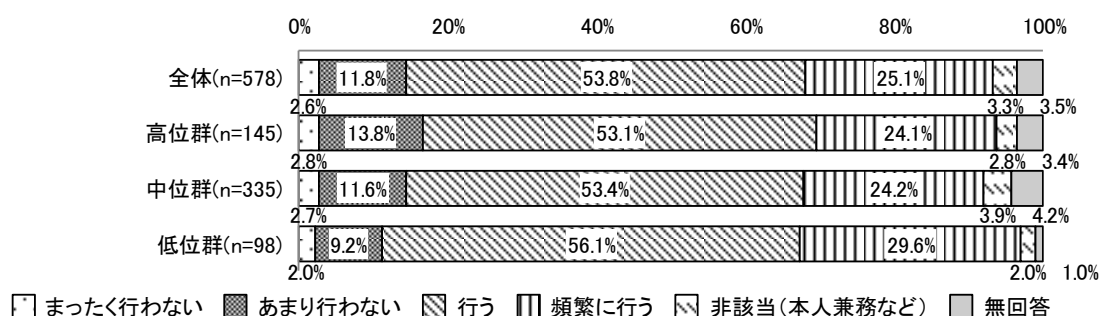


Q3-3-6③ 学校再開後_保育部局との連携

「全体」では、「行う」が 53.8%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 25.1%となっている。

「高位群」では、「行う」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 24.1%となっている。「中位群」では、「行う」が 53.4%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 24.2%となっている。「低位群」では、「行う」が 56.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 29.6%となっている。

図表 I-31 Q3-3-6③ コロナ感染者数別 学校再開後_保育部局との連携:単数回答



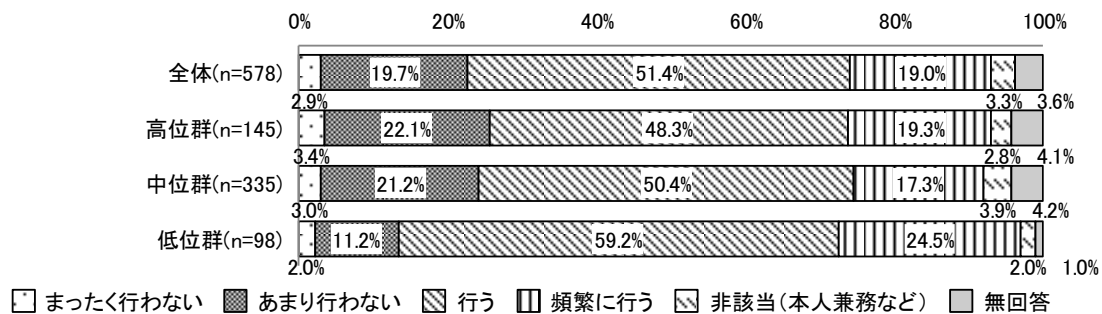
10) 保育部局への情報照会

Q3-3-7① コロナ前_保育部局への情報照会

「全体」では、「行う」が51.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が19.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が48.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が50.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が21.2%となっている。「低位群」では、「行う」が59.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が24.5%となっている。

図表 I-32 Q3-3-7① コロナ感染者数別 コロナ前_保育部局への情報照会:単数回答

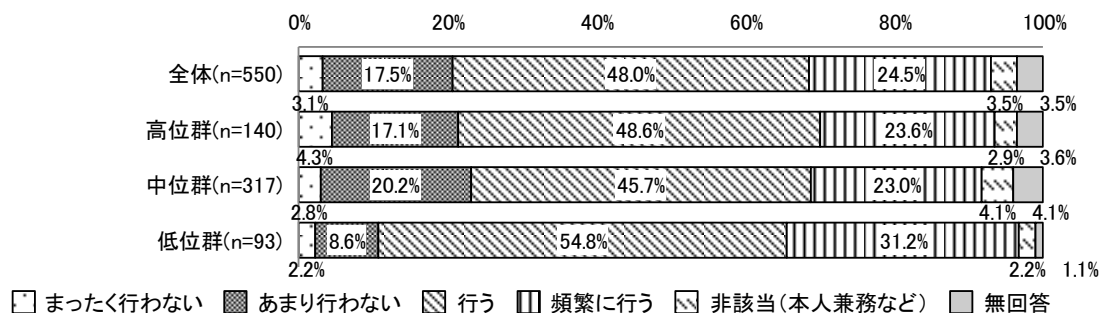


Q3-3-7② 休校期間中_保育部局への情報照会

「全体」では、「行う」が48.0%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が24.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が48.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が23.6%となっている。「中位群」では、「行う」が45.7%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が23.0%となっている。「低位群」では、「行う」が54.8%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が31.2%となっている。

図表 I-33 Q3-3-7② コロナ感染者数別 休校期間中_保育部局への情報照会:単数回答

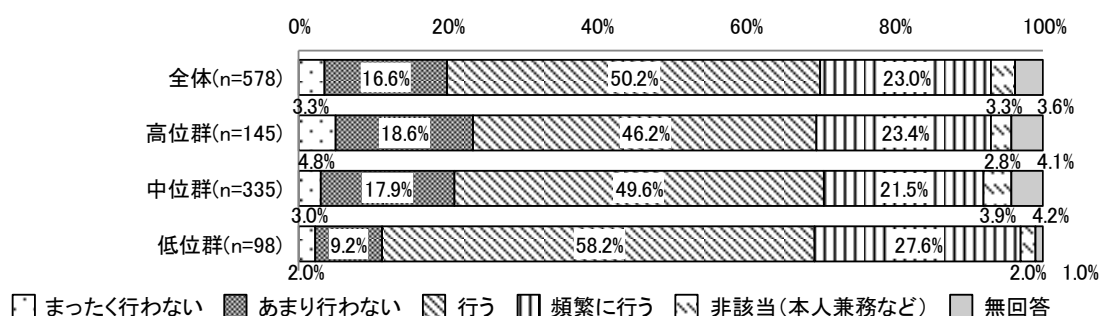


Q3-3-7③ 学校再開後_保育部局への情報照会

「全体」では、「行う」が 50.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 23.0%となっている。

「高位群」では、「行う」が 46.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 23.4%となっている。「中位群」では、「行う」が 49.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 21.5%となっている。「低位群」では、「行う」が 58.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が 27.6%となっている。

図表 I-34 Q3-3-7③ コロナ感染者数別 学校再開後_保育部局への情報照会:単数回答



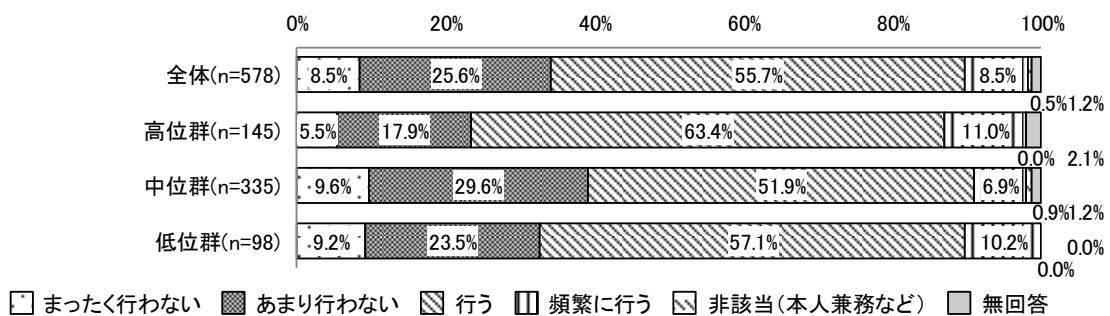
11) 警察との連携

Q3-4-1① コロナ前_警察との連携

「全体」では、「行う」が 55.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 25.6%となっている。

「高位群」では、「行う」が 63.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 17.9%となっている。「中位群」では、「行う」が 51.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 29.6%となっている。「低位群」では、「行う」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 23.5%となっている。

図表 I-35 Q3-4-1① コロナ感染者数別 コロナ前_警察との連携:単数回答

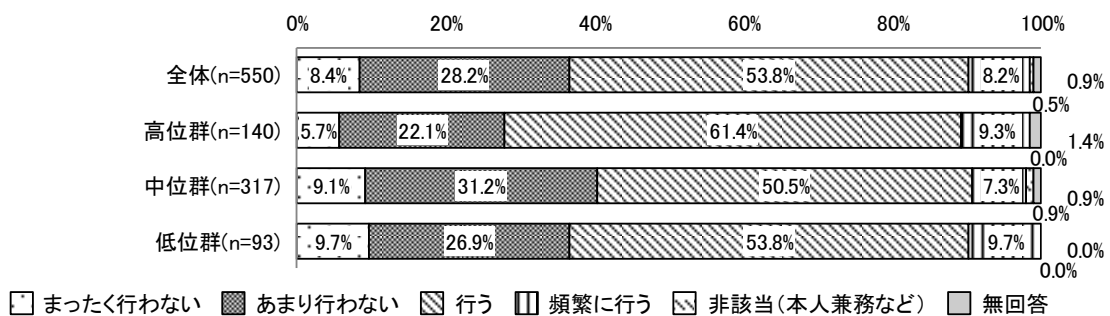


Q3-4-1② 休校期間中_警察との連携

「全体」では、「行う」が 53.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 28.2%となっている。

「高位群」では、「行う」が 61.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が 50.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 31.2%となっている。「低位群」では、「行う」が 53.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 26.9%となっている。

図表 I-36 Q3-4-1② コロナ感染者数別 休校期間中_警察との連携:単数回答

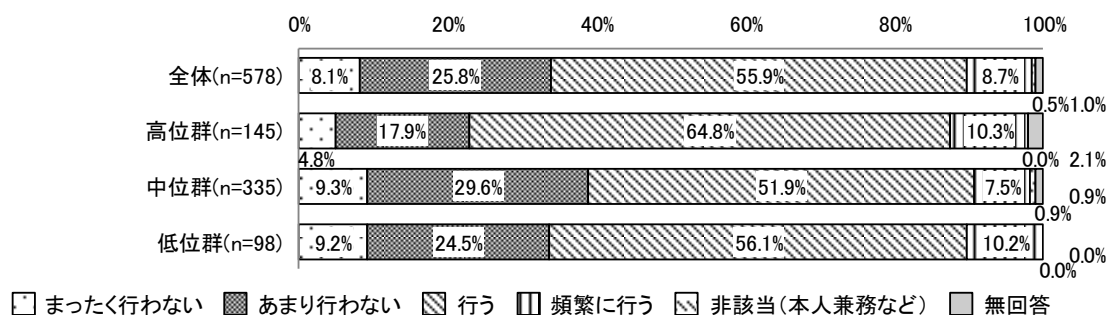


Q3-4-1③ 学校再開後_警察との連携

「全体」では、「行う」が 55.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 25.8%となっている。

「高位群」では、「行う」が 64.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 17.9%となっている。「中位群」では、「行う」が 51.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 29.6%となっている。「低位群」では、「行う」が 56.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 24.5%となっている。

図表 I-37 Q3-4-1③ コロナ感染者数別 学校再開後_警察との連携:単数回答



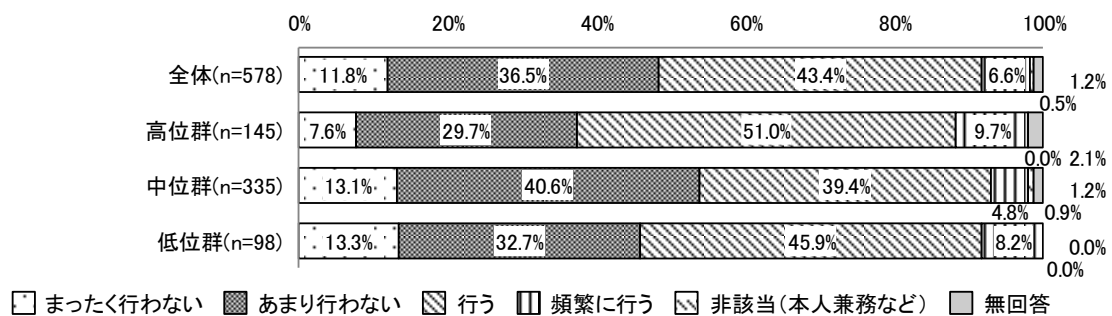
12) 警察への情報照会

Q3-4-2① コロナ前_警察への情報照会

「全体」では、「行う」が43.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が36.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が51.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が29.7%となっている。「中位群」では、「あまり行わない」が40.6%でもっとも割合が高く、次いで「行う」が39.4%となっている。「低位群」では、「行う」が45.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が32.7%となっている。

図表 I-38 Q3-4-2① コロナ感染者数別 コロナ前_警察への情報照会:単数回答

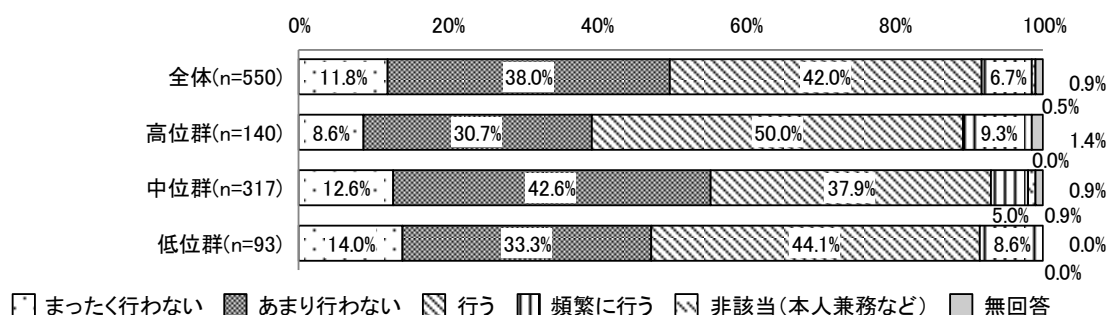


Q3-4-2② 休校期間中_警察への情報照会

「全体」では、「行う」が42.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が38.0%となっている。

「高位群」では、「行う」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が30.7%となっている。「中位群」では、「あまり行わない」が42.6%でもっとも割合が高く、次いで「行う」が37.9%となっている。「低位群」では、「行う」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が33.3%となっている。

図表 I-39 Q3-4-2② コロナ感染者数別 休校期間中_警察への情報照会:単数回答

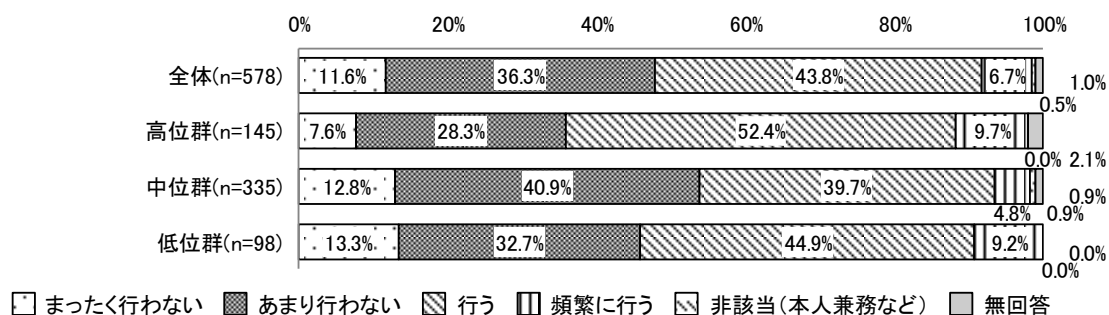


Q3-4-2③ 学校再開後_警察への情報照会

「全体」では、「行う」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 36.3%となっている。

「高位群」では、「行う」が 52.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 28.3%となっている。「中位群」では、「あまり行わない」が 40.9%でもっとも割合が高く、次いで「行う」が 39.7%となっている。「低位群」では、「行う」が 44.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 32.7%となっている。

図表 I-40 Q3-4-2③ コロナ感染者数別 学校再開後_警察への情報照会:単数回答



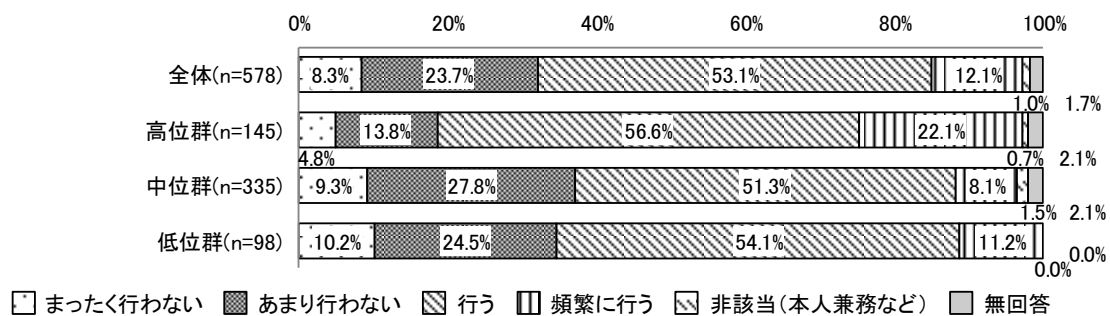
13) 児童相談所との連携

Q3-5-1① コロナ前_児童相談所との連携

「全体」では、「行う」が53.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が23.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が56.6%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が22.1%となっている。「中位群」では、「行う」が51.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が27.8%となっている。「低位群」では、「行う」が54.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が24.5%となっている。

図表 I-41 Q3-5-1① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談所との連携:単数回答

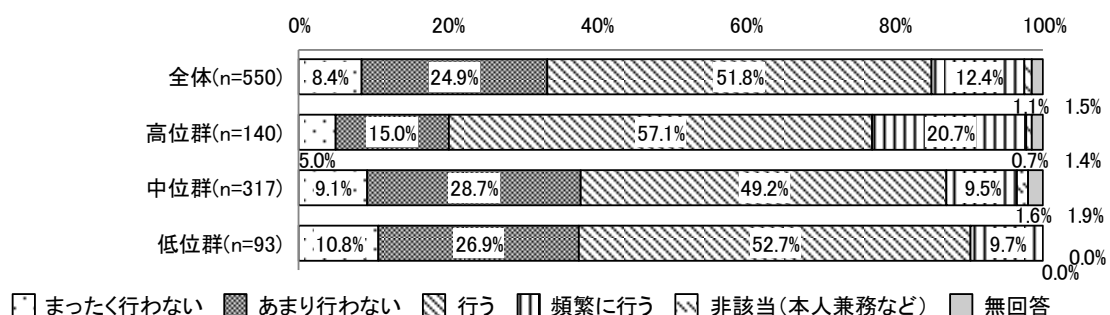


Q3-5-1② 休校期間中_児童相談所との連携

「全体」では、「行う」が51.8%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が24.9%となっている。

「高位群」では、「行う」が57.1%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が20.7%となっている。「中位群」では、「行う」が49.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が28.7%となっている。「低位群」では、「行う」が52.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.9%となっている。

図表 I-42 Q3-5-1② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談所との連携:単数回答

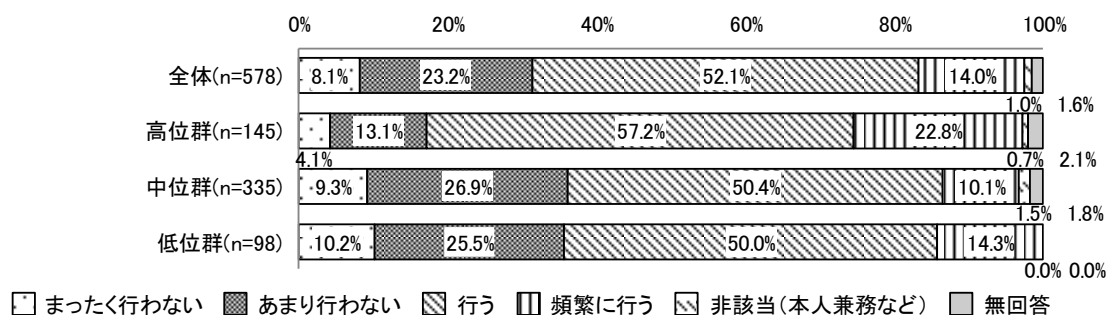


Q3-5-1③ 学校再開後_児童相談所との連携

「全体」では、「行う」が52.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が23.2%となっている。

「高位群」では、「行う」が57.2%でもっとも割合が高く、次いで「頻繁に行う」が22.8%となっている。「中位群」では、「行う」が50.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が26.9%となっている。「低位群」では、「行う」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が25.5%となっている。

図表 I-43 Q3-5-1③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談所との連携:単数回答



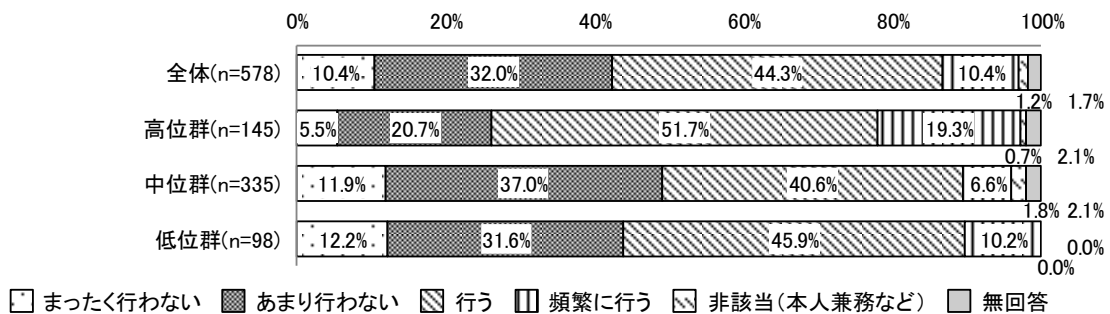
14) 児童相談所への情報照会

Q3-5-2① コロナ前_児童相談所への情報照会

「全体」では、「行う」が44.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が32.0%となっている。

「高位群」では、「行う」が51.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が20.7%となっている。「中位群」では、「行う」が40.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が37.0%となっている。「低位群」では、「行う」が45.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が31.6%となっている。

図表 I-44 Q3-5-2① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談所への情報照会:単数回答

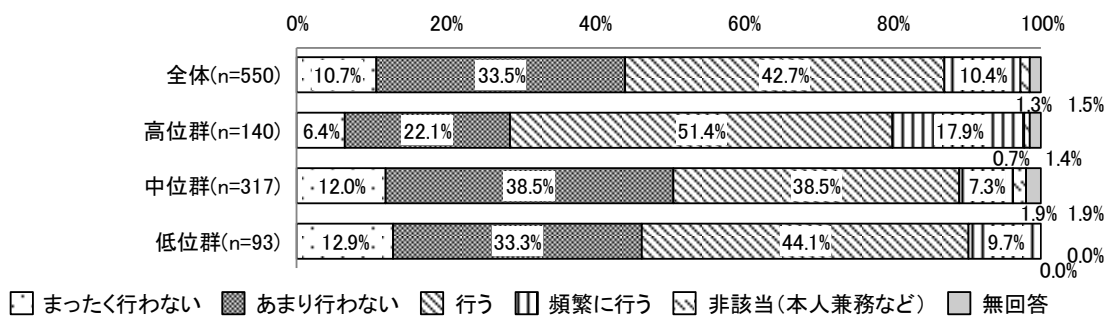


Q3-5-2② 休校期間中_児童相談所への情報照会

「全体」では、「行う」が42.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が33.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が51.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が22.1%となっている。「中位群」では、「あまり行わない」「行う」が38.5%でもっとも割合が高く、次いで「まったく行わない」が12.0%となっている。「低位群」では、「行う」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が33.3%となっている。

図表 I-45 Q3-5-2② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談所への情報照会:単数回答

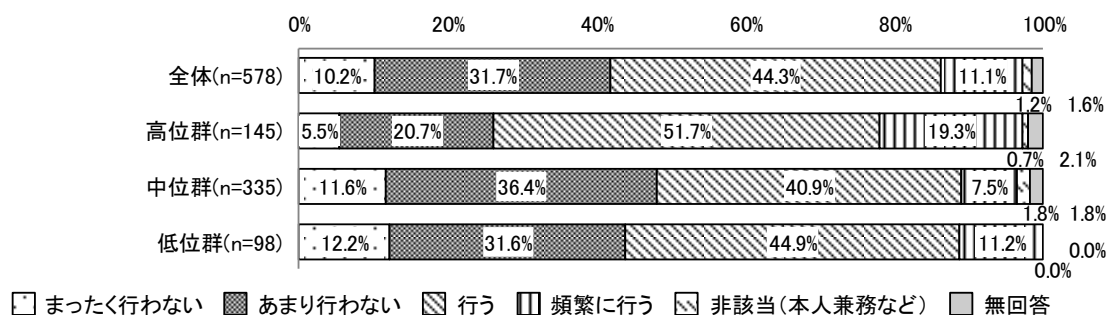


Q3-5-2③ 学校再開後_児童相談所への情報照会

「全体」では、「行う」が 44.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 31.7%となっている。

「高位群」では、「行う」が 51.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 20.7%となっている。「中位群」では、「行う」が 40.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 36.4%となっている。「低位群」では、「行う」が 44.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 31.6%となっている。

図表 I-46 Q3-5-2③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談所への情報照会:単数回答



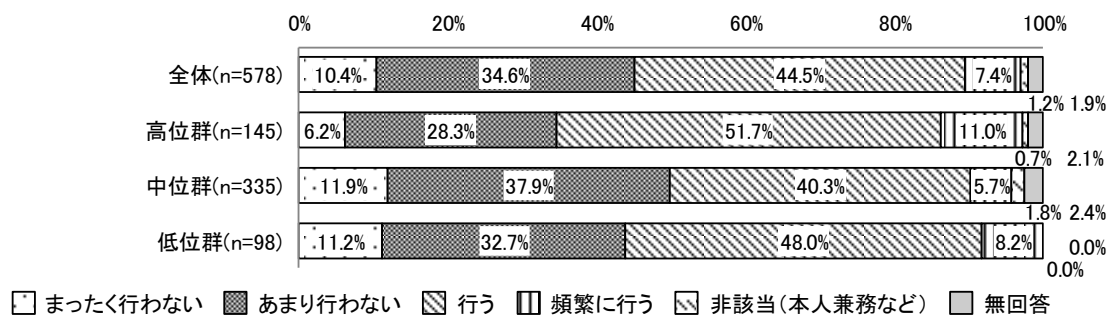
15) 児童相談所からの専門的助言

Q3-5-3① コロナ前_児童相談所からの専門的助言

「全体」では、「行う」が 44.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.6%となっている。

「高位群」では、「行う」が 51.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 28.3%となっている。「中位群」では、「行う」が 40.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 37.9%となっている。「低位群」では、「行う」が 48.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 32.7%となっている。

図表 I-47 Q3-5-3① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談所からの専門的助言:単数回答

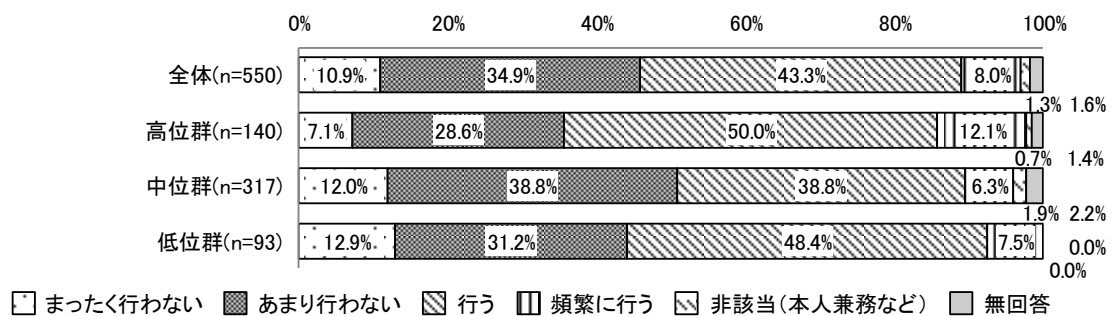


Q3-5-3② 休校期間中_児童相談所からの専門的助言

「全体」では、「行う」が 43.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.9%となっている。

「高位群」では、「行う」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 28.6%となっている。「中位群」では、「あまり行わない」「行う」が 38.8%でもっとも割合が高く、次いで「まったく行わない」が 12.0%となっている。「低位群」では、「行う」が 48.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 31.2%となっている。

図表 I-48 Q3-5-3② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談所からの専門的助言:単数回答

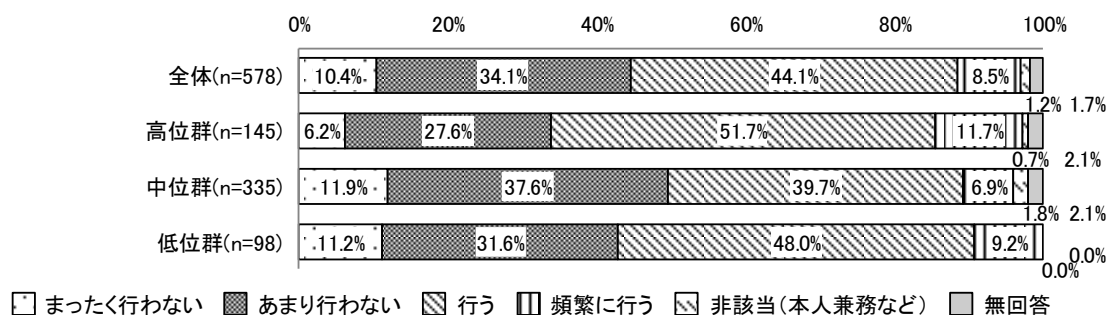


Q3-5-3③ 学校再開後_児童相談所からの専門的助言

「全体」では、「行う」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が34.1%となっている。

「高位群」では、「行う」が51.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が27.6%となっている。「中位群」では、「行う」が39.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が37.6%となっている。「低位群」では、「行う」が48.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が31.6%となっている。

図表 I-49 Q3-5-3③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談所からの専門的助言:単数回答



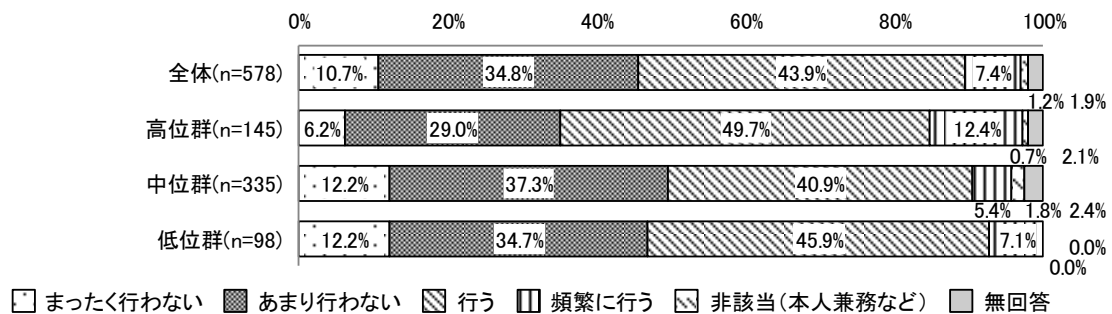
16) 児童相談所からのバックアップ

Q3-5-4① コロナ前_児童相談所からのバックアップ

「全体」では、「行う」が 43.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.8%となっている。

「高位群」では、「行う」が 49.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 29.0%となっている。「中位群」では、「行う」が 40.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 37.3%となっている。「低位群」では、「行う」が 45.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.7%となっている。

図表 I-50 Q3-5-4① コロナ感染者数別 コロナ前_児童相談所からのバックアップ:単数回答

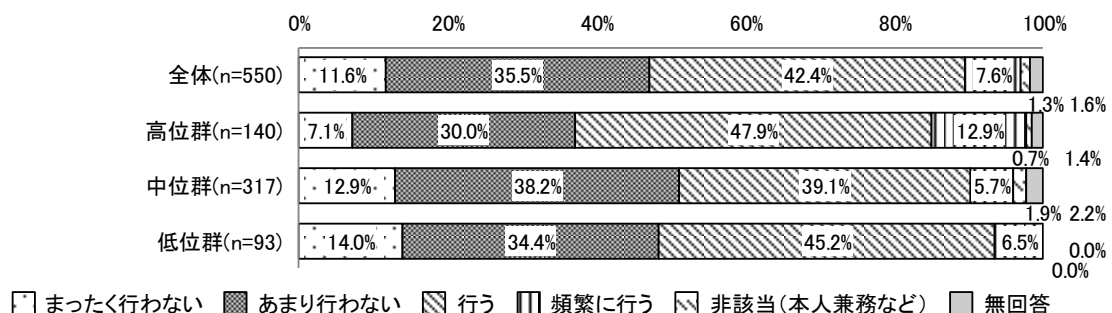


Q3-5-4② 休校期間中_児童相談所からのバックアップ

「全体」では、「行う」が 42.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 35.5%となっている。

「高位群」では、「行う」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 30.0%となっている。「中位群」では、「行う」が 39.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 38.2%となっている。「低位群」では、「行う」が 45.2%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.4%となっている。

図表 I-51 Q3-5-4② コロナ感染者数別 休校期間中_児童相談所からのバックアップ:単数回答

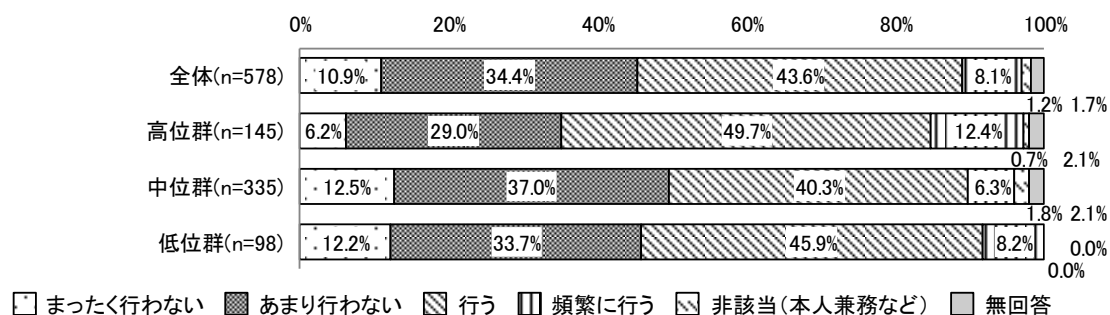


Q3-5-4③ 学校再開後_児童相談所からのバックアップ

「全体」では、「行う」が 43.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 34.4%となっている。

「高位群」では、「行う」が 49.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 29.0%となっている。「中位群」では、「行う」が 40.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 37.0%となっている。「低位群」では、「行う」が 45.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり行わない」が 33.7%となっている。

図表 I-52 Q3-5-4③ コロナ感染者数別 学校再開後_児童相談所からのバックアップ:単数回答



(4) 教育委員会における支援状況

1) コロナ感染者数別

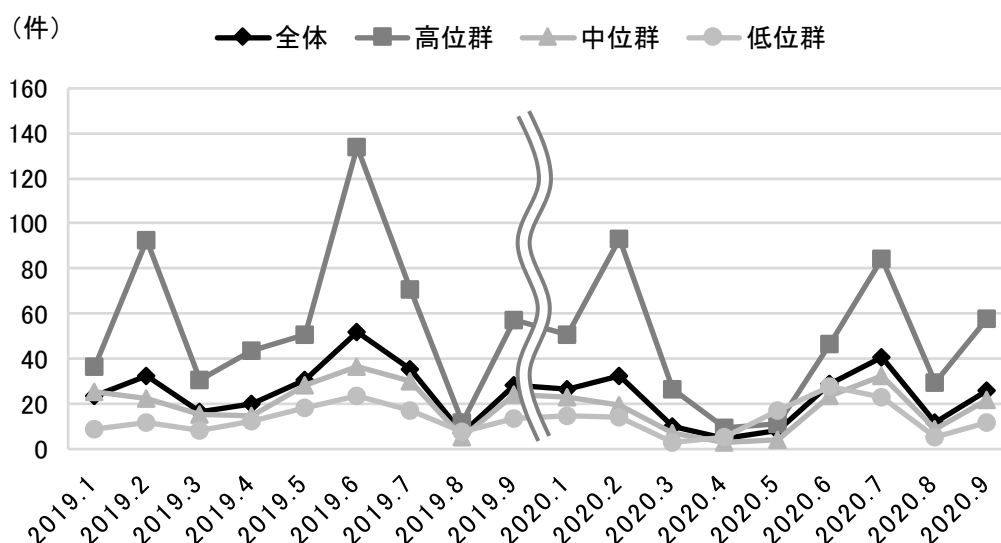
以下では、コロナ感染者数別に、教育委員会における支援状況をみていく。

Q4-1-1 いじめ

「全体」では、「2019.6」が平均 52.2 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.6」が平均 133.8 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.6」が平均 36.6 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 27.5 件でもっとも多くなっている。

図表 I-53 Q4-1-1 コロナ感染者数別 いじめ:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

	2019.1	2019.2	2019.3	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
全体	23.8	32.4	16.4	19.7	30.5	52.2	35.2	6.9	28.4
コロナ感染者数									
高位群	36.4	92.6	30.7	43.6	50.7	133.8	70.6	11.9	57.4
中位群	25.2	22.4	15.2	15.0	28.3	36.6	30.2	5.0	24.4
低位群	8.9	11.7	8.3	12.1	18.3	23.8	16.7	7.9	13.7

	2020.1	2020.2	2020.3	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
全体	26.6	32.2	9.9	4.4	8.0	29.0	40.4	11.8	26.0
コロナ感染者数									
高位群	50.9	93.4	26.4	9.1	10.9	46.7	84.3	29.4	57.5
中位群	23.0	19.7	7.2	2.6	3.8	23.8	32.3	8.9	21.5
低位群	14.6	13.9	2.6	5.4	17.2	27.5	23.2	5.5	11.6

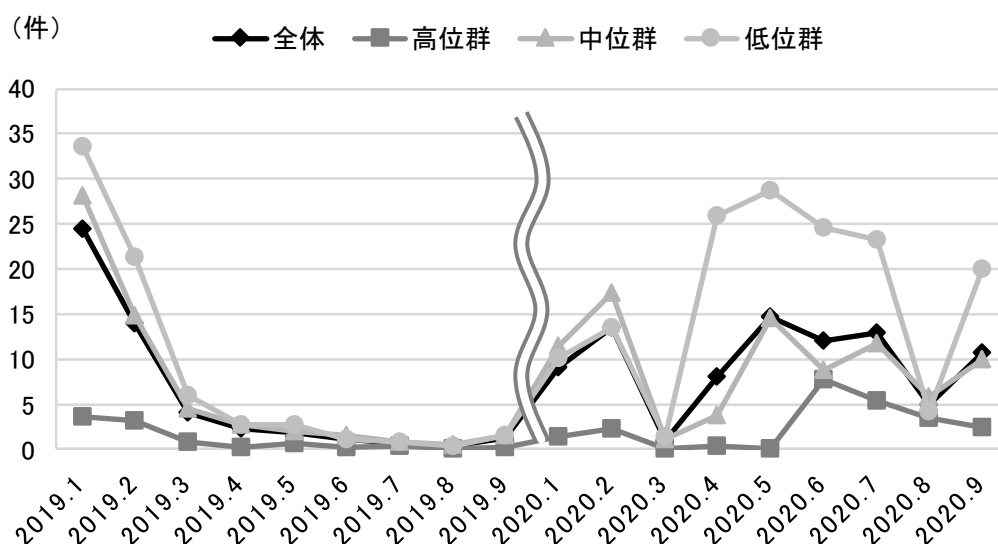
※各カテゴリでもっとも平均件数の多いセルに網掛けを行っている。なお、同じ数値であっても、一方のみに網掛けがされている場合があるが、これは、示されている数値は小数点第二位以下（一部小数点第三位以下）を四捨五入しているものであり、網掛けには四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。以下同様。

Q4-1-2 出席停止措置

「全体」では、「2019.1」が平均 24.4 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.6」が平均 7.8 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.1」が平均 28.2 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.1」が平均 33.6 件でもっとも多くなっている。

図表 I-54 Q4-1-2 コロナ感染者数別 出席停止措置:数値回答(平均値)



＜平均値：数表＞

	2019.1	2019.2	2019.3	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
全体	24.4	13.9	4.1	2.2	1.8	1.1	0.7	0.3	1.2
高位群	3.6	3.2	0.9	0.3	0.6	0.2	0.3	0.0	0.2
中位群	28.2	14.8	4.5	2.8	2.0	1.5	0.8	0.5	1.5
低位群	33.6	21.4	6.0	2.7	2.7	1.0	0.8	0.3	1.5

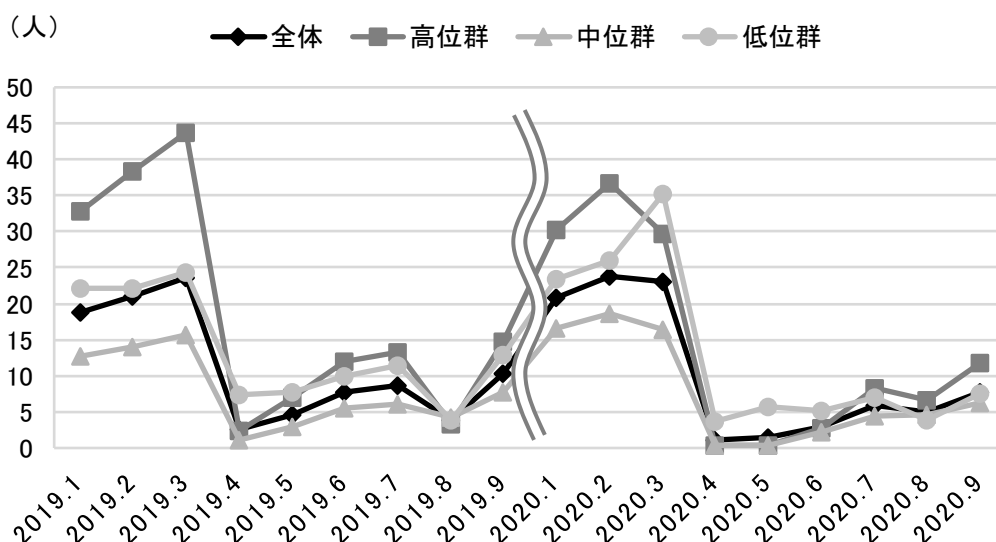
	2020.1	2020.2	2020.3	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
全体	9.1	13.5	1.0	8.0	14.7	12.0	12.9	4.9	10.7
高位群	1.4	2.3	0.0	0.3	0.0	7.8	5.4	3.4	2.5
中位群	11.5	17.3	1.1	3.8	14.6	8.8	11.7	5.8	10.0
低位群	10.2	13.5	1.4	25.8	28.7	24.6	23.3	4.2	20.1

Q4-1-3 長期欠席者(病気)

「全体」では、「2020.2」が平均 23.9 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.3」が平均 43.7 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.2」が平均 18.6 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.3」が平均 35.3 人でもっとも多くなっている。

図表 I-55 Q4-1-3 コロナ感染者数別 長期欠席者(病気):数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	18.9	21.0	23.7	2.6	4.7	7.8	8.6	3.9	10.3
	高位群	32.8	38.4	43.7	2.4	6.9	12.0	13.3	3.3	14.8
	中位群	12.7	14.1	15.6	1.2	2.9	5.5	6.0	4.2	7.8
	低位群	22.2	22.1	24.4	7.4	7.7	10.0	11.4	3.9	12.9

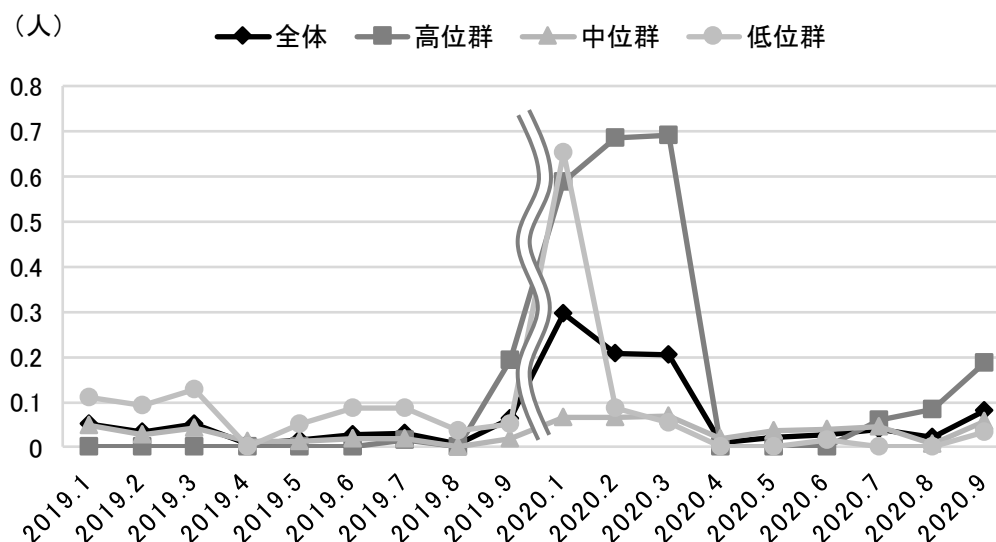
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	20.8	23.9	23.0	1.1	1.5	2.9	5.8	4.9	7.7
	高位群	30.3	36.7	29.6	0.3	0.3	2.8	8.4	6.7	11.8
	中位群	16.5	18.6	16.4	0.4	0.4	2.2	4.4	4.7	6.2
	低位群	23.4	26.1	35.3	3.7	5.6	5.1	7.1	3.8	7.6

Q4-1-4 長期欠席者(経済的理由)

「全体」では、「2020.1」が平均 0.30 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.3」が平均 0.69 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.3」が平均 0.07 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.1」が平均 0.66 人でもっとも多くなっている。

図表 I-56 Q4-1-4 コロナ感染者数別 長期欠席者(経済的理由):数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	0.05	0.03	0.05	0.01	0.02	0.03	0.03	0.01	0.06
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.19
	中位群	0.05	0.03	0.04	0.01	0.01	0.02	0.02	0.00	0.02
	低位群	0.11	0.09	0.13	0.00	0.05	0.09	0.09	0.04	0.05

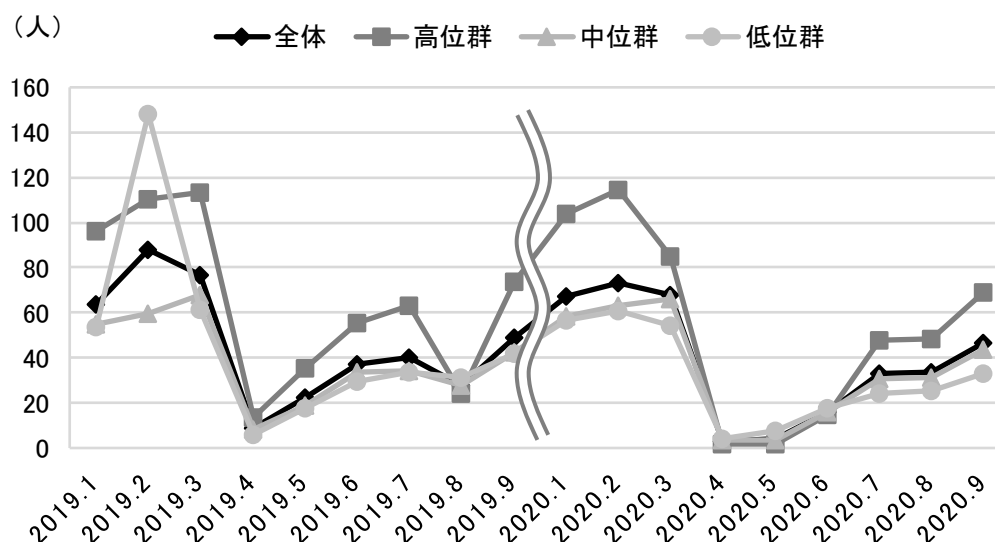
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.30	0.21	0.21	0.01	0.02	0.03	0.04	0.02	0.08
	高位群	0.59	0.69	0.69	0.00	0.00	0.00	0.06	0.08	0.19
	中位群	0.07	0.07	0.07	0.02	0.04	0.04	0.05	0.01	0.06
	低位群	0.66	0.09	0.05	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.03

Q4-1-5 不登校

「全体」では、「2019.2」が平均 88.2 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.2」が平均 114.5 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.3」が平均 67.7 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.2」が平均 148.2 人でもっとも多くなっている。

図表 I-57 Q4-1-5 コロナ感染者数別 不登校:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	63.5	88.2	76.4	9.0	22.1	37.1	40.3	27.7	48.7
	高位群	96.1	110.6	113.1	13.3	35.6	55.3	63.0	24.0	73.6
	中位群	55.0	59.5	67.7	8.4	18.9	33.4	34.4	27.7	42.6
	低位群	53.6	148.2	61.3	6.1	17.4	29.3	33.8	31.1	41.8

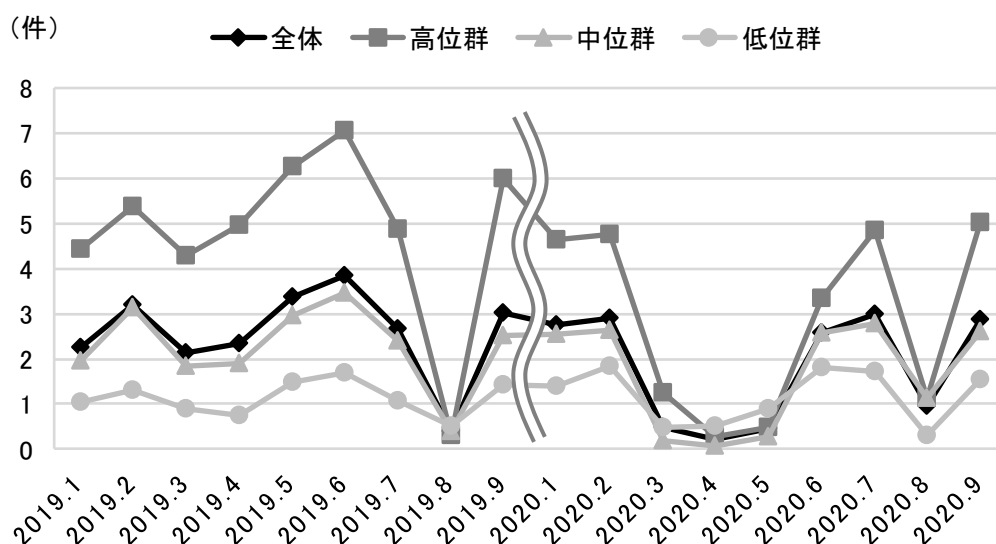
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	67.5	73.4	67.8	3.0	4.1	15.8	33.0	33.7	46.8
	高位群	103.9	114.5	84.8	1.5	1.9	14.4	47.8	48.6	69.3
	中位群	58.4	63.0	66.2	3.2	3.4	15.6	30.5	31.1	43.6
	低位群	56.5	60.7	54.0	3.9	7.8	17.9	24.4	25.6	32.8

Q4-1-6 暴力行為(小学校)

「全体」では、「2019.6」が平均 3.9 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.6」が平均 7.1 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.6」が平均 3.5 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.2」が平均 1.8 件でもっとも多くなっている。

図表 I-58 Q4-1-6 コロナ感染者数別 暴力行為(小学校):数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	2.3	3.2	2.1	2.3	3.4	3.9	2.7	0.4	3.0
	高位群	4.4	5.4	4.3	5.0	6.3	7.1	4.9	0.3	6.0
	中位群	2.0	3.2	1.8	1.9	3.0	3.5	2.4	0.4	2.5
	低位群	1.0	1.3	0.9	0.8	1.5	1.7	1.1	0.5	1.4

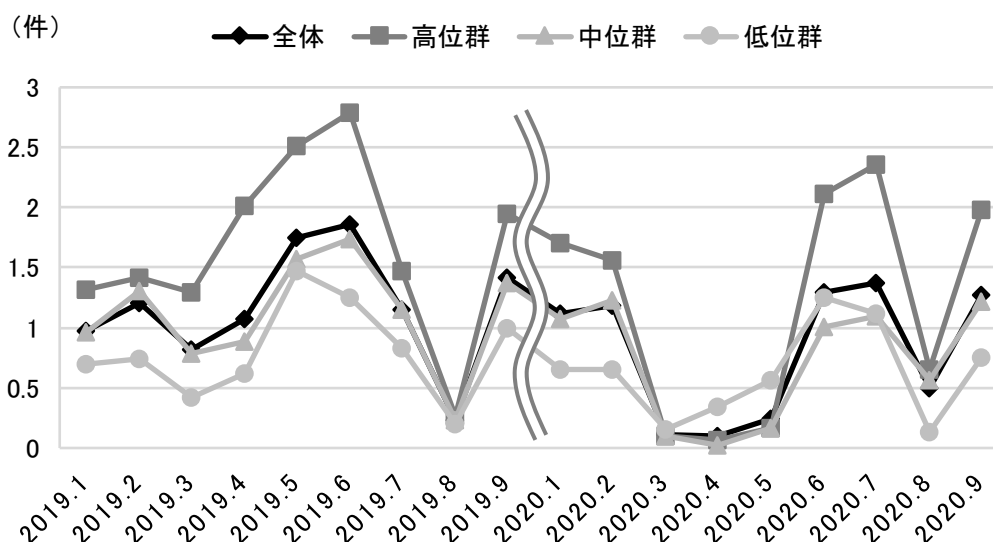
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	2.7	2.9	0.5	0.2	0.4	2.6	3.0	0.9	2.9
	高位群	4.6	4.8	1.2	0.3	0.5	3.3	4.8	1.1	5.0
	中位群	2.6	2.6	0.2	0.1	0.3	2.6	2.8	1.1	2.6
	低位群	1.4	1.8	0.5	0.5	0.9	1.8	1.7	0.3	1.6

Q4-1-7 暴力行為(中学校)

「全体」では、「2019.6」が平均 1.9 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.6」が平均 2.8 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.6」が平均 1.7 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.5」が平均 1.5 件でもっとも多くなっている。

図表 I-59 Q4-1-7 コロナ感染者数別 暴力行為(中学校):数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	1.0	1.2	0.8	1.1	1.8	1.9	1.2	0.2	1.4
	高位群	1.3	1.4	1.3	2.0	2.5	2.8	1.5	0.3	2.0
	中位群	1.0	1.3	0.8	0.9	1.6	1.7	1.1	0.2	1.4
	低位群	0.7	0.7	0.4	0.6	1.5	1.2	0.8	0.2	1.0

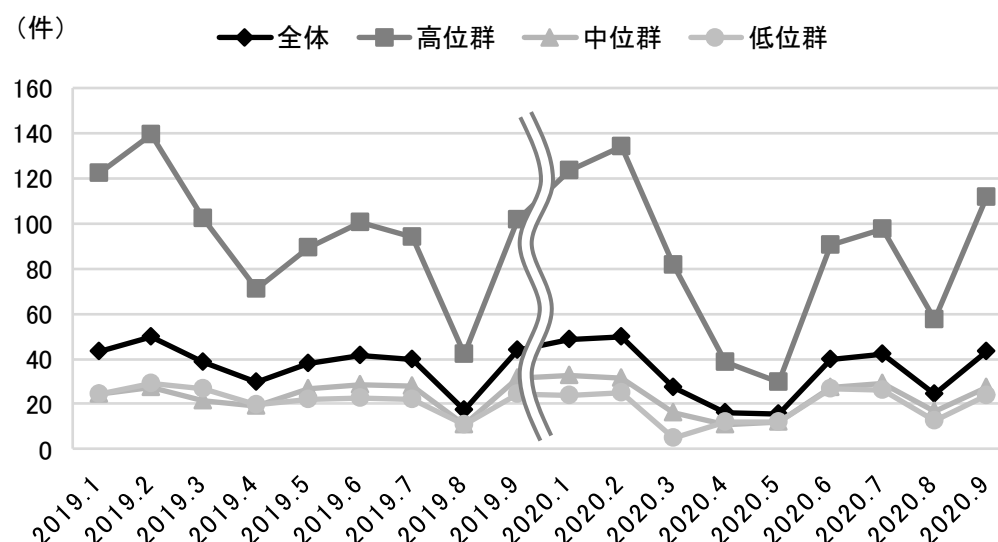
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	1.1	1.2	0.1	0.1	0.2	1.3	1.4	0.5	1.3
	高位群	1.7	1.6	0.1	0.1	0.2	2.1	2.4	0.7	2.0
	中位群	1.1	1.2	0.1	0.0	0.2	1.0	1.1	0.6	1.2
	低位群	0.7	0.7	0.2	0.3	0.6	1.2	1.1	0.1	0.8

Q4-1-8 不登校に関する相談

「全体」では、「2020.2」が平均 49.9 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.2」が平均 139.4 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.1」が平均 32.7 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.2」が平均 29.1 件でもっとも多くなっている。

図表 I-60 Q4-1-8 コロナ感染者数別 不登校に関する相談:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	43. 5	49. 5	38. 4	29. 6	38. 2	41. 6	39. 8	17. 1	43. 9
	高位群	122. 1	139. 4	102. 6	71. 1	89. 6	100. 5	94. 2	42. 3	101. 5
	中位群	24. 5	27. 4	21. 1	19. 2	26. 7	28. 8	27. 9	10. 8	31. 7
	低位群	24. 5	29. 1	26. 7	19. 9	22. 1	22. 6	22. 0	11. 1	24. 5

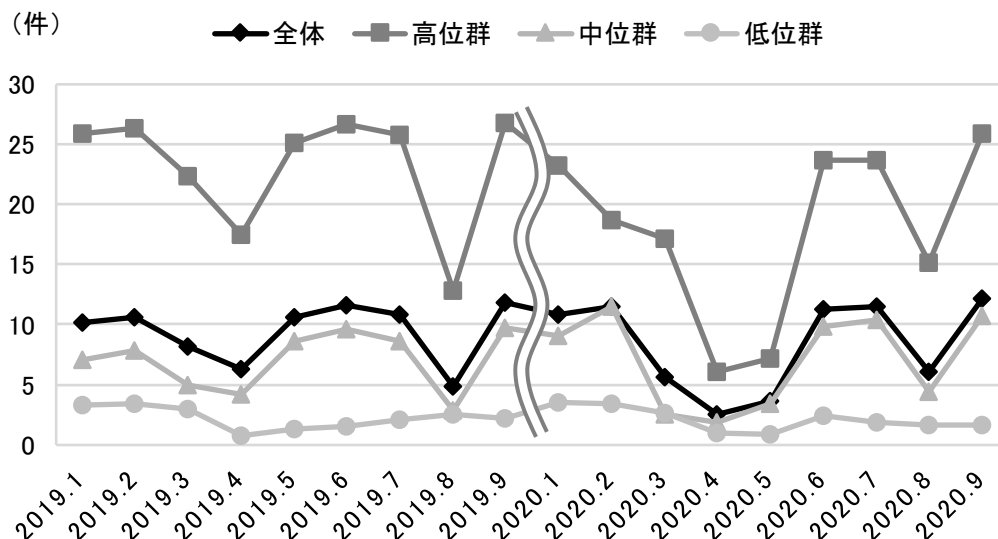
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	48. 5	49. 9	27. 3	16. 4	15. 5	39. 5	42. 1	24. 1	43. 2
	高位群	123. 4	134. 3	81. 8	38. 5	29. 5	90. 6	97. 3	57. 5	112. 1
	中位群	32. 7	31. 5	16. 0	10. 6	12. 1	27. 1	29. 3	16. 9	27. 1
	低位群	23. 8	24. 9	5. 0	11. 7	12. 0	27. 0	26. 3	12. 7	23. 6

Q4-1-9 学業・進路に関する相談

「全体」では、「2020.9」が平均 12.1 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.9」が平均 26.7 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.2」が平均 11.5 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.1」が平均 3.5 件でもっとも多くなっている。

図表 I-61 Q4-1-9 コロナ感染者数別 学業・進路に関する相談:数値回答 (平均値)



< 平均値 : 数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	10. 1	10. 7	8. 1	6. 3	10. 6	11. 6	10. 9	4. 8	11. 8
	高位群	25. 9	26. 3	22. 4	17. 5	25. 1	26. 7	25. 7	12. 8	26. 7
	中位群	7. 1	7. 8	5. 0	4. 2	8. 6	9. 6	8. 6	2. 8	9. 8
	低位群	3. 3	3. 5	2. 9	0. 7	1. 3	1. 6	2. 0	2. 5	2. 2

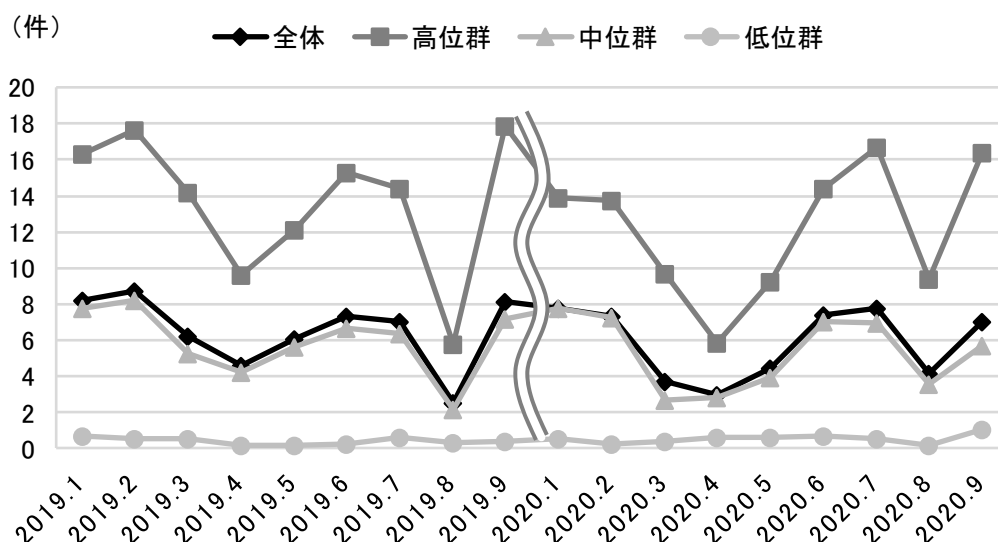
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	10. 8	11. 4	5. 6	2. 6	3. 7	11. 2	11. 5	6. 1	12. 1
	高位群	23. 3	18. 7	17. 1	6. 1	7. 2	23. 7	23. 6	15. 1	25. 8
	中位群	9. 0	11. 5	2. 6	1. 9	3. 4	9. 8	10. 4	4. 4	10. 8
	低位群	3. 5	3. 5	2. 7	1. 0	0. 9	2. 4	1. 9	1. 7	1. 6

Q4-1-10 家庭に関する相談

「全体」では、「2019.2」が平均 8.7 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.9」が平均 17.9 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.2」が平均 8.2 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.9」が平均 1.0 件でもっとも多くなっている。

図表 I-62 Q4-1-10 コロナ感染者数別 家庭に関する相談:数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	8.2	8.7	6.2	4.6	6.1	7.4	7.0	2.6	8.2
	高位群	16.3	17.7	14.2	9.6	12.2	15.3	14.4	5.7	17.9
	中位群	7.8	8.2	5.3	4.2	5.6	6.7	6.4	2.1	7.2
	低位群	0.7	0.5	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	0.3	0.4

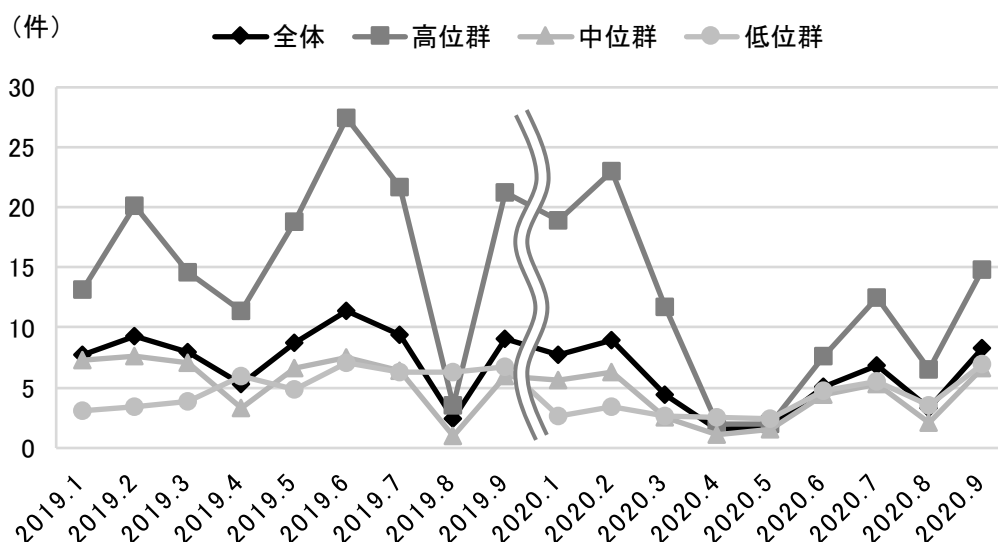
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	7.8	7.3	3.7	3.0	4.4	7.4	7.8	4.1	7.1
	高位群	13.9	13.7	9.7	5.8	9.3	14.4	16.7	9.4	16.4
	中位群	7.8	7.2	2.7	2.8	4.0	7.0	7.0	3.5	5.7
	低位群	0.5	0.2	0.4	0.6	0.6	0.7	0.5	0.2	1.0

Q4-1-11 いじめを除く友人関係に関する相談

「全体」では、「2019.6」が平均 11.4 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.6」が平均 27.4 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.2」が平均 7.6 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.6」が平均 7.1 件でもっとも多くなっている。

図表 I-63 Q4-1-11 コロナ感染者数別 いじめを除く友人関係に関する相談:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019.1	2019.2	2019.3	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
コロナ感染者数	全体	7.7	9.2	8.0	5.3	8.7	11.4	9.4	2.4	9.1
	高位群	13.1	20.1	14.6	11.3	18.8	27.4	21.6	3.5	21.2
	中位群	7.3	7.6	7.1	3.3	6.7	7.5	6.4	1.0	6.0
	低位群	3.1	3.4	3.8	5.9	4.8	7.1	6.3	6.2	6.8

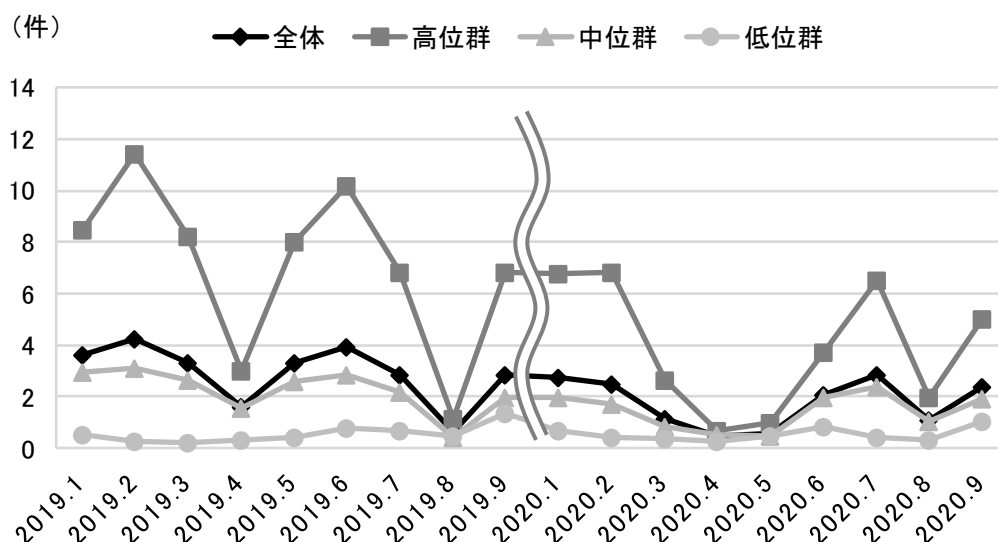
		2020.1	2020.2	2020.3	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
コロナ感染者数	全体	7.7	9.0	4.4	1.6	1.8	5.1	6.8	3.3	8.3
	高位群	18.9	23.0	11.7	2.0	2.0	7.6	12.5	6.6	14.8
	中位群	5.6	6.2	2.5	1.1	1.5	4.3	5.3	2.1	6.6
	低位群	2.6	3.4	2.6	2.5	2.4	4.7	5.5	3.5	6.9

Q4-1-12 教職員との関係をめぐる相談

「全体」では、「2019.2」が平均 4.3 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.2」が平均 11.4 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.2」が平均 3.1 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.9」が平均 1.4 件でもっとも多くなっている。

図表 I-64 Q4-1-12 コロナ感染者数別 教職員との関係をめぐる相談:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	3.6	4.3	3.3	1.6	3.3	3.9	2.8	0.6	2.8
	高位群	8.5	11.4	8.2	3.0	8.0	10.2	6.8	1.2	6.9
	中位群	3.0	3.1	2.6	1.5	2.6	2.8	2.2	0.4	2.0
	低位群	0.5	0.3	0.2	0.3	0.4	0.8	0.7	0.5	1.4

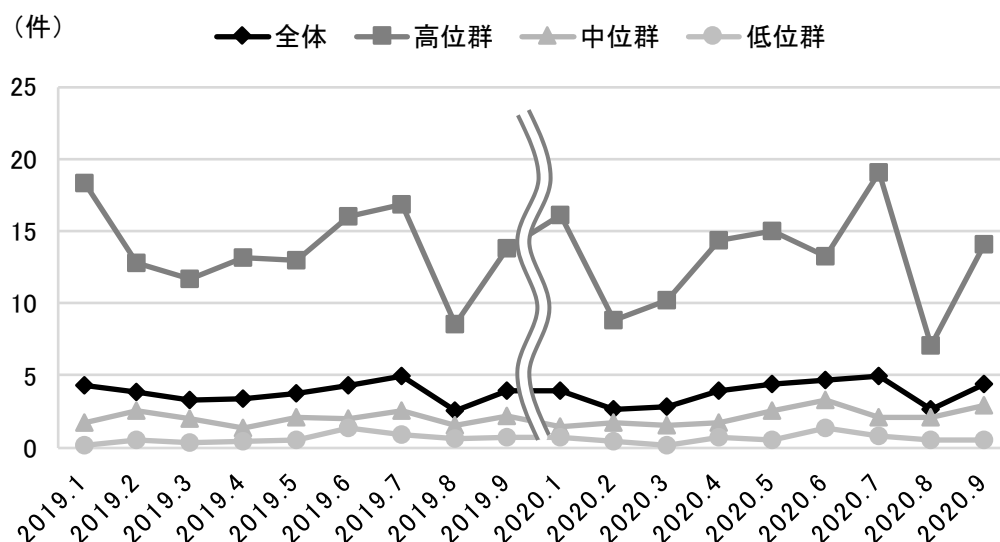
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	2.7	2.5	1.1	0.5	0.6	2.1	2.9	1.1	2.4
	高位群	6.8	6.8	2.7	0.7	1.0	3.7	6.5	2.0	5.0
	中位群	2.0	1.7	0.8	0.5	0.5	2.0	2.4	1.0	1.9
	低位群	0.7	0.4	0.4	0.3	0.5	0.8	0.4	0.3	1.0

Q4-1-13 児童虐待に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 5.0 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 19.1 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.6」が平均 3.3 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.6」が平均 1.4 件でもっとも多くなっている。

図表 I-65 Q4-1-13 コロナ感染者数別 児童虐待に関する問題:数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	4.3	3.9	3.3	3.4	3.7	4.4	4.9	2.6	4.0
	高位群	18.3	12.8	11.7	13.2	13.0	16.1	16.9	8.6	13.8
	中位群	1.7	2.6	2.0	1.4	2.1	2.0	2.6	1.6	2.2
	低位群	0.2	0.5	0.4	0.4	0.6	1.4	0.9	0.6	0.7

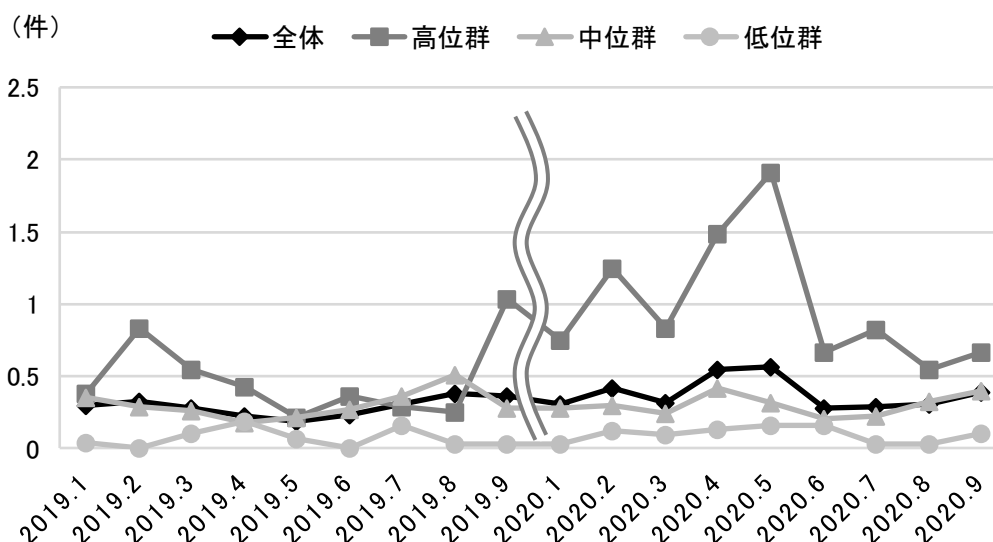
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	3.9	2.7	2.8	3.9	4.4	4.7	5.0	2.7	4.4
	高位群	16.1	8.8	10.2	14.4	15.0	13.2	19.1	7.0	14.1
	中位群	1.4	1.7	1.6	1.7	2.6	3.3	2.1	2.1	2.9
	低位群	0.7	0.4	0.2	0.7	0.5	1.4	0.8	0.5	0.5

Q4-1-14 貧困に関する問題

「全体」では、「2020.5」が平均 0.57 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.5」が平均 1.91 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.8」が平均 0.51 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.4」が平均 0.19 件でもっとも多くなっている。

図表 I-66 Q4-1-14 コロナ感染者数別 貧困に関する問題:数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	0.30	0.32	0.28	0.22	0.18	0.23	0.31	0.38	0.36
	高位群	0.38	0.83	0.54	0.43	0.21	0.36	0.29	0.25	1.04
	中位群	0.35	0.29	0.26	0.18	0.21	0.27	0.36	0.51	0.28
	低位群	0.04	0.00	0.11	0.19	0.06	0.00	0.16	0.03	0.03

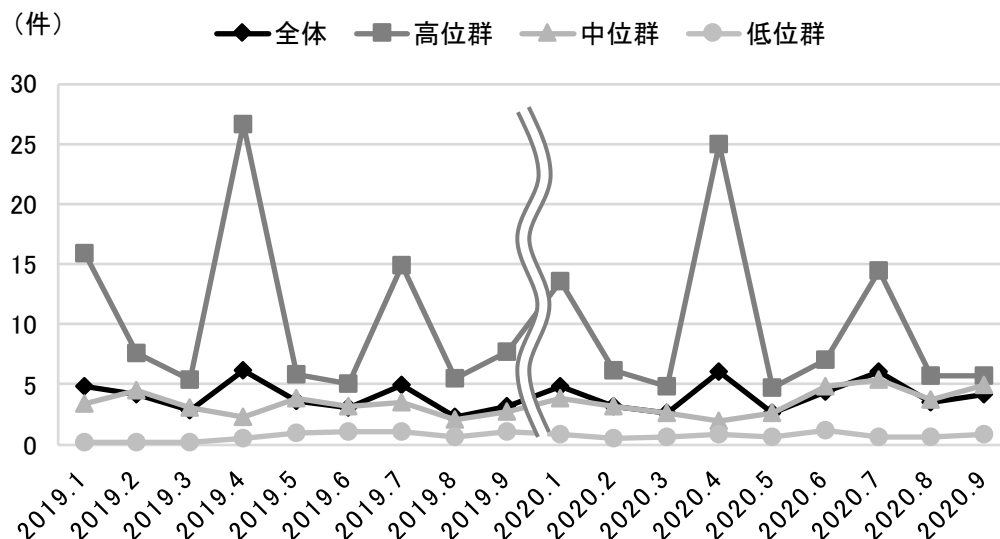
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.31	0.42	0.31	0.55	0.57	0.28	0.29	0.30	0.38
	高位群	0.75	1.25	0.83	1.48	1.91	0.67	0.82	0.55	0.67
	中位群	0.28	0.29	0.24	0.41	0.32	0.21	0.22	0.33	0.40
	低位群	0.03	0.12	0.09	0.13	0.15	0.15	0.03	0.03	0.10

Q4-1-15 虐待,貧困以外の家庭環境に関する問題

「全体」では、「2019.4」が平均 6.2 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.4」が平均 26.6 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.7」が平均 5.4 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 1.2 件でもっとも多くなっている。

図表 I-67 Q4-1-15 コロナ感染者数別 虐待,貧困以外の家庭環境に関する問題:数値回答 (平均値)



< 平均値 : 数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	4. 8	4. 2	2. 9	6. 2	3. 6	3. 1	5. 0	2. 3	3. 2
	高位群	15. 9	7. 6	5. 3	26. 6	5. 8	5. 1	14. 9	5. 5	7. 7
	中位群	3. 4	4. 4	3. 0	2. 3	3. 8	3. 2	3. 5	2. 0	2. 7
	低位群	0. 2	0. 2	0. 2	0. 5	1. 0	1. 1	1. 1	0. 7	1. 1

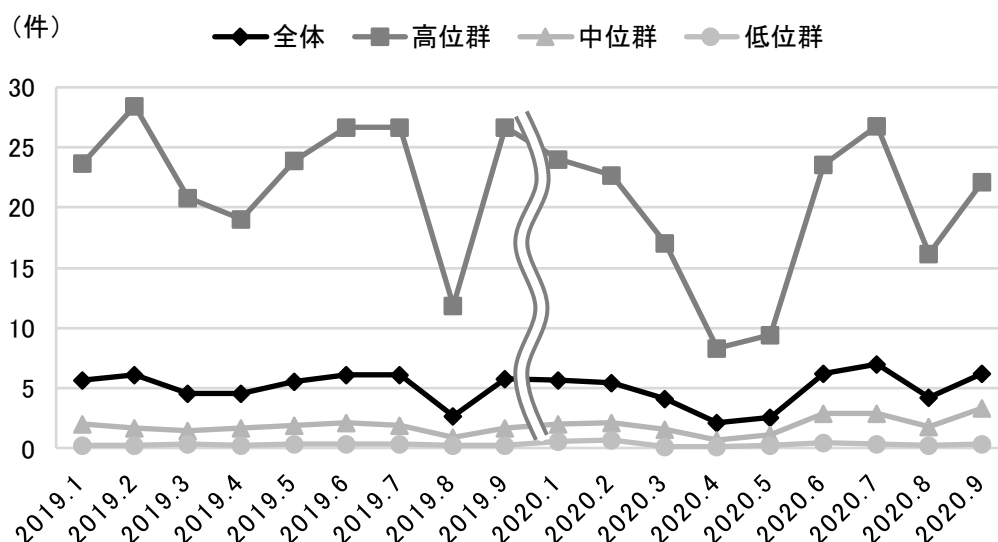
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	4. 9	3. 1	2. 6	6. 0	2. 6	4. 4	6. 0	3. 4	4. 2
	高位群	13. 6	6. 2	4. 8	25. 0	4. 7	7. 0	14. 5	5. 8	5. 8
	中位群	3. 8	3. 2	2. 6	1. 9	2. 6	4. 8	5. 4	3. 8	4. 9
	低位群	0. 8	0. 5	0. 7	0. 8	0. 7	1. 2	0. 6	0. 6	0. 8

Q4-1-16 心身の健康・保健に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 7.0 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.2」が平均 28.4 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 3.3 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.2」が平均 0.7 件でもっとも多くなっている。

図表 I-68 Q4-1-16 コロナ感染者数別 心身の健康・保健に関する問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	5.6	6.0	4.5	4.5	5.5	6.1	6.0	2.7	5.8
	高位群	23.7	28.4	20.8	19.1	23.9	26.7	26.7	11.8	26.7
	中位群	2.0	1.7	1.5	1.6	1.9	2.1	1.9	0.9	1.6
	低位群	0.2	0.3	0.3	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3

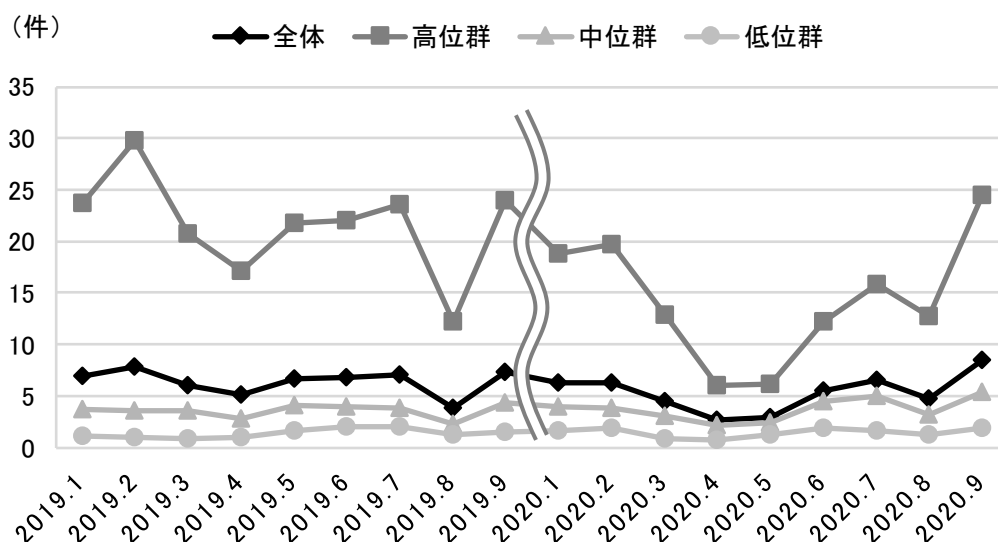
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	5.6	5.4	4.1	2.1	2.5	6.3	7.0	4.2	6.2
	高位群	24.1	22.7	17.1	8.3	9.4	23.6	26.8	16.2	22.1
	中位群	2.0	2.1	1.5	0.7	1.2	2.9	2.9	1.8	3.3
	低位群	0.6	0.7	0.1	0.2	0.2	0.4	0.3	0.2	0.3

Q4-1-17 発達障害等に関する問題

「全体」では、「2020.9」が平均 8.4 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.2」が平均 29.8 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 5.3 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.7」が平均 2.0 件でもっとも多くなっている。

図表 I-69 Q4-1-17 コロナ感染者数別 発達障害等に関する問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	6.9	7.8	6.1	5.1	6.7	6.8	7.1	3.9	7.3
	高位群	23.7	29.8	20.7	17.2	21.7	22.0	23.5	12.2	24.0
	中位群	3.6	3.5	3.6	2.8	4.0	4.0	3.8	2.3	4.3
	低位群	1.1	1.0	0.8	1.0	1.6	2.0	2.0	1.2	1.5

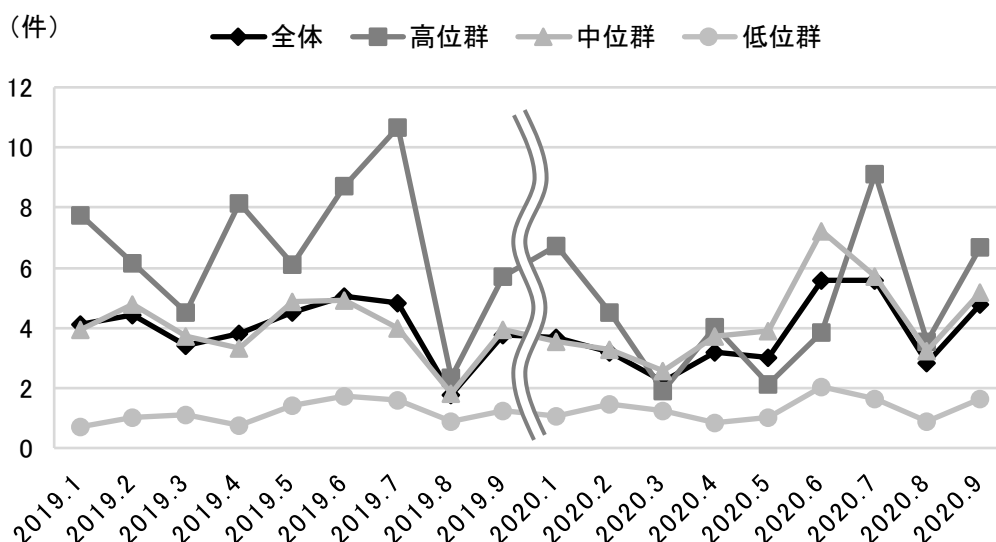
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	6.2	6.3	4.4	2.6	2.9	5.5	6.5	4.7	8.4
	高位群	18.7	19.7	12.9	6.0	6.2	12.2	15.9	12.7	24.5
	中位群	4.0	3.9	3.0	2.1	2.4	4.5	5.0	3.2	5.3
	低位群	1.6	1.8	0.8	0.7	1.3	1.9	1.6	1.3	1.9

Q4-1-18 その他の問題

「全体」では、「2020.6」が平均 5.6 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.7」が平均 10.7 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.6」が平均 7.2 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 2.1 件でもっとも多くなっている。

図表 I-70 Q4-1-18 コロナ感染者数別 その他の問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	4. 1	4. 4	3. 4	3. 8	4. 5	5. 1	4. 8	1. 8	3. 8
	高位群	7. 7	6. 2	4. 5	8. 1	6. 1	8. 7	10. 7	2. 4	5. 7
	中位群	3. 9	4. 8	3. 7	3. 3	4. 9	4. 9	4. 0	1. 8	3. 9
	低位群	0. 7	1. 0	1. 1	0. 7	1. 4	1. 7	1. 6	0. 9	1. 2

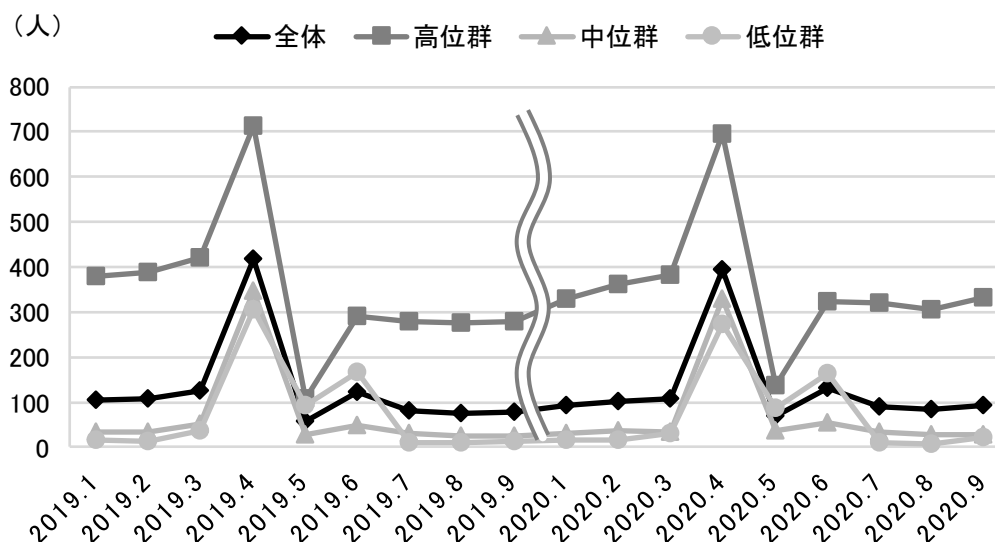
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	3. 7	3. 2	2. 2	3. 2	3. 0	5. 6	5. 6	2. 8	4. 8
	高位群	6. 7	4. 5	1. 9	4. 0	2. 1	3. 9	9. 1	3. 5	6. 7
	中位群	3. 5	3. 3	2. 6	3. 7	3. 9	7. 2	5. 7	3. 2	5. 2
	低位群	1. 1	1. 5	1. 2	0. 8	1. 0	2. 1	1. 6	0. 9	1. 6

Q4-1-19 就学援助(申請者数)

「全体」では、「2019.4」が平均 418.5 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.4」が平均 713.6 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.4」が平均 346.4 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.4」が平均 304.3 人でもっとも多くなっている。

図表 I-71 Q4-1-19 コロナ感染者数別 就学援助(申請者数):数値回答(平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	103.9	106.9	126.2	418.5	57.2	122.8	80.7	76.7	78.2
	高位群	378.6	388.9	419.6	713.6	106.8	289.4	277.5	276.3	279.7
	中位群	33.2	35.4	50.2	346.4	27.3	49.6	30.2	24.7	25.4
	低位群	17.4	13.7	37.2	304.3	94.0	167.8	11.0	9.1	12.9

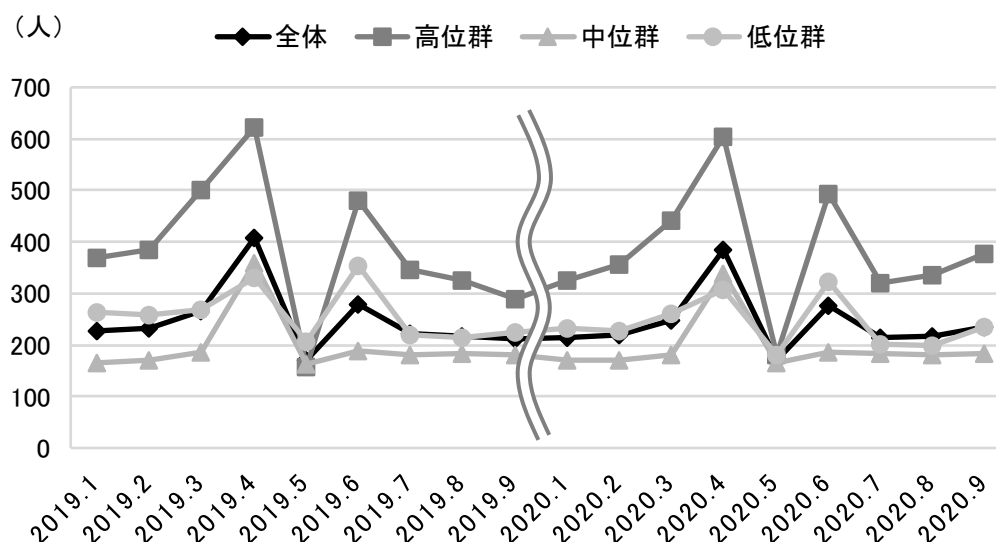
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	93.8	102.5	108.4	395.2	68.5	132.5	90.8	84.2	92.0
	高位群	328.4	360.2	383.5	695.1	137.2	323.5	321.5	304.0	330.9
	中位群	29.9	37.4	34.6	327.9	37.1	53.8	33.5	28.8	29.0
	低位群	16.8	17.0	31.1	274.2	87.6	162.9	10.2	8.4	21.1

Q4-1-20 就学援助(受給者数)

「全体」では、「2019.4」が平均 406.8 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.4」が平均 621.4 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.4」が平均 359.8 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.6」が平均 354.0 人でもっとも多くなっている。

図表 I-72 Q4-1-20 コロナ感染者数別 就学援助(受給者数):数値回答(平均値)



< 平均値: 数表 >

	2019.1	2019.2	2019.3	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
全体	227.8	231.8	265.3	406.8	170.7	279.3	221.3	217.8	212.4
コロナ感染者数									
高位群	370.4	385.0	500.9	621.4	157.8	480.5	344.9	324.2	288.7
中位群	166.0	170.8	186.5	359.8	163.7	187.3	180.0	182.3	181.5
低位群	263.0	258.9	268.9	330.9	205.4	354.0	220.5	215.6	224.7

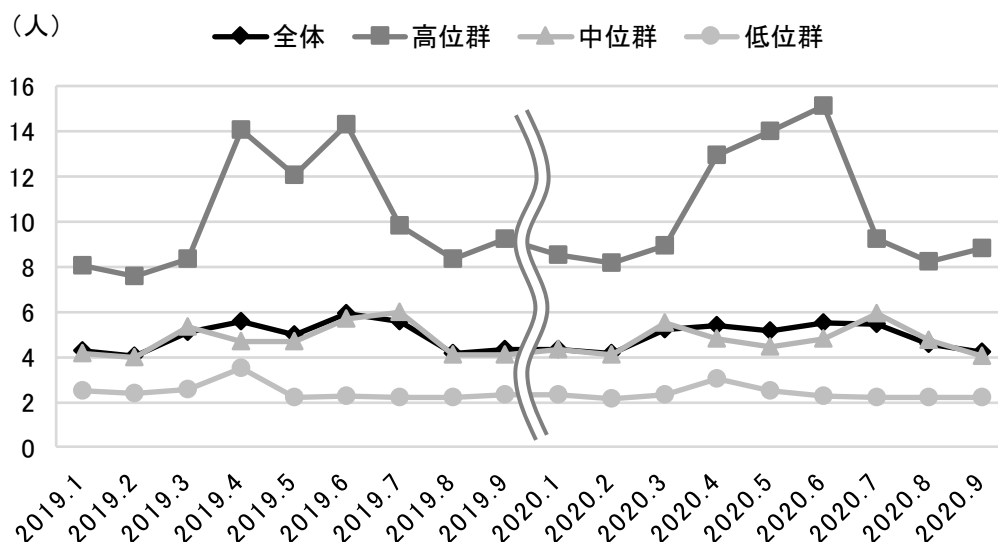
	2020.1	2020.2	2020.3	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
全体	215.5	218.6	247.6	385.2	171.4	276.2	214.0	216.6	233.8
コロナ感染者数									
高位群	325.7	356.3	440.4	603.9	179.9	492.7	321.3	334.7	376.0
中位群	171.5	169.2	179.9	338.9	165.1	186.1	182.8	181.9	184.4
低位群	231.5	226.2	260.2	308.2	181.7	322.3	200.1	199.0	235.7

Q4-1-21 高校生等奨学金(申請者数)

「全体」では、「2019.6」が平均 6.0 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.6」が平均 15.1 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.7」が平均 6.0 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.4」が平均 3.5 人でもっとも多くなっている。

図表 I-73 Q4-1-21 コロナ感染者数別 高校生等奨学金(申請者数):数値回答(平均値)



<平均値：数表>

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感 染者数	全体	4. 3	4. 1	5. 1	5. 6	5. 0	6. 0	5. 6	4. 1	4. 3
	高位群	8. 0	7. 6	8. 4	14. 1	12. 0	14. 3	9. 8	8. 3	9. 3
	中位群	4. 2	4. 0	5. 4	4. 7	4. 7	5. 7	6. 0	4. 1	4. 1
	低位群	2. 5	2. 4	2. 6	3. 5	2. 2	2. 2	2. 2	2. 2	2. 3

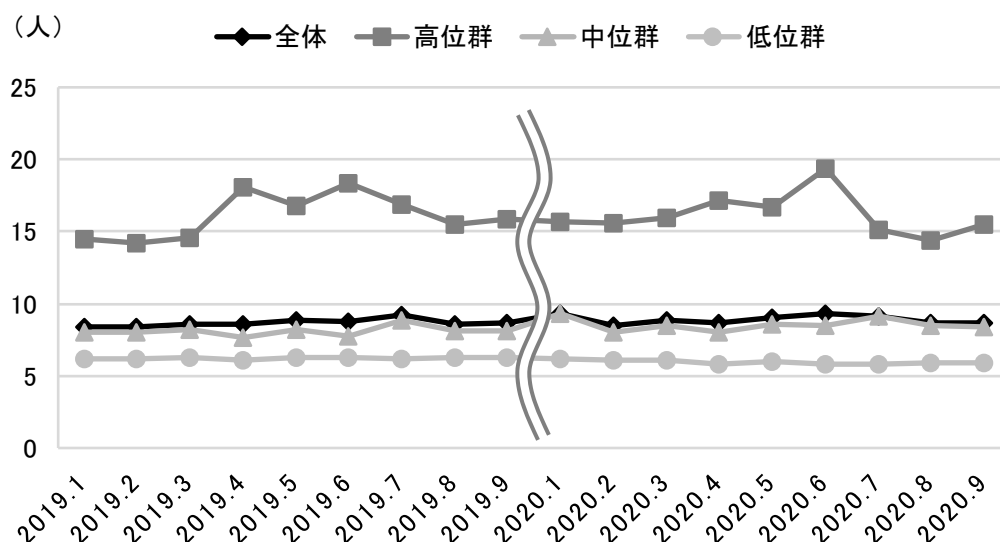
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感 染者数	全体	4. 3	4. 1	5. 2	5. 4	5. 2	5. 5	5. 4	4. 6	4. 2
	高位群	8. 5	8. 2	9. 0	13. 0	14. 0	15. 1	9. 2	8. 3	8. 8
	中位群	4. 3	4. 1	5. 5	4. 8	4. 4	4. 8	5. 9	4. 7	4. 0
	低位群	2. 3	2. 2	2. 3	3. 1	2. 5	2. 3	2. 2	2. 2	2. 2

Q4-1-22 高校生等奨学金(受給者数)

「全体」では、「2020.1」が平均 9.3 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.6」が平均 19.4 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.1」が平均 9.3 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.9」が平均 6.3 人でもっとも多くなっている。

図表 I-74 Q4-1-22 コロナ感染者数別 高校生等奨学金(受給者数):数値回答(平均値)



< 平均値 : 数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	8.4	8.4	8.6	8.6	8.8	8.8	9.2	8.6	8.7
	高位群	14.5	14.2	14.5	18.0	16.8	18.4	16.8	15.5	15.9
	中位群	8.0	8.0	8.2	7.7	8.2	7.7	8.8	8.1	8.1
	低位群	6.2	6.2	6.2	6.0	6.3	6.2	6.2	6.3	6.3

		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	9.3	8.5	8.9	8.7	9.0	9.3	9.1	8.6	8.7
	高位群	15.7	15.6	15.9	17.1	16.7	19.4	15.1	14.4	15.5
	中位群	9.3	8.0	8.5	8.0	8.6	8.5	9.2	8.5	8.4
	低位群	6.1	6.1	6.1	5.8	6.0	5.8	5.8	5.9	5.9

2) 自治体規模別

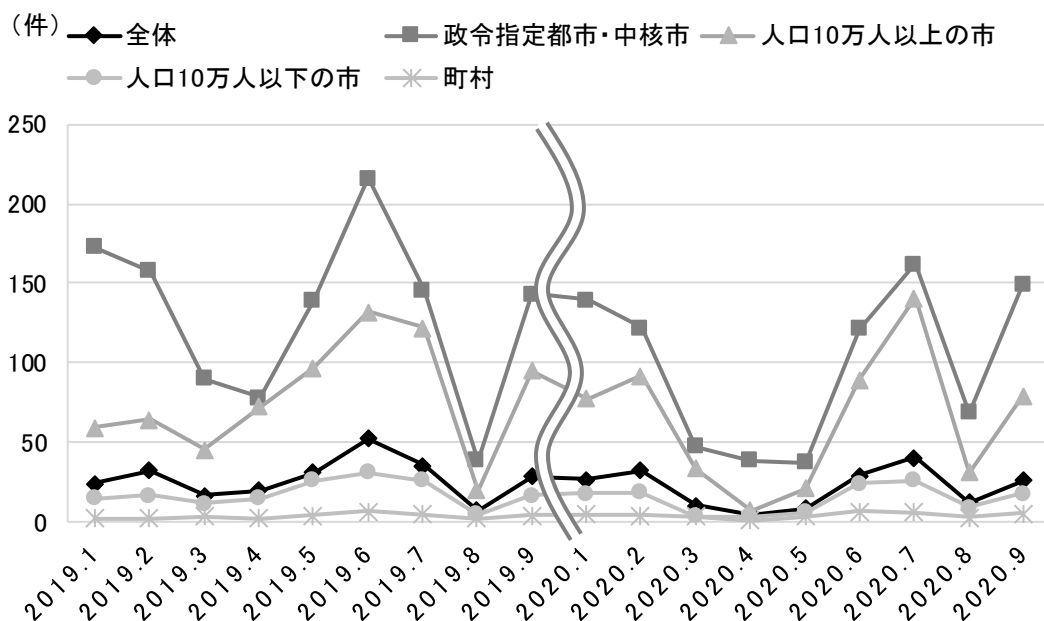
以下では、自治体規模別に、教育委員会における支援状況のうち主な項目をみていく。

Q4-1-1 いじめ

「全体」では、「2019.6」が平均 52.2 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2019.6」が平均 216.2 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.7」が平均 140.5 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2019.6」が平均 30.7 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2020.6」が平均 6.7 件でもっとも多くなっている。

図表 I-75 Q4-1-1 自治体規模別 いじめ:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

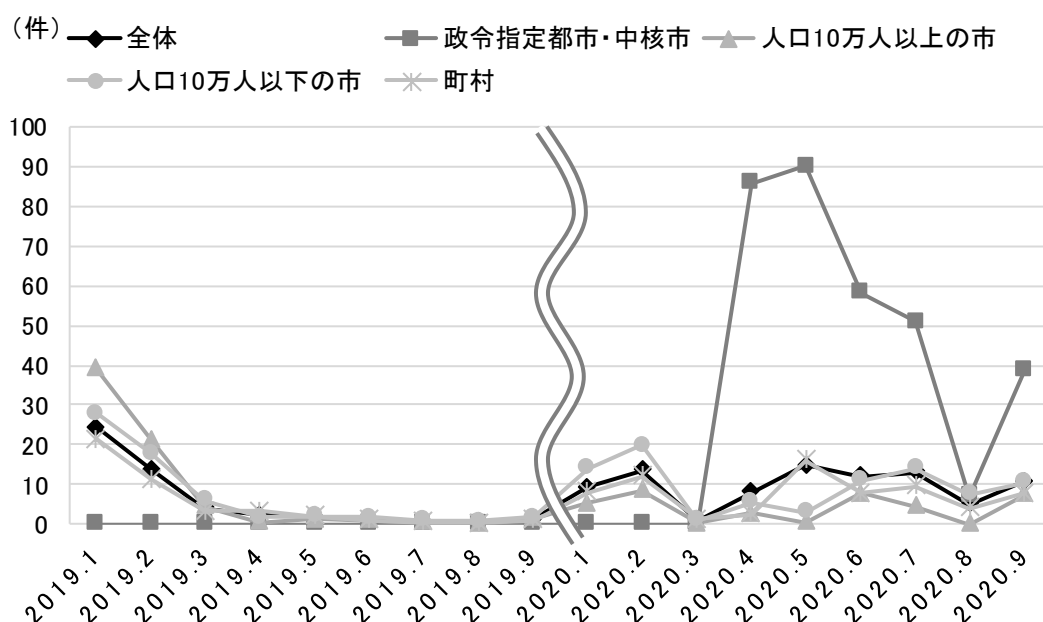
		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	23. 8	32. 4	16. 4	19. 7	30. 5	52. 2	35. 2	6. 9	28. 4
	政令指定都市・中核市	172. 9	157. 8	89. 8	77. 6	139. 4	216. 2	145. 9	38. 5	143. 2
	人口10万人以上の市	59. 1	64. 0	45. 3	72. 1	96. 7	131. 8	121. 7	19. 3	94. 9
	人口10万人以下の市	14. 5	16. 3	11. 1	14. 3	25. 6	30. 7	25. 6	4. 3	16. 7
	町村	1. 9	2. 0	3. 0	2. 2	3. 7	6. 3	4. 4	1. 8	3. 6
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	26. 6	32. 2	9. 9	4. 4	8. 0	29. 0	40. 4	11. 8	26. 0
	政令指定都市・中核市	139. 3	121. 9	46. 9	38. 4	36. 9	121. 5	161. 8	68. 7	149. 7
	人口10万人以上の市	77. 2	92. 0	33. 5	6. 8	20. 6	89. 5	140. 5	30. 7	79. 1
	人口10万人以下の市	17. 5	18. 2	3. 4	3. 3	5. 8	23. 7	26. 0	8. 6	17. 6
	町村	4. 7	4. 0	3. 2	1. 0	3. 2	6. 7	5. 9	2. 7	5. 2

Q4-1-2 出席停止措置

「全体」では、「2019.1」が平均 24.4 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2020.5」が平均 90.2 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2019.1」が平均 39.2 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2019.1」が平均 27.9 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2019.1」が平均 21.4 件でもっとも多くなっている。

図表 I-76 Q4-1-2 自治体規模別 出席停止措置:数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	24.4	13.9	4.1	2.2	1.8	1.1	0.7	0.3	1.2
	政令指定都市・中核市	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	人口10万人以上の市	39.2	21.2	4.5	0.4	1.2	0.9	0.5	0.0	1.6
	人口10万人以下の市	27.9	17.7	6.0	1.6	2.1	1.8	1.0	0.6	1.6
	町村	21.4	11.3	3.2	3.3	2.1	0.9	0.6	0.3	1.0

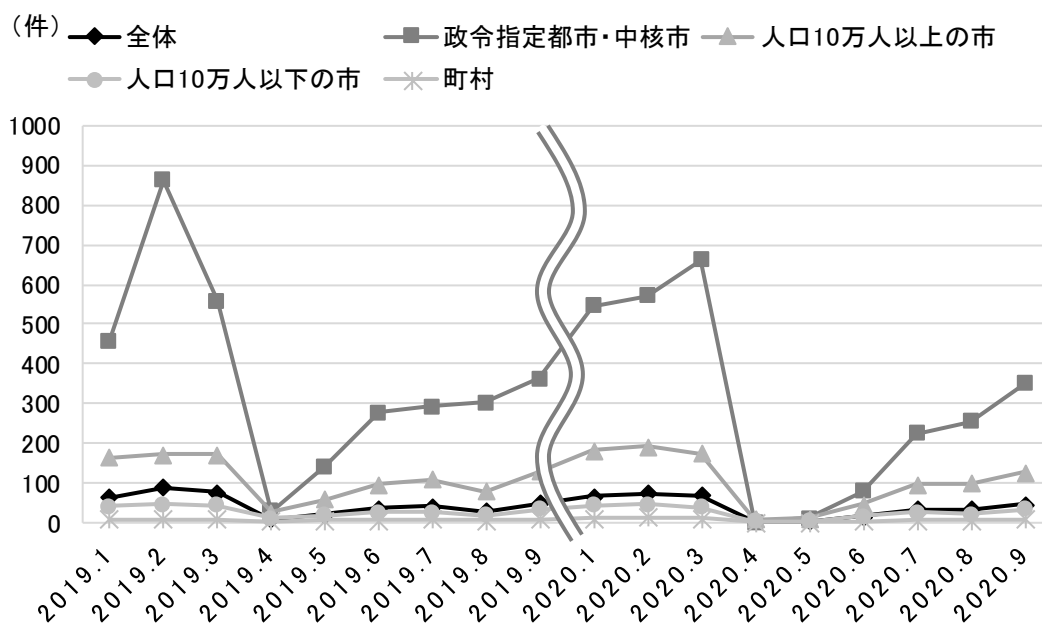
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	9.1	13.5	1.0	8.0	14.7	12.0	12.9	4.9	10.7
	政令指定都市・中核市	0.0	0.0	0.0	85.8	90.2	58.2	51.1	7.1	39.0
	人口10万人以上の市	5.2	8.6	0.1	2.7	0.6	7.8	4.6	0.0	7.5
	人口10万人以下の市	14.1	19.9	0.9	5.5	3.1	11.1	14.1	7.5	10.6
	町村	7.9	12.0	1.3	2.4	16.1	7.8	9.4	4.0	7.8

Q4-1-5 不登校

「全体」では、「2019.2」が平均 88.2 人でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2019.2」が平均 861.3 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.2」が平均 191.7 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2020.2」が平均 46.3 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2020.2」が平均 12.6 件でもっとも多くなっている。

図表 I-77 Q4-1-5 自治体規模別 不登校:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	63. 5	88. 2	76. 4	9. 0	22. 1	37. 1	40. 3	27. 7	48. 7
	政令指定都市・中核市	458. 1	861. 3	558. 8	28. 7	140. 7	276. 1	291. 1	301. 6	363. 5
	人口10万人以上の市	163. 2	171. 6	171. 4	26. 9	58. 7	96. 6	108. 6	77. 9	129. 3
	人口10万人以下の市	41. 4	45. 3	44. 7	10. 1	18. 6	25. 3	26. 6	17. 4	32. 5
	町村	8. 8	9. 6	9. 4	3. 1	4. 9	6. 8	7. 4	6. 5	8. 6

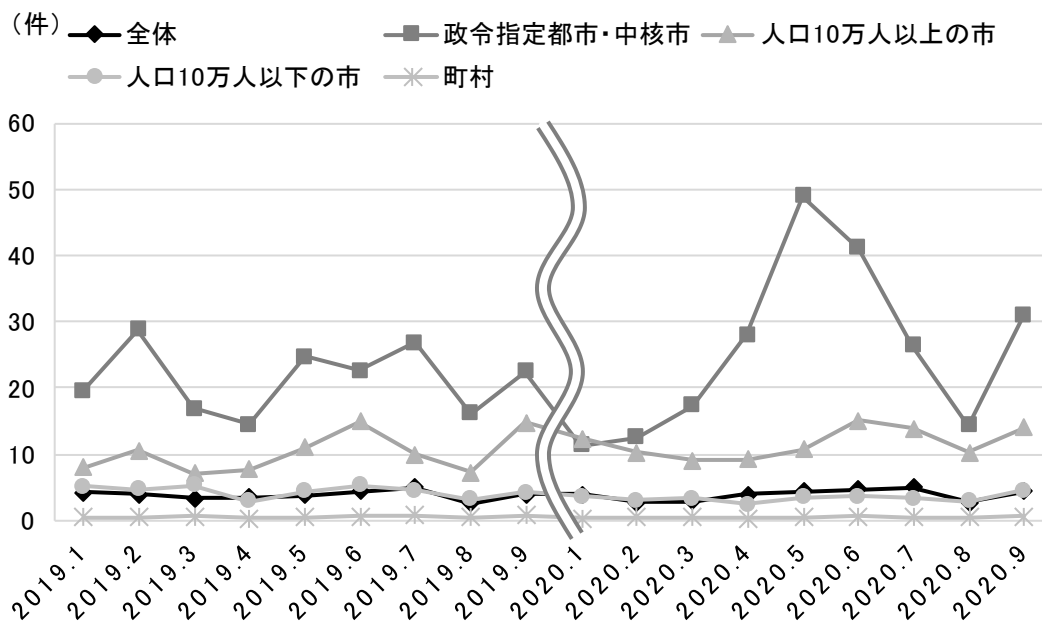
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	67. 5	73. 4	67. 8	3. 0	4. 1	15. 8	33. 0	33. 7	46. 8
	政令指定都市・中核市	545. 3	572. 0	662. 1	0. 0	11. 2	78. 8	225. 3	253. 6	349. 0
	人口10万人以上の市	181. 8	191. 7	175. 6	8. 4	10. 3	46. 2	97. 7	100. 2	125. 9
	人口10万人以下の市	42. 6	46. 3	37. 9	3. 6	4. 2	15. 4	26. 4	22. 3	33. 2
	町村	11. 6	12. 6	10. 6	2. 0	2. 3	4. 7	7. 0	6. 9	8. 4

Q4-1-13 児童虐待に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 5.0 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2020.5」が平均 48.9 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.6」が平均 15.1 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2019.6」が平均 5.3 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2019.7」が平均 0.7 件でもっとも多くなっている。

図表 I-78 Q4-1-13 自治体規模別 児童虐待に関する問題:数値回答 (平均値)



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	4. 3	3. 9	3. 3	3. 4	3. 7	4. 4	4. 9	2. 6	4. 0
	政令指定都市・中核市	19. 6	28. 7	16. 9	14. 4	24. 8	22. 6	26. 8	16. 1	22. 4
	人口10万人以上の市	7. 9	10. 5	7. 1	7. 6	11. 1	14. 9	9. 9	7. 3	14. 8
	人口10万人以下の市	5. 1	4. 6	5. 2	2. 8	4. 3	5. 3	4. 5	3. 2	4. 2
	町村	0. 4	0. 5	0. 6	0. 3	0. 5	0. 6	0. 7	0. 5	0. 7

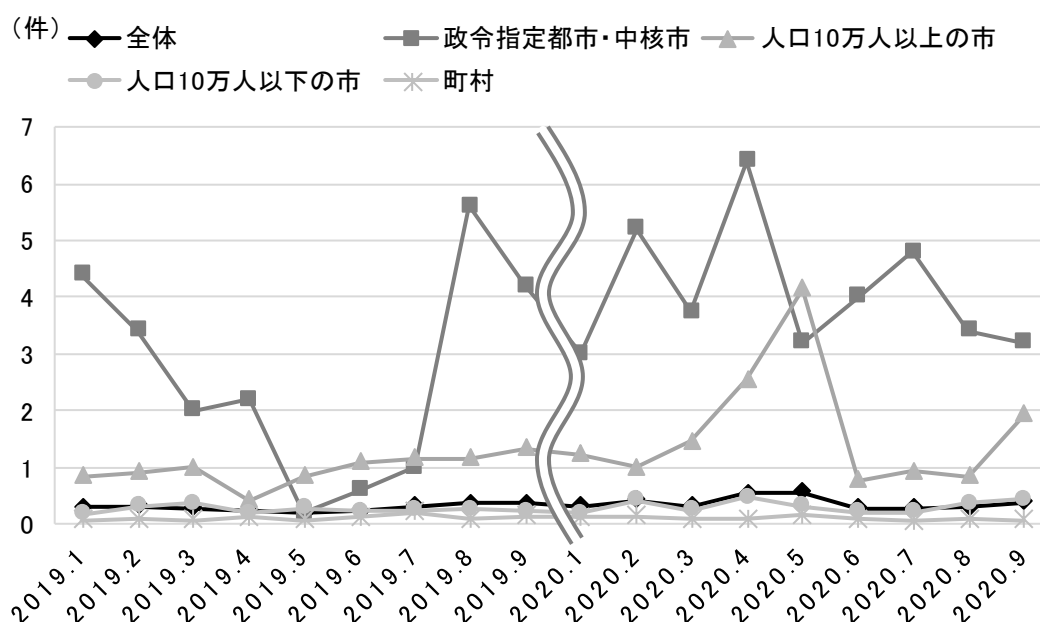
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	3. 9	2. 7	2. 8	3. 9	4. 4	4. 7	5. 0	2. 7	4. 4
	政令指定都市・中核市	11. 2	12. 6	17. 4	28. 0	48. 9	41. 1	26. 3	14. 3	31. 0
	人口10万人以上の市	12. 3	10. 3	9. 1	9. 2	10. 7	15. 1	13. 9	10. 2	14. 0
	人口10万人以下の市	3. 6	3. 1	3. 4	2. 4	3. 4	3. 5	3. 3	2. 8	4. 5
	町村	0. 3	0. 4	0. 5	0. 2	0. 4	0. 6	0. 5	0. 4	0. 6

Q4-1-14 貧困に関する問題

「全体」では、「2020.5」が平均 0.6 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2020.4」が平均 6.40 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.5」が平均 4.15 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2020.4」が平均 0.47 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2019.7」が平均 0.21 件でもっとも多くなっている。

図表 I-79 Q4-1-14 自治体規模別 貧困に関する問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	0.30	0.32	0.28	0.22	0.18	0.23	0.31	0.38	0.36
	政令指定都市・中核市	4.40	3.40	2.00	2.20	0.20	0.60	1.00	5.60	4.20
	人口10万人以上の市	0.83	0.92	1.00	0.42	0.83	1.08	1.17	1.17	1.33
	人口10万人以下の市	0.17	0.31	0.37	0.20	0.29	0.22	0.24	0.27	0.22
	町村	0.06	0.09	0.07	0.12	0.07	0.13	0.21	0.09	0.13

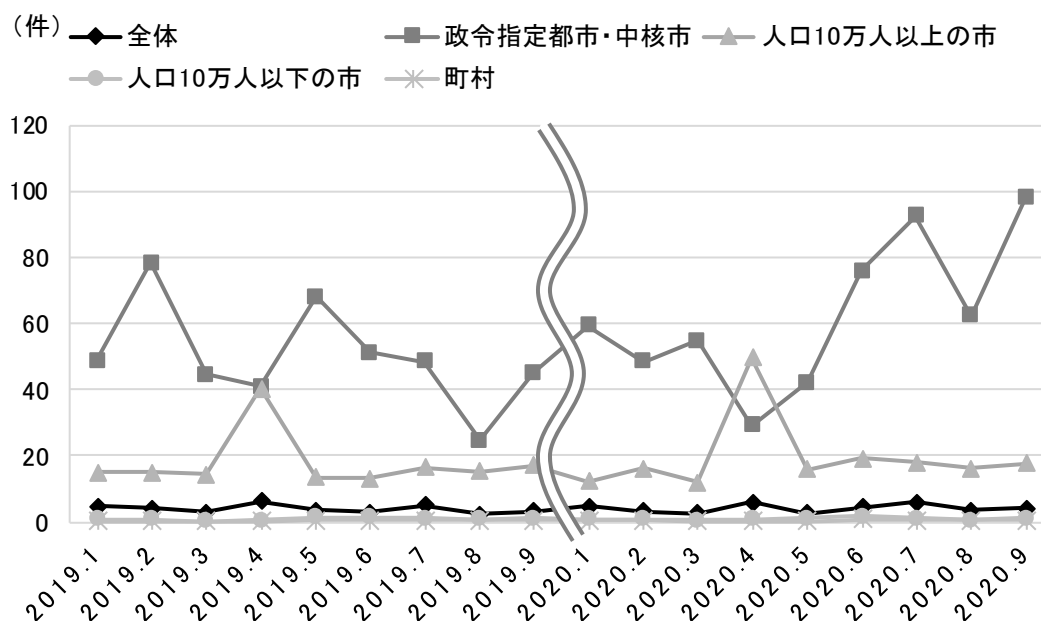
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	0.31	0.42	0.31	0.55	0.57	0.28	0.29	0.30	0.38
	政令指定都市・中核市	3.00	5.20	3.75	6.40	3.20	4.00	4.80	3.40	3.20
	人口10万人以上の市	1.23	1.00	1.46	2.54	4.15	0.77	0.92	0.85	1.92
	人口10万人以下の市	0.20	0.41	0.24	0.47	0.31	0.22	0.22	0.36	0.43
	町村	0.12	0.14	0.08	0.09	0.16	0.09	0.04	0.08	0.06

Q4-1-15 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題

「全体」では、「2019.4」が平均 6.2 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2020.9」が平均 97.8 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.4」が平均 49.8 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2020.6」が平均 1.9 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2020.6」が平均 0.8 件でもっとも多くなっている。

図表 I-80 Q4-1-15 自治体規模別 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題：数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 1	2019. 2	2019. 3	2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
Q1 自治体の規模	全体	4. 8	4. 2	2. 9	6. 2	3. 6	3. 1	5. 0	2. 3	3. 2
	政令指定都市・中核市	48. 8	78. 4	44. 4	41. 0	68. 0	51. 2	48. 4	24. 6	45. 2
	人口10万人以上の市	15. 0	15. 2	14. 5	40. 3	13. 4	13. 3	16. 6	15. 3	17. 2
	人口10万人以下の市	0. 7	0. 7	0. 3	0. 7	1. 5	1. 3	1. 2	0. 9	1. 3
	町村	0. 3	0. 3	0. 3	0. 3	0. 4	0. 5	0. 7	0. 4	0. 5

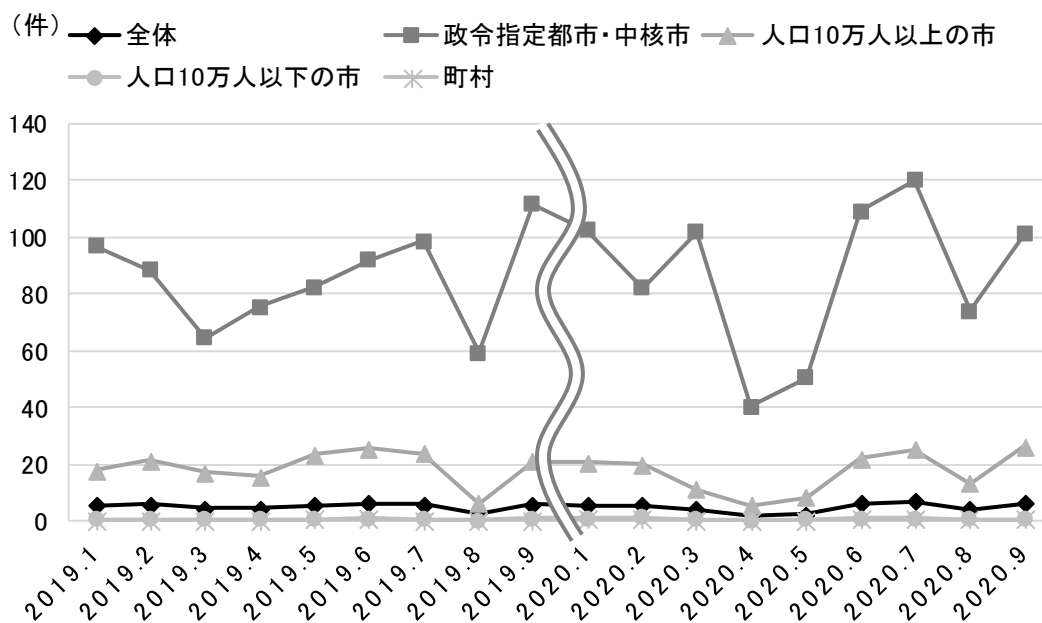
		2020. 1	2020. 2	2020. 3	2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
Q1 自治体の規模	全体	4. 9	3. 1	2. 6	6. 0	2. 6	4. 4	6. 0	3. 4	4. 2
	政令指定都市・中核市	59. 4	48. 4	54. 8	29. 2	42. 0	75. 8	92. 4	62. 4	97. 8
	人口10万人以上の市	12. 4	16. 1	12. 1	49. 8	15. 9	19. 2	18. 0	16. 3	17. 7
	人口10万人以下の市	1. 0	0. 9	0. 7	0. 8	1. 1	1. 9	1. 2	0. 7	1. 3
	町村	0. 6	0. 4	0. 4	0. 4	0. 3	0. 8	0. 7	0. 6	0. 6

Q4-1-16 心身の健康・保健に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 7.0 件でもっとも多くなっている。

「政令指定都市・中核市」では、「2020.7」が平均 120.3 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以上の市」では、「2020.9」が平均 26.3 件でもっとも多くなっている。「人口 10 万人以下の市」では、「2020.2」が平均 1.3 件でもっとも多くなっている。「町村」では、「2020.7」が平均 0.7 件でもっとも多くなっている。

図表 I-81 Q4-1-16 自治体規模別 心身の健康・保健に関する問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019.1	2019.2	2019.3	2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
Q1 自治体の規模	全体	5.6	6.0	4.5	4.5	5.5	6.1	6.0	2.7	5.8
	政令指定都市・中核市	97.0	88.6	64.7	75.4	82.7	92.0	98.6	59.2	111.8
	人口10万人以上の市	17.9	21.4	17.0	15.6	23.5	25.7	23.7	6.3	20.8
	人口10万人以下の市	0.5	0.5	0.7	0.8	0.8	1.0	0.7	0.4	0.8
	町村	0.3	0.3	0.2	0.3	0.5	0.5	0.4	0.2	0.4

		2020.1	2020.2	2020.3	2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
Q1 自治体の規模	全体	5.6	5.4	4.1	2.1	2.5	6.3	7.0	4.2	6.2
	政令指定都市・中核市	102.7	82.3	102.0	40.4	50.5	109.1	120.3	74.0	101.1
	人口10万人以上の市	20.8	19.9	11.2	5.4	8.3	22.2	25.1	13.4	26.3
	人口10万人以下の市	1.1	1.3	0.6	0.2	0.6	0.9	1.0	0.6	0.7
	町村	0.5	0.5	0.3	0.2	0.3	0.7	0.7	0.5	0.7

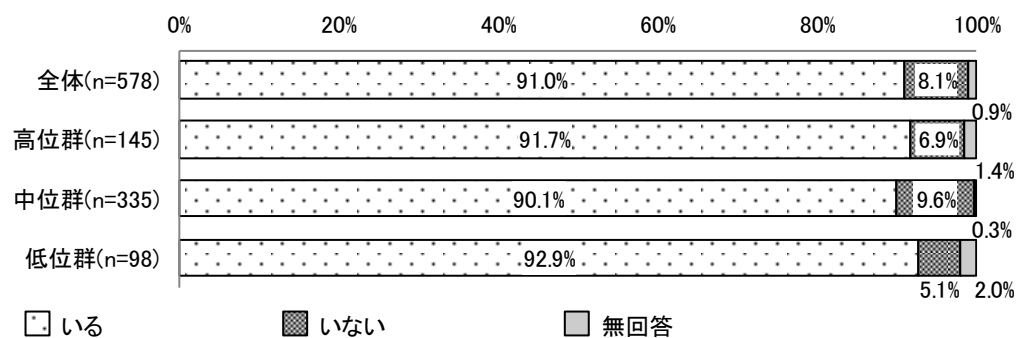
(5) 支援人材の有無

Q4-2① スクールカウンセラー

「全体」では、「いる」が91.0%、「いない」が8.1%となっている。

「高位群」では、「いる」が91.7%、「いない」が6.9%となっている。「中位群」では、「いる」が90.1%、「いない」が9.6%となっている。「低位群」では、「いる」が92.9%、「いない」が5.1%となっている。

図表 I-82 Q4-2① コロナ感染者数別 スクールカウンセラー:単数回答

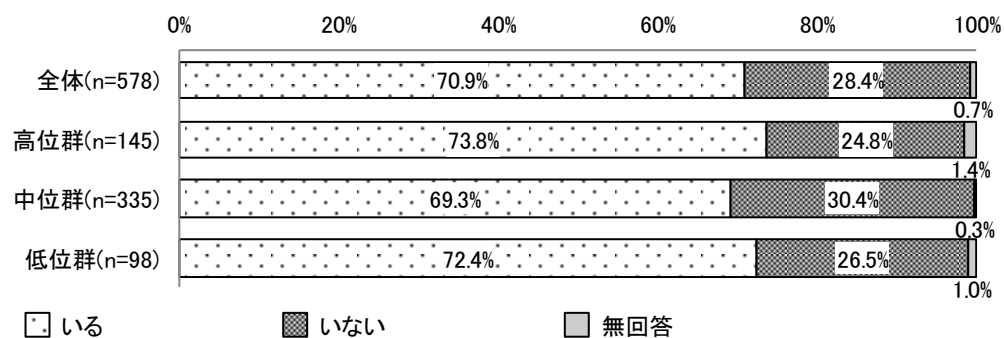


Q4-2② スクールソーシャルワーカー

「全体」では、「いる」が70.9%、「いない」が28.4%となっている。

「高位群」では、「いる」が73.8%、「いない」が24.8%となっている。「中位群」では、「いる」が69.3%、「いない」が30.4%となっている。「低位群」では、「いる」が72.4%、「いない」が26.5%となっている。

図表 I-83 Q4-2② コロナ感染者数別 スクールソーシャルワーカー:単数回答



3. 考察

本節では、新型コロナウイルス感染症拡大下、国内各市町村の児童支援に係る教育委員会と関連各部局との連携、また教育委員会にて管轄する各種統計の値それぞれが感染拡大前後にどのように変化していたかを把握するため、感染拡大前後・学校再開後の関連各部局との連携状況、また2019年度(2019年1月～9月、2020年1月～3月)・2020年度(2020年4月～9月)における月別の統計値の変化に関し聞き取り調査を行った結果を示した。

(1) 関連各部局との連携の頻度の変化

新型コロナウイルス感染拡大前と比較し、拡大後の公立小・中学校の休校措置、その後学校が再開してからの期間において、関連する他部局・機関との間の連携状況に著しい変化が生じた項目は観測されていない。学校のようにとりわけ関連の深い部局(図表 I-5 Q3-1-1①～図表 I-7 Q3-1-1③)を中心とし、各部局との連携状況は全般的に期間を通して頻繁な連携を行う回答の割合が高い状況であった。感染拡大前後に関しては、感染拡大以前の連携状況が「行う」であった状況から「頻繁に行う」に移行するような状況は見られたものの、「あまり行わない」・「まったく行われていない」状態から感染拡大に伴ってより「頻繁に行う」状況への劇的な移行が示唆されるような結果は見られなかった。

目立った変化ではないものの、多くの部局との連携においては、休校期間以降の連携・情報照会をより頻繁に行う方向への若干の移行が見られた。中でも母子保健・保育部局との連携においては、休校期間に連携を行う割合が増加し(図表 I-12 Q3-2-1②、図表 I-30 Q3-3-6②)、学校再開後も休校措置以前の状態に戻ることなく連携水準を一定程度維持していた(図表 I-13 Q3-2-1③、図表 I-31 Q3-3-6③)。休校期間中の児童相談・母子相談部局との連携(図表 I-18 Q3-3-1②)においても、感染状況に関わらず連携を「頻繁に行う」割合が増加した。これは自治体規模別でも同様で、人口10万人以上の市では学校再開後であったが、それ以外の区分においては休校期間中から連携を行う割合が増大した。他方で、感染拡大に伴う休校期間中、連携・情報照会を行う割合に若干の減少が見られたのが、警察を相手にした項目であった。休校期間中の減少が見られた(図表 I-36 Q3-4-1②、図表 I-39 Q3-4-2②)ものの、学校再開後の連携・情報照会は概ね感染拡大前の水準に戻っていた。また、変化の度合いはより僅かなものであったが、児童相談所からの専門的助言(図表 I-48 Q3-5-3②)も中位群では同様の推移が見られた。自治体規模別の集計においても、政令指定都市・中核市を除き、休校期間中の連携を「頻繁に行う」・「行う」割合の若干の減少が見られた。

(2) 教育委員会管轄の統計値・各種問題に関する相談・対応件数の推移

新型コロナウイルス感染症の拡大前後における、教育委員会で管轄する各種統計値の推移は、概ね休校期間周辺に特徴的な変化が見られたが、その推移の方向性は特定の項目に特徴が表れていた。

まず教育委員会が把握する児童の問題に関し、教育委員会として認知したいじめ(図表 I-53 Q4-1-1)・不登校(図表 I-57 Q4-1-5)・暴力行為(小学校:図表 I-58 Q4-1-6、中学校:図表 I-59 Q4-1-7)は休校期間中の2020年4・5月を中心に大きく落ち込んでおり、2019年との比較においても数値としては低い状態であった。またこれらの数値は、学校再開後8月には前年と比較し高くなっていることが見て取れる。他方で、休校期間中・その他の期間に前年との明らかな差異が見られた項目があった。経済的理由による長期欠席者の平均値(図表 I-56 Q4-1-4)は、2020年1月～3月にかけて、とりわけ感染状況の高位群において前年と比較し顕著に高くなっていることが分かる。また出席停止措置(図表 I-54 Q4-1-2)は、休校期間以降2020年8月まで明確に前年を上回

っている状況が確認出来る。以上のように、各種統計値は新型コロナウイルス感染拡大による影響を示唆しており、学校と関連の強い教育委員会において把握する統計値においては、休校期間に前年と比較し低い数値を示す項目が多く見られたが、一部項目では感染拡大の前後に数値の上昇が見られるものがあった。

教育委員会にて受理される各種相談・問題に関しても、休校期間 2020 年 4・5 月の件数低下の傾向が複数の項目で見られた(例:不登校に関する相談 図表 I-60 Q4-1-8、学業・進路に関する相談 図表 I-61 Q4-1-9、教職員との関係をめぐる相談 図表 I-64 Q4-1-12)。他方で、休校期間中から上昇傾向が見られ、学校再開後も同様であったのが児童虐待に関する問題(図表 I-65 Q4-1-13)、貧困に関する問題(図表 I-66 Q4-1-14)への対応件数であった。児童虐待に関しては、とりわけ感染状況の高位群に属する自治体において、2020 年 2・3 月に前年と比較し低い値を示して以降、2020 年 4・5 月には前年より若干高い値を示し、2020 年 7 月により明確に前年の対応件数を上回った。自治体規模別(図表 I-78 Q4-1-13)でも、政令指定都市・中核市における対応件数は 2020 年 4～6 月に顕著に高い値が見られ、前年と比較しても明らかに高水準であった。貧困に関しても同様に、高位群における数値の上昇が顕著であり、とりわけ休校期間中 2020 年 4・5 月は前年を大きく上回る平均値を示し、以降 8 月まで前年を上回る値を示していた。自治体規模別でもとりわけ政令指定都市・中核市、人口 10 万人以上の市において、2020 年 3～5 月にかけて前年を大きく上回る平均値を示した。

就学援助・高校生等奨学金の申請・受給者数の推移については、感染状況の高位群において、就学援助の申請者数が休校期間中から学校再開後の期間に前年と比較し高い数値を示した(図表 I-71 Q4-1-19)。他方で自治体規模別で見た高校生等奨学金に関しては、休校期間に至る以前の 2020 年 1 月から前年と比較し受給者が増加し、とりわけ政令指定都市・中核市では前年同月比の水準が高い状態が期間中維持された。なお、就学援助・高校生等奨学金の申請者数が受給者数を上回る状況が見られるが、これは自治体により受給者からの申請に拠らず、自動的に就学援助・奨学金の支給が行われる市区町村が存在することに起因すると考えられる。

(3) 連携・支援状況の推移に関する考察

まず連携状況に関しては、教育委員会と関連する他部局との連携・情報照会を「頻繁に行う」「行う」割合は期間を通して高く、教育委員会の大半は、学校を中心とした関連部局と連携を維持しているという認識を有していることが見て取れる。この下で、我が国における新型コロナウイルス感染拡大の前後における連携状況の変化が極端なものではなかった結果を鑑みると、感染拡大によって教育委員会の他部局との連携が阻害されるような状況は発生しなかったことが示唆される。むしろ、感染状況や自治体規模を問わず、休校期間以降に母子保健部局・保育部局との連携の増大が見られ、感染拡大によって連携の必要性が増大したことが窺われる。他方、休校期間中にわずかに頻度の低下が示唆された警察との連携に関しては、従来学校との緊密な連携によって警察との連携の必要が生じていた中で、公立小・中学校の休校措置が取られることで、各学校から教育委員会に吸い上げられ、警察に引き継がれていた各種の児童の問題への対応の流れが滞ったことが想定される。教育委員会が把握する各種統計値と対照すると、児童虐待の問題への対応を除き、休校期間中に数値が極端に低い項目が多く見られた。この点からも、休校措置に起因する学校・教育委員会の各種問題の把握の低下が示唆される。

上述の通り、不登校やいじめといった学校生活に関連する児童の課題に対する教育委員会の認識は、休校期間中に低下したことが示唆される一方で、感染拡大高位群の市区町村における経済的事由に起因する長期欠席者の増加は、教育委員会にて認識された感染拡大に伴う経済的な影響を窺わせる。この増加の後に貧困に関する問題への対応件数が増大したことから、教育委員会においても新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済的な困難の増大を認識する状況にあったと示唆される。これに符合するように児童相談・母子相談部局との連携を「頻

繁に行う」割合が増加した。母子保健・保育部局との連携と同様、経済的な困難の認識とともに、関連部局の連携を頻繁に行う必要が生じたことが示唆される。他方、教育委員会による児童虐待の問題への対応は休校期間以降に増加傾向が見られたものの、児童相談所等との連携に関しては休校期間中横ばいであったことから、この課題への対応に伴って児童相談所との連携がより頻繁に行われるようになったことは、明確には確認されなかった。児童虐待の問題増加に対し連携の増大が明確に見られなかったことは、連携の必要性が極端に増大することとはなかった可能性を示唆する一方で、本来必要とされているより頻繁な連携が行われなかったとすれば、教育委員会のみによる対応の不十分さが及ぼす悪影響が危惧される。

また、とりわけ感染水準の高位群における学校再開以降の就学援助の申請増大も、経済的な困難の増大を示唆している。これに関連し、高校生等奨学金については、自治体規模別で見た場合に、政令指定都市・中核市にて受給者数が感染拡大に先んじて前年と比較し増加していたことから、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済的困難への対処としても活用され得るものであったことが示唆される。さらに申請者数に比して受給者数が高い状況が見られたが、これは支援が申請に対する受付ベースではなく、対象者に対して自動で行われる自治体が多く存在することを示しており、学費の支出に係る新型コロナウイルス感染拡大に起因する経済的困難に対処可能な方策として、自治体側での対象者に対する自動的な支援の決定が有効であることが示唆される。

II. 学校調査

Ⅱ．学校調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、上記厚生労働省特別研究の一環として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会生活の急激な変化の下、子どもの生活・またその公的支援体制への影響を明らかにし、政策提言を行うことを目的として実施した。

(2) 調査対象

市町村のうち、2020年9月末時点の都道府県別新型コロナウイルス感染者数（人口10万人あたり累計）をもとに、以下の基準で各層3自治体ずつ、合計9自治体を選定し、1自治体あたり小学校・中学校あわせて最大50校に対して調査を依頼。合計450校を対象として調査を実施した。

第1層：新型コロナウイルス感染者数が多い自治体

第2層：新型コロナウイルス感染者数が中程度の自治体

第3層：新型コロナウイルス感染者数が少ない自治体

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

（教育委員会宛に調査票を送付し、教育委員会にて対象校50校を選定のうえ、各学校に調査票を配布。回答した調査票は各学校から直接返送。）

(4) 調査期間

2020年11月11日（水）～2020年12月14日（月）（当初締切12月4日（金））

(5) 回収状況

回収数189件（回収率42.0%）うち有効回収数189件（有効回収率42.0%）

(6) クロス分析の軸について

以下では、基本的に新型コロナウイルス感染者数（以下、コロナ感染者数）別のクロス集計結果を掲載している。軸の作成にあたっては、「(2) 調査対象」において調査対象自治体を選定する際の3層について、それぞれ第1層：高位群、第2層：中位群、第3層：低位群として設定した。

2. 調査結果

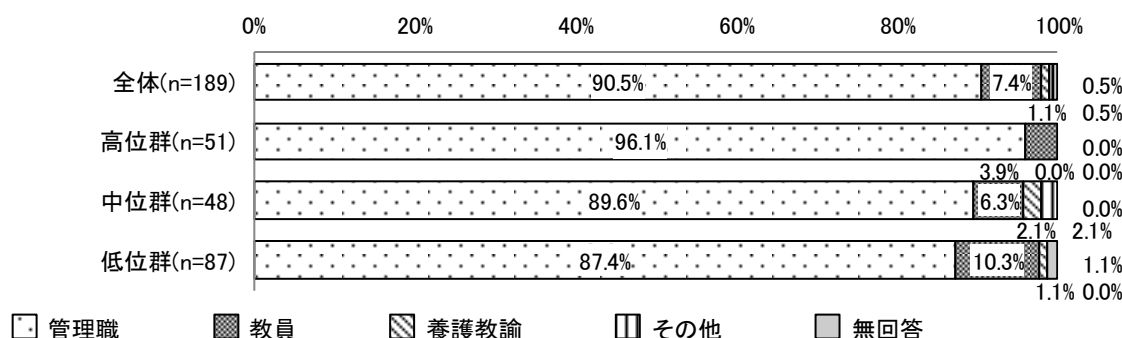
(1) 基本情報

Q1 回答者の職種・役職

「全体」では、「管理職」が 90.5%でもっとも割合が高く、次いで「教員」が 7.4%となっている。

「高位群」では、「管理職」が 96.1%、「教員」が 3.9%となっている。「中位群」では、「管理職」が 89.6%でもっとも割合が高く、次いで「教員」が 6.3%となっている。「低位群」では、「管理職」が 87.4%でもっとも割合が高く、次いで「教員」が 10.3%となっている。

図表 II-84 Q1 コロナ感染者数別 回答者の職種・役職:単数回答

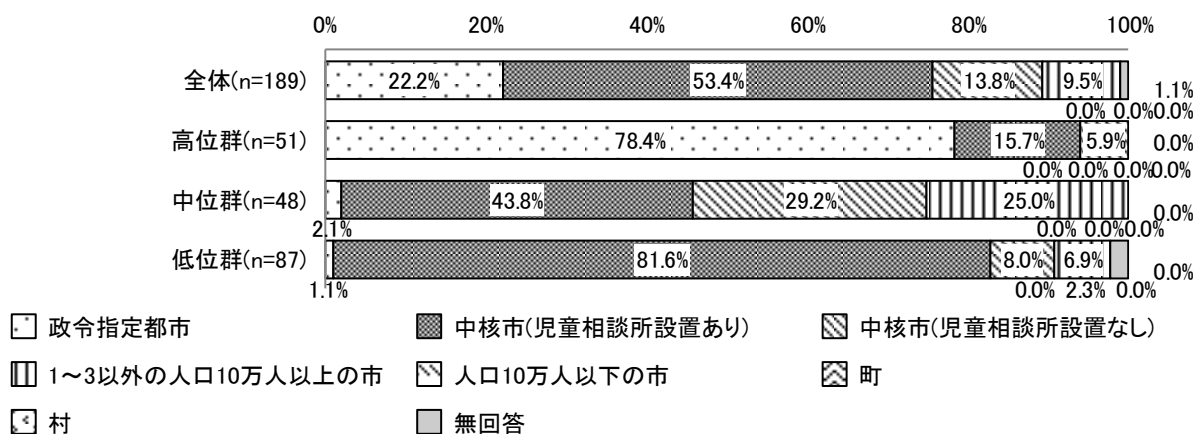


Q2 自治体の規模

「全体」では、「中核市(児童相談所設置あり)」が 53.4%でもっとも割合が高く、次いで「政令指定都市」が 22.2%となっている。

「高位群」では、「政令指定都市」が 78.4%でもっとも割合が高く、次いで「中核市(児童相談所設置あり)」が 15.7%となっている。「中位群」では、「中核市(児童相談所設置あり)」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「中核市(児童相談所設置なし)」が 29.2%となっている。「低位群」では、「中核市(児童相談所設置あり)」が 81.6%でもっとも割合が高く、次いで「中核市(児童相談所設置なし)」が 8.0%となっている。

図表 II-85 Q2 コロナ感染者数別 自治体の規模:単数回答

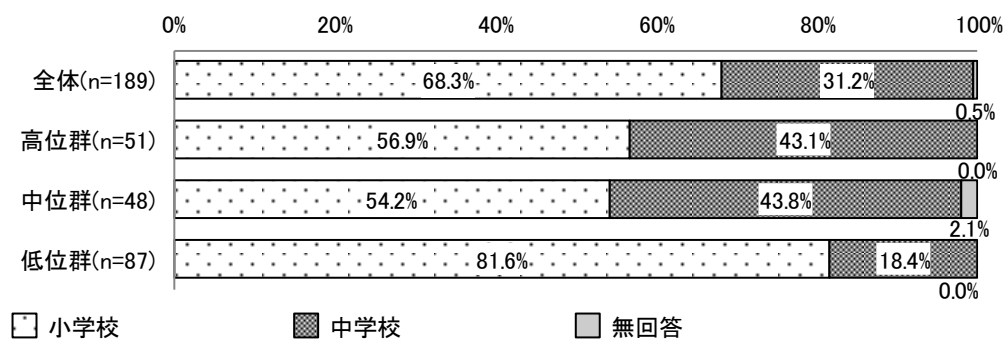


Q3 学校種別

「全体」では、「小学校」が 68.3%、「中学校」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「小学校」が 56.9%、「中学校」が 43.1%となっている。「中位群」では、「小学校」が 54.2%、「中学校」が 43.8%となっている。「低位群」では、「小学校」が 81.6%、「中学校」が 18.4%となっている。

図表 II-86 Q3 コロナ感染者数別 学校種別:単数回答



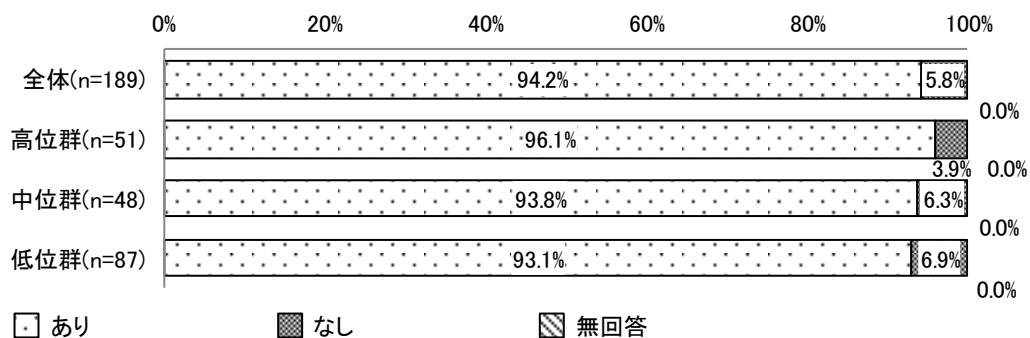
(2) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置

Q5 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置の有無

「全体」では、「あり」が 94.2%、「なし」が 5.8%となっている。

「高位群」では、「あり」が 96.1%、「なし」が 3.9%となっている。「中位群」では、「あり」が 93.8%、「なし」が 6.3%となっている。「低位群」では、「あり」が 93.1%、「なし」が 6.9%となっている。

図表 II-87 Q5 コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置の有無:単数回答

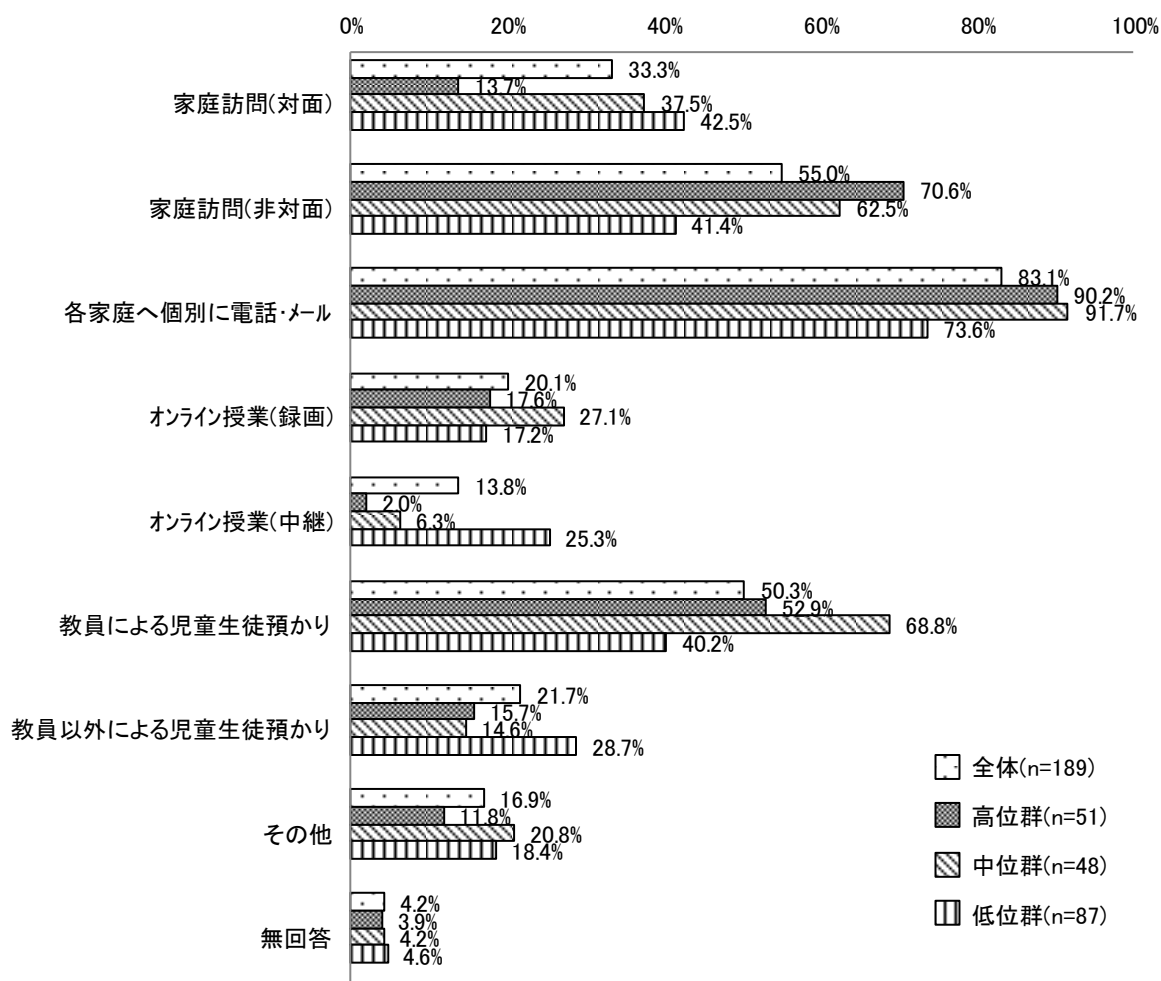


Q6 休校中に学校全体で実施したこと

「全体」では、「各家庭へ個別に電話・メール」が 83.1%でもっとも割合が高く、次いで「家庭訪問(非対面)」が 55.0%となっている。

「高位群」では、「各家庭へ個別に電話・メール」が 90.2%でもっとも割合が高く、次いで「家庭訪問(非対面)」が 70.6%となっている。「中位群」では、「各家庭へ個別に電話・メール」が 91.7%でもっとも割合が高く、次いで「家庭訪問(対面)」が 42.5%となっている。「低位群」では、「各家庭へ個別に電話・メール」が 73.6%でもっとも割合が高く、次いで「家庭訪問(対面)」が 42.5%となっている。

図表 II-88 Q6 コロナ感染者数別 休校中に学校全体で実施したこと:複数回答



(3) コロナ禍における子ども・保護者・学校の状態の変化

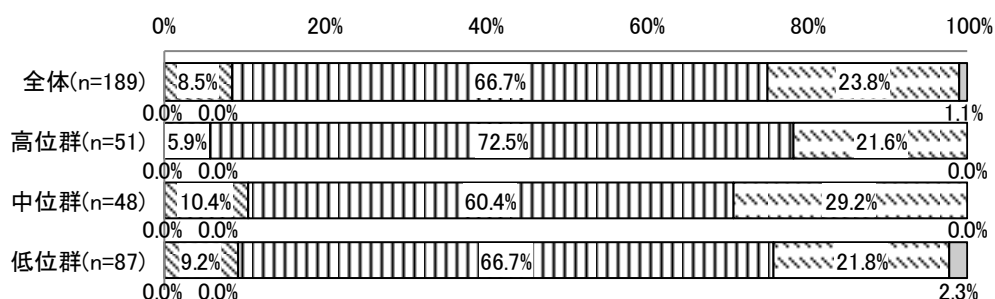
以下では、①新型コロナウイルス感染症拡大前（～2020年2月）（以下、コロナ前）、②休校期間中（2020年3月～）、③学校再開直後（2020年6月頃）、④現在（2020年10月）における総合的な状況について確認する。ただし、休校措置をとっていない場合は②休校期間中について分析から除外した。

1) 児童間のいじめ

Q7-1-1① コロナ前_子どもと教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が66.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が23.8%となっている。「高位群」では、「まあまあ良好」が72.5%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が21.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が60.4%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が29.2%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が66.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が21.8%となっている。

図表 II-89 Q7-1-1① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもと教職員の関係性:単数回答

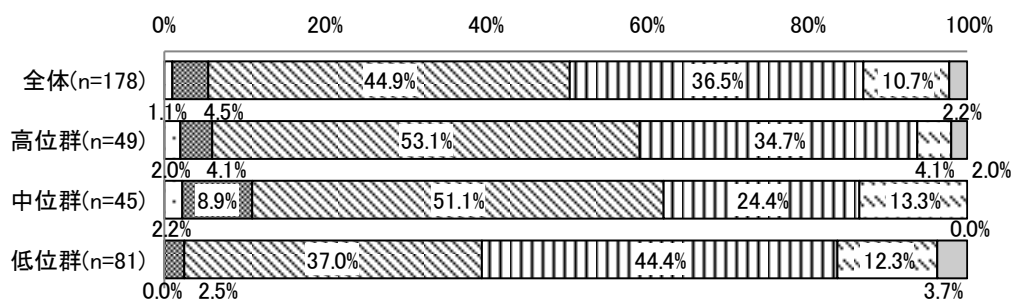


□ まったく良好でない ■ あまり良好でない ▨ どちらともいえない ▤ まあまあ良好 ▦ とても良好 □ 無回答

Q7-1-1② 休校期間中_子どもと教職員の関係性

「全体」では、「どちらともいえない」が44.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が36.5%となっている。「高位群」では、「どちらともいえない」が53.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が34.7%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が51.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が24.4%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が44.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が37.0%となっている。

図表 II-90 Q7-1-1② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもと教職員の関係性:単数回答



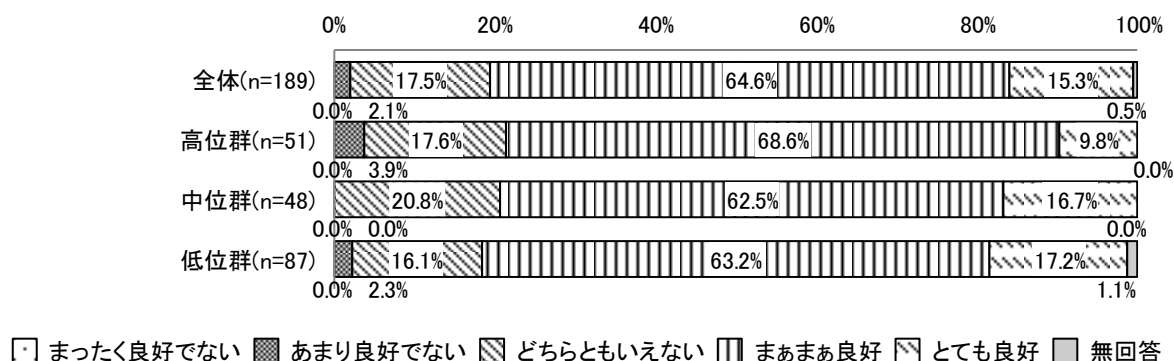
□ まったく良好でない ■ あまり良好でない ▨ どちらともいえない ▤ まあまあ良好 ▦ とても良好 □ 無回答

Q7-1-1③ 学校再開直後_子どもと教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 64.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.5%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 68.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 62.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 63.2%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 17.2%となっている。

図表 II-91 Q7-1-1③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもと教職員の関係性:単数回答

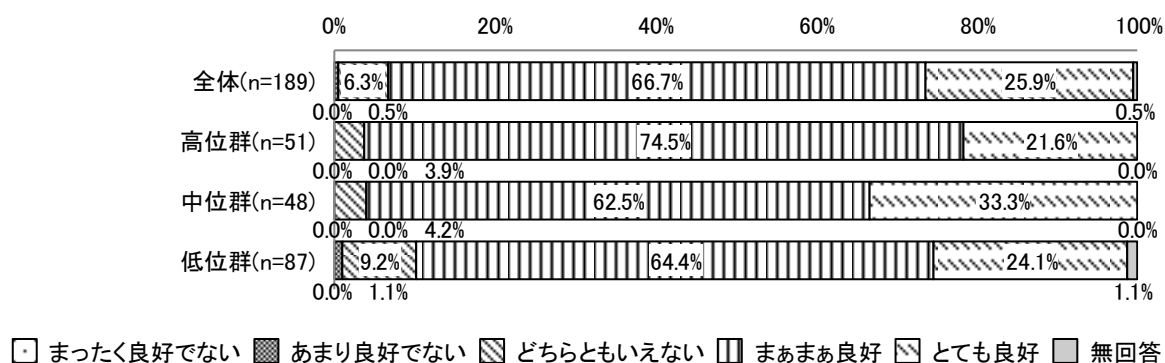


Q7-1-1④ 現在_子どもと教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 25.9%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 74.5%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 21.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 62.5%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 33.3%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 64.4%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 24.1%となっている。

図表 II-92 Q7-1-1④ コロナ感染者数別 現在_子どもと教職員の関係性:単数回答



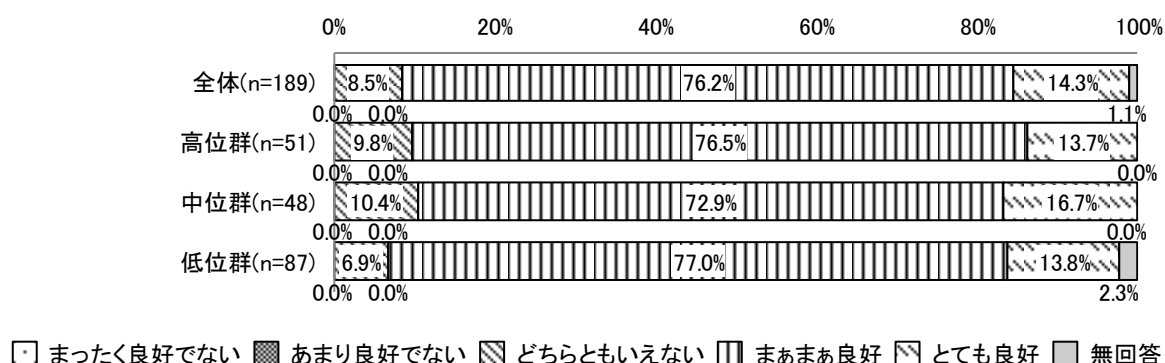
2) 子どもの他児との関係性

Q7-1-2① コロナ前_子どもの他児との関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 76.2%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 14.3%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 76.5%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 13.7%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 72.9%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 16.7%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 77.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 13.8%となっている。

図表 II-93 Q7-1-2① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの他児との関係性:単数回答

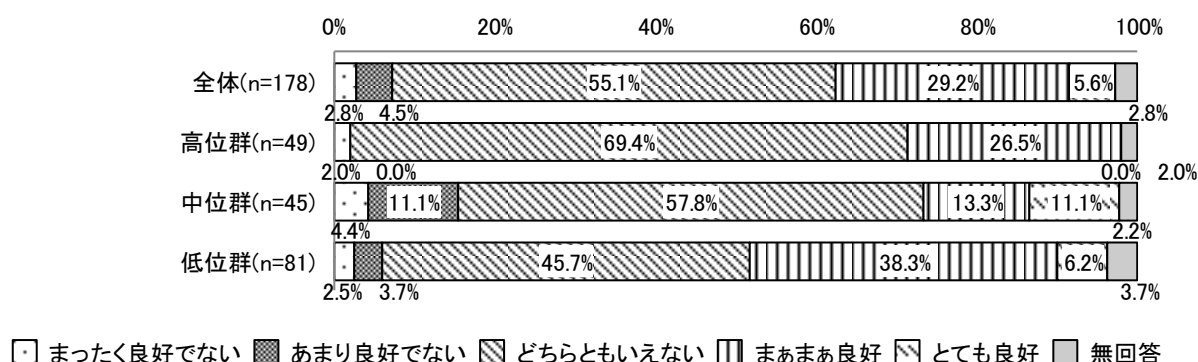


Q7-1-2② 休校期間中_子どもの他児との関係性

「全体」では、「どちらともいえない」が 55.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 29.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 69.4%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 26.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 57.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 13.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 45.7%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 38.3%となっている。

図表 II-94 Q7-1-2② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの他児との関係性:単数回答

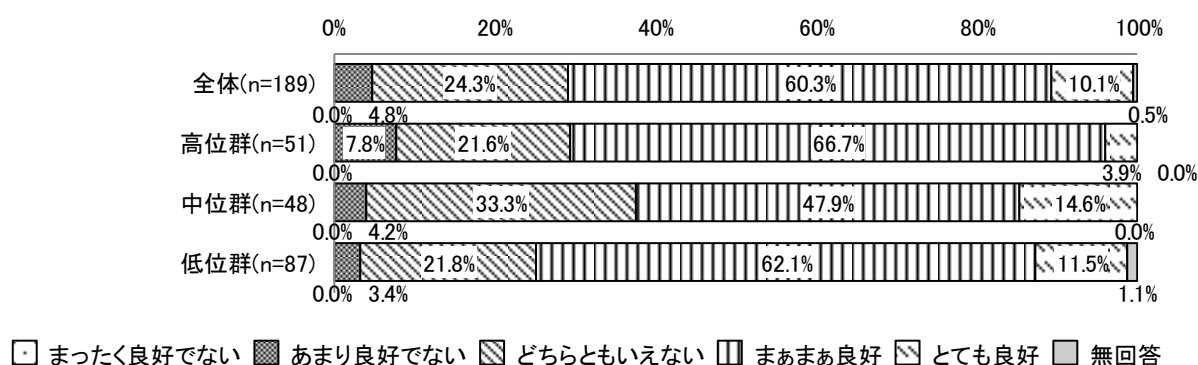


Q7-1-2③ 学校再開直後_子どもの他児との関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 60.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 24.3%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 62.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.8%となっている。

図表 II-95 Q7-1-2③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの他児との関係性:単数回答

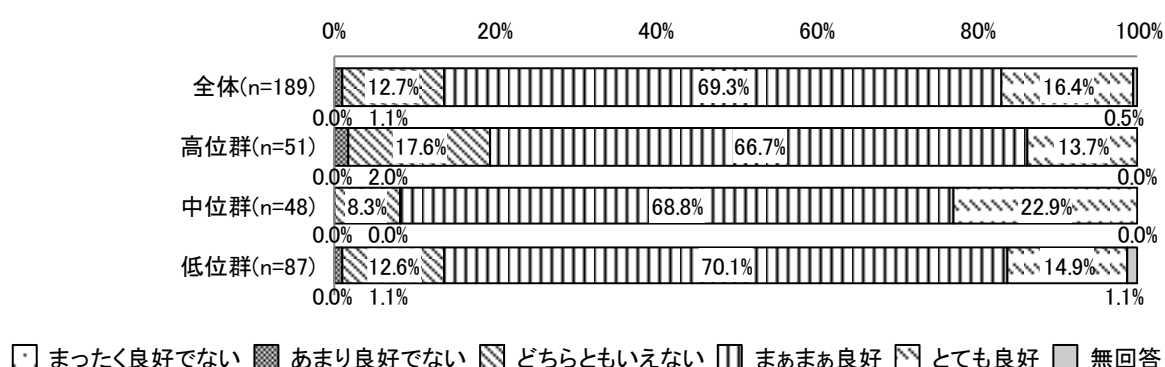


Q7-1-2④ 現在_子どもの他児との関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 69.3%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 16.4%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 68.8%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 22.9%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 70.1%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 14.9%となっている。

図表 II-96 Q7-1-2④ コロナ感染者数別 現在_子どもの他児との関係性:単数回答



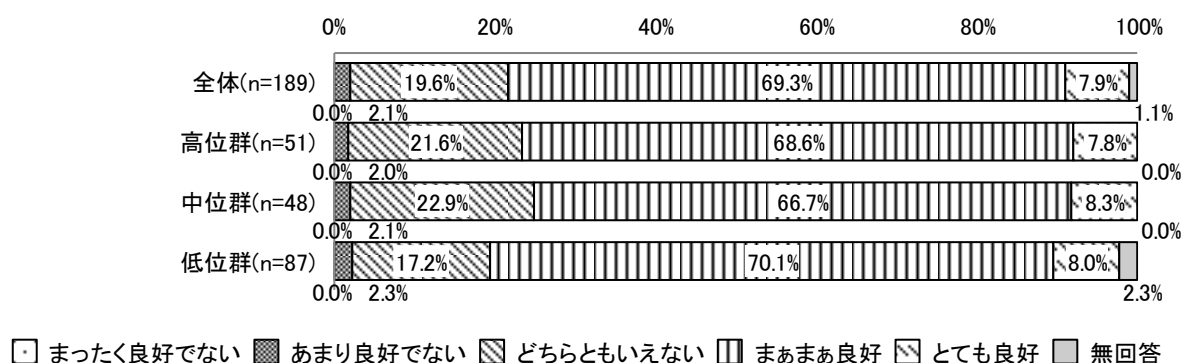
3) 子どもの学習意欲

Q7-1-3① コロナ前_子どもの学習意欲

「全体」では、「まあまあ良好」が 69.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 19.6%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 68.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 22.9%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 70.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.2%となっている。

図表 II-97 Q7-1-3① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの学習意欲:単数回答

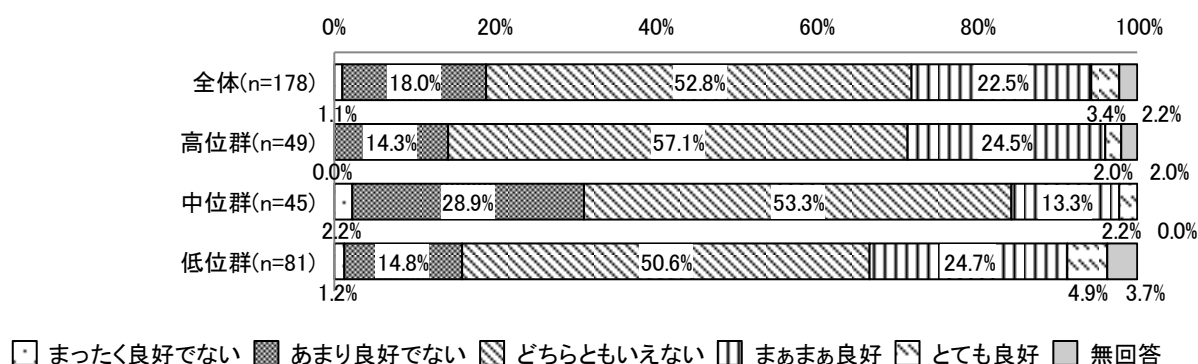


Q7-1-3② 休校期間中_子どもの学習意欲

「全体」では、「どちらともいえない」が 52.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 22.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 24.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 53.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 28.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 24.7%となっている。

図表 II-98 Q7-1-3② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの学習意欲:単数回答

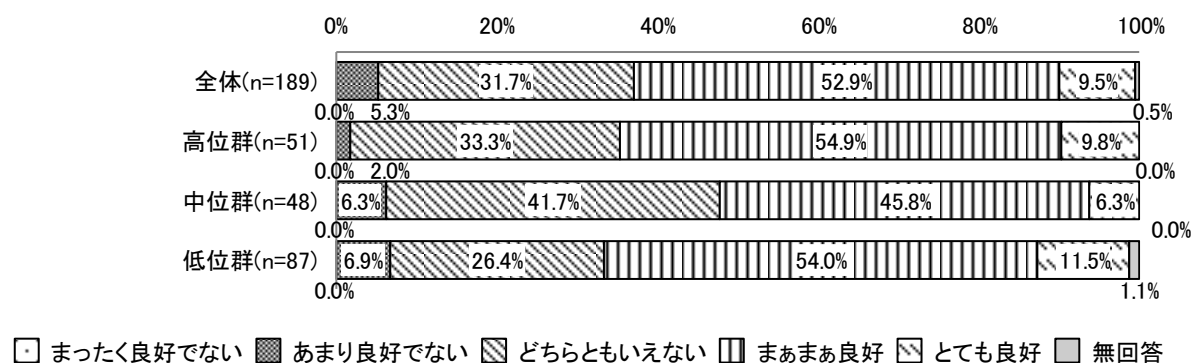


Q7-1-3③ 学校再開直後_子どもの学習意欲

「全体」では、「まあまあ良好」が 52.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.7%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 45.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 41.7%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 54.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.4%となっている。

図表 II-99 Q7-1-3③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの学習意欲:単数回答

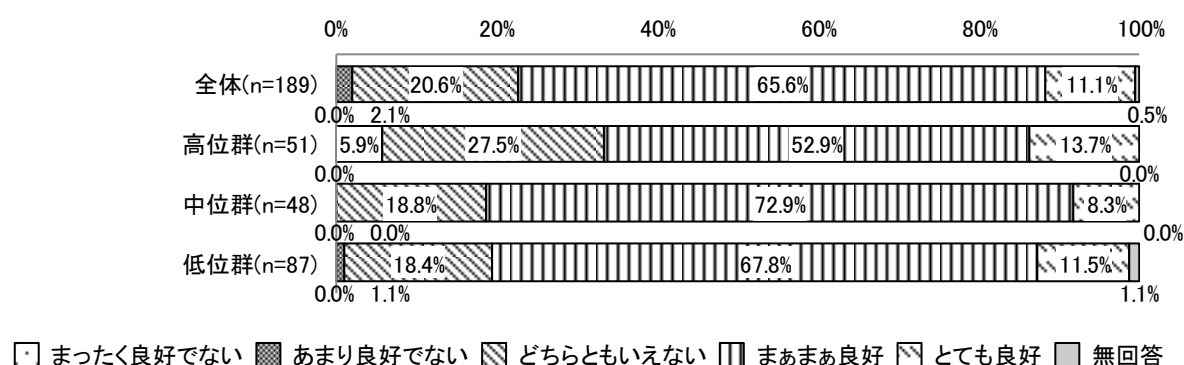


Q7-1-3④ 現在_子どもの学習意欲

「全体」では、「まあまあ良好」が 65.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 20.6%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 52.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 72.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 18.8%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 67.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 18.4%となっている。

図表 II-100 Q7-1-3④ コロナ感染者数別 現在_子どもの学習意欲:単数回答



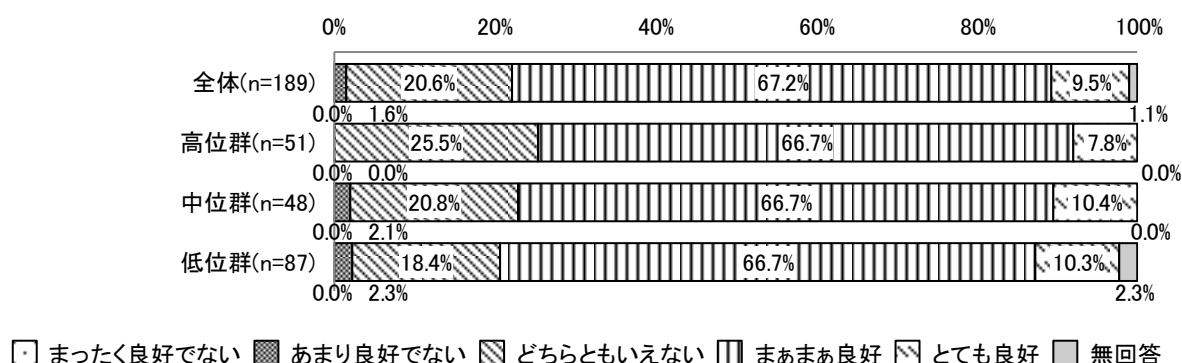
4) 子どものストレス・精神状態

Q7-1-4① コロナ前_子どものストレス・精神状態

「全体」では、「まあまあ良好」が 67.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 20.6%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 18.4%となっている。

図表 II-101 Q7-1-4① コロナ感染者数別 コロナ前_子どものストレス・精神状態:単数回答

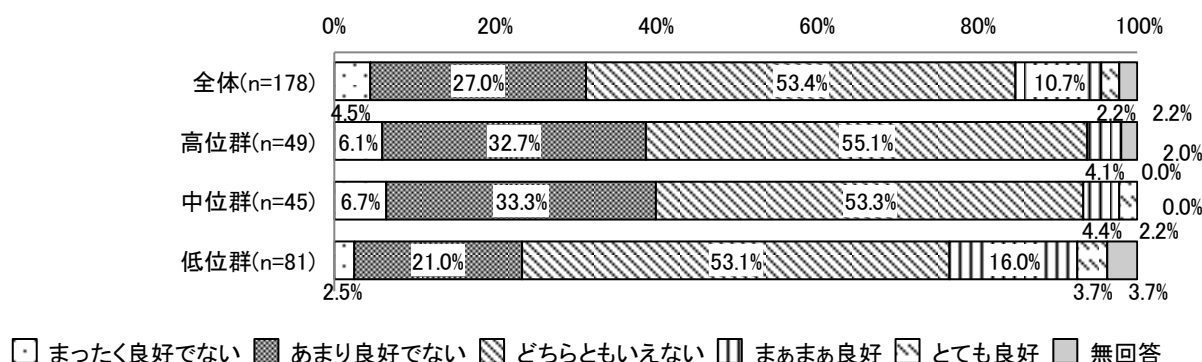


Q7-1-4② 休校期間中_子どものストレス・精神状態

「全体」では、「どちらともいえない」が 53.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 55.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 32.7%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 53.3%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 53.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 21.0%となっている。

図表 II-102 Q7-1-4② コロナ感染者数別 休校期間中_子どものストレス・精神状態:単数回答

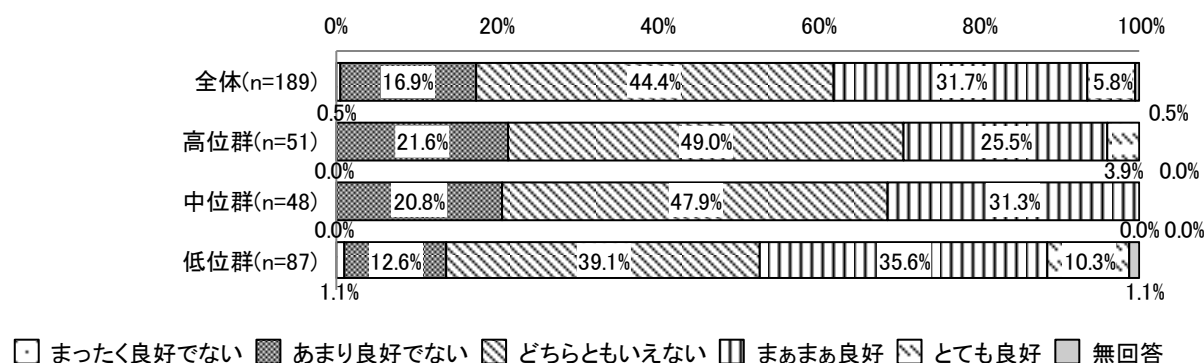


Q7-1-4③ 学校再開直後_子どものストレス・精神状態

「全体」では、「どちらともいえない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 31.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 25.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 31.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 39.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 35.6%となっている。

図表 II-103 Q7-1-4③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どものストレス・精神状態:単数回答

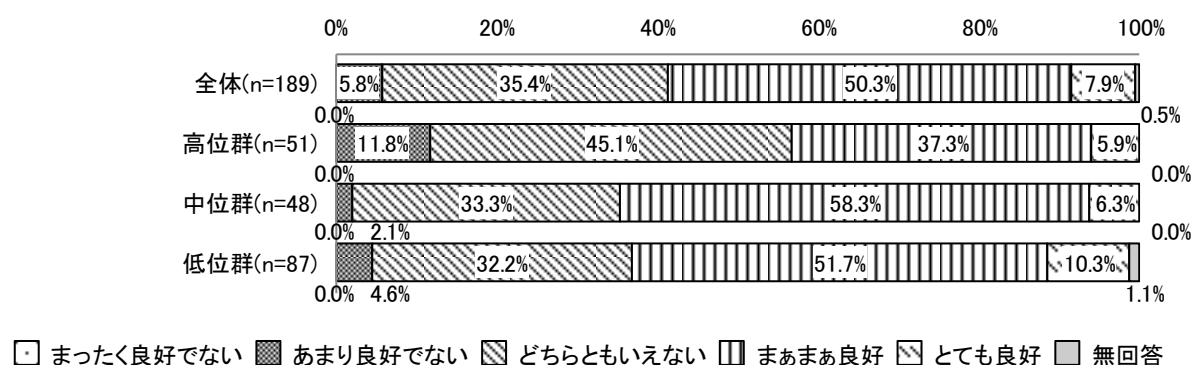


Q7-1-4④ 現在_子どものストレス・精神状態

「全体」では、「まあまあ良好」が 50.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 35.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 45.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 37.3%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 58.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 51.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 32.2%となっている。

図表 II-104 Q7-1-4④ コロナ感染者数別 現在_子どものストレス・精神状態:単数回答



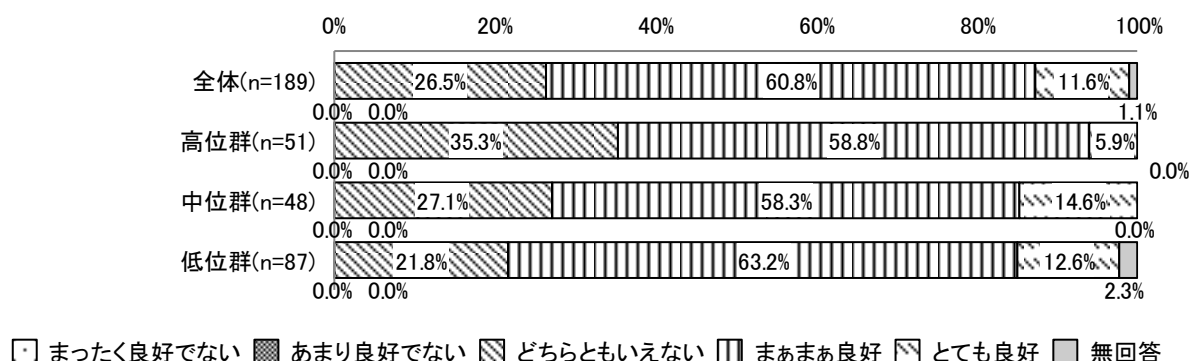
5) 保護者と子どもの関係性

Q7-1-5① コロナ前_保護者と子どもの関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 60.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.5%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 35.3%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 58.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 63.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.8%となっている。

図表 II-105 Q7-1-5① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者と子どもの関係性:単数回答

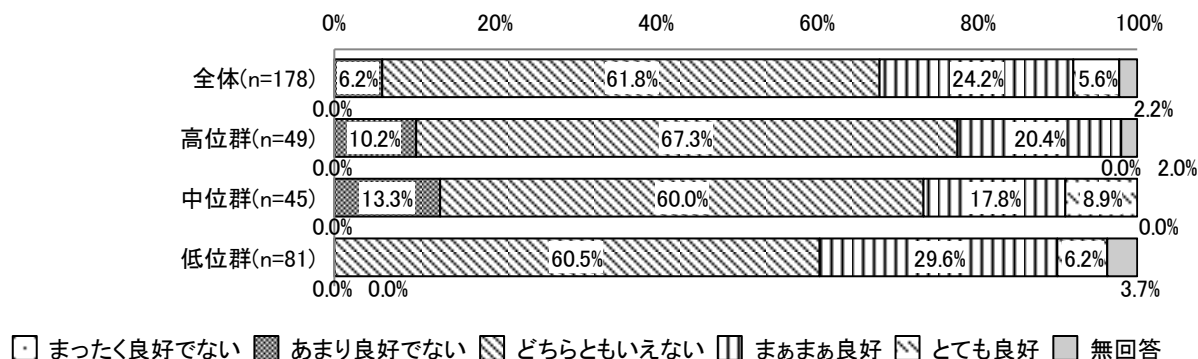


Q7-1-5② 休校期間中_保護者と子どもの関係性

「全体」では、「どちらともいえない」が 61.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 24.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 67.3%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 20.4%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 60.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 17.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 60.5%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 29.6%となっている。

図表 II-106 Q7-1-5② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者と子どもの関係性:単数回答

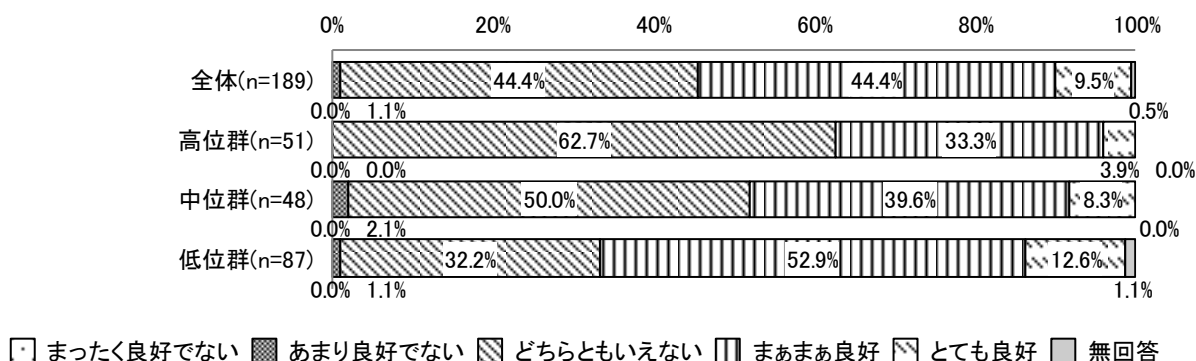


Q7-1-5③ 学校再開直後_保護者と子どもの関係性

「全体」では、「どちらともいえない」「まあまあ良好」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 9.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 62.7%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 33.3%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 39.6%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 52.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 32.2%となっている。

図表 II-107 Q7-1-5③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者と子どもの関係性:単数回答

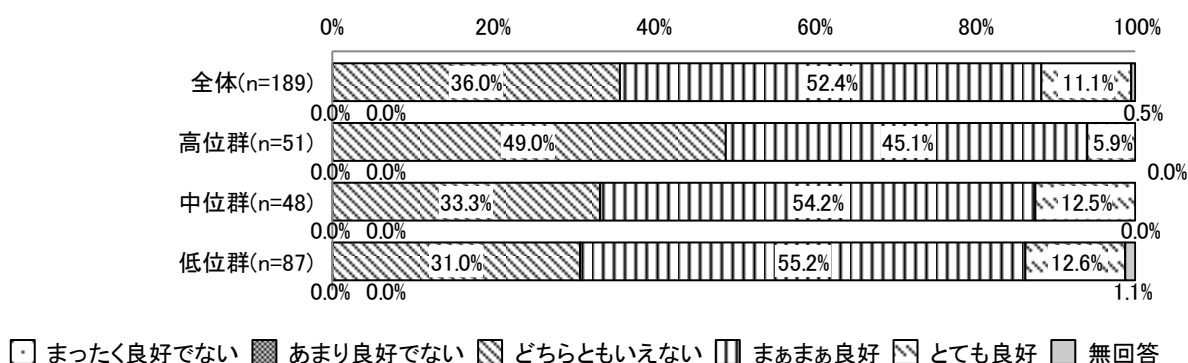


Q7-1-5④ 現在_保護者と子どもの関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 52.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 36.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 45.1%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 54.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 55.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.0%となっている。

図表 II-108 Q7-1-5④ コロナ感染者数別 現在_保護者と子どもの関係性:単数回答



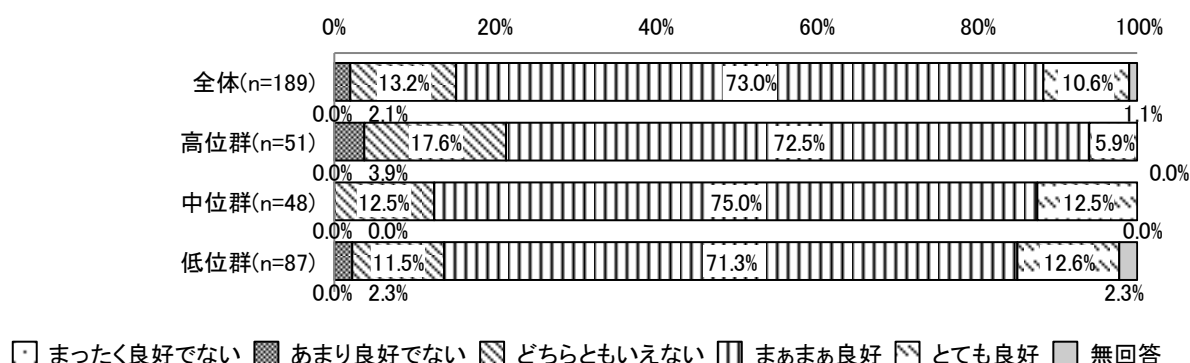
6) 保護者と教職員の関係性

Q7-1-6① コロナ前_保護者と教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 73.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 13.2%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 72.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 75.0%、「どちらともいえない」「とても良好」が 12.5%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 71.3%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 12.6%となっている。

図表 II-109 Q7-1-6① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者と教職員の関係性:単数回答

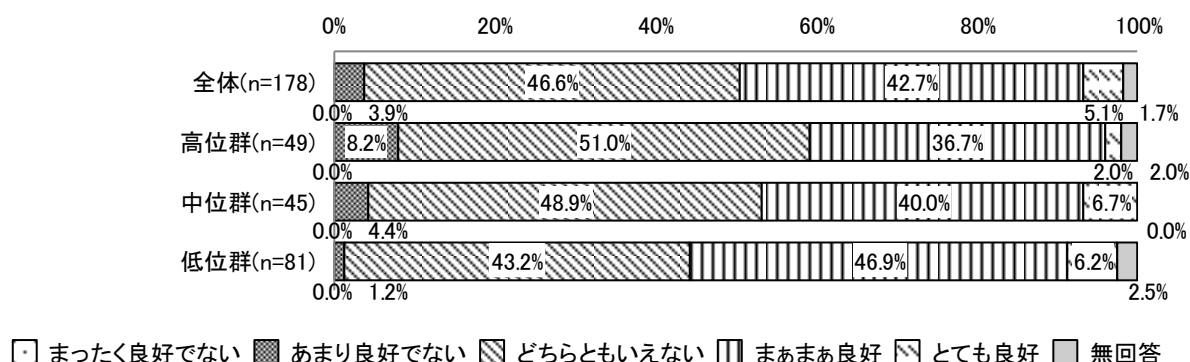


Q7-1-6② 休校期間中_保護者と教職員の関係性

「全体」では、「どちらともいえない」が 46.6%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 42.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 36.7%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 48.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 40.0%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 46.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 43.2%となっている。

図表 II-110 Q7-1-6② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者と教職員の関係性:単数回答

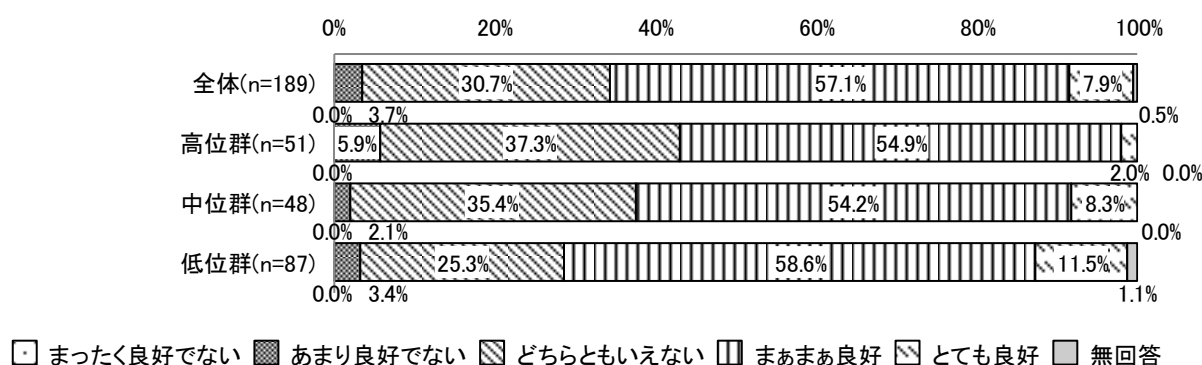


Q7-1-6③ 学校再開直後_保護者と教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 30.7%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 37.3%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 54.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 35.4%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 58.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.3%となっている。

図表 II-111 Q7-1-6③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者と教職員の関係性:単数回答

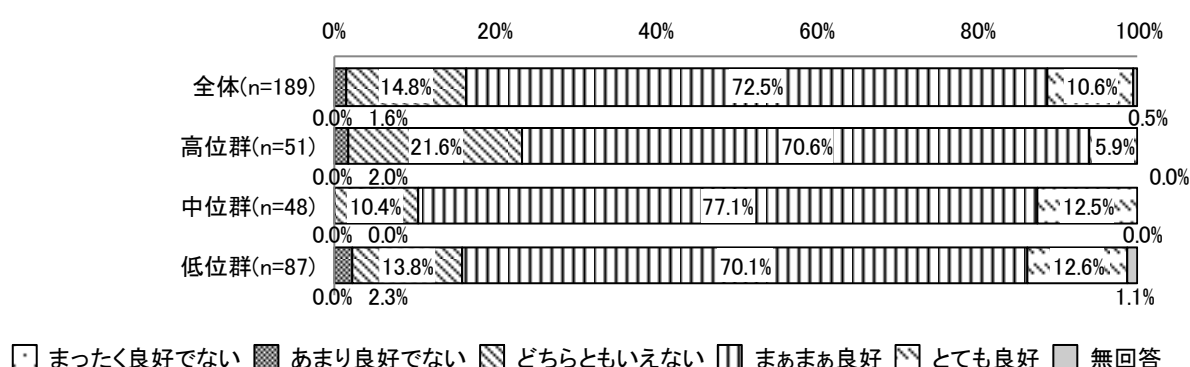


Q7-1-6④ 現在_保護者と教職員の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 72.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 14.8%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 70.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 77.1%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 12.5%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 70.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 13.8%となっている。

図表 II-112 Q7-1-6④ コロナ感染者数別 現在_保護者と教職員の関係性:単数回答



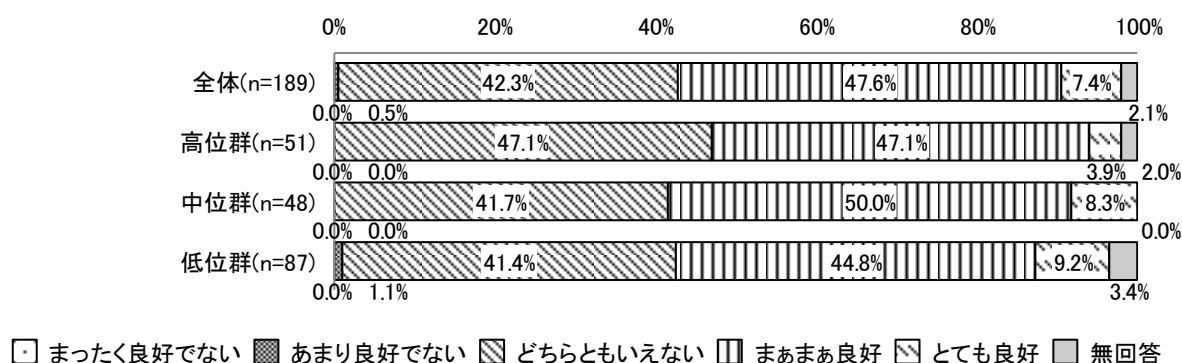
7) 保護者のストレス・精神状態

Q7-1-7① コロナ前_保護者のストレス・精神状態

「全体」では、「まあまあ良好」が 47.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 42.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」「まあまあ良好」が 47.1%、「とても良好」が 3.9%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 41.7%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 41.4%となっている。

図表 II-113 Q7-1-7① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者のストレス・精神状態:単数回答

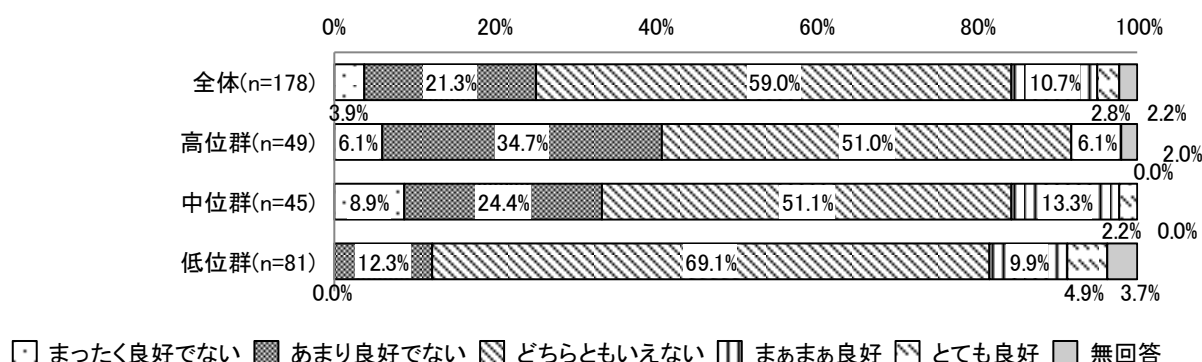


Q7-1-7② 休校期間中_保護者のストレス・精神状態

「全体」では、「どちらともいえない」が 59.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 21.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 34.7%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 51.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 24.4%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 69.1%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 12.3%となっている。

図表 II-114 Q7-1-7② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者のストレス・精神状態:単数回答

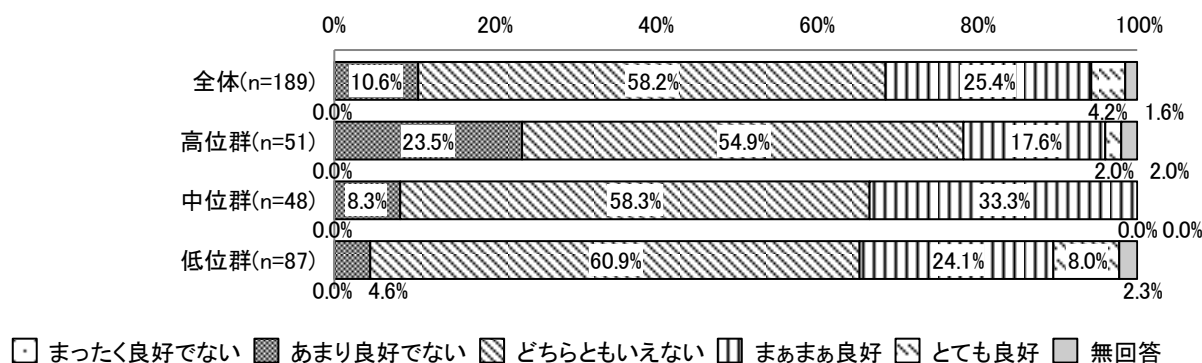


Q7-1-7③ 学校再開直後_保護者のストレス・精神状態

「全体」では、「どちらともいえない」が 58.2%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 25.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 54.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 23.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 58.3%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 33.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 60.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 24.1%となっている。

図表 II-115 Q7-1-7③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者のストレス・精神状態:単数回答

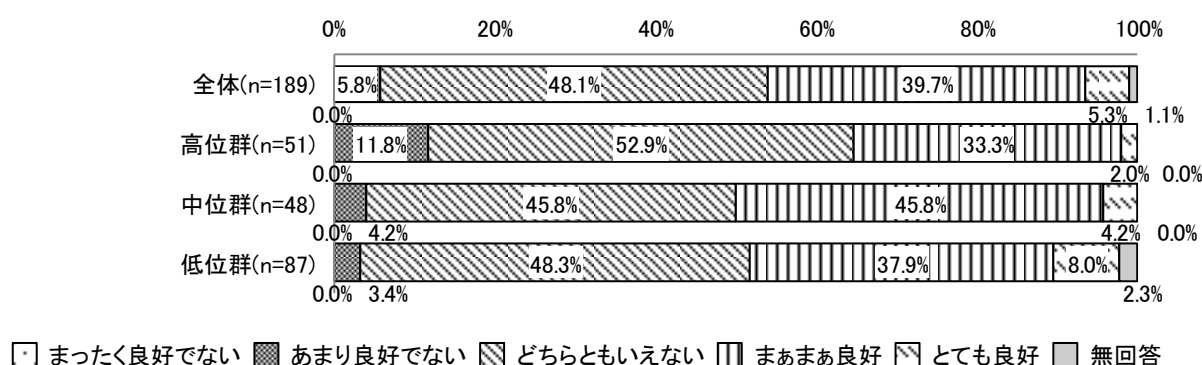


Q7-1-7④ 現在_保護者のストレス・精神状態

「全体」では、「どちらともいえない」が 48.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 39.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 52.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 33.3%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」「まあまあ良好」が 45.8%、「あまり良好でない」「とても良好」が 4.2%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 48.3%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 37.9%となっている。

図表 II-116 Q7-1-7④ コロナ感染者数別 現在_保護者のストレス・精神状態:単数回答



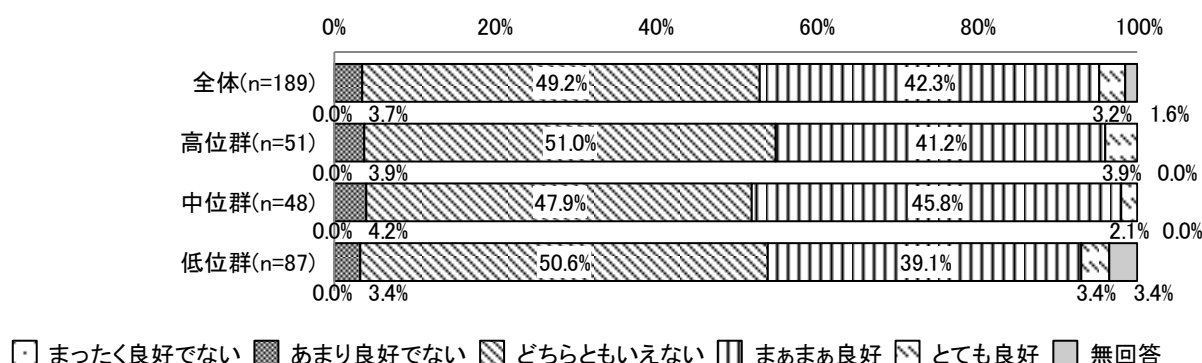
8) 子どもの家庭の経済状況

Q7-1-8① コロナ前_子どもの家庭の経済状況

「全体」では、「どちらともいえない」が 49.2%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 42.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 41.2%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 45.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 39.1%となっている。

図表 II-117 Q7-1-8① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの家庭の経済状況:単数回答

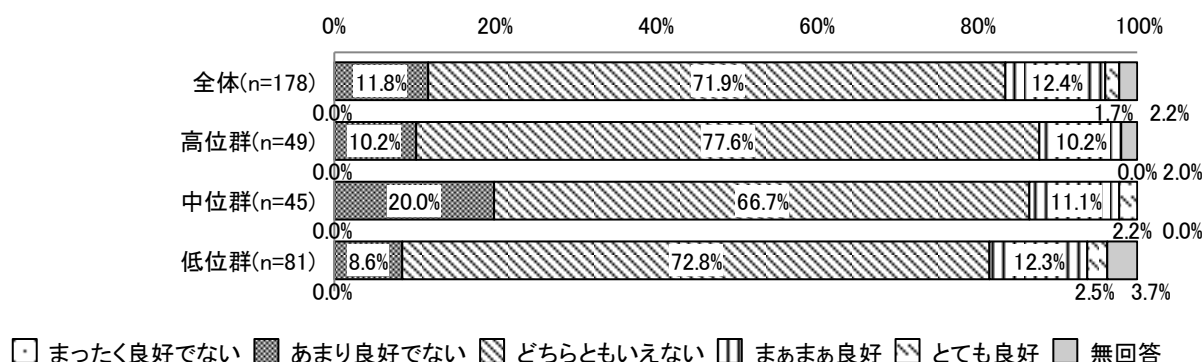


Q7-1-8② 休校期間中_子どもの家庭の経済状況

「全体」では、「どちらともいえない」が 71.9%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 12.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 77.6%、「あまり良好でない」「まあまあ良好」が 10.2%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 20.0%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 72.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 12.3%となっている。

図表 II-118 Q7-1-8② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの家庭の経済状況:単数回答

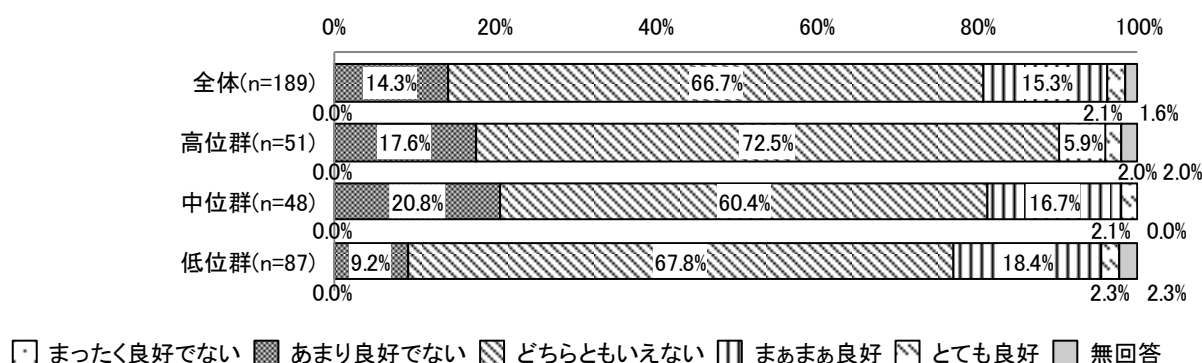


Q7-1-8③ 学校再開直後_子どもの家庭の経済状況

「全体」では、「どちらともいえない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 15.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 72.5%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 67.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 18.4%となっている。

図表 II-119 Q7-1-8③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの家庭の経済状況:単数回答

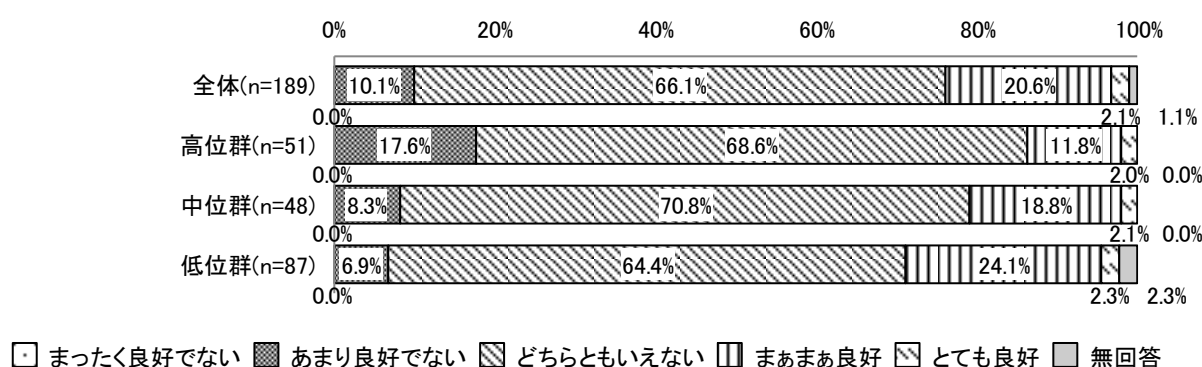


Q7-1-8④ 現在_子どもの家庭の経済状況

「全体」では、「どちらともいえない」が 66.1%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 20.6%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 68.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり良好でない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 70.8%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 18.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 64.4%でもっとも割合が高く、次いで「まあまあ良好」が 24.1%となっている。

図表 II-120 Q7-1-8④ コロナ感染者数別 現在_子どもの家庭の経済状況:単数回答



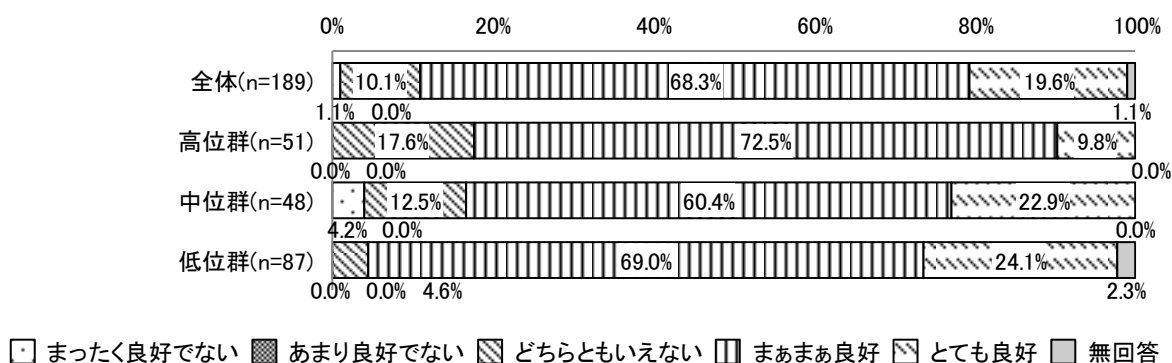
9) 教職員同士の関係性

Q7-1-9① コロナ前_教職員同士の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 68.3%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 19.6%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 72.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 22.9%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 69.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 24.1%となっている。

図表 II-121 Q7-1-9① コロナ感染者数別 コロナ前_教職員同士の関係性:単数回答

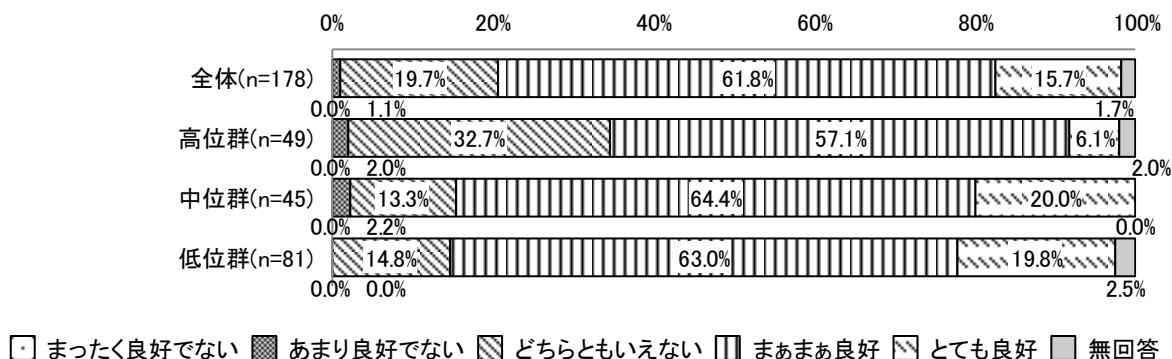


Q7-1-9② 休校期間中_教職員同士の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 61.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 19.7%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 32.7%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 64.4%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 20.0%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 63.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 19.8%となっている。

図表 II-122 Q7-1-9② コロナ感染者数別 休校期間中_教職員同士の関係性:単数回答

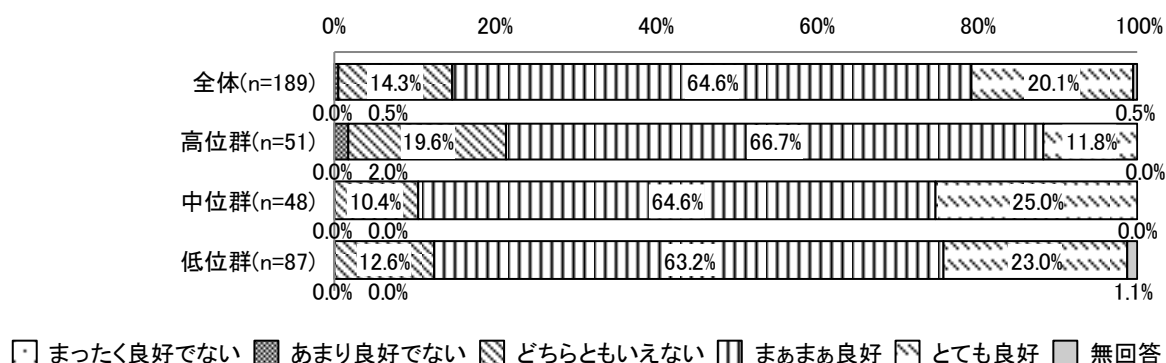


Q7-1-9③ 学校再開直後_教職員同士の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 64.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 20.1%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 19.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 64.6%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 25.0%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 63.2%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 23.0%となっている。

図表 II-123 Q7-1-9③ コロナ感染者数別 学校再開直後_教職員同士の関係性:単数回答

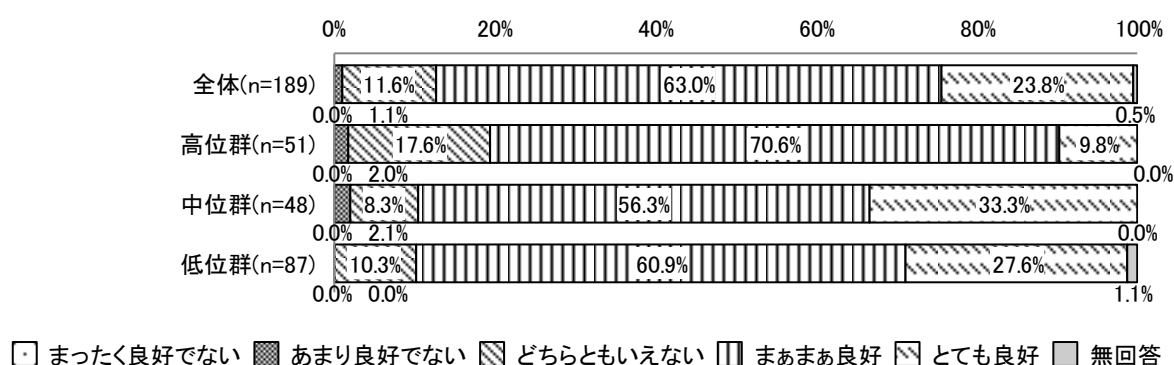


Q7-1-9④ 現在_教職員同士の関係性

「全体」では、「まあまあ良好」が 63.0%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 23.8%となっている。

「高位群」では、「まあまあ良好」が 70.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.6%となっている。「中位群」では、「まあまあ良好」が 56.3%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 33.3%となっている。「低位群」では、「まあまあ良好」が 60.9%でもっとも割合が高く、次いで「とても良好」が 27.6%となっている。

図表 II-124 Q7-1-9④ コロナ感染者数別 現在_教職員同士の関係性:単数回答



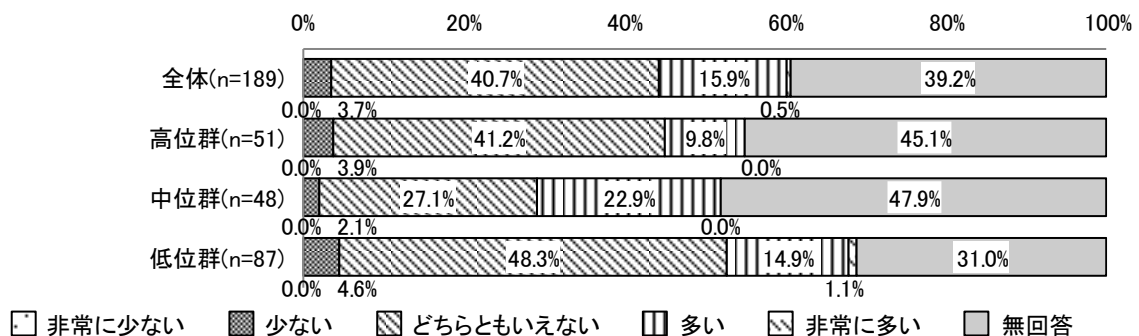
10) 子どもが希望を話す

Q7-1-10① コロナ前_子どもが希望を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が40.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が15.9%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が41.2%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が9.8%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が27.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が22.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が48.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が14.9%となっている。

図表 II-125 Q7-1-10① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもが希望を話す:単数回答

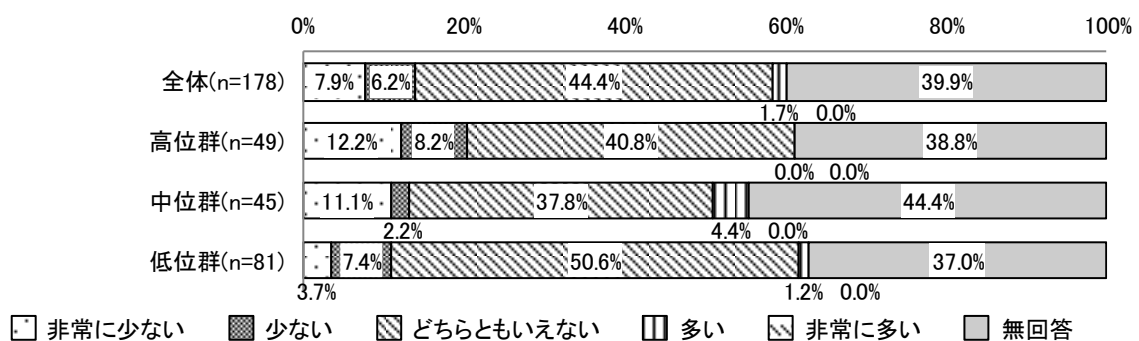


Q7-1-10② 休校期間中_子どもが希望を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が44.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が7.9%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が40.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が12.2%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が37.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が11.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が50.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が7.4%となっている。

図表 II-126 Q7-1-10② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもが希望を話す:単数回答

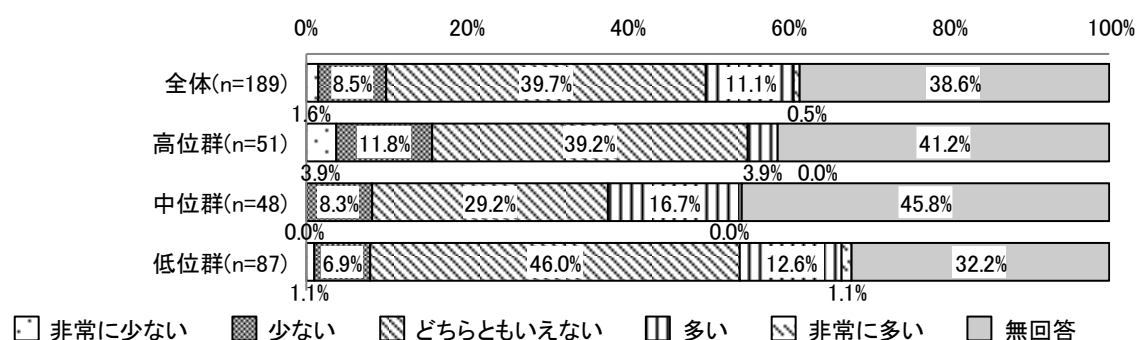


Q7-1-10③ 学校再開直後_子どもが希望を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 39.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 11.1%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 11.8%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 29.2%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 16.7%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 46.0%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 12.6%となっている。

図表 II-127 Q7-1-10③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもが希望を話す:単数回答

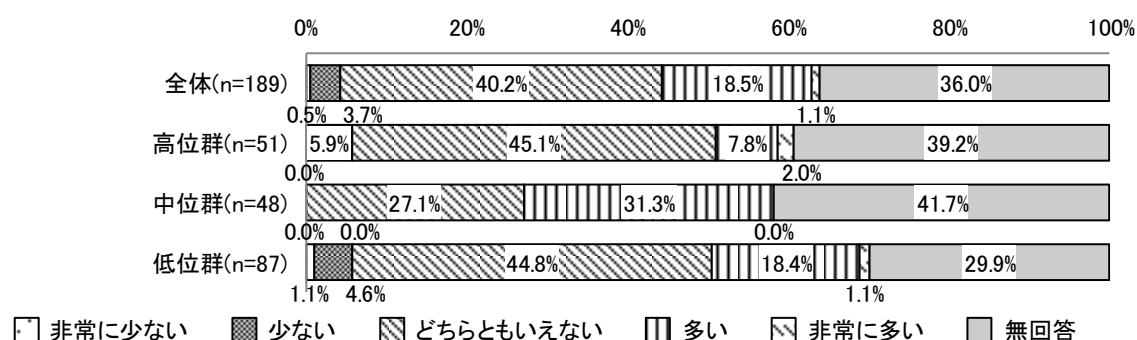


Q7-1-10④ 現在_子どもが希望を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 40.2%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 18.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 45.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 7.8%となっている。「中位群」では、「多い」が 31.3%、「どちらともいえない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 18.4%となっている。

図表 II-128 Q7-1-10④ コロナ感染者数別 現在_子どもが希望を話す:単数回答



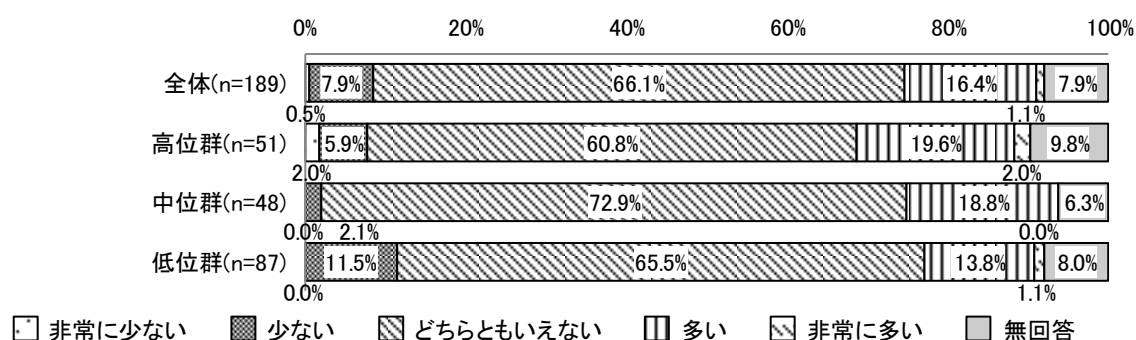
11) 子どもが過去を話す

Q7-1-11① コロナ前_子どもが過去を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が66.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が16.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が60.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が19.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が72.9%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が18.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が65.5%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が13.8%となっている。

図表 II-129 Q7-1-11① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもが過去を話す:単数回答

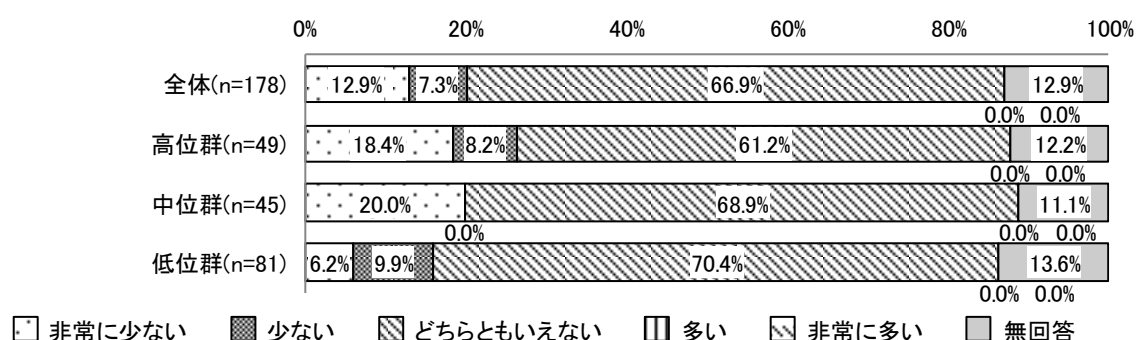


Q7-1-11② 休校期間中_子どもが過去を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が66.9%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が12.9%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が61.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が18.4%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が68.9%、「非常に少ない」が20.0%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が70.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が9.9%となっている。

図表 II-130 Q7-1-11② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもが過去を話す:単数回答

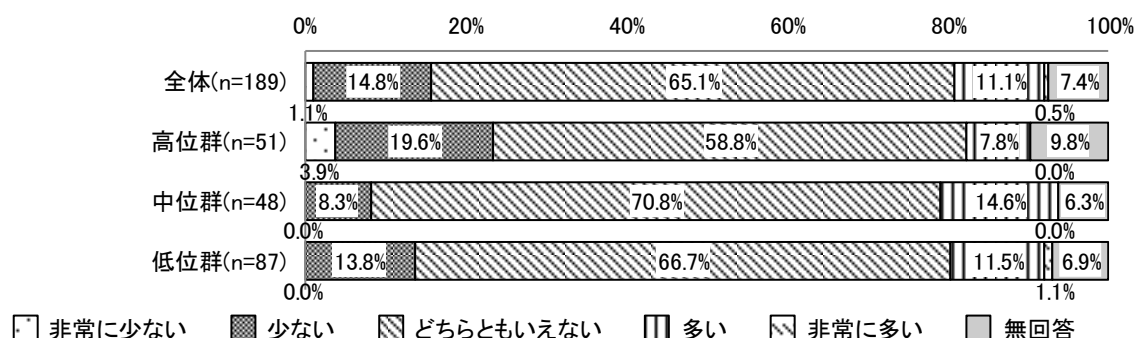


Q7-1-11③ 学校再開直後_子どもが過去を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 65.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 14.8%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 58.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 19.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 70.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 14.6%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 13.8%となっている。

図表 II-131 Q7-1-11③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもが過去を話す:単数回答

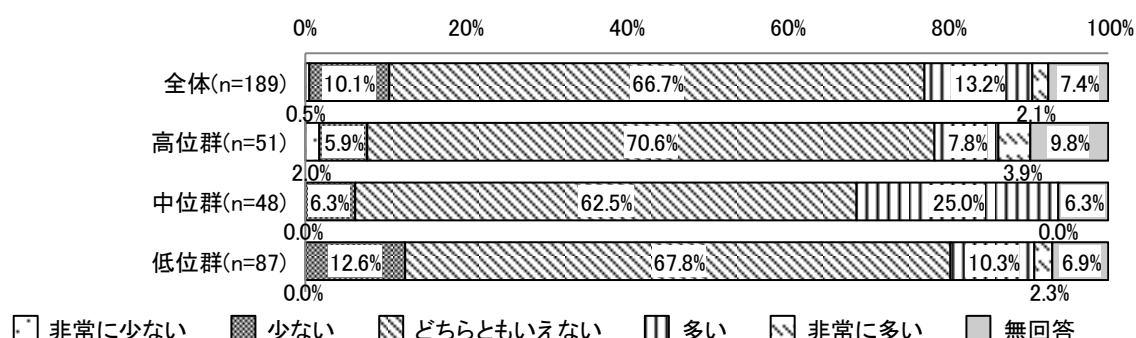


Q7-1-11④ 現在_子どもが過去を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 13.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 70.6%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 7.8%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 62.5%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 25.0%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 67.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 12.6%となっている。

図表 II-132 Q7-1-11④ コロナ感染者数別 現在_子どもが過去を話す:単数回答



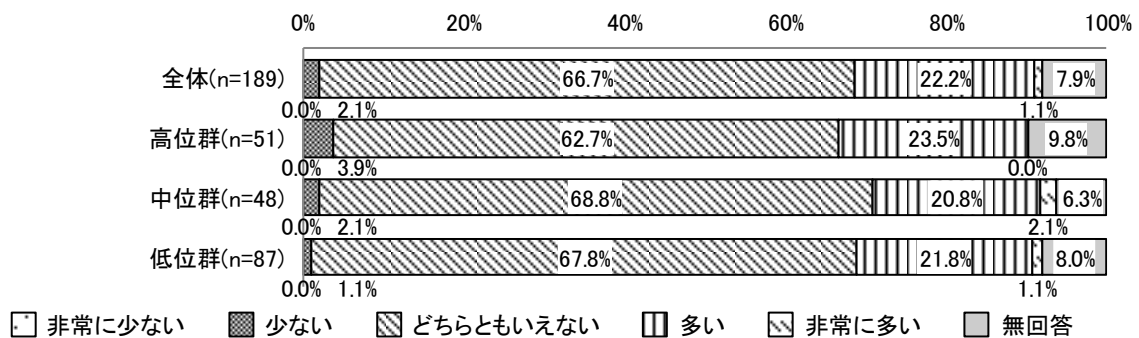
12) 子どもが家族を話す

Q7-1-12① コロナ前_子どもが家族を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 22.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 62.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 23.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 68.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 20.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 67.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 21.8%となっている。

図表 II-133 Q7-1-12① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもが家族を話す:単数回答

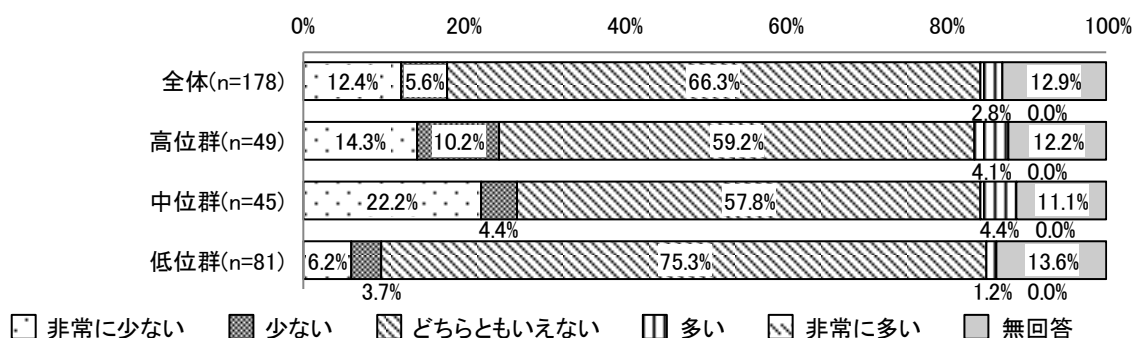


Q7-1-12② 休校期間中_子どもが家族を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が 66.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 12.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 59.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 14.3%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 57.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 22.2%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 75.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 6.2%となっている。

図表 II-134 Q7-1-12② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもが家族を話す:単数回答

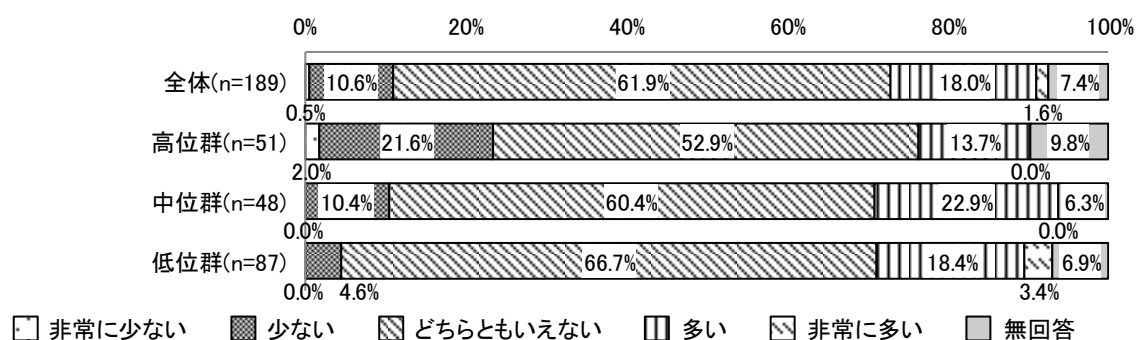


Q7-1-12③ 学校再開直後_子どもが家族を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が61.9%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が18.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が52.9%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が21.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が60.4%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が22.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が66.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が18.4%となっている。

図表 II-135 Q7-1-12③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもが家族を話す:単数回答

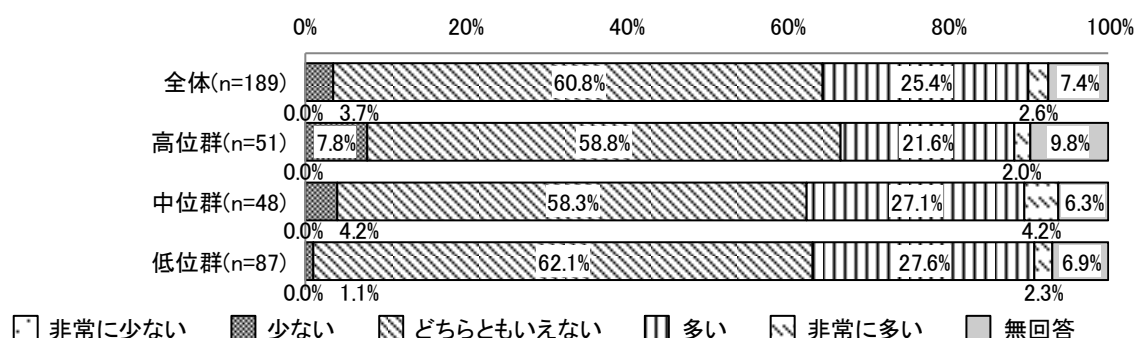


Q7-1-12④ 現在_子どもが家族を話す

「全体」では、「どちらともいえない」が60.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が25.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が58.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が21.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が58.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が27.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が62.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が27.6%となっている。

図表 II-136 Q7-1-12④ コロナ感染者数別 現在_子どもが家族を話す:単数回答



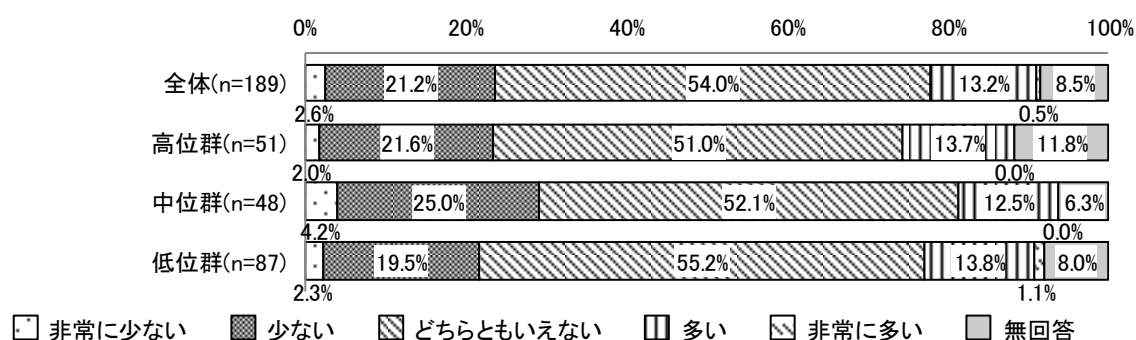
13) 子どもの忘れ物の数や回数

Q7-1-13① コロナ前_子どもの忘れ物の数や回数

「全体」では、「どちらともいえない」が54.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が21.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が51.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が21.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が52.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が25.0%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が55.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が19.5%となっている。

図表 II-137 Q7-1-13① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの忘れ物の数や回数:単数回答

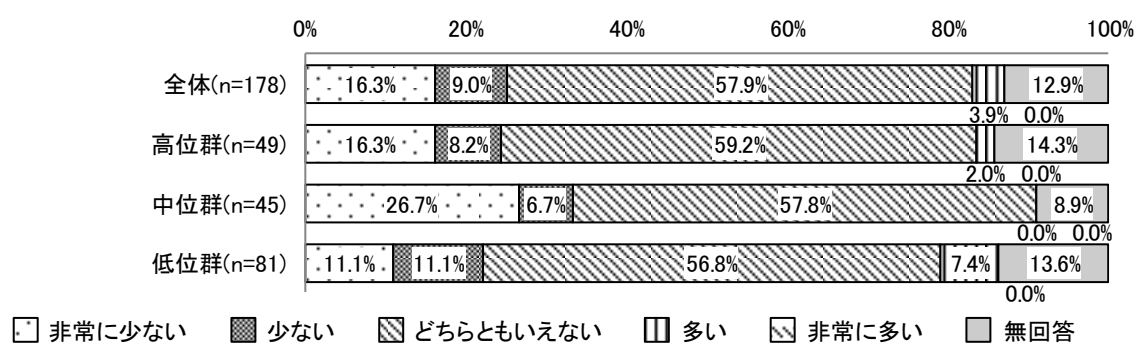


Q7-1-13② 休校期間中_子どもの忘れ物の数や回数

「全体」では、「どちらともいえない」が57.9%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が16.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が59.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が16.3%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が57.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が26.7%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が56.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」「少ない」が11.1%となっている。

図表 II-138 Q7-1-13② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの忘れ物の数や回数:単数回答

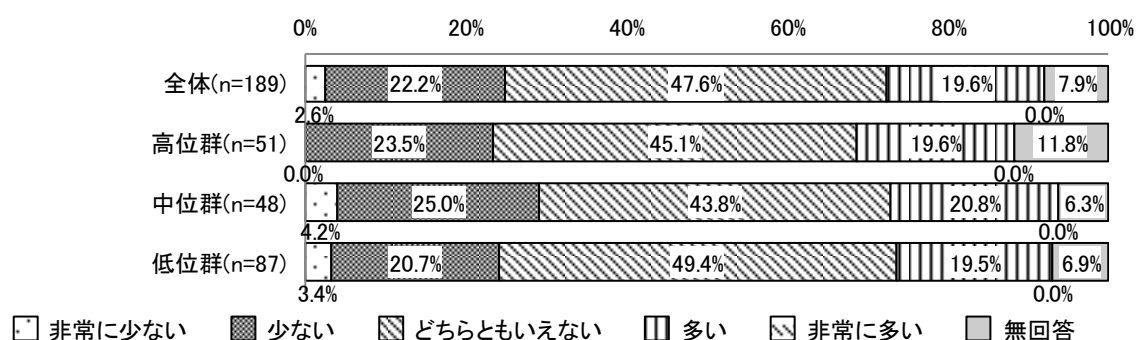


Q7-1-13③ 学校再開直後_子どもの忘れ物の数や回数

「全体」では、「どちらともいえない」が47.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が22.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が45.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が23.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が43.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が25.0%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が49.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が20.7%となっている。

図表 II-139 Q7-1-13③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの忘れ物の数や回数:単数回答

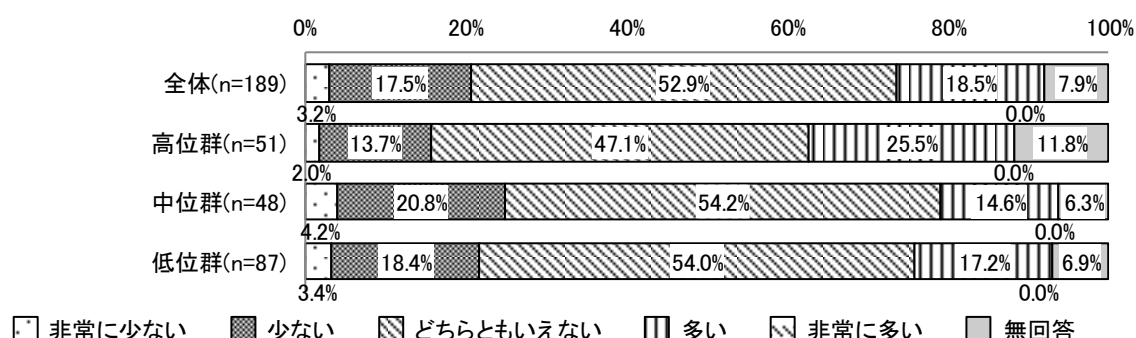


Q7-1-13④ 現在_子どもの忘れ物の数や回数

「全体」では、「どちらともいえない」が52.9%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が18.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が47.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が25.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が54.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が20.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が54.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が18.4%となっている。

図表 II-140 Q7-1-13④ コロナ感染者数別 現在_子どもの忘れ物の数や回数:単数回答



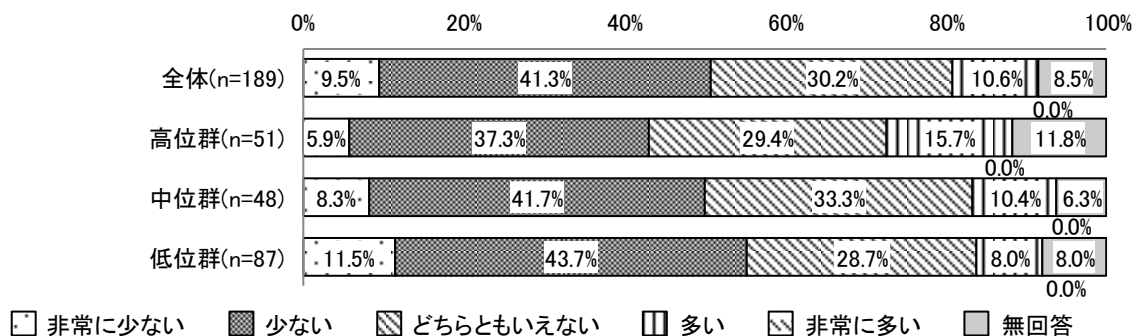
14) 子どもの学校の遅刻

Q7-1-14① コロナ前_子どもの学校の遅刻

「全体」では、「少ない」が 41.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 30.2%となっている。

「高位群」では、「少ない」が 37.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 41.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「少ない」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 28.7%となっている。

図表 II-141 Q7-1-14① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの学校の遅刻:単数回答

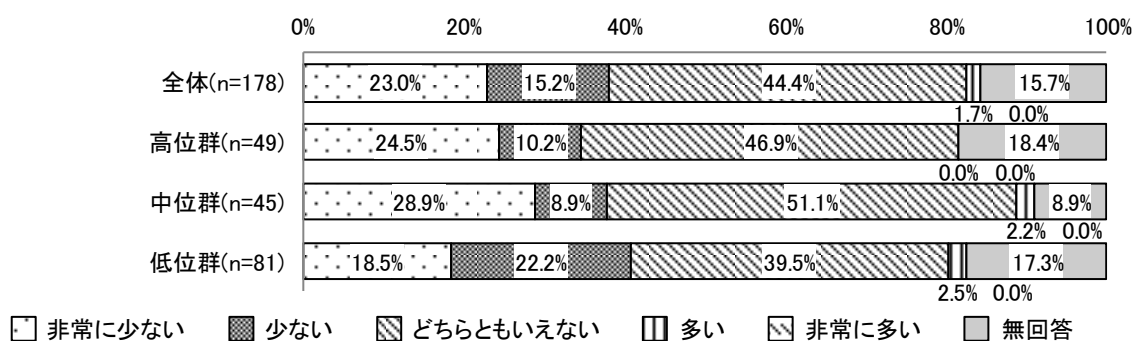


Q7-1-14② 休校期間中_子どもの学校の遅刻

「全体」では、「どちらともいえない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 23.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 46.9%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 24.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 51.1%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 28.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 39.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 22.2%となっている。

図表 II-142 Q7-1-14② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの学校の遅刻:単数回答

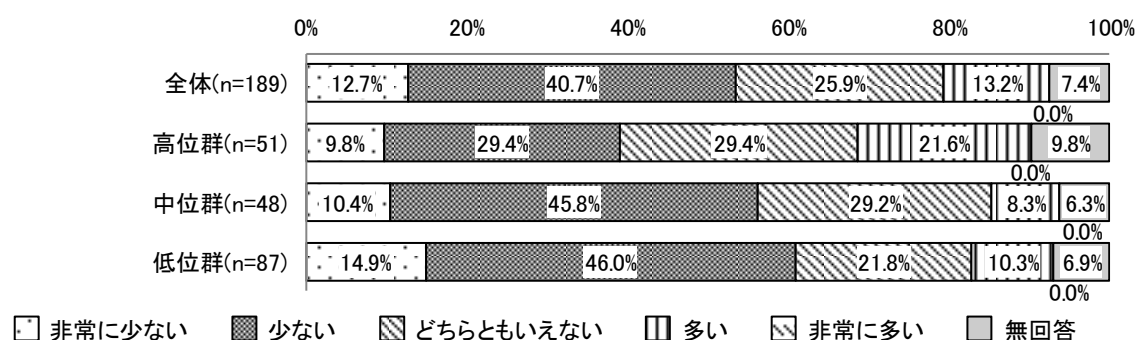


Q7-1-14③ 学校再開直後_子どもの学校の遅刻

「全体」では、「少ない」が 40.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.9%となっている。

「高位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が 29.4%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 21.6%となっている。「中位群」では、「少ない」が 45.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.2%となっている。「低位群」では、「少ない」が 46.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.8%となっている。

図表 II-143 Q7-1-14③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの学校の遅刻:単数回答

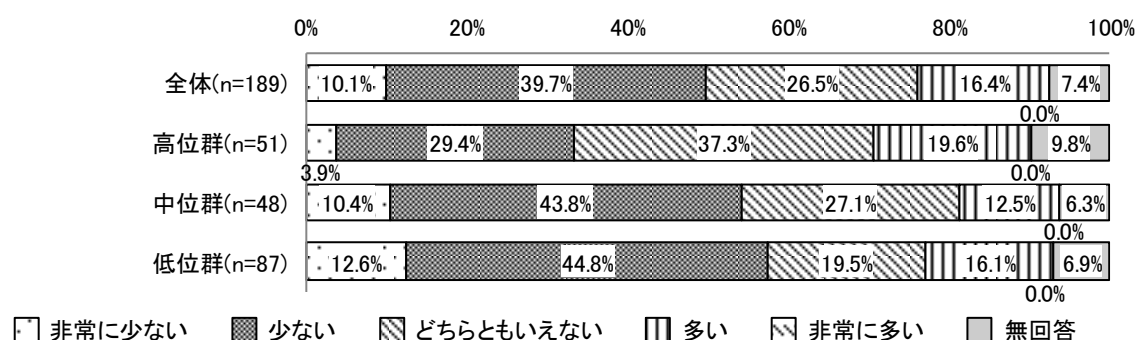


Q7-1-14④ 現在_子どもの学校の遅刻

「全体」では、「少ない」が 39.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 37.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「少ない」が 44.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 19.5%となっている。

図表 II-144 Q7-1-14④ コロナ感染者数別 現在_子どもの学校の遅刻:単数回答



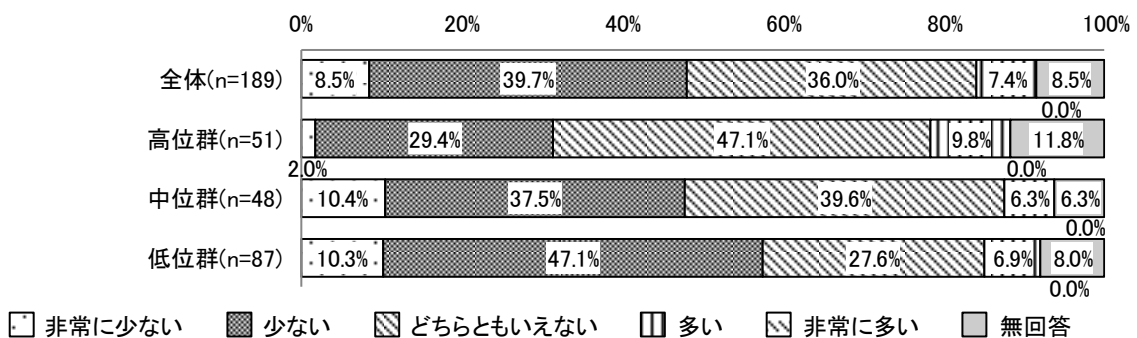
15) 子どもの学校の欠席

Q7-1-15① コロナ前_子どもの学校の欠席

「全体」では、「少ない」が 39.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 36.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 47.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 37.5%となっている。「低位群」では、「少ない」が 47.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.6%となっている。

図表 II-145 Q7-1-15① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの学校の欠席:単数回答

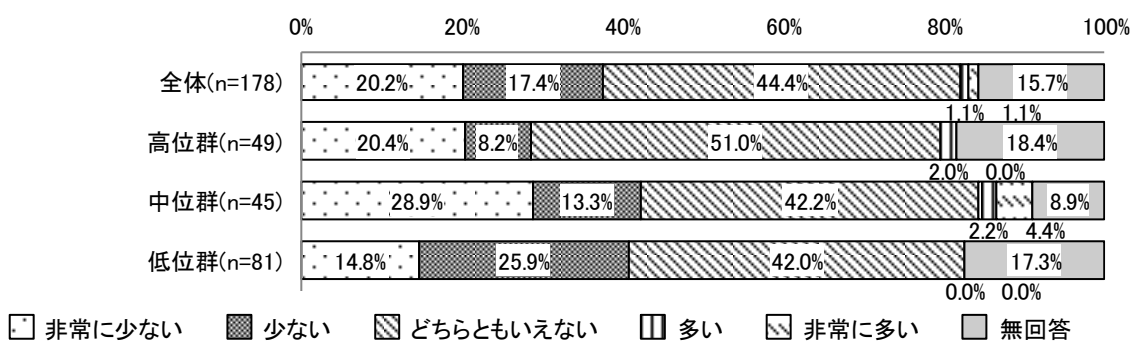


Q7-1-15② 休校期間中_子どもの学校の欠席

「全体」では、「どちらともいえない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 20.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 51.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 20.4%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 42.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 28.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 42.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 25.9%となっている。

図表 II-146 Q7-1-15② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの学校の欠席:単数回答

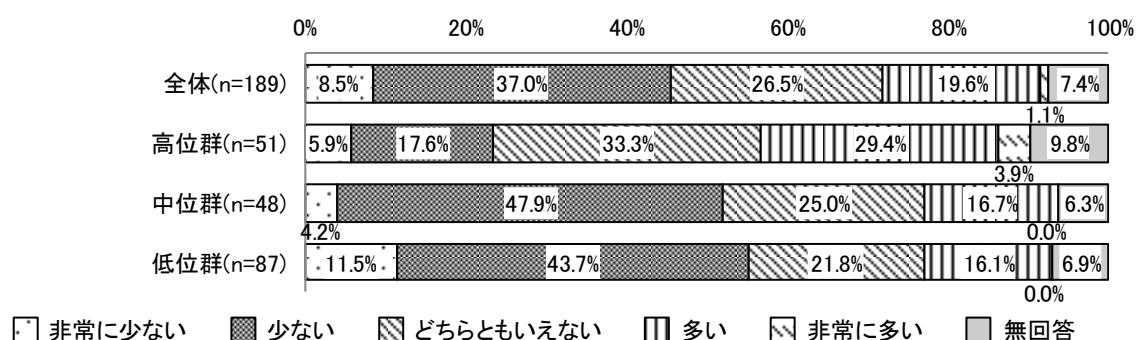


Q7-1-15③ 学校再開直後_子どもの学校の欠席

「全体」では、「少ない」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「少ない」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 21.8%となっている。

図表 II-147 Q7-1-15③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの学校の欠席:単数回答

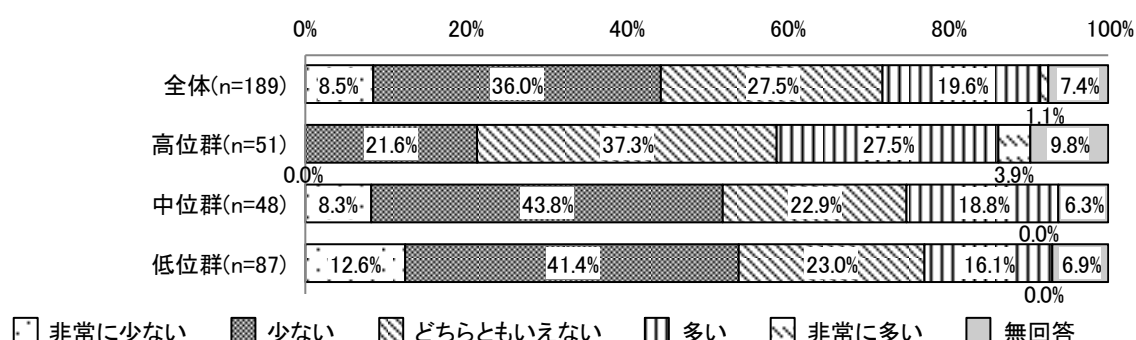


Q7-1-15④ 現在_子どもの学校の欠席

「全体」では、「少ない」が 36.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 37.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 27.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 22.9%となっている。「低位群」では、「少ない」が 41.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 23.0%となっている。

図表 II-148 Q7-1-15④ コロナ感染者数別 現在_子どもの学校の欠席:単数回答



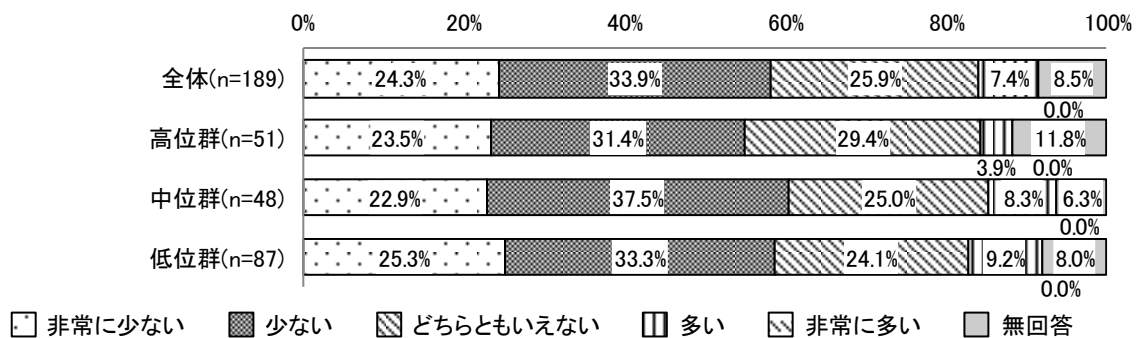
16) 子どもの問題行動

Q7-1-16① コロナ前_子どもの問題行動

「全体」では、「少ない」が 33.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.9%となっている。

「高位群」では、「少ない」が 31.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 25.3%となっている。

図表 II-149 Q7-1-16① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの問題行動:単数回答

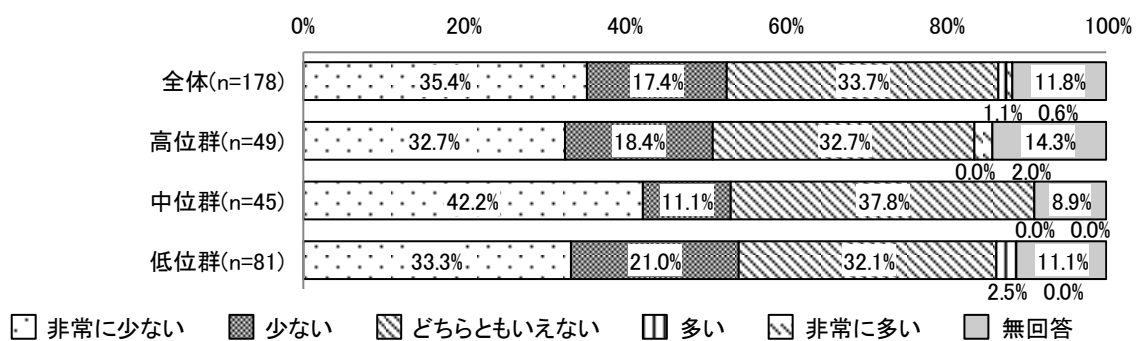


Q7-1-16② 休校期間中_子どもの問題行動

「全体」では、「非常に少ない」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.7%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が 32.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 18.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 42.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 37.8%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 32.1%となっている。

図表 II-150 Q7-1-16② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの問題行動:単数回答

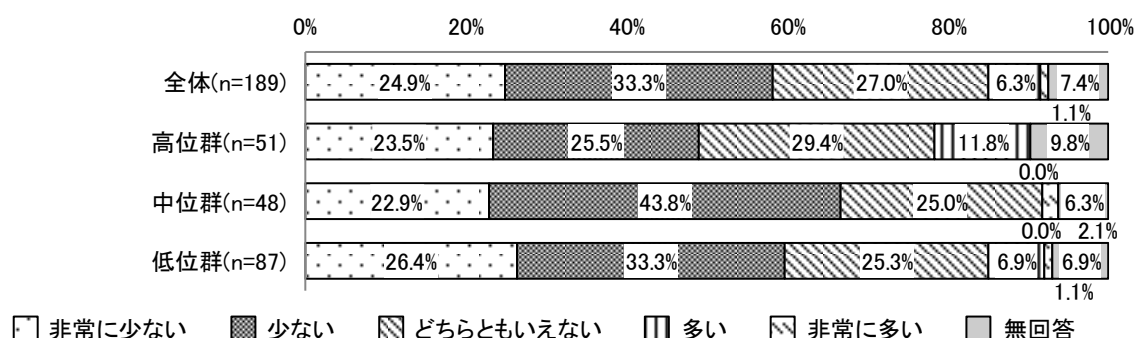


Q7-1-16③ 学校再開直後_子どもの問題行動

「全体」では、「少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 29.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 26.4%となっている。

図表 II-151 Q7-1-16③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの問題行動:単数回答

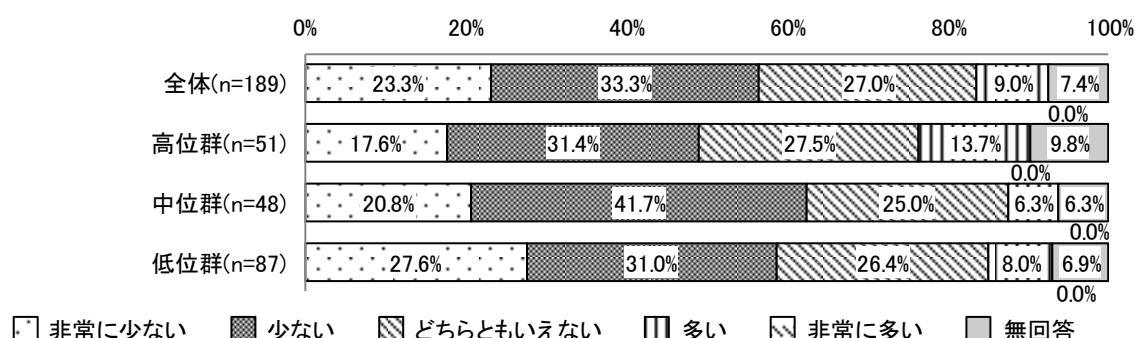


Q7-1-16④ 現在_子どもの問題行動

「全体」では、「少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「少ない」が 31.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 41.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「少ない」が 31.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 27.6%となっている。

図表 II-152 Q7-1-16④ コロナ感染者数別 現在_子どもの問題行動:単数回答



17) 子ども間のいじめ

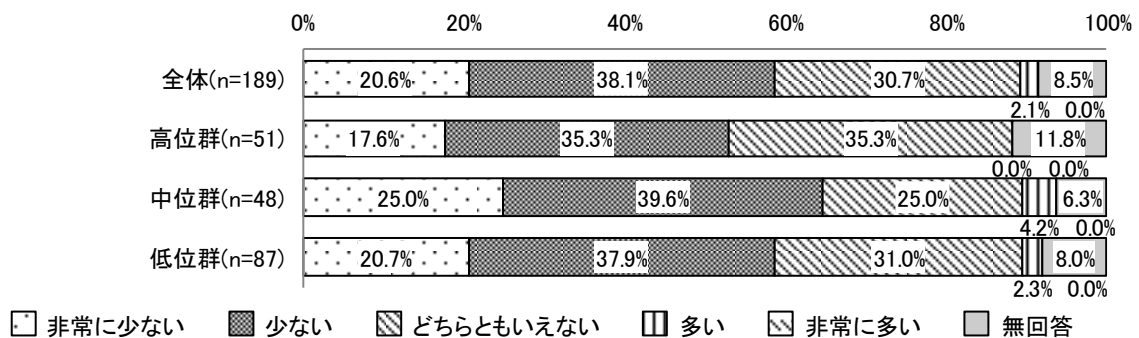
Q7-1-17① コロナ前_子ども間のいじめ

「全体」では、「少ない」が 38.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 30.7%となっている。

「高位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が 35.3%、「非常に少ない」が 17.6%となっている。

「中位群」では、「少ない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」「どちらともいえない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「少ない」が 37.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.0%となっている。

図表 II-153 Q7-1-17① コロナ感染者数別 コロナ前_子ども間のいじめ:単数回答

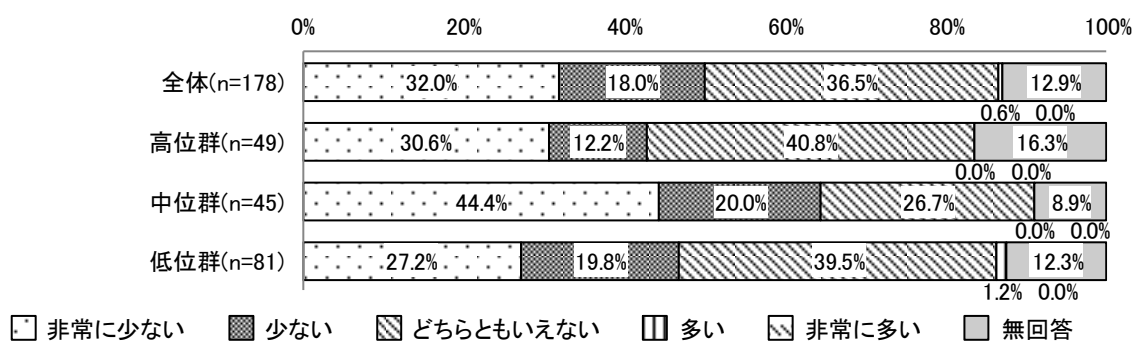


Q7-1-17② 休校期間中_子ども間のいじめ

「全体」では、「どちらともいえない」が 36.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 32.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 40.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 30.6%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.7%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 39.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 27.2%となっている。

図表 II-154 Q7-1-17② コロナ感染者数別 休校期間中_子ども間のいじめ:単数回答

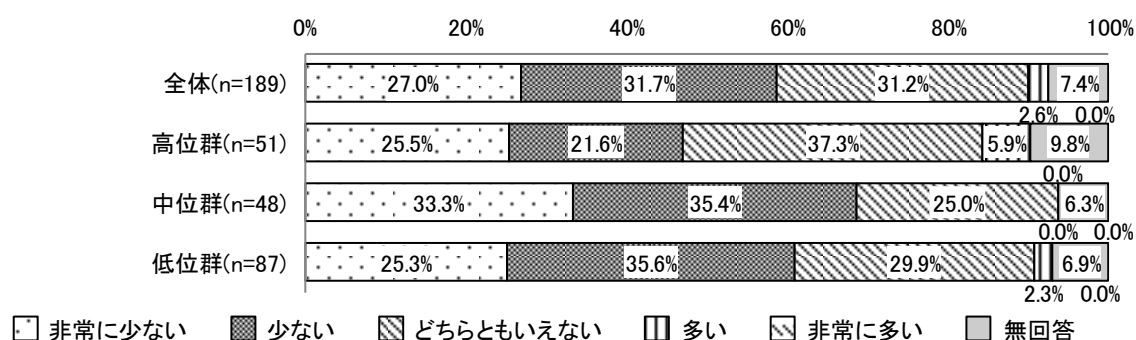


Q7-1-17③ 学校再開直後_子ども間のいじめ

「全体」では、「少ない」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 37.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「少ない」が 35.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.9%となっている。

図表 II-155 Q7-1-17③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子ども間のいじめ:単数回答

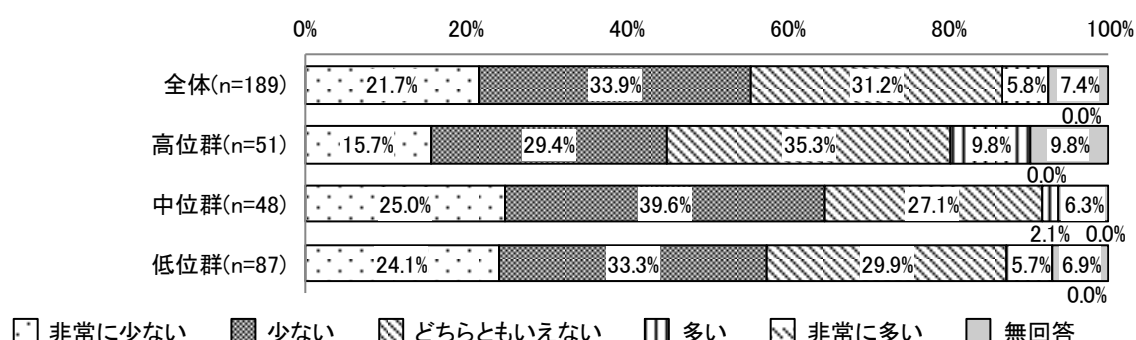


Q7-1-17④ 現在_子ども間のいじめ

「全体」では、「少ない」が 33.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.9%となっている。

図表 II-156 Q7-1-17④ コロナ感染者数別 現在_子ども間のいじめ:単数回答



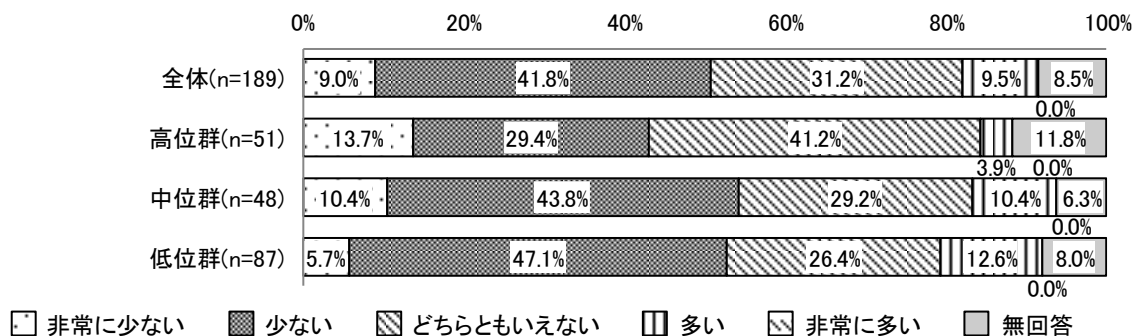
18) 子ども間の友人関係トラブル

Q7-1-18① コロナ前_子ども間の友人関係トラブル

「全体」では、「少ない」が 41.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 41.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 43.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.2%となっている。「低位群」では、「少ない」が 47.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.4%となっている。

図表 II-157 Q7-1-18① コロナ感染者数別 コロナ前_子ども間の友人関係トラブル:単数回答

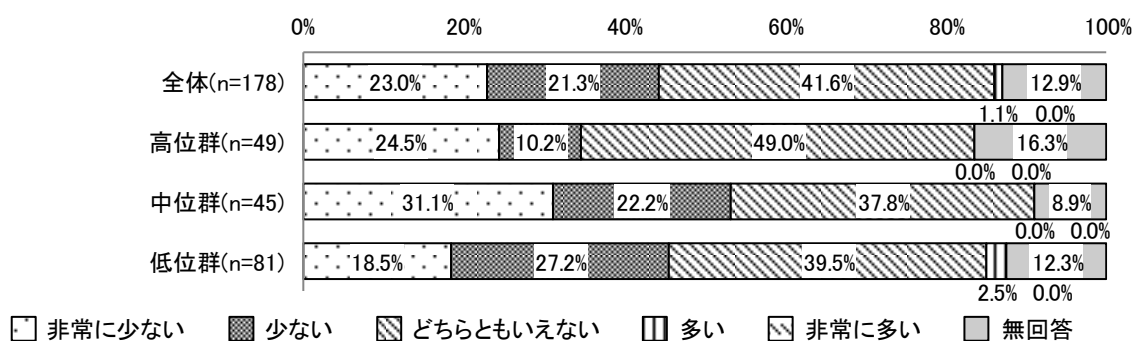


Q7-1-18② 休校期間中_子ども間の友人関係トラブル

「全体」では、「どちらともいえない」が 41.6%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 23.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 24.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 37.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 31.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 39.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.2%となっている。

図表 II-158 Q7-1-18② コロナ感染者数別 休校期間中_子ども間の友人関係トラブル:単数回答

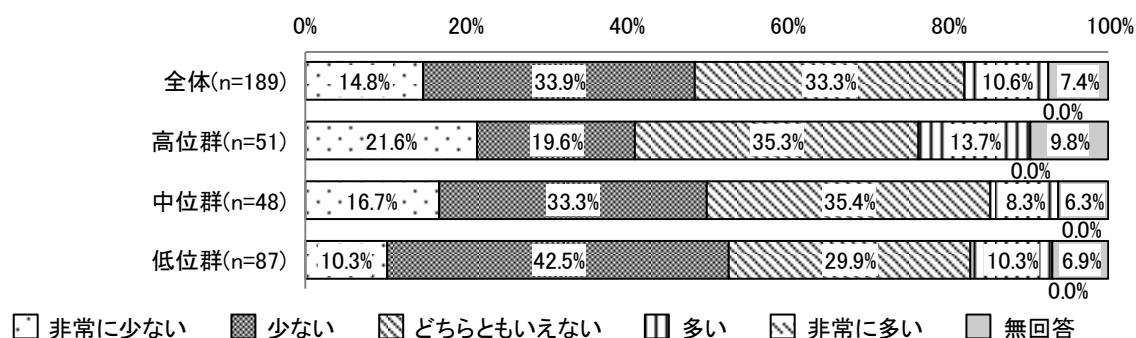


Q7-1-18③ 学校再開直後_子ども間の友人関係トラブル

「全体」では、「少ない」が 33.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 21.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「少ない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.9%となっている。

図表 II-159 Q7-1-18③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子ども間の友人関係トラブル:単数回答

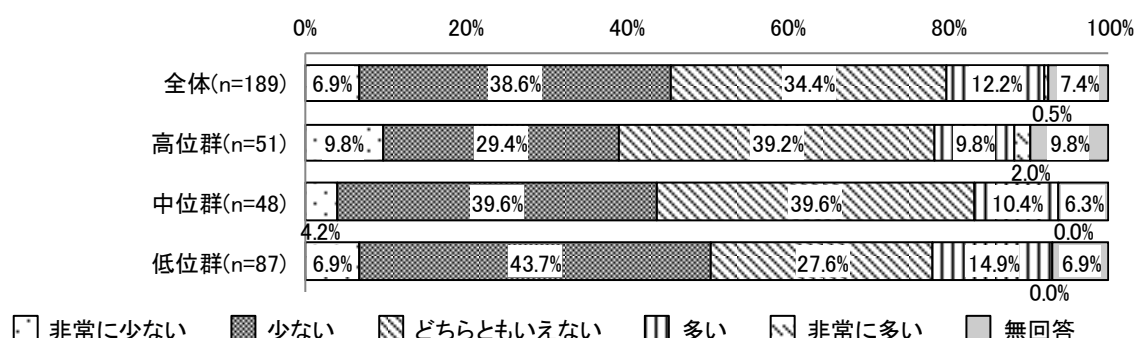


Q7-1-18④ 現在_子ども間の友人関係トラブル

「全体」では、「少ない」が 38.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 34.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 10.4%となっている。「低位群」では、「少ない」が 43.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.6%となっている。

図表 II-160 Q7-1-18④ コロナ感染者数別 現在_子ども間の友人関係トラブル:単数回答



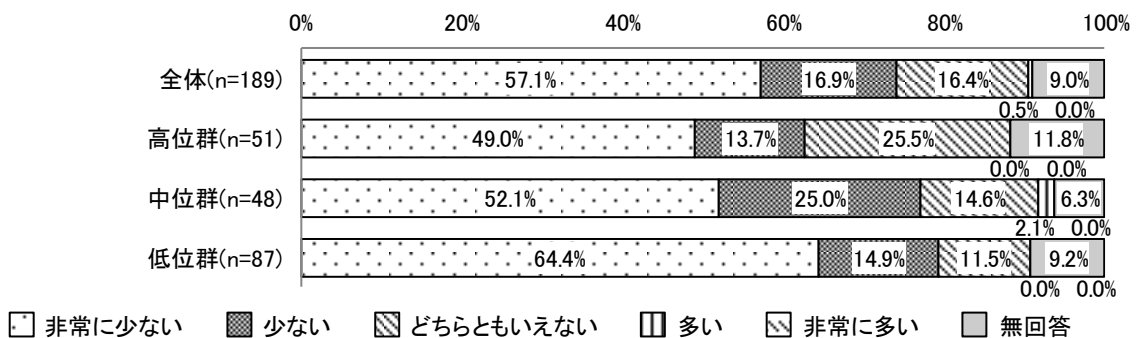
19) 子どもの自傷行為

Q7-1-19① コロナ前_子どもの自傷行為

「全体」では、「非常に少ない」が 57.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 16.9%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 52.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 25.0%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 64.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 14.9%となっている。

図表 II-161 Q7-1-19① コロナ感染者数別 コロナ前_子どもの自傷行為:単数回答

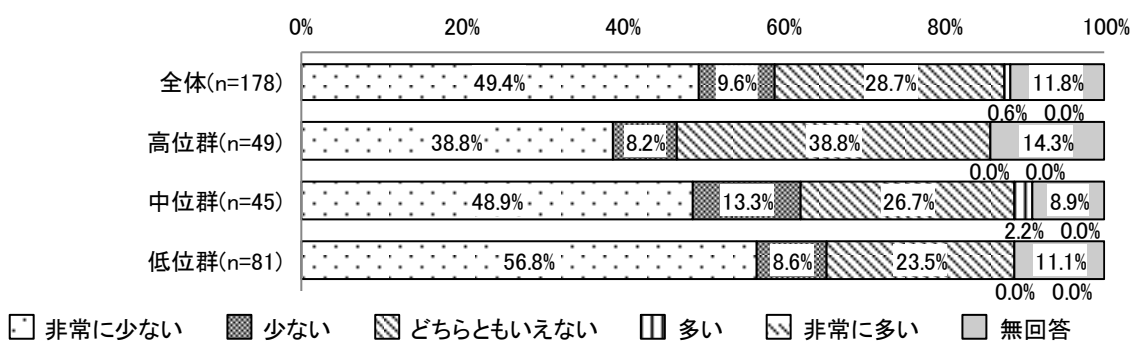


Q7-1-19② 休校期間中_子どもの自傷行為

「全体」では、「非常に少ない」が 49.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 28.7%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が 38.8%、「少ない」が 8.2%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 48.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 26.7%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 56.8%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 23.5%となっている。

図表 II-162 Q7-1-19② コロナ感染者数別 休校期間中_子どもの自傷行為:単数回答

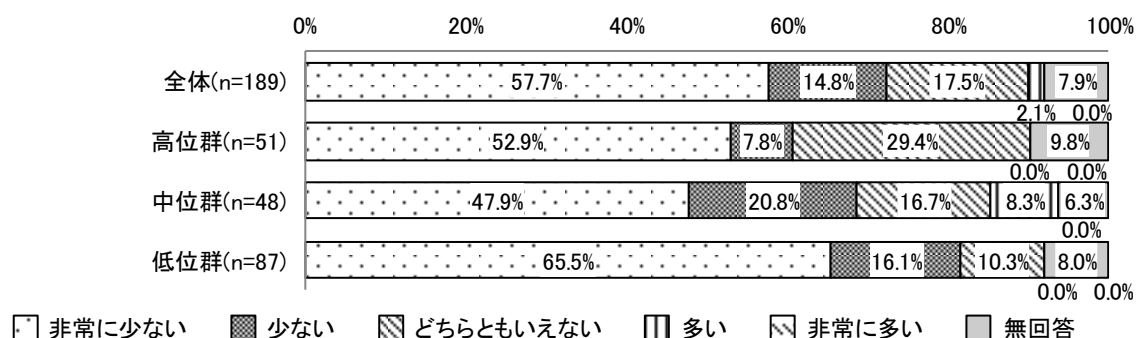


Q7-1-19③ 学校再開直後_子どもの自傷行為

「全体」では、「非常に少ない」が 57.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 17.5%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」が 52.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 47.9%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 65.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 16.1%となっている。

図表 II-163 Q7-1-19③ コロナ感染者数別 学校再開直後_子どもの自傷行為:単数回答

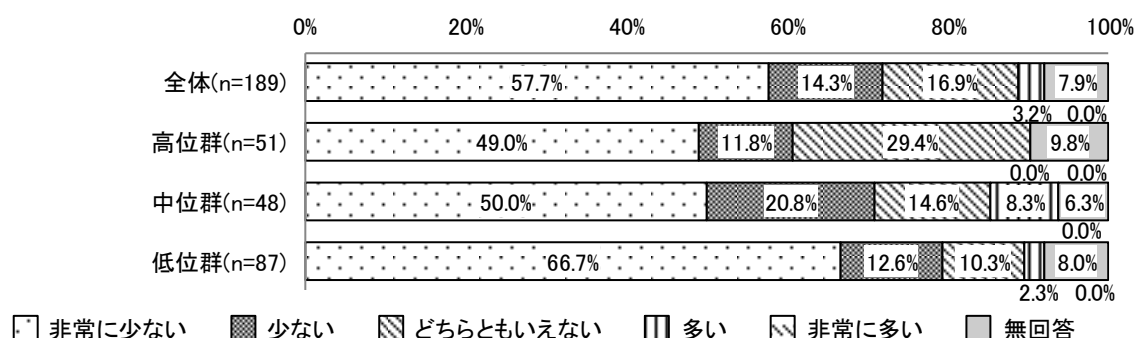


Q7-1-19④ 現在_子どもの自傷行為

「全体」では、「非常に少ない」が 57.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 16.9%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」が 49.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 66.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 12.6%となっている。

図表 II-164 Q7-1-19④ コロナ感染者数別 現在_子どもの自傷行為:単数回答



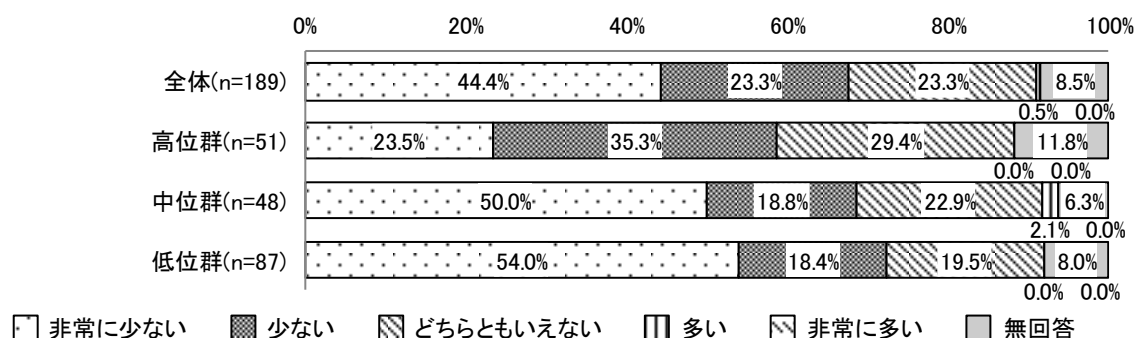
20) 保護者の問題行動

Q7-1-20① コロナ前_保護者の問題行動

「全体」では、「非常に少ない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」「どちらともいえない」が 23.3%となっている。

「高位群」では、「少ない」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 22.9%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 54.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 19.5%となっている。

図表 II-165 Q7-1-20① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者の問題行動:単数回答

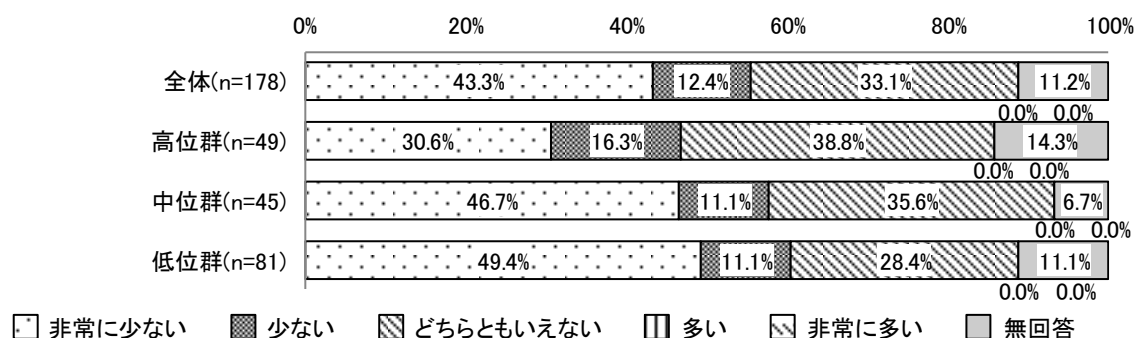


Q7-1-20② 休校期間中_保護者の問題行動

「全体」では、「非常に少ない」が 43.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.1%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 38.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 30.6%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 46.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 35.6%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 49.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 28.4%となっている。

図表 II-166 Q7-1-20② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者の問題行動:単数回答

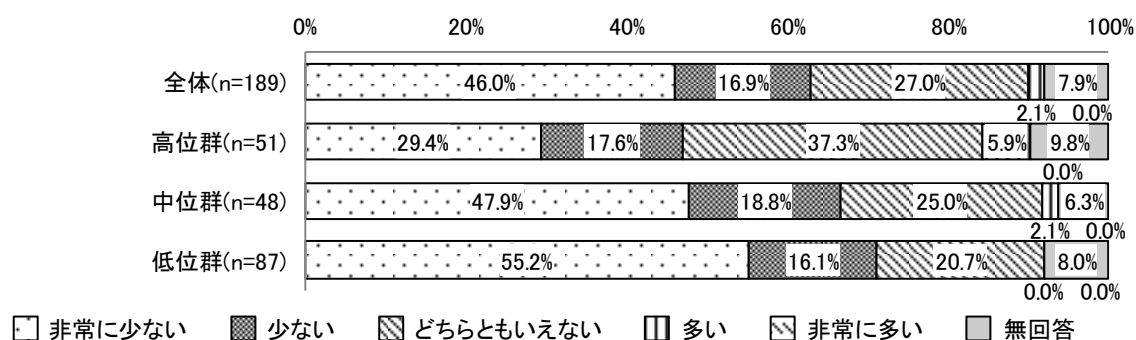


Q7-1-20③ 学校再開直後_保護者の問題行動

「全体」では、「非常に少ない」が46.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が37.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が29.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が47.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が25.0%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が55.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が20.7%となっている。

図表 II-167 Q7-1-20③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者の問題行動:単数回答

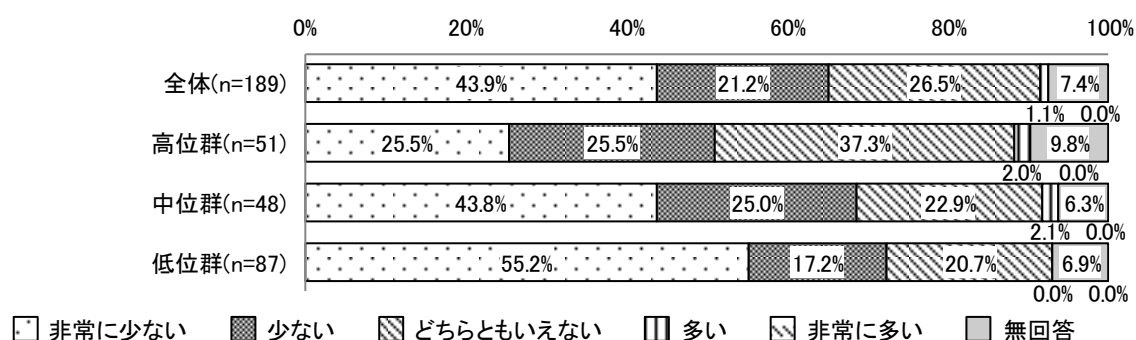


Q7-1-20④ 現在_保護者の問題行動

「全体」では、「非常に少ない」が43.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が26.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が37.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」「少ない」が25.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が43.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が25.0%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が55.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が20.7%となっている。

図表 II-168 Q7-1-20④ コロナ感染者数別 現在_保護者の問題行動:単数回答



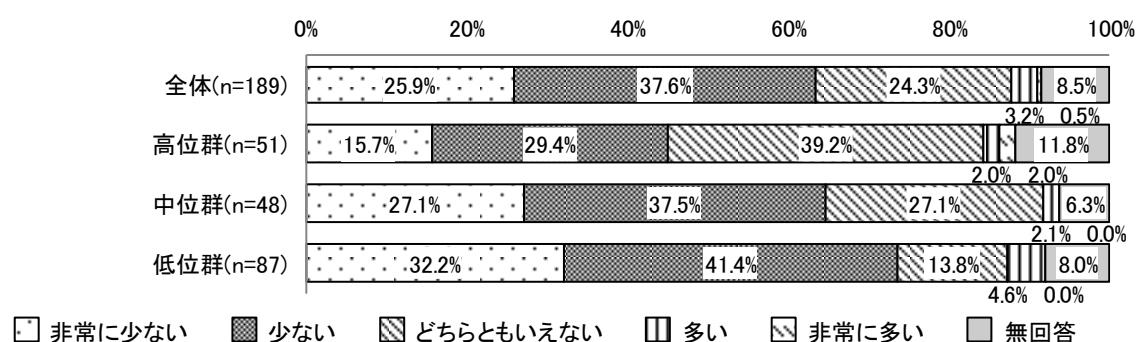
21) 保護者からの苦情の回数

Q7-1-21① コロナ前_保護者からの苦情の回数

「全体」では、「少ない」が 37.6%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 25.9%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.4%となっている。「中位群」では、「少ない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」「どちらともいえない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「少ない」が 41.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 32.2%となっている。

図表 II-169 Q7-1-21① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者からの苦情の回数:単数回答

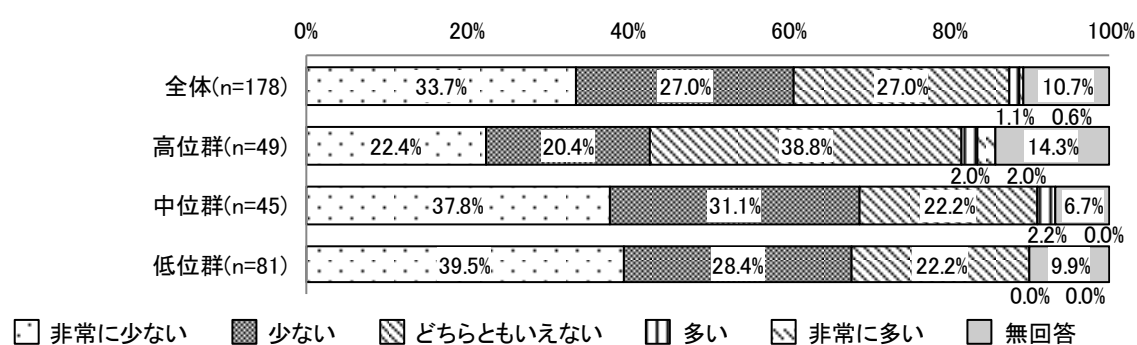


Q7-1-21② 休校期間中_保護者からの苦情の回数

「全体」では、「非常に少ない」が 33.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」「どちらともいえない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 38.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 22.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 37.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 31.1%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 39.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 28.4%となっている。

図表 II-170 Q7-1-21② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者からの苦情の回数:単数回答

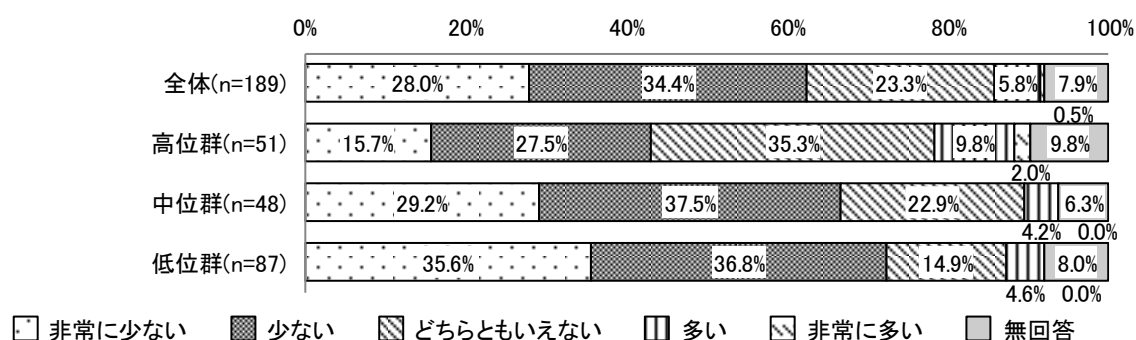


Q7-1-21③ 学校再開直後_保護者からの苦情の回数

「全体」では、「少ない」が 34.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 28.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 29.2%となっている。「低位群」では、「少ない」が 36.8%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 35.6%となっている。

図表 II-171 Q7-1-21③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者からの苦情の回数:単数回答

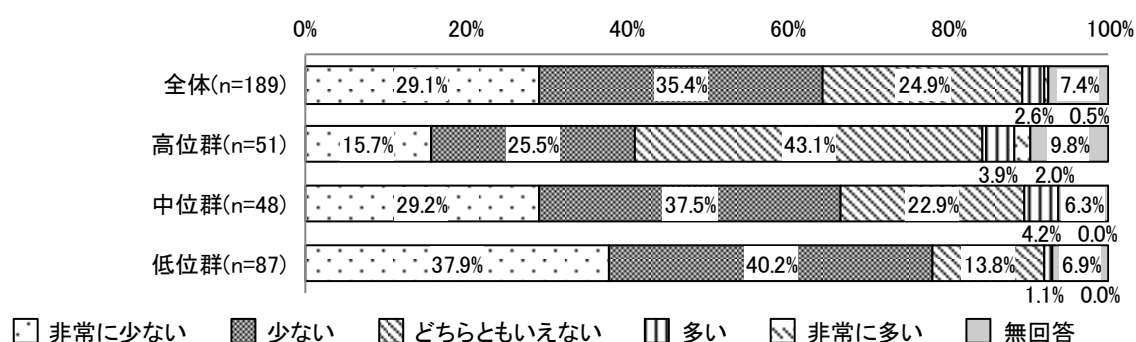


Q7-1-21④ 現在_保護者からの苦情の回数

「全体」では、「少ない」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 29.1%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 29.2%となっている。「低位群」では、「少ない」が 40.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 37.9%となっている。

図表 II-172 Q7-1-21④ コロナ感染者数別 現在_保護者からの苦情の回数:単数回答



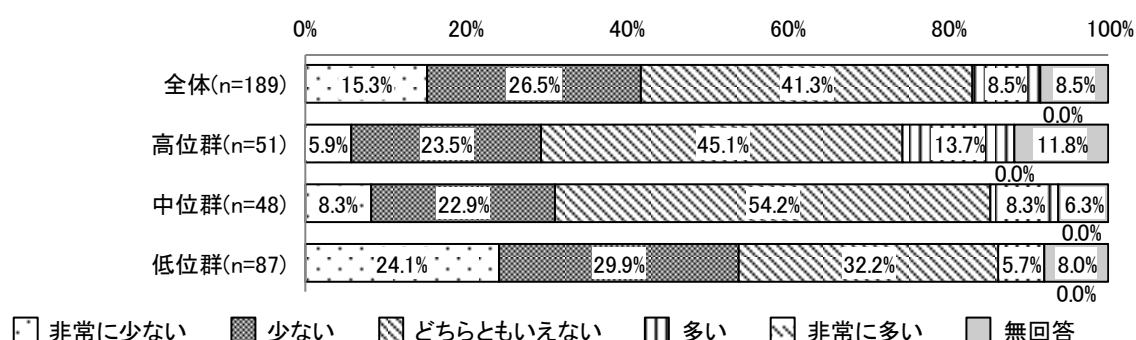
22) 家庭訪問の回数

Q7-1-22① コロナ前_家庭訪問の回数

「全体」では、「どちらともいえない」が41.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が26.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が45.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が23.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が54.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が22.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が32.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が29.9%となっている。

図表 II-173 Q7-1-22① コロナ感染者数別 コロナ前_家庭訪問の回数:単数回答

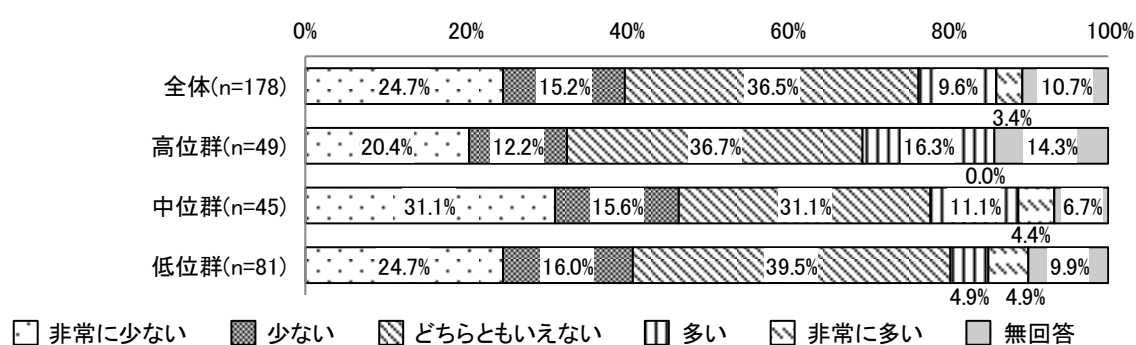


Q7-1-22② 休校期間中_家庭訪問の回数

「全体」では、「どちらともいえない」が36.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が24.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が36.7%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が20.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が31.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が15.6%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が39.5%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が24.7%となっている。

図表 II-174 Q7-1-22② コロナ感染者数別 休校期間中_家庭訪問の回数:単数回答

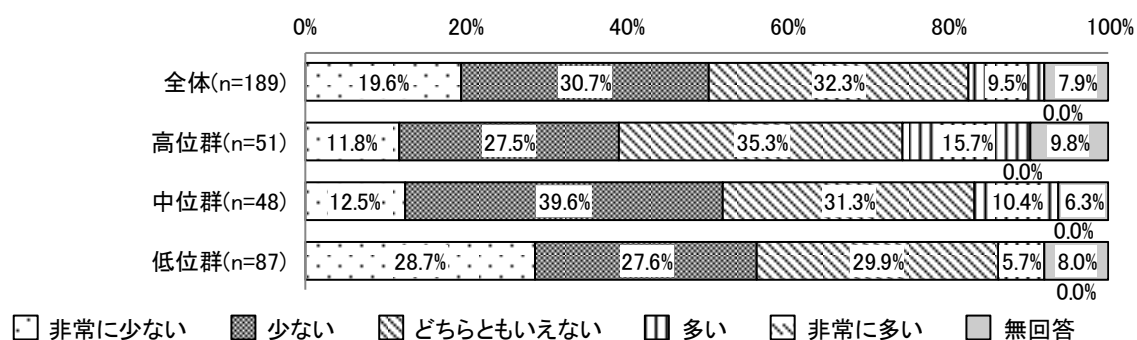


Q7-1-22③ 学校再開直後_家庭訪問の回数

「全体」では、「どちらともいえない」が 32.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 30.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 35.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 29.9%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 28.7%となっている。

図表 II-175 Q7-1-22③ コロナ感染者数別 学校再開直後_家庭訪問の回数:単数回答

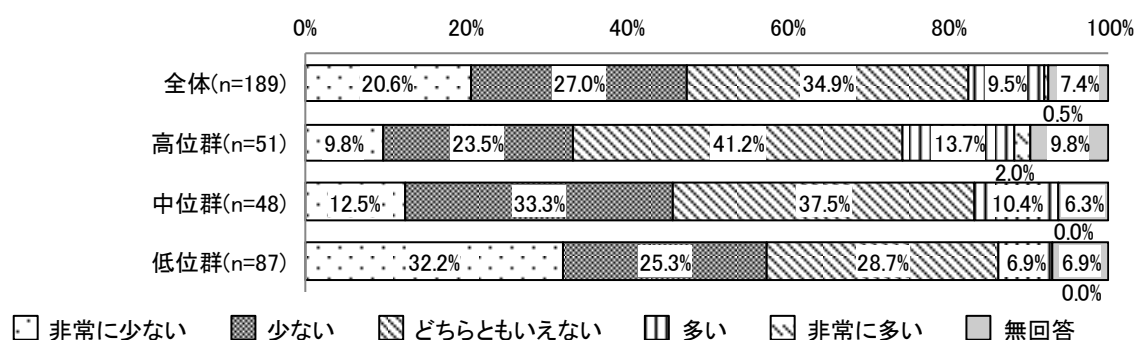


Q7-1-22④ 現在_家庭訪問の回数

「全体」では、「どちらともいえない」が 34.9%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 41.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 23.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 37.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 33.3%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 32.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 28.7%となっている。

図表 II-176 Q7-1-22④ コロナ感染者数別 現在_家庭訪問の回数:単数回答



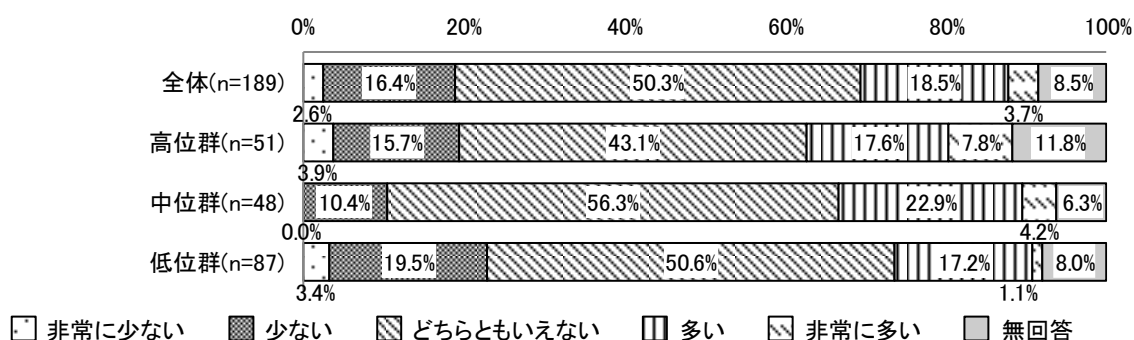
23) 保護者との連絡回数

Q7-1-23① コロナ前_保護者との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が 50.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 18.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 17.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 56.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 22.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 19.5%となっている。

図表 II-177 Q7-1-23① コロナ感染者数別 コロナ前_保護者との連絡回数:単数回答

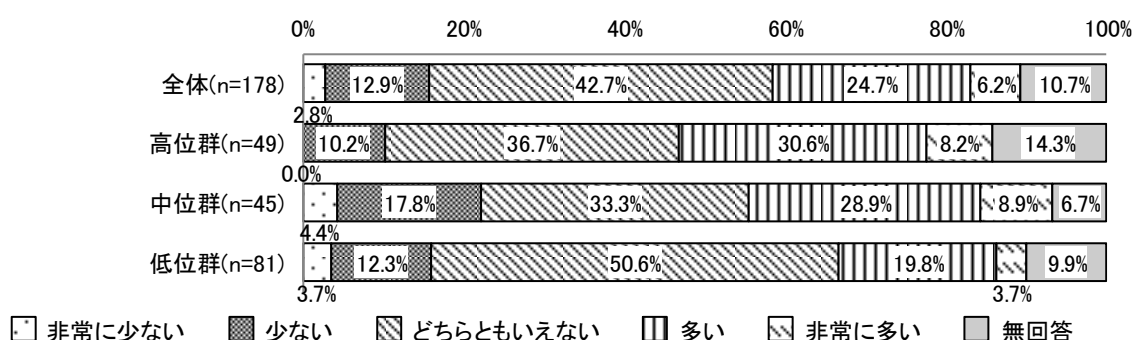


Q7-1-23② 休校期間中_保護者との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が 42.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 24.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 36.7%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 30.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 28.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 50.6%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が 19.8%となっている。

図表 II-178 Q7-1-23② コロナ感染者数別 休校期間中_保護者との連絡回数:単数回答

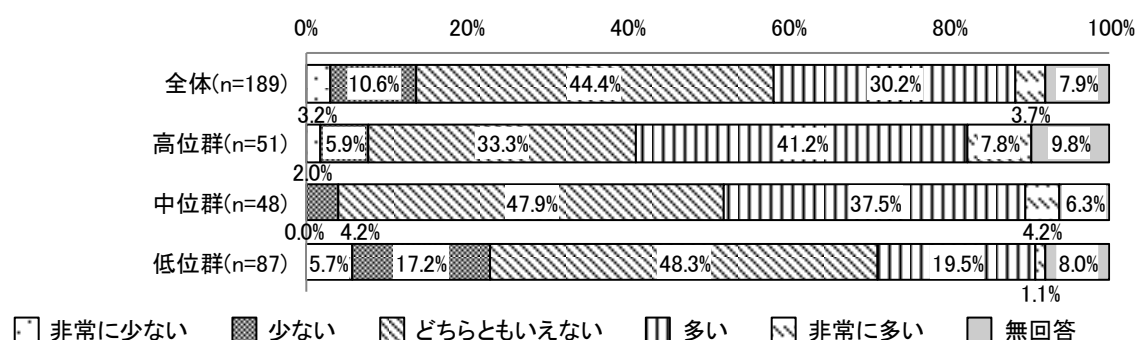


Q7-1-23③ 学校再開直後_保護者との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が44.4%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が30.2%となっている。

「高位群」では、「多い」が41.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が33.3%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が47.9%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が37.5%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が48.3%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が19.5%となっている。

図表 II-179 Q7-1-23③ コロナ感染者数別 学校再開直後_保護者との連絡回数:単数回答

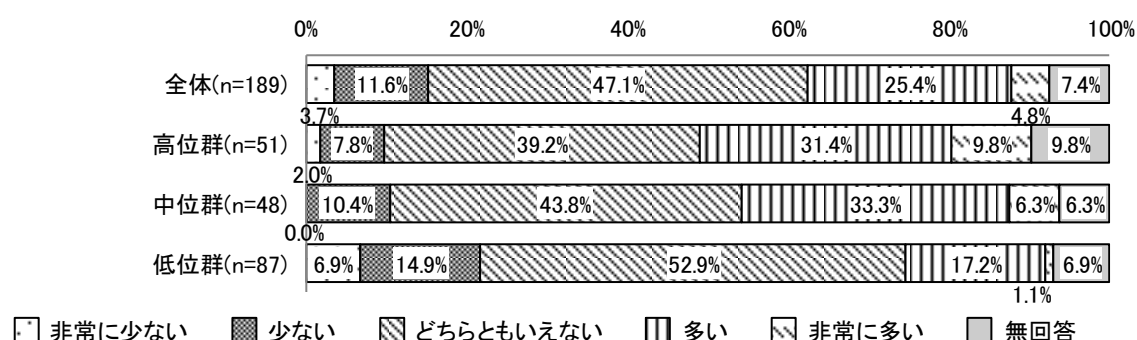


Q7-1-23④ 現在_保護者との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が47.1%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が25.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が39.2%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が31.4%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が43.8%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が33.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が52.9%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が17.2%となっている。

図表 II-180 Q7-1-23④ コロナ感染者数別 現在_保護者との連絡回数:単数回答



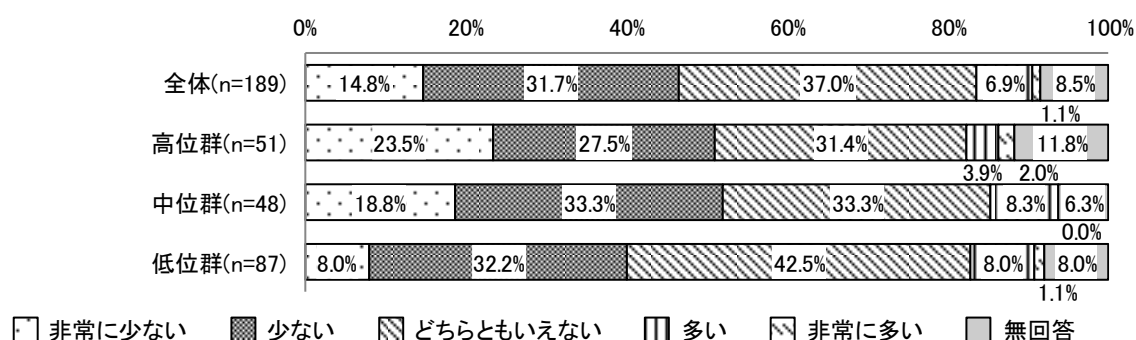
24) ケース会議の実施

Q7-1-24① コロナ前_ケース会議の実施

「全体」では、「どちらともいえない」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 31.7%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 31.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 18.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 32.2%となっている。

図表 II-181 Q7-1-24① コロナ感染者数別 コロナ前_ケース会議の実施:単数回答

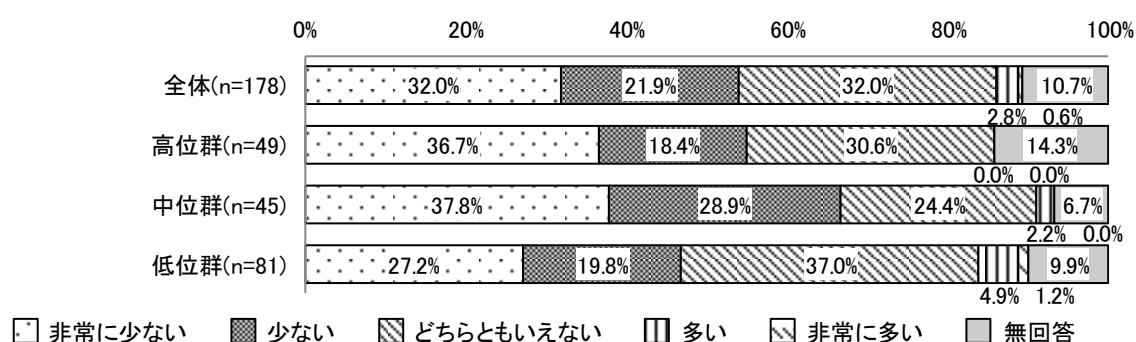


Q7-1-24② 休校期間中_ケース会議の実施

「全体」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が 32.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 21.9%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」が 36.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 30.6%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 37.8%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 28.9%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 27.2%となっている。

図表 II-182 Q7-1-24② コロナ感染者数別 休校期間中_ケース会議の実施:単数回答

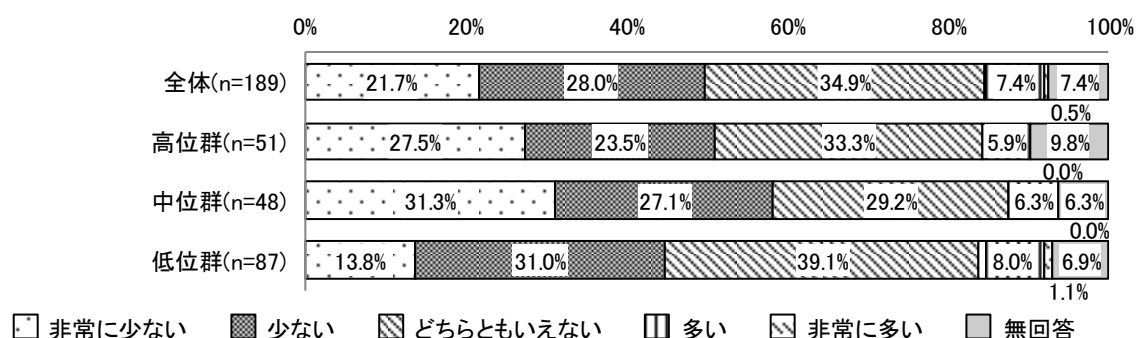


Q7-1-24③ 学校再開直後_ケース会議の実施

「全体」では、「どちらともいえない」が34.9%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が28.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が33.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が27.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が31.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が29.2%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が39.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が31.0%となっている。

図表 II-183 Q7-1-24③ コロナ感染者数別 学校再開直後_ケース会議の実施:単数回答

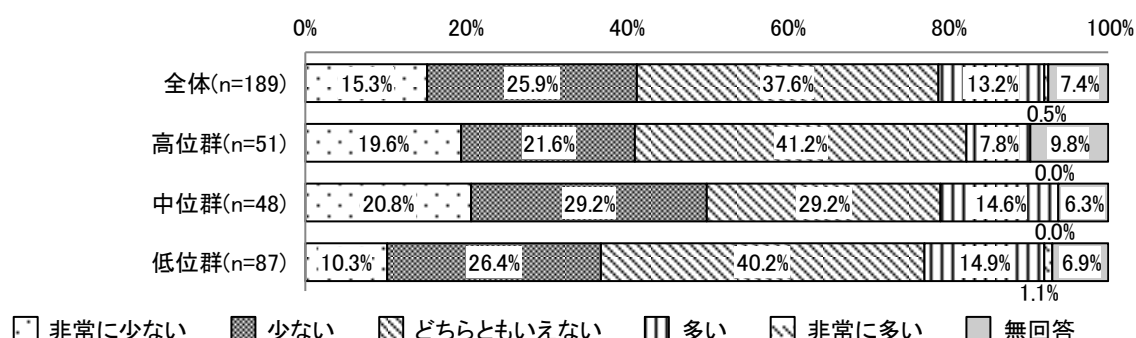


Q7-1-24④ 現在_ケース会議の実施

「全体」では、「どちらともいえない」が37.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が25.9%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が41.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が21.6%となっている。「中位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が29.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が20.8%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が40.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が26.4%となっている。

図表 II-184 Q7-1-24④ コロナ感染者数別 現在_ケース会議の実施:単数回答



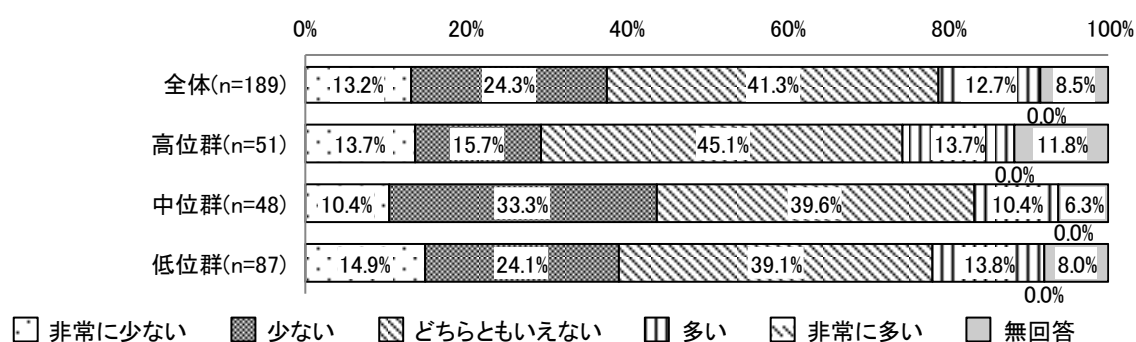
25) 他機関との連絡回数

Q7-1-25① コロナ前_他機関との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が41.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が24.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が45.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が15.7%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が39.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が33.3%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が39.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が24.1%となっている。

図表 II-185 Q7-1-25① コロナ感染者数別 コロナ前_他機関との連絡回数:単数回答

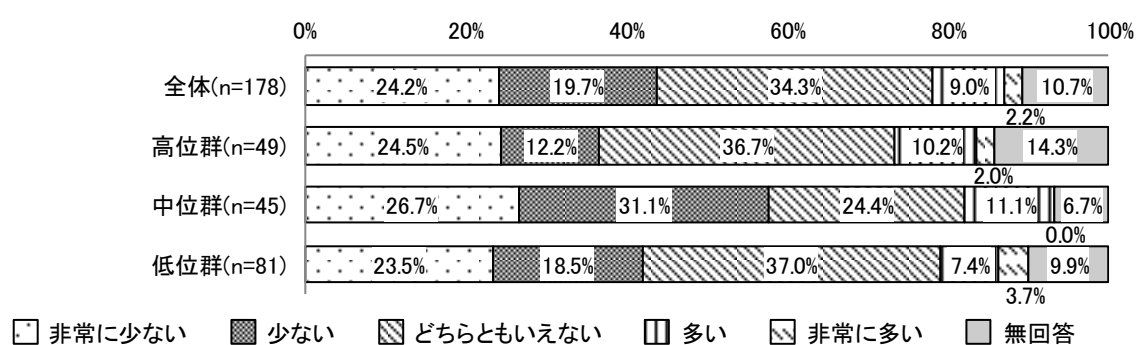


Q7-1-25② 休校期間中_他機関との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が34.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が24.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が36.7%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が24.5%となっている。「中位群」では、「少ない」が31.1%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が26.7%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が37.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が23.5%となっている。

図表 II-186 Q7-1-25② コロナ感染者数別 休校期間中_他機関との連絡回数:単数回答

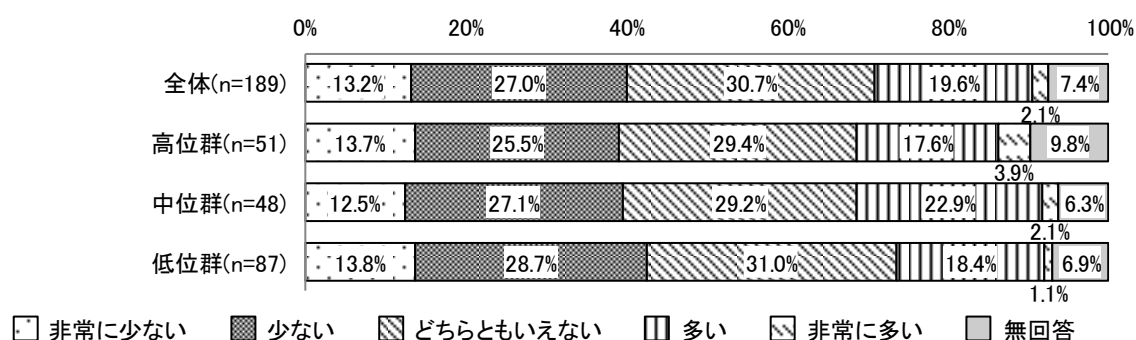


Q7-1-25③ 学校再開直後_他機関との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が30.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が29.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が25.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が29.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が27.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が31.0%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が28.7%となっている。

図表 II-187 Q7-1-25③ コロナ感染者数別 学校再開直後_他機関との連絡回数:単数回答

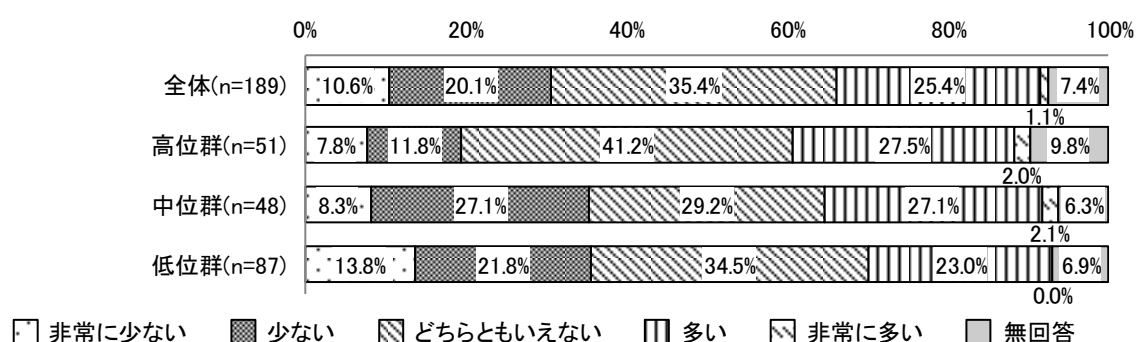


Q7-1-25④ 現在_他機関との連絡回数

「全体」では、「どちらともいえない」が35.4%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が25.4%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が41.2%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が27.5%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が29.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が27.1%となっている。「低位群」では、「どちらともいえない」が34.5%でもっとも割合が高く、次いで「多い」が23.0%となっている。

図表 II-188 Q7-1-25④ コロナ感染者数別 現在_他機関との連絡回数:単数回答



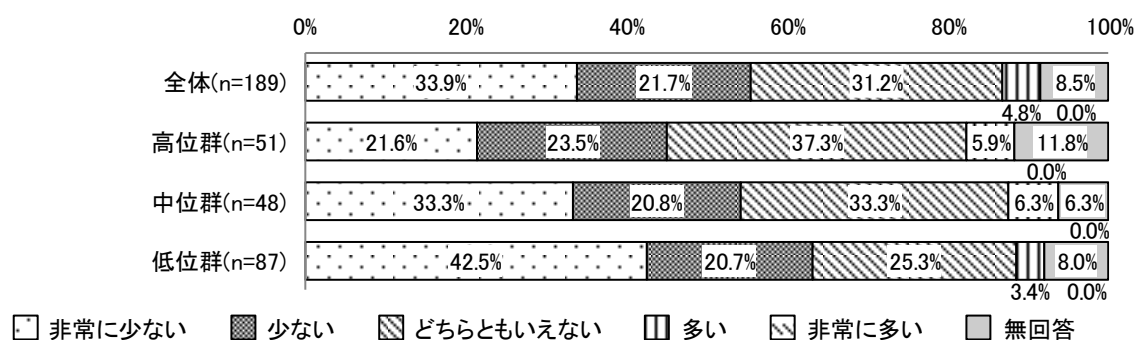
26) 他機関への訪問回数

Q7-1-26① コロナ前_他機関への訪問回数

「全体」では、「非常に少ない」が 33.9%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 37.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 23.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 20.8%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 25.3%となっている。

図表 II-189 Q7-1-26① コロナ感染者数別 コロナ前_他機関への訪問回数:単数回答

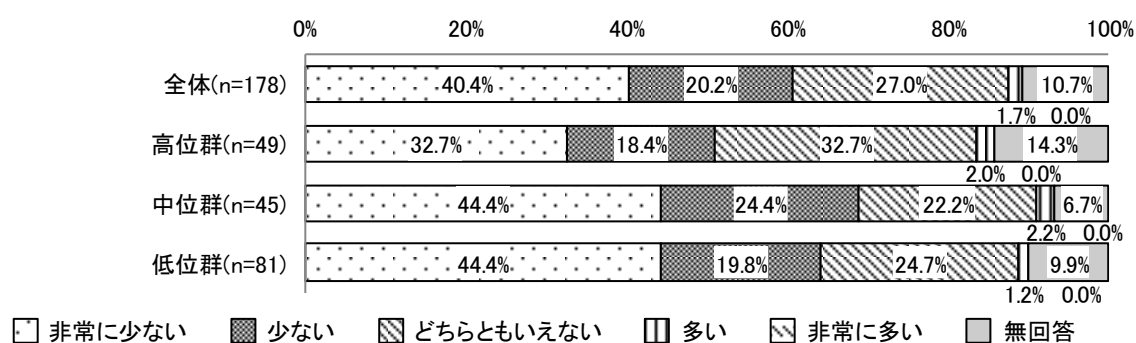


Q7-1-26② 休校期間中_他機関への訪問回数

「全体」では、「非常に少ない」が 40.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「非常に少ない」「どちらともいえない」が 32.7%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 18.4%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 24.4%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 44.4%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 24.7%となっている。

図表 II-190 Q7-1-26② コロナ感染者数別 休校期間中_他機関への訪問回数:単数回答

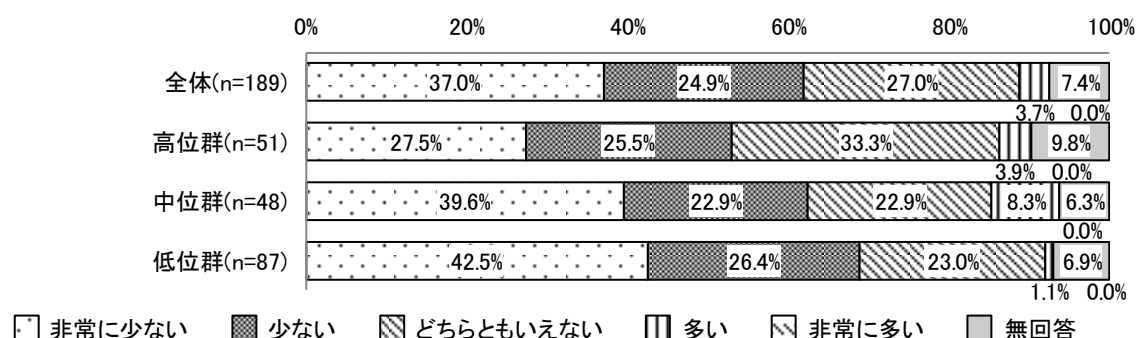


Q7-1-26③ 学校再開直後_他機関への訪問回数

「全体」では、「非常に少ない」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 27.0%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 39.6%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」「どちらともいえない」が 22.9%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 26.4%となっている。

図表 II-191 Q7-1-26③ コロナ感染者数別 学校再開直後_他機関への訪問回数:単数回答

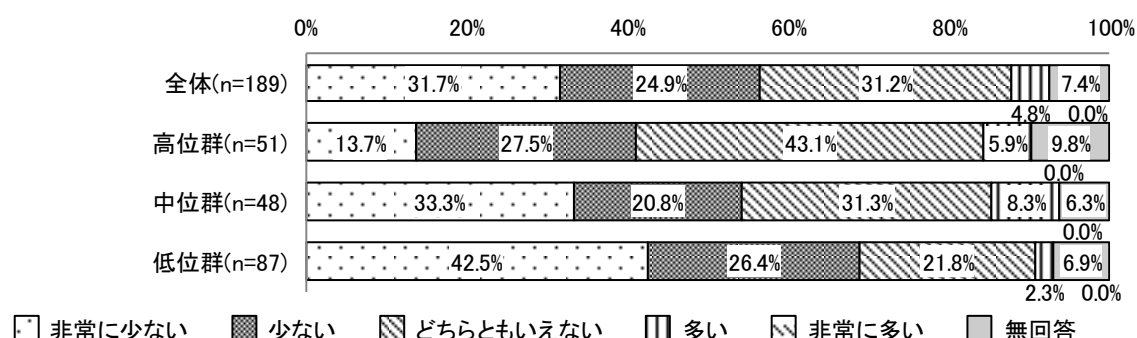


Q7-1-26④ 現在_他機関への訪問回数

「全体」では、「非常に少ない」が 31.7%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 43.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.5%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.3%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 26.4%となっている。

図表 II-192 Q7-1-26④ コロナ感染者数別 現在_他機関への訪問回数:単数回答



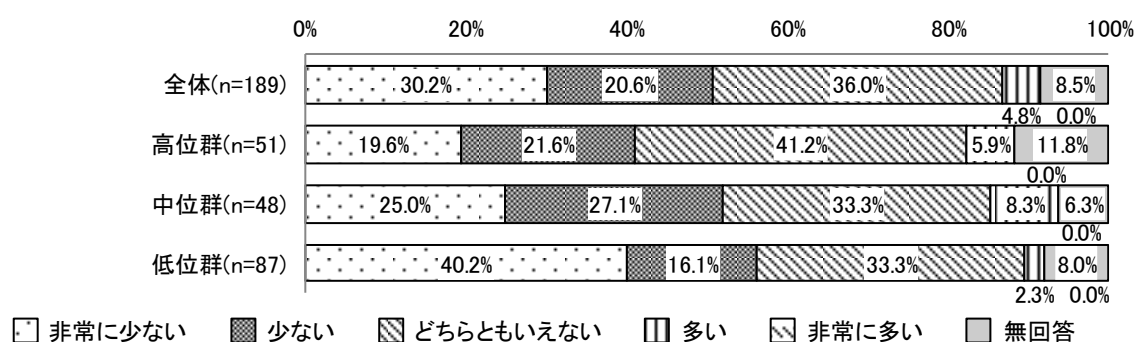
27) 制度やサービスの利用

Q7-1-27① コロナ前_制度やサービスの利用

「全体」では、「どちらともいえない」が 36.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 30.2%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 41.2%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 21.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 33.3%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 40.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 33.3%となっている。

図表 II-193 Q7-1-27① コロナ感染者数別 コロナ前_制度やサービスの利用:単数回答

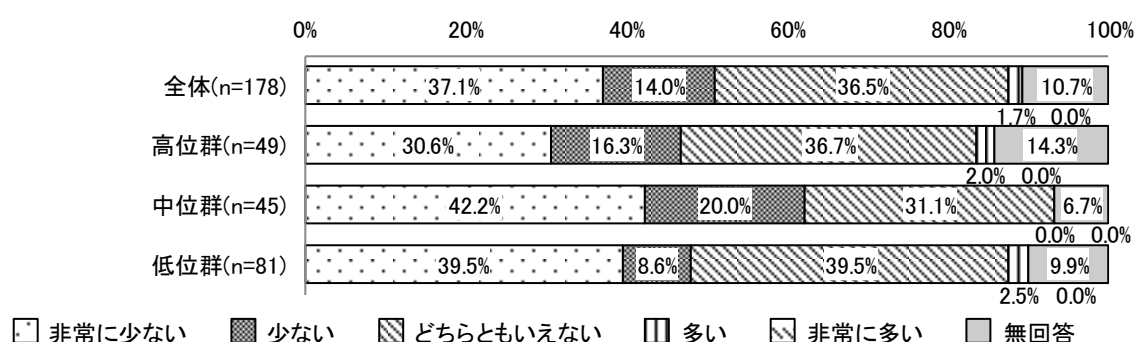


Q7-1-27② 休校期間中_制度やサービスの利用

「全体」では、「非常に少ない」が 37.1%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 36.5%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 36.7%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 30.6%となっている。「中位群」では、「非常に少ない」が 42.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.1%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 39.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 39.5%となっている。

図表 II-194 Q7-1-27② コロナ感染者数別 休校期間中_制度やサービスの利用:単数回答

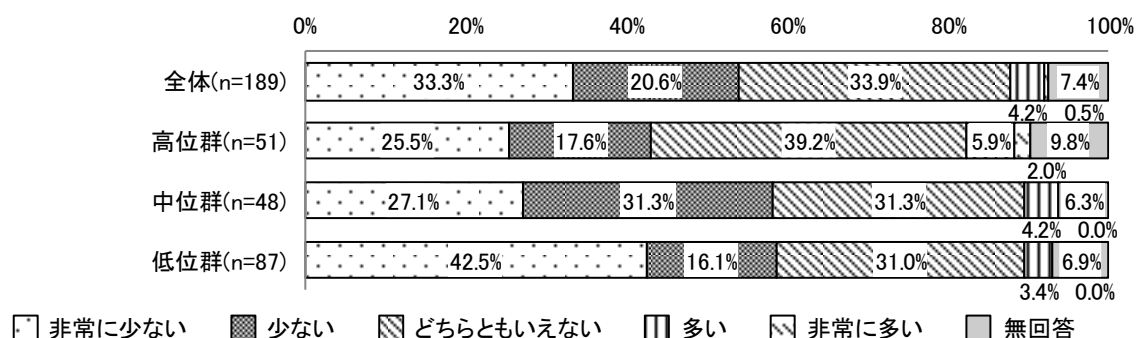


Q7-1-27③ 学校再開直後_制度やサービスの利用

「全体」では、「どちらともいえない」が 33.9%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 33.3%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 39.2%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 25.5%となっている。「中位群」では、「少ない」「どちらともいえない」が 31.3%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 27.1%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 42.5%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 31.0%となっている。

図表 II-195 Q7-1-27③ コロナ感染者数別 学校再開直後_制度やサービスの利用:単数回答

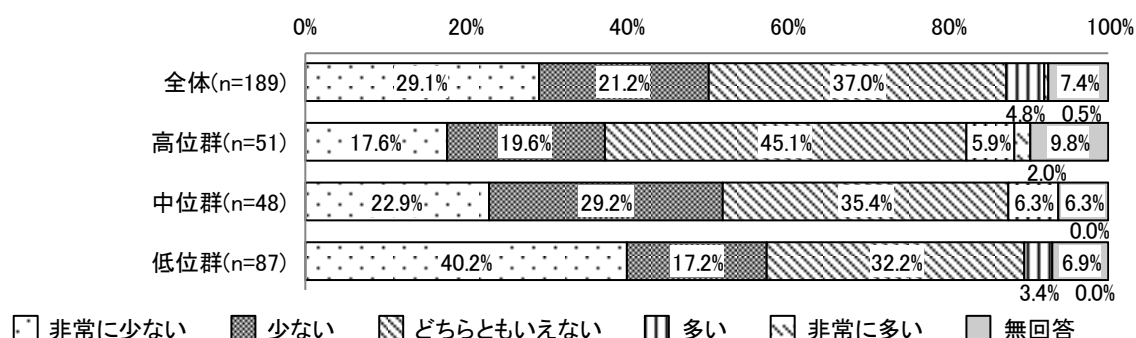


Q7-1-27④ 現在_制度やサービスの利用

「全体」では、「どちらともいえない」が 37.0%でもっとも割合が高く、次いで「非常に少ない」が 29.1%となっている。

「高位群」では、「どちらともいえない」が 45.1%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 19.6%となっている。「中位群」では、「どちらともいえない」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「少ない」が 29.2%となっている。「低位群」では、「非常に少ない」が 40.2%でもっとも割合が高く、次いで「どちらともいえない」が 32.2%となっている。

図表 II-196 Q7-1-27④ コロナ感染者数別 現在_制度やサービスの利用:単数回答



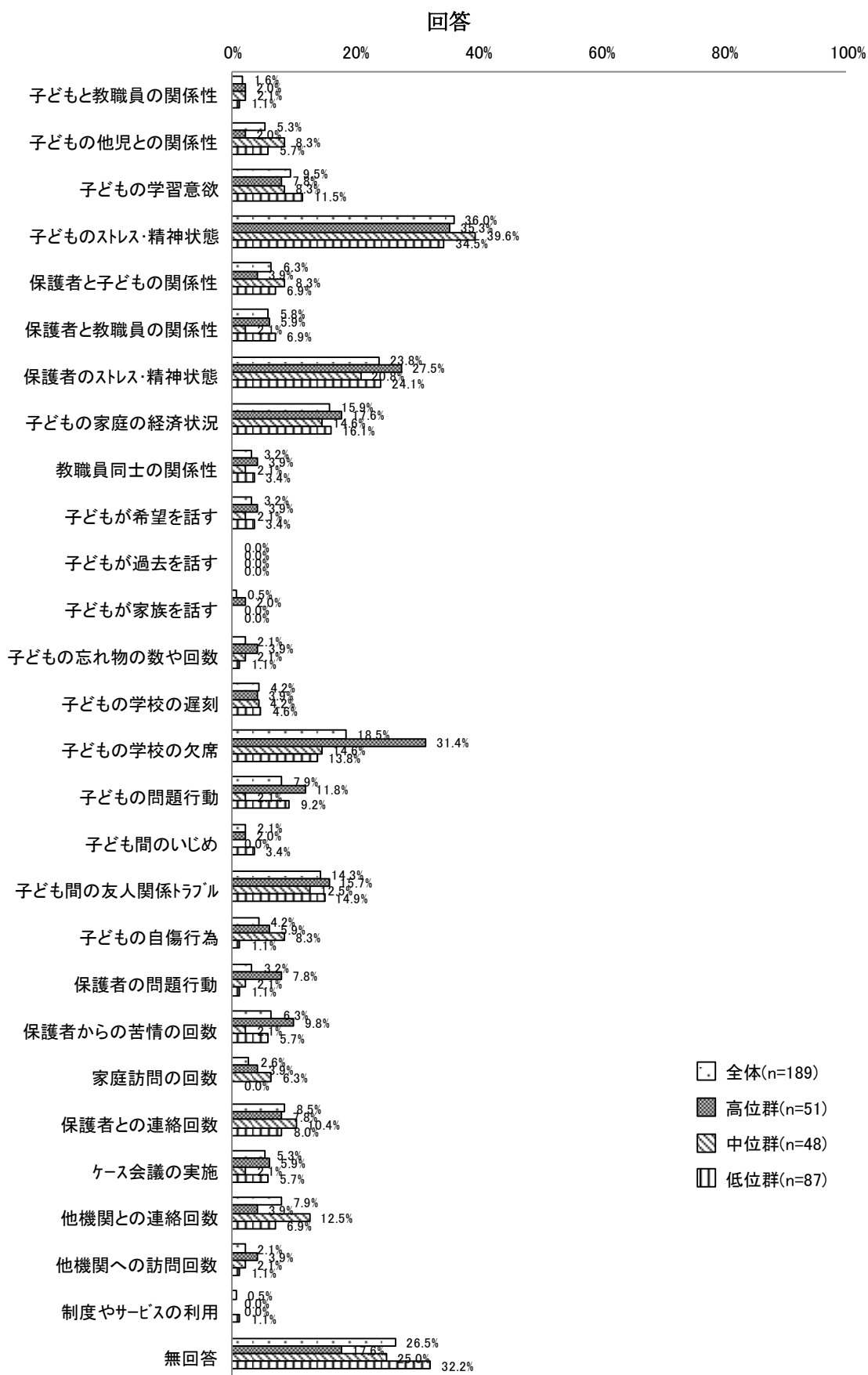
28) 特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目

Q7-2 特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目

Q7-1～27について、特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目を3つ選択してもらったところ、「全体」では、「子どものストレス・精神状態」が36.0%でもっとも割合が高く、次いで「保護者のストレス・精神状態」が23.8%となっている。

「高位群」では、「子どものストレス・精神状態」が35.3%でもっとも割合が高く、次いで「子どもの学校の欠席」が31.4%となっている。「中位群」では、「子どものストレス・精神状態」が39.6%でもっとも割合が高く、次いで「保護者のストレス・精神状態」が20.8%となっている。「低位群」では、「子どものストレス・精神状態」が34.5%でもっとも割合が高く、次いで「保護者のストレス・精神状態」が24.1%となっている。

図表 II-197 Q7-2 コロナ感染者数別 特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目:複数



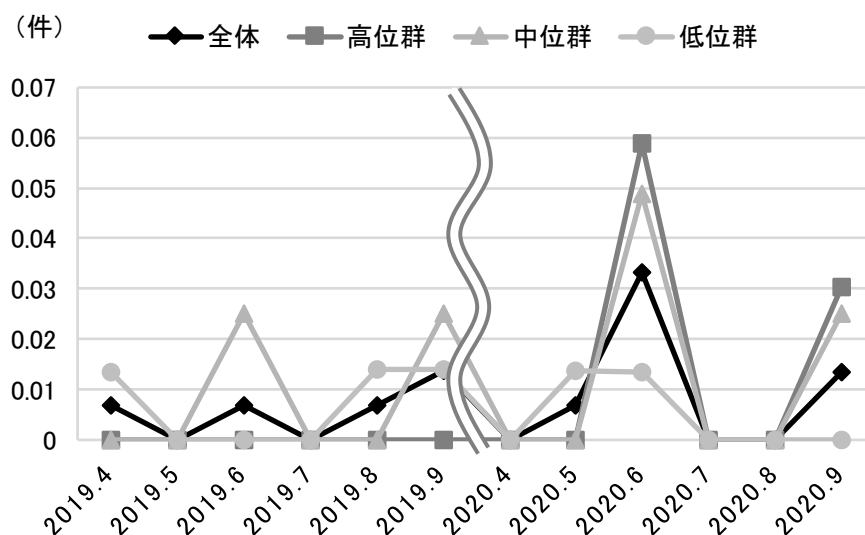
(4) 学校における支援状況

Q8-1 いじめ：警察への相談・通報

「全体」では、「2020.6」が平均 0.03 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.6」が平均 0.06 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.6」が平均 0.05 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.8」、「2019.9」が平均 0.01 件でもっとも多くなっている。

図表 II-198 Q8-1 コロナ感染者数別 いじめ：警察への相談・通報：数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	中位群	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.03
	低位群	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01

		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.00	0.01	0.03	0.00	0.00	0.01
	高位群	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.03
	中位群	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.03
	低位群	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00

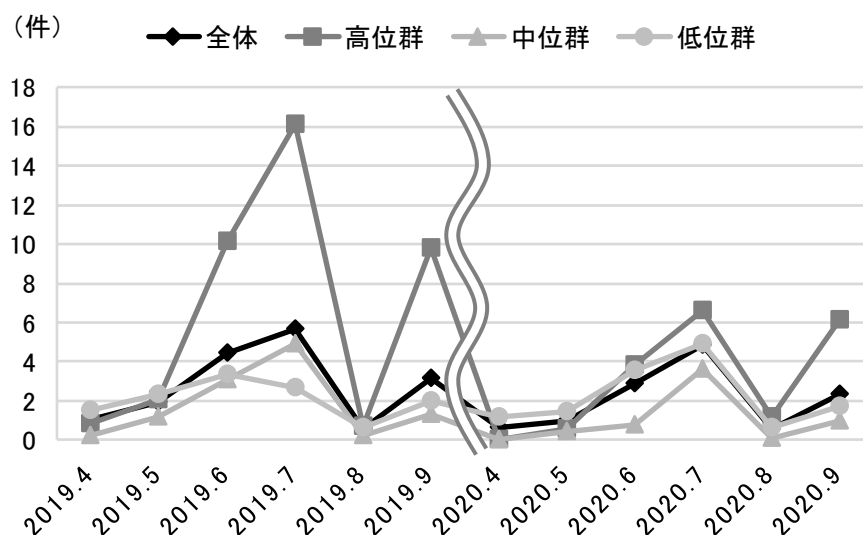
※各カテゴリでもっとも平均件数の多いセルに網掛けを行っている。なお、同じ数値であっても、一方のみに網掛けがされている場合があるが、これは、示されている数値は小数点第二位以下（一部小数点第三位以下）を四捨五入しているものであり、網掛けには四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。以下同様。

Q8-3 いじめ:認知件数

「全体」では、「2019.7」が平均 5.65 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.7」が平均 16.09 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.7」が平均 4.89 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.7」が平均 4.90 件でもっとも多くなっている。

図表 II-199 Q8-3 コロナ感染者数別 いじめ:認知件数:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
コロナ感染者数	全体	1.02	1.94	4.42	5.65	0.54	3.12
	高位群	0.85	2.05	10.13	16.09	0.70	9.77
	中位群	0.20	1.14	3.11	4.89	0.21	1.31
	低位群	1.49	2.34	3.35	2.70	0.66	1.99

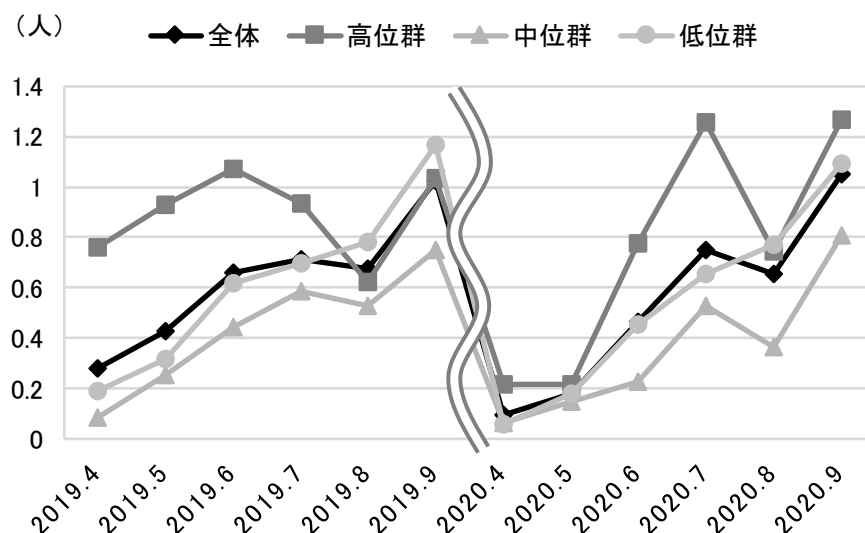
		2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
コロナ感染者数	全体	0.66	0.99	2.85	4.87	0.56	2.35
	高位群	0.00	0.57	3.84	6.59	1.21	6.12
	中位群	0.03	0.42	0.78	3.63	0.06	1.00
	低位群	1.17	1.41	3.57	4.90	0.61	1.72

Q8-4 長期欠席者(病気)

「全体」では、「2020.9」が平均 1.05 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.9」が平均 1.27 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 0.81 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.9」が平均 1.16 人でもっとも多くなっている。

図表 II-200 Q8-4 コロナ感染者数別 長期欠席者(病気):数値回答 (平均値)



<平均値：数表>

		2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
コロナ感染者数	全体	0.28	0.42	0.66	0.71	0.68	1.02
	高位群	0.76	0.93	1.07	0.93	0.62	1.03
	中位群	0.09	0.25	0.44	0.58	0.53	0.75
	低位群	0.19	0.32	0.62	0.70	0.78	1.16

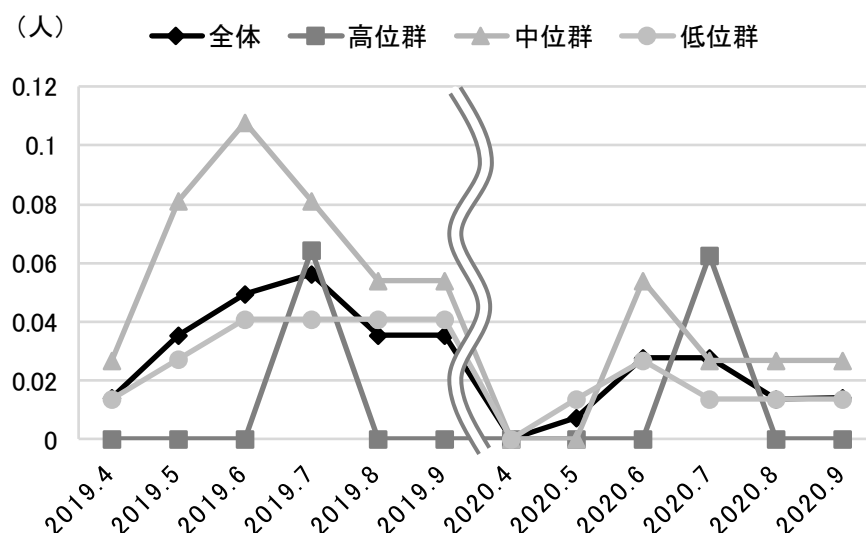
		2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
コロナ感染者数	全体	0.09	0.18	0.46	0.75	0.65	1.05
	高位群	0.21	0.21	0.77	1.26	0.74	1.27
	中位群	0.06	0.15	0.23	0.53	0.36	0.81
	低位群	0.06	0.18	0.45	0.65	0.77	1.09

Q8-5 長期欠席者(経済的理由)

「全体」では、「2019.7」が平均 0.06 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.7」が平均 0.06 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.6」が平均 0.11 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2019.6」、「2019.7」、「2019.8」、「2019.9」が平均 0.04 人でもっとも多くなっている。

図表 II-201 Q8-5 コロナ感染者数別 長期欠席者(経済的理由):数値回答 (平均値)



< 平均値 : 数表 >

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感 染者数	全体	0.01	0.04	0.05	0.06	0.04	0.04
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
	中位群	0.03	0.08	0.11	0.08	0.05	0.05
	低位群	0.01	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04

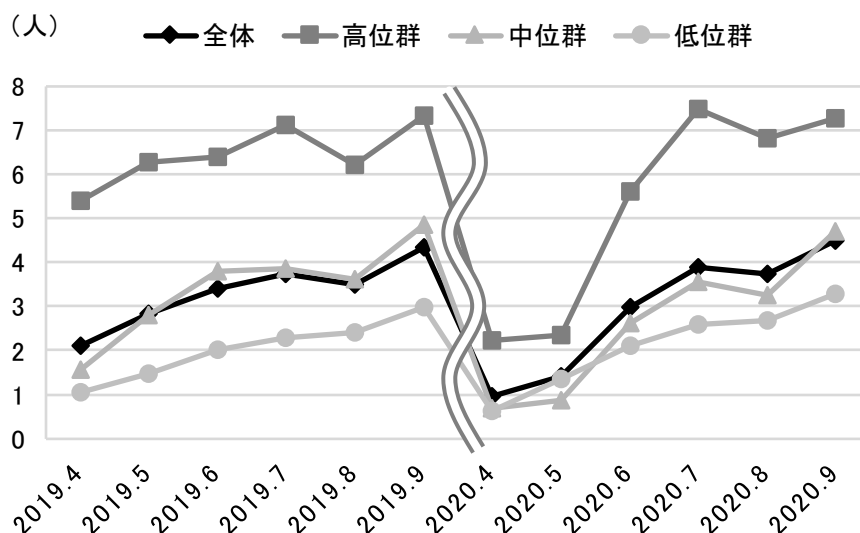
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感 染者数	全体	0.00	0.01	0.03	0.03	0.01	0.01
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
	中位群	0.00	0.00	0.05	0.03	0.03	0.03
	低位群	0.00	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01

Q8-6 不登校

「全体」では、「2020.9」が平均 4.50 人でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 7.48 人でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.9」が平均 4.84 人でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.9」が平均 3.28 人でもっとも多くなっている。

図表 II-202 Q8-6 コロナ感染者数別 不登校:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	2.10	2.83	3.39	3.73	3.51	4.35
	高位群	5.40	6.27	6.40	7.13	6.20	7.33
	中位群	1.57	2.79	3.79	3.86	3.60	4.84
	低位群	1.05	1.48	2.00	2.28	2.42	2.97

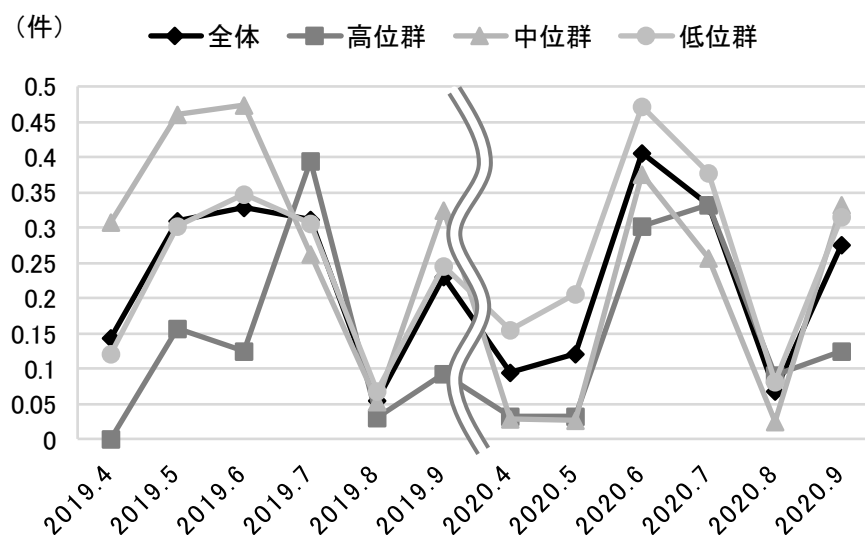
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.95	1.40	2.98	3.90	3.73	4.50
	高位群	2.23	2.35	5.59	7.48	6.82	7.28
	中位群	0.70	0.85	2.62	3.55	3.25	4.70
	低位群	0.62	1.34	2.09	2.58	2.68	3.28

Q8-7 暴力行為

「全体」では、「2020.6」が平均 0.41 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.7」が平均 0.39 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.6」が平均 0.47 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 0.47 件でもっとも多くなっている。

図表 II-203 Q8-7 コロナ感染者数別 暴力行為:数値回答 (平均値)



< 平均値 : 数表 >

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感 染者数	全体	0.14	0.31	0.33	0.31	0.06	0.23
	高位群	0.00	0.16	0.13	0.39	0.03	0.09
	中位群	0.31	0.46	0.47	0.26	0.05	0.32
	低位群	0.12	0.30	0.35	0.31	0.07	0.25

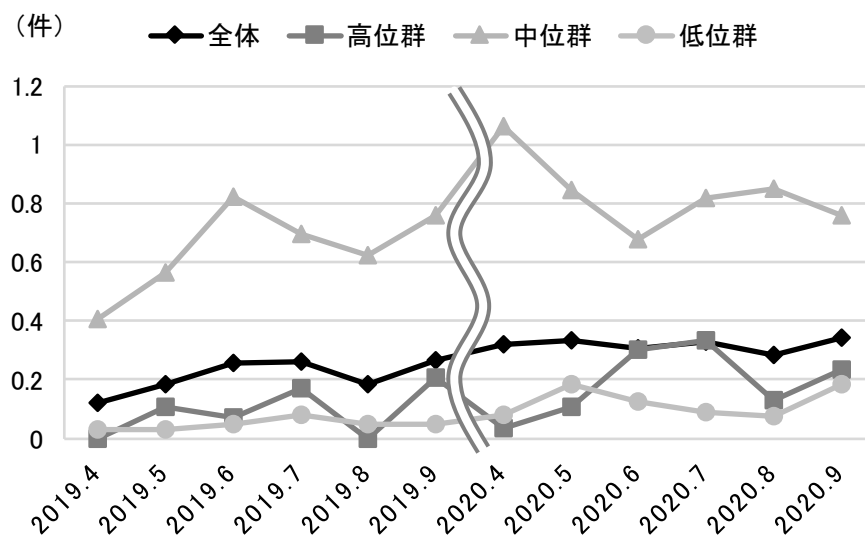
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感 染者数	全体	0.09	0.12	0.41	0.33	0.07	0.28
	高位群	0.03	0.03	0.30	0.33	0.09	0.13
	中位群	0.03	0.03	0.38	0.26	0.03	0.33
	低位群	0.15	0.21	0.47	0.38	0.08	0.32

Q8-8 児童虐待に関する問題

「全体」では、「2020.9」が平均 0.34 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 0.33 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.4」が平均 1.06 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.5」、「2020.9」が平均 0.18 件でもっとも多くなっている。

図表 II-204 Q8-8 コロナ感染者数別 児童虐待に関する問題:数値回答 (平均値)



<平均値：数表>

		2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
コロナ感染者数	全体	0.12	0.19	0.26	0.26	0.18	0.27
	高位群	0.00	0.11	0.07	0.17	0.00	0.21
	中位群	0.41	0.56	0.82	0.70	0.63	0.76
	低位群	0.03	0.03	0.05	0.08	0.05	0.05

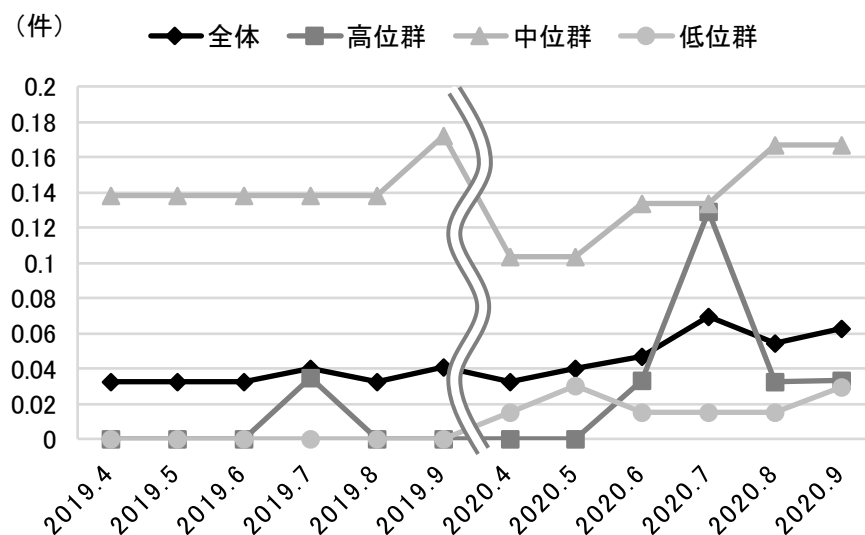
		2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
コロナ感染者数	全体	0.32	0.33	0.31	0.33	0.28	0.34
	高位群	0.04	0.11	0.30	0.33	0.13	0.23
	中位群	1.06	0.84	0.68	0.82	0.85	0.76
	低位群	0.08	0.18	0.12	0.09	0.08	0.18

Q8-9 貧困に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 0.07 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 0.13 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.9」が平均 0.17 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.5」が平均 0.03 件でもっとも多くなっている。

図表 II-205 Q8-9 コロナ感染者数別 貧困に関する問題:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019.4	2019.5	2019.6	2019.7	2019.8	2019.9
コロナ感染者数	全体	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00
	中位群	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.17
	低位群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

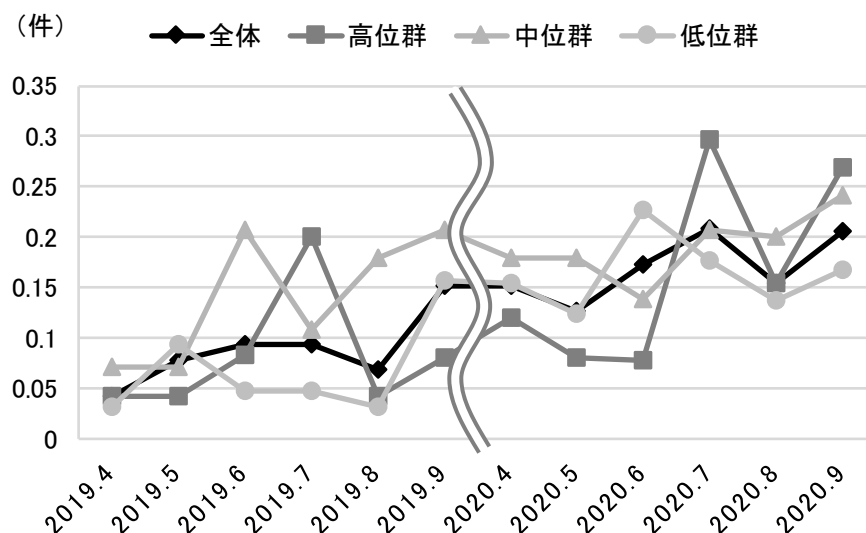
		2020.4	2020.5	2020.6	2020.7	2020.8	2020.9
コロナ感染者数	全体	0.03	0.04	0.05	0.07	0.05	0.06
	高位群	0.00	0.00	0.03	0.13	0.03	0.03
	中位群	0.10	0.10	0.13	0.13	0.17	0.17
	低位群	0.02	0.03	0.01	0.01	0.01	0.03

Q8-10 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 0.21 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 0.30 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 0.24 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 0.23 件でもっとも多くなっている。

図表 II-206 Q8-10 コロナ感染者数別 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題:数値回答（平均値）



< 平均値：数表 >

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感 染者数	全体	0.04	0.08	0.09	0.09	0.07	0.15
	高位群	0.04	0.04	0.08	0.20	0.04	0.08
	中位群	0.07	0.07	0.21	0.11	0.18	0.21
	低位群	0.03	0.09	0.05	0.05	0.03	0.16

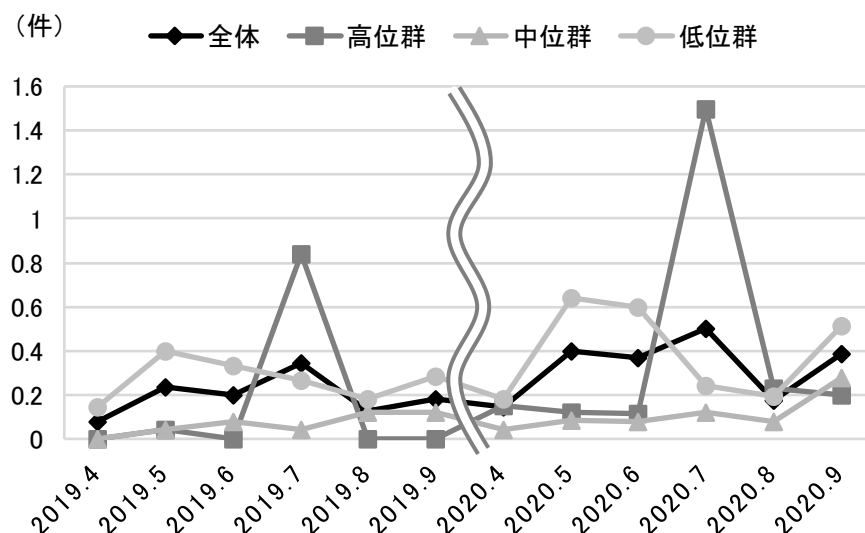
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感 染者数	全体	0.15	0.13	0.17	0.21	0.15	0.20
	高位群	0.12	0.08	0.08	0.30	0.15	0.27
	中位群	0.18	0.18	0.14	0.21	0.20	0.24
	低位群	0.15	0.12	0.23	0.18	0.14	0.17

Q8-11 心身の健康・保健に関する問題

「全体」では、「2020.7」が平均 0.50 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 1.50 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 0.28 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.5」が平均 0.64 件でもっとも多くなっている。

図表 II-207 Q8-11 コロナ感染者数別 心身の健康・保健に関する問題:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	0.08	0.24	0.20	0.34	0.13	0.18
	高位群	0.00	0.04	0.00	0.84	0.00	0.00
	中位群	0.00	0.04	0.08	0.04	0.12	0.12
	低位群	0.15	0.40	0.33	0.27	0.18	0.28

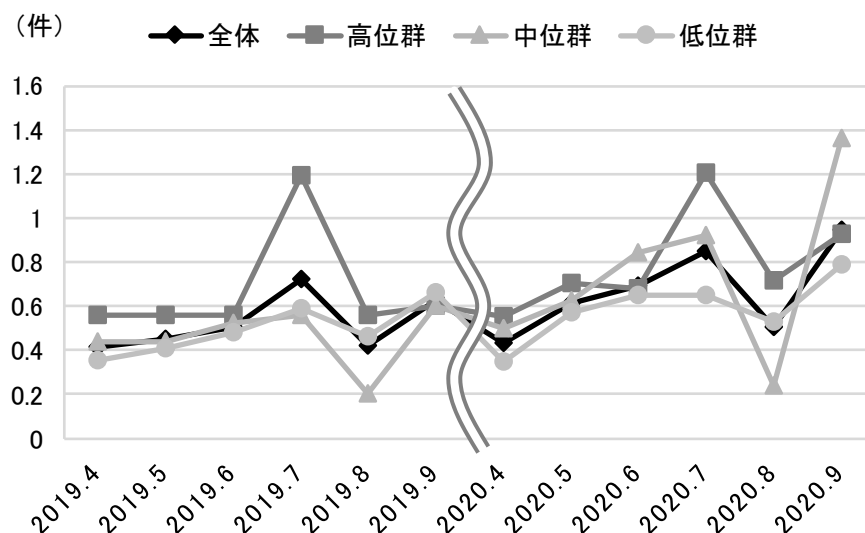
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.14	0.40	0.37	0.50	0.18	0.39
	高位群	0.15	0.12	0.12	1.50	0.23	0.20
	中位群	0.04	0.08	0.08	0.12	0.08	0.28
	低位群	0.18	0.64	0.60	0.24	0.19	0.52

Q8-12 発達障害等に関する問題

「全体」では、「2020.9」が平均 0.95 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2020.7」が平均 1.21 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2020.9」が平均 1.36 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.9」が平均 0.79 件でもっとも多くなっている。

図表 II-208 Q8-12 コロナ感染者数別 発達障害等に関する問題:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感 染者数	全体	0.42	0.45	0.50	0.72	0.42	0.63
	高位群	0.56	0.56	0.56	1.19	0.56	0.60
	中位群	0.44	0.44	0.52	0.56	0.20	0.60
	低位群	0.35	0.41	0.48	0.59	0.46	0.66

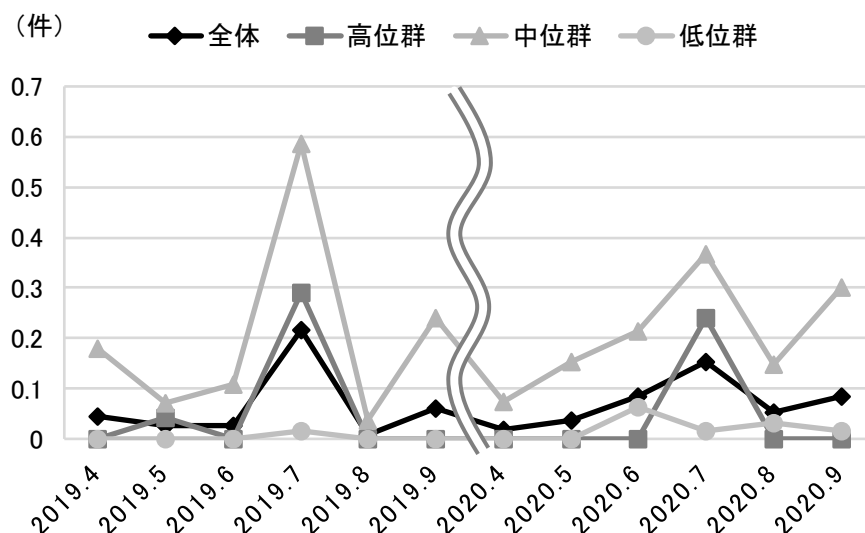
		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感 染者数	全体	0.43	0.61	0.69	0.85	0.50	0.95
	高位群	0.56	0.70	0.68	1.21	0.71	0.93
	中位群	0.50	0.63	0.84	0.92	0.24	1.36
	低位群	0.35	0.57	0.65	0.65	0.53	0.79

Q8-13 その他の問題

「全体」では、「2019.7」が平均 0.22 件でもっとも多くなっている。

「高位群」では、「2019.7」が平均 0.29 件でもっとも多くなっている。「中位群」では、「2019.7」が平均 0.59 件でもっとも多くなっている。「低位群」では、「2020.6」が平均 0.06 件でもっとも多くなっている。

図表 II-209 Q8-13 コロナ感染者数別 その他の問題:数値回答（平均値）



<平均値：数表>

		2019. 4	2019. 5	2019. 6	2019. 7	2019. 8	2019. 9
コロナ感染者数	全体	0.04	0.03	0.03	0.22	0.01	0.06
	高位群	0.00	0.04	0.00	0.29	0.00	0.00
	中位群	0.18	0.07	0.11	0.59	0.04	0.24
	低位群	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00

		2020. 4	2020. 5	2020. 6	2020. 7	2020. 8	2020. 9
コロナ感染者数	全体	0.02	0.04	0.09	0.15	0.05	0.09
	高位群	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00
	中位群	0.07	0.15	0.21	0.37	0.15	0.30
	低位群	0.00	0.00	0.06	0.02	0.03	0.02

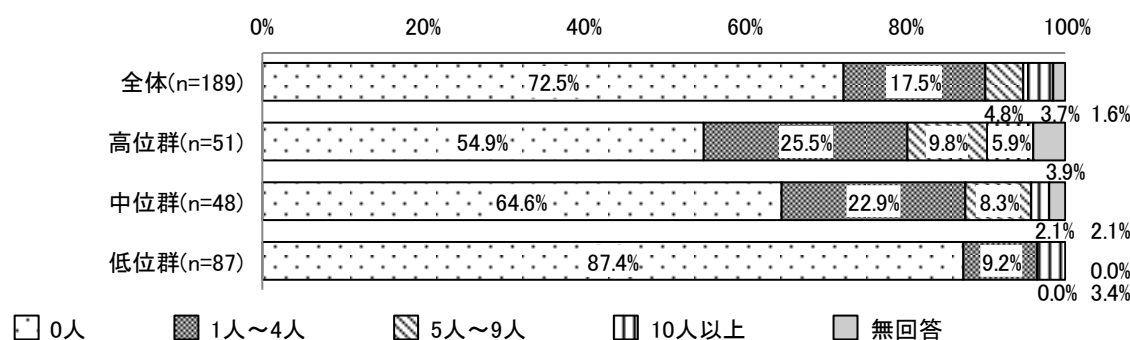
(5) 新型コロナウイルス感染防止を理由とした課題

Q9① 新型コロナウイルス感染防止を理由に、家庭訪問を断った保護者の実人数

「全体」では、「0人」が72.5%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が17.5%となっている。

「高位群」では、「0人」が54.9%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が25.5%となっている。「中位群」では、「0人」が64.6%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が22.9%となっている。「低位群」では、「0人」が87.4%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が9.2%となっている。

図表 II-210 Q9① コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染防止を理由に、家庭訪問を断った保護者の実人数:単数回答

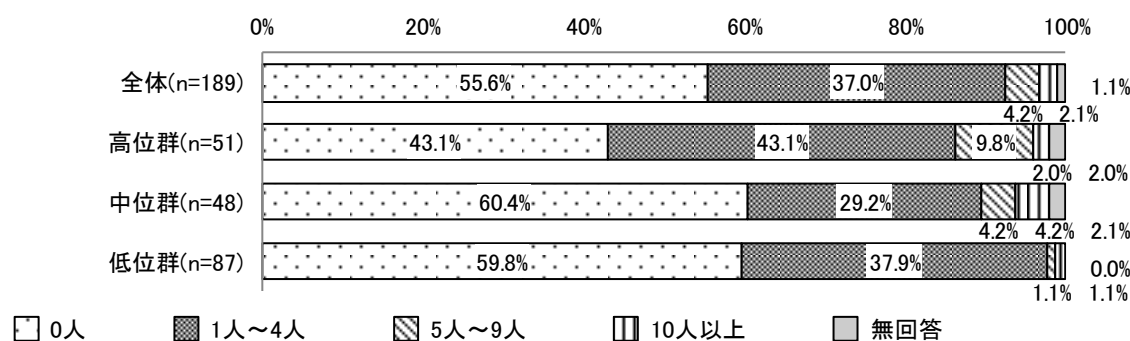


Q9② 新型コロナウイルス感染防止を理由に、登校しない児童生徒の数

「全体」では、「0人」が55.6%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が37.0%となっている。

「高位群」では、「0人」「1人～4人」が43.1%でもっとも割合が高く、次いで「5人～9人」が9.8%となっている。「中位群」では、「0人」が60.4%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が29.2%となっている。「低位群」では、「0人」が59.8%でもっとも割合が高く、次いで「1人～4人」が37.9%となっている。

図表 II-211 Q9② コロナ感染者数別 新型コロナウイルス感染防止を理由に、登校しない児童生徒の数:単数回答



3. 考察

(1) 学校調査に関するまとめ

本節では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって学校や子ども、保護者の状況がどのように変化したのか検討した。具体的には同一の質問項目に対してコロナ前、休講期間中、学校再開直後、現在と4つの時点における状況を回答してもらうことで、それぞれの変化の状況について把握した。主な結果について以下にまとめる。

1) コロナ禍における子どもの状況の変化

- ・「子どもの学校の欠席」(図表 II-145-148)はコロナ前から現在にかけて、すべての群で「多い」の割合が10ポイント近く増加した。「多い」の割合の増加幅は、高位群(9.8%→27.5%)、低位群(6.9%→16.1%)で2倍強、中位群(6.3%→18.8%)で3倍近くとなっていた。
- ・高位群では、「子どものストレス・精神状態」(図表 II-101-104)、「子どもの忘れ物の数や回数」(図表 II-54-57)、「子ども間のいじめ」(図表 II-153-156)の項目で「あまり良好でない」又は「多い」の割合がコロナ前から現在にかけて10ポイント前後増加した。

2) コロナ禍における保護者の状況の変化

- ・「保護者のストレス・精神状態」(図表 II-113-116)の「あまり良好でない」は、コロナ前の低位群(1.1%)を除いて高位群と中位群で0%であったのが、現在ではその値が高位群で11.8%、中位群で4.2%、低位群で3.4%となっており、すべての群で増加傾向が確認された。
- ・「子どもの家庭の経済状況」(図表 II-117-120)の「あまり良好でない」の割合は、高位群(3.9%→17.6%)で4倍近く、中位群(4.2%→8.3%)、低位群(3.4%→6.9%)で2倍近く増加していた。

3) コロナ禍における学校の状況の変化

- ・「保護者との連絡回数」(図表 II-177-180)の「多い」への回答は、コロナ前から現在にかけて高位群、中位群で10ポイント以上増加した。
- ・「コロナ感染防止を理由に、家庭訪問を断った保護者の実人数」(図表 II-210)における5人以上の回答の割合は、高位群で15.7%、中位群で10.4%、低位群で3.4%と、感染状況が拡大している自治体ほど家庭訪問を断れる人数が多くなっている傾向にあった。

4) 学校と他機関との連携状況の変化

- ・「他機関との連絡回数」(図表 II-185-188)では、すべての群でコロナ前から現在にかけて「多い」への回答が10ポイント前後増加した。特に高位群(13.7%→27.5%)と中位群(10.4%→27.1%)では「多い」への回答の割合が2倍以上増加していた。

5) 学校における支援状況の変化

- ・「いじめ：警察への相談・通報」(図表 II-198)、「貧困に関する問題」(図表 II-205)、「虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題」(図表 II-206)は2019年度と比べ2020年度ではどの群でも件数が増加傾向にあった。
- ・「児童虐待に関する問題」(図表 II-204)では、中位群において2019年度は4-6月にかけて件数が増

加傾向にあったのに対して、2020 年度では 4・6 月にかけて減少傾向であった。

(2) まとめ

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの変化として、どの群においても影響がみられたのが「子どもの学校の欠席」(図表 II-145-148)であった。これはコロナ前から現在にかけて「多い」と回答された割合が、高位群、中位群で 2 倍から 3 倍となっているだけでなく、低位群でも 2 倍となっていることからわかる。「保護者との連絡回数」(図表 II-117-180)が高位群と中位群において「多い」の回答が増加した結果からも、家庭と連携した子どもへのアプローチがとられるようになったと考えることができる。その一方で、「家庭訪問の回数」(図表 II-173-176)への回答がコロナ前から現在にかけてどの群でもほとんど変化していないことや、高位群ほど家庭訪問を断れる人数が増加していくという傾向が確認された。こうした結果から、家庭と連携した子どもたちへの支援が重要となっているなかで、実際に家庭の状況を把握し、家庭と連携した支援を行っていくことが、特に新型コロナウイルス感染症の拡大している地域において困難となっている実態があると考えられる。

中位群や低位群でコロナ前から現在にかけてあまり変化はみられず、高位群で変化の見られる項目も明らかとなった。例えば、「子どもの問題行動」(図表 II-149-152)、「子どもの友人関係トラブル」(図表 II-157-160)の「多い」の回答が、コロナ前から現在にかけて高位群のみ 5 ポイント以上増加していた。このような結果からも、新型コロナウイルス感染症の拡大している自治体の学校ほど、子どもたちの学校生活に与える影響が多いということを確認することができる。なお、コロナ前から現在にかけてすべての群で「あまり良好でない」への回答に 5 ポイント以上変化のみられなかった項目として、「子どもの学習意欲」(図表 II-97-100)があった。休講期間中、学校再開直後では「あまり良好でない」への回答が増加していたものの、現在においてはコロナ前とほぼ同様の値となっている。子どもたちの学習意欲については、新型コロナウイルス感染症の影響をそこまで受けていないということがわかる。

新型コロナウイルス感染症の影響から、学校と他機関との連携についても変化が確認された。顕著な変化が確認されたのが、「他機関との連絡回数」(図表 II-185-188)であった。コロナ前から現在にかけて、「多い」と回答された割合が、高位群と中位群で 2 倍以上、低位群でも「多い」の回答が 10 ポイント増加していたことから、感染拡大の状況に関わらず、他機関と連携した子どもへの支援が重要視されている状況にあるといえる。一方で、「他機関への訪問回数」(図表 II-189-192)、「制度やサービスの利用」(図表 II-193-190)への回答結果は、コロナ前から現在にかけてどの群においても大きな変化は見られなかった。こうした結果から、他機関と連携した支援を重要視する動きはあるものの、実際の制度やサービスの利用にまでは至っていない状況を確認することができる。新型コロナウイルス感染症の影響から対面を伴う実際の訪問や制度の利用が行いづらかったという状況も考えられるが、学校内における課題については、学校でまずは対処していこうとする動きがあると考えられる。

問 8 では、2019 年度と 2020 年度の 4 月から 9 月までの各種課題の認知件数や発生件数を集計しており、学校における支援状況の変化をみることができる。2019 年度と 2020 年度で変化のみられた項目がいくつか確認された。まず、認知件数や発生件数が 2019 年度よりも全体的に増加している項目として、「いじめ：警察への相談・通報」(図表 II-115)、「貧困に関する問題」(図表 II-122)、「虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題」(図表 II-123)があった。「貧困に関する問題」を除き、高位群において 2020 年度の 6 月、7 月に件数のピークがみられ、傾向として増加していることが確認された。

また、2019年度と変化の傾向が異なっていた項目として、「児童虐待に関する問題」、「貧困に関する問題」があった。例えば、「児童虐待に関する問題」では、中位群で2019年度は4月から6月にかけて件数が増加傾向にあり、6月から8月にかけて低下していく傾向にあるが、2020年度では4月から6月にかけて低下し、6月から8月にかけて増加する傾向が確認された。「貧困に関する問題」でも2019年度は4月から6月にかけてどの群でも一定の値をとっていたのが、2020年度では中位群と高位群で5月から6月にかけて増加している傾向がみられた。こうした結果から、多くの学校が休講期間であった4月5月では家庭の状況に関わる課題もみえにくくなり、認知件数や発生件数として表出していなかったものが、学校再開後や1学期の懇談などを経て家庭の状況を把握できるようになり、2019年度とは異なる増加の傾向がみられたと考えられる。

III. 総合考察

Ⅲ. 総合考察

本調査の目的は、新型コロナウイルス感染症により生じた社会システムの急激な変化による子どもの生活への影響について、2つの調査（1）新型コロナウイルス感染症の影響を検討する保護者とその子どもを対象とした調査（以下、保護者調査・子ども調査）、（2）困難を抱える子どもの対応をする機関の把握実態・対応状況の変化を検討するための調査（以下、機関調査）から検討し、政策提言を行うことである。

新型コロナウイルス感染症の到来は、突発的であり、意図的でなく発症者と未発症者を分断するという無差別性があり、身体的にはもちろんだが、それだけでなく経済的にも家族関係、対人的関係など様々な問題を社会にもたらした。これらの体験は生活の急激な変化や精神的負担、苛立ちや遺恨、または罪悪感など様々なコントロールできない感情を伴う。つまり、自然災害の発生時と同様の社会現象が生じる可能性があり、今までの様々な災害時の社会心理的分析や蓄積された知見は参考になるであろう。

こういった観点から、本調査では、トラウマケアの視点、子どもの貧困の視点で先行研究を参考に実施した。本項では、社会福祉の立場から結果に関する総合考察を行う。

1. コロナ禍の影響:メンタルヘルスの観点から

(1) 新型コロナウイルス感染症がメンタルヘルスに与える影響

重村ら（2020）は、今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックを CBRNE (chemical, biological, radiological, nuclear, high-yield explosives ; 化学・生物・放射線物質・核・高性能爆発物) 災害の一環系ととらえることができるとしている。CBRNE の特殊性として、防護服など特殊対策が必要になること、猛烈な不安や不確実性を伴うこと、実際には感染していないが感染したと自覚する人が発生し得ること、社会的混乱が生じること、政府のリスク管理が問われる事態になり得ることなどが挙げられている。そして、CBRNE 災害は、医療インフラに大きな打撃を与えるとともに、人々の心身の健康状態を悪化させ、行動の変容をもたらすとしている。すなわち、移動外出は減少を余儀なくされ、アルコール飲酒などの健康リスクを高める行動が増え、配偶者間暴力や家庭内虐待などの増加につながるとされているのである。

一般的に、新型コロナウイルス感染症パンデミックとその結果についての特徴として、①心的外傷（トラウマ）となりうること、②予測不能であること、③制御不能であることが挙げられているが（Denckla et al., 2020）、これらはいずれも長期的に人々の心身の健康に大きな影響を与える可能性があるものである。

実際に、新型コロナウイルス感染症が一般人口のメンタルヘルスに与える影響についてのメタアナリシスでは、人々の不安症状、うつ症状、PTSD 症状、心理的苦悩やその他のストレス症状が増悪することが報告されており、そのリスク要因として、女性や若年令者、精神疾患を有する人達が挙げられている。また、感染者とその家族や関係者、医療従事者などとともに、もともと不良な社会経済的状態にある人や心身の健康不全を抱えている人、ソーシャルサポートが乏しい人なども、新型コロナウイルス感染症の影響を被りやすい高リスク集団として挙げられている（Shigemura et al., 2020）。

(2) 今回の調査結果についての考察

今回の大規模調査の結果を見ると、さまざまな観点から、新型コロナウイルス感染症が子どもや親、お

よび、子どもの支援機関に大きな影響を与えていることがわかるが、ここでは、主にインターネットによる親子調査の結果をもとに、メンタルヘルスの観点から考察する。

①子どものトラウマと PTSD 症状

トラウマとは、個人の力では対処できないくらい圧倒的な出来事を体験した時に被るストレスのことであるが、今回の新型コロナウイルス感染症は、まさに子どもにとって、トラウマとなり得る出来事である。今回の調査では、新型コロナウイルス感染症に関連したトラウマとなりうるできごとと子どもの PTSD 症状について、簡易な質問紙尺度（UCLA 心的外傷後ストレス障害インデックス新型コロナウイルス感染症対応短縮版）を使用して調査している。本来は、すべて子どもから回答を得るべきものであるが、今回は全体の質問量の関係から、トラウマとなりうるできごとに関しては親に回答してもらい、PTSD 症状については子どもから回答を得るという変則的な構成になっている。そのため、結果の解釈には慎重でなければならないが、少なくとも約 10%の子どもが最低 1 個の新型コロナウイルス感染症関連のトラウマとなりうるできごと（子ども自身が感染、子どもにとって大切な人が隔離または陽性あるいは死亡、子どもにとって大切な人がコロナ関連の仕事をしているなど）を体験していた。これは、2002～2006 年に一般住民を対象に実施された世界精神保健日本調査における、「命にかかわるような病気」または「自宅での暴力の目撃」の体験率と同程度であり（Kawakami et al., 2014）、今後のメンタルヘルス対策を考える上で無視できないポイントである。

また、これらの体験を有している子ども 101 人のうち、何らかの PTSD 症状があると回答した子どもは 93.1%にも上り、PTSD の可能性が高いとされた子どもは 17.8%であった（図表 III-1）。これは、児童青年のトラウマ体験と PTSD の関係を調査したメタアナリシス（Alisic et al., 2014）において、性的虐待などの対人間トラウマを体験した女子の PTSD の発症率とほぼ同等の値である。本調査において、低年齢の子どもは、質問の意味を十分に理解して回答したかどうかは疑問であるが、少なくとも、今回の新型コロナウイルス感染症が子どものこころにトラウマとなるような大きな影響を及ぼした可能性が示唆された。

図表 III-1 新型コロナウイルス感染症関連のトラウマとなりうるできごとが 1 つ以上あった子どもの PTSD 症状

	度数	割合
レベル0	7	6.9%
レベル1:わずかなストレスレベル	42	41.6%
レベル2:軽いストレスレベル	34	33.7%
レベル3:重いストレスレベル	18	17.8%
合計	101	100.0%

②親のメンタルヘルス

K10 を用いて親のメンタルヘルスを調べた項目では、平均 8.02 点（標準偏差 8.3）で、平常時の一般住民の平均値 5.8 点（標準偏差 6.1）（川上ら，2005）よりも高い値を示していた。また、気分障害や不安障害のおそれがあるとされる 15 点以上のハイリスク集団は 19.25%だった。先行研究では、新潟県十日町市で 2011 年に発生した震度 6 弱の地震後の 40 歳以上の成人を対象とした調査で 15 点以上のハイ

リスク者が 9.1%と報告されており (Tachibana et al., 2014)、それと比べてもかなり高値であった。

一方、子どもの回答が得られた親のみに絞って K6 の項目を抽出して算定したところ、平均値は 5.15 点 (標準偏差 5.52) で、平常時の一般住民の平均値 3.5 点 (標準偏差 3.8 ; 川上ら, 2005) よりも高値であり、新型コロナウイルス感染症流行地の成人を対象とした先行研究 (Yamamoto et al., 2020) とほぼ同等の値を示していた。また本調査では、心理的ストレスが高いとされる 5~9 点が 23.7%、気分障害や不安障害の恐れがあるとされる 10~12 点が 8.2%、重症障害相当とされる 13 点以上が 11.6%であり、国立成育医療研究センター (2020) によるほぼ同時期の親子調査と同様の結果であった。これらは、2019 年の国民生活基礎調査の値よりもはるかに高値だった。

いずれにせよ、今回の調査では、新型コロナウイルス感染症流行下において、親のメンタルヘルスは、平常時の成人のメンタルヘルスよりも悪化しており、先行研究と同様の状態にあることが裏付けられた。

③子どものメンタルヘルスに影響を及ぼす要因

本調査のクロス集計の結果から、子どものストレスレベルと有意に関係していた因子は、「障害手帳の有無」と「親のメンタルヘルス」であった。また、「親の勤務状態の変化」が親のメンタルヘルスや子どもの PTSD 症状に有意に影響を与えていることも示された。さらに、「親身になってくれる人」「思いやってくれる人」「気分転換をさせてくれる人」「情報を教えてくれる人」「留守を頼める人」など親をサポートしてくれる人の存在が、子どものさまざまな困り感を低減させることが明らかになった。

これらの結果は、もともと何らかの脆弱性を有する人たちにより大きな悪影響が及ぶ可能性や、親のメンタルヘルスが子どもに多大な影響を与えること、さらには、親へのサポートがひいては子どもの苦悩を軽減するという、これまでの先行研究の結果 (Shigemura et al., 2020) を裏付けるものであった。

(3) 今後の支援について

新型コロナウイルス感染症の公衆衛生対策で重要なことは、精神健康に有害であることが知られている 3 つの要因、すなわち、①恐怖、②社会的孤立、③スティグマへの配慮であると言われている。WHO は新型コロナウイルス感染症の感染予防と身体健康を守るために、「Do the Five」を提唱し、広く一般の意識を高める取り組みをしているが、メンタルヘルス対策においても同様の取り組みが必要であると考えられている。ハーバードの TH チャン公衆衛生学校では、トラウマ理論やエビデンスに基づいた災害メンタルヘルスの考え方をもとに、次のような「メンタルヘルスのための REACH」を提唱している (Denckla et al., 2020)。

① 問題に気づくこと (Recognize the problem)

パンデミックは非常にグローバルにストレス・恐怖・不安を広げる。

② 社会的セーフティネットの拡大 (Expand the Social Safety Net)

経済的及び社会的影響から人々を守ることでパンデミックの精神健康への悪影響が低減する。

③ 最もリスクの高い人達への支援 (Assist Those Most At Risk)

DV 家庭や特別なニーズを有する子ども、以前から精神的問題を有する人や孤立状態にある人達への支援が重要である。

④ レジリエンスを育成する (Cultivate Resilience)

集団レベルでの心理的応急処置 (サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引

き第2版)などのエビデンスに基づいた戦略を普及させることが必要。

⑤ 共感力を持つ (**Have Empathy**)

自分自身や他人、家族、隣人へのやさしさを積極的に示すことで、自分自身のストレスだけでなく、周りの人のストレスも軽減することができる。

さらに、ヨーロッパ・トラウマティックストレス学会は、安全性・信頼性と透明性・協働とピアサポート・エンパワメントなどを中心価値とするトラウマインフォームドケア (亀岡ら, 2018) の取組みが、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下においても必要であるとしている。メンタルヘル스에 深刻な影響を及ぼす可能性のある新型コロナウイルス感染症に対応するためには、トラウマに関連した問題意識を高め、再トラウマ化を回避し、予防を強化することが、新型コロナウイルス感染症の被害を受けた個人・家族・地域・社会の回復力を支えるために重要であると考えられているのである (Javakhishvili et al., 2020)。

本調査においても、新型コロナウイルス感染症が、わが国の親子のメンタルヘル스에 甚大な影響を及ぼしている実態が示されたことから、今後、わが国においても同様の対応が必要とされていると思われる。

参考文献

- Alisic, E, Zakta, AK, van Wesel, F, et al. Rates of post-traumatic stress disorder in trauma-exposed children and adolescents: meta-analysis. *British J of Psychiatry*, 204:335-340, 2014.
- アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワーク, アメリカ国立 PTSD センター「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版」兵庫県こころのケアセンター訳, 2009年3月.
(<http://www.j-hits.org/>)
- Denckla, CA, Gelaye, B, Orlinsky, L, et al. REACH for mental health in the COVID19 pandemic: an uegent call for public health action. *European Journal of Psychotraumatology*, 11(1), 2020.
- Javakhishvuli, JD, Ardino, V, Bragesjo, M, et al. Trauma-informed responses in addressing public mental health consequences of the COVID-19 pandemic: position paper of the European Society for Traumatic Stress Studies (ESTSS). *European Journal of Psychotraumatology*, 11(1), 2020.
- 亀岡 智美, 瀧野 揚三, 野坂 祐子他. ト라우マインフォームドケア: その歴史的展望. *精神神経学雑誌*. 120: 173-185. 2018.
- 川上憲人, 近藤恭子, 柳田公佑. 成人期における自殺予防対策の在り方に関する精神保健的研究. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金 (心の健康科学研究事業). 「自殺実態に基づく予防対策の推進に関する研究」分担研究報告書.
- Kawakami, N, et al. Trauma and posttraumatic stress disorder in Japan: Results from the World Mental Health Japan Survey. *J Psychiatr Res*, 53: 157-165, 2014.
- 国立成育医療研究センター. コロナ×こどもアンケート第3回調査報告書. 2020.
http://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/finreport_03.html
- 重村淳, 高橋晶, 大江美佐里他. COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて. *トラウマティック・ストレス*, 18(1): 1-9, 2020.

- Shigemura, J, Ursano, RJ, Morganstein, JC, et al. Public responses to the novel 2019 coronavirus 2019-nCoV) in Japan: Mental health consequences and target populations. *Psychiatry Clin. Neurosci.*, 74: 281-282, 2020.
- Tachibana, A, Kitamura, H, Shindo, M, et al. Psychological distress in an earthquake-devastated area with pre-existing high rate of suicide. *Psychiatry Res*, 30(2): 336-40, 2014.
- Yamamoto, T, Uchiumi, C, Suzuki, N, et al. The Psychological Impact of 'Mild Lockdown' in Japan during the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Survey under a Declared State of Emergency. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 17, 2020.

2. コロナ禍の影響:社会福祉の立場から

(1) 本調査の特徴

新型コロナウイルス感染症による生活の変化は、2020年1月末の発症以来、4月からの緊急事態宣言を経て、1年を経た2021年1月に再度の緊急事態宣言が発出されるに至っている。この波のなか、子どもを取り巻く生活は大きく変化し、今までの生活が当たり前ではなくなった。そして、生活の苦しさが多岐にわたる角度で報道されている。しかし報道は、当然ながら許可が得られるところであるため、ある意味では偏ったものとならざるを得ない。つまり、公的な機関や相談の実態は一般社会には見えにくい。広く社会に示されるのは、熱心に取り組むNPOや地域、企業などにフォーカスされることになる。現在の報道から、日本の子ども家庭福祉行政は何も対応できない存在なきものかと思わされるような愕然とする実態が示されている。

そこで本調査は、まずは可視化されにくい子どもにかかわる公的機関における支援の実態に関して、点ではなく線として把握できるように、コロナ前後として、長時間の経緯を網羅的に把握することを目的とした。児童相談所と一時保護所、市町村の母子保健部門、児童相談・母子相談部門、教育委員会と学校などの機関の実態と対応状況の変化を把握した。人口規模別にも分析を行ったが、さらに2020年9月末時点の都道府県別コロナ感染者数（人口10万人あたり累計）をもとに、都道府県を感染者数高位群／中位群／低位群の3つに区分し分析を行った。コロナが始まって1年であり、公的な援助機関の実態を可視化することは意義があると考えられる。

保護者と子どもの調査も様々に行われつつあるが、子どもの年齢ごと・年収ごとに分析したことも特徴的であろう。発生後1年たない時期であることの課題も存在するが、この時期に大規模調査を行い、すでに問題視されていることも含め明確に可視化したことの意義は大きい。

(2) 子どもや家族に与える影響

今回の調査は「大阪府子どもの生活に関する実態調査」（大阪府立大学、2017）の項目を多く活用したが、どの項目もすべてにおいて年収の差が明確に表出したという、全数把握スタイルの「大阪府子どもの生活に関する実態調査」の特徴とは違ったが、コロナ禍であることはどの家庭にも広く影響を与えているという、さらに深刻な状況ともいえる実態が明らかになった。詳細は、各章に記載があるため、ここでは省くが、以下の3点に焦点化し取り上げる。

①見えないリスクの高さ

今回の結果から、テレワークや休職、失業による、配偶者・パートナーと過ごす時間あるいは学校が休校や活動制限が生じて、子どもが家で過ごす時間が増え、家族に変化が生じたと考えられる。例えば、保護者調査では家庭の中で精神的・身体的・その他の負担が増えた割合が4割弱となっている。また子ども調査では、高いストレスを抱える子どもが約6割という危機的な状況が示された。経済状況や不本意な在宅生活が、家庭内不和を起こす可能性が高く、それは様々なところに影響することも明らかになった。このことは、すでに世間で言われていることではあるが、4割から6割と高い割合を可視化したことは、危機が迫っている実感を持ちやすいであろう。

また障がいを持つ子どもがいる世帯の子どもは、障害を持つ子どもがいない世帯の子どもに比べてストレスレベルが高く、リスクが存在することを認識する必要がある。

②子どもの生活に関する困り感

ストレスの根源となっている可能性のある、困りごとを見てみると、保護者は勤務状況の変化等で精神的負担がある中で、子どもの「食事の状況」「生活リズム乱れ」「学業の遅れ」などに4～5割の保護者が心配している。子どもも同様にこれらの項目に困っていた。これらはおおむね一致しているが、親の方が子どもより困り感が高かった。逆に子どもの方が、困り感が高かった項目は、学校で過ごしていた時間に自宅で過ごすことになり、自宅で親が不在になっている時間をどのように過ごしていいか自身の居場所に不安を持っていたこともわかった。

精神的には、子どもの集中できないことや何かのきっかけで思い出すと、すごくいやな気持ちになる、恐ろしくなる、悲しくなるというような反応を感じている子どもが「ごくたまにある」や「時々ある」というレベルで30%ほど存在した。これらの反応は、子どもが明確に意識化しないことであり、これから先にどのような影響をもたらすのか非常に懸念が感じられる。

また学校に行きづらいと感じた子どもは3分の1をしめ、声にならない子どもたちの悲痛な叫びととらえられよう。

③つながりに関して

保護者の分析を通じて、世帯年収は夫婦間の信頼感に影響を与えていること、夫婦間の信頼感は子どもが感じる家庭関係の変化に影響を与えること、保護者を支える人がいるかどうかは、子どもの困りごとに影響を与えることがわかった。つまり保護者のソーシャルサポートや家族に信頼関係が存在する場合、子どもも感情の安定につながることが明らかになった。このことは、親の心身ともに健康であることが子どもとのかかわりに影響を与え、それが子どもの自己肯定感に影響し登校意欲につながっていくという大阪調査の結果（山野，2019）とつながるものであった。また、コロナ禍における保護者の「精神的健康」と「孤立」そして「世帯年収」とが関連していた。これも先行調査の同様の結果であった。

(3) 関係機関調査から見えること

ここでは、コロナ前、休校期間中、コロナ後という時点比較を行うことや、虐待相談や就学援助など、申請月があり増減の揺れが激しい項目も想定されるため、1年前の同じ月と比べる方法をとった。そして、学校や保育園等の休校や休園措置の影響、情報照会、連携体制などを確認し結果を示してきたことに関して横断的に考察を行う。さらに児童相談所のみ質問内容に少し違いがあるが、3つの時点で同じように設問し分析を行った。

①支援機関の活動推移について

コロナ禍において、どの機関も災害時と同様に、ケース対応は休校による影響など一定期間減少し、その後増加するという傾向が明らかになった。各相談部門、相談内容によっては減少のまま戻らないなどの違いも生じた。この中でもっとも懸念されることは、すべての子どもが対象の健診業務や全戸訪問事業への影響である。これらは、子どもの発達段階に応じて決められた時期に行う必要があり、時期がずれると意味がない。つまり単に日を延ばせばいいということではなく、時期を外したことによる、しわ寄せがのちの子どもに生じることにともなる、重要な問題である。これは予測可能なため、止まることが生じてても可

能な方法を踏まえておくなど対策が必要である。

相談内容で特徴的だったのは、児童虐待相談である。児童相談所は、昨年と比較して数字が下がっており、ほかの機関のような一旦下がってまた昇るような動きをしない。そもそも児童相談所はパンク状態であり、コロナに特別に対応できていないことがうかがえる。

また極めて特徴的だったのは、学校である。今回の調査対象は相談機関や相談部門であるため、学校とは違った点もある。そのなかで学校は、子どもが直接出向く身近な機関としてデータは明確で、保護者・子ども調査と合致する。つまり不登校の増加が明らかであった。このことは子ども調査の子ども本人のデータがあらわすことと矛盾がない。

②相談内容の傾向について

学校や支援機関では、様々に訪問を伴う作業（学校の家庭訪問、保健所における事業など）を実施しているが、コロナによる自粛によって、活動は余儀なく延期されたり、中止されたりした。これは、孤立しがちな保護者や子どもに会話する機会や勇気づける機会を逃したことになる。気になる子どもたちをキャッチできず、結果的には見えないところで、子どもたちのストレスが高くなっていくことを放置せざるをえなくなったものと考ええる。

教育委員会において休校期間中から相談件数が増加したのは、児童虐待に関する問題、貧困に関する問題であり、7月に明らかに貧困問題が多かったことは、文部科学省による「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』の事業が6月にかけて本格的に実施されたことが大きい。児童虐待や貧困問題が増加傾向に動いたことは、コロナの影響があつて、変化したと考えられる。しかし、いじめや暴力行為の現象などほかの問題にしわ寄せがいったのではないかという懸念もある。例年の文部科学省学校基本調査で出される暴力行為はおおむね校内暴力であることから、休校期間中は、この数値がなくなるのも当然である。子ども調査における、ストレスを抱える子どもたちが約6割であったことを踏まえると、学校で行動化していた子どもたちが家庭のなかで何等かにストレスをため込むことになったことが想像できる。特に発症数の多い高位群では、いつものように児童虐待数が増加せず、低位群ほど増えないなどからコロナによる影響で見えなくなったケース、拾えなくなったケースが存在するのではないかと懸念される。

児童相談所では、身体的虐待相談が増加し、ほかの種類の児童虐待相談は減少傾向であった。児童相談所における子どもの問題の特徴的なこととして、ゲーム依存の相談、性的な問題、DVに関係する虐待相談が増えたことであった。さらに精神的にしんどさを感じている保護者が増えた。人口規模が多い高位群の自治体は、その傾向が顕著で、3時点のどこをとってみても、精神的しんどさを持つ父親は約30%、母親は約50～60%と母親の方が多い。それは保護者調査の結果からも母親の子どもの休校期間のストレスをみれば理解できる。

③連携について

学校における相談件数が2020年4月、5月と少なかったのは、休校期間中であり、明らかに学校は子どもが通っているという意味の機能はしておらず、子どもの実態が把握できなかったためである。警察が増えているのは、警察は一般に通報されやすく、学校が機能しない時期に地域やほかから警察につながったのであろうことがうかがえる。

また、休校期間中から学校再開後にかけて、学校では他機関との連絡回数がいずれの群においても増加

していたことから、学校側から他機関と連携する意識が新型コロナウイルス感染症の拡大によって高まっているといえる。さらに、学校が今までほぼ連携してこなかった保健所と連携が始まったことは、コロナ禍だからこそ起きたことであろう。今後コロナにかかわらず関係性が発展していくことに期待したい。

(4) 今後の支援について

今回、保護者子ども調査と機関調査によって、コロナによる影響の実態が明らかになった。一つ目は、広く子どもたちのストレス発散ができなかったことである。それによる問題が発生している、あるいは、する可能性が大きい。例年、問題行動調査において明らかにされるが、調査の暴力行為のなかでは、9割以上は学校でおきる暴力行為であることと、今回の3割強の子どもたちが高いストレスを抱えていること、コロナ禍での居場所に困っていたことを鑑みると、関連している可能性がある。つまりストレスを行動化する場所も機会も持てなかった子どもは、ゲーム依存や性的な問題として、見えにくい方向へと形を変えたことと考えられる。親のストレスや精神的負担の高さからもこれらの問題行動が見えにくい、これからも発生率が高いと考えられる。

二つ目は、コロナ禍においてはストレスが内面に向かい、保護者も子どもも孤立していくことである。親の影響を多く受けているがゆえに、このストレスが自身の内側に向かうことも懸念される。警察庁によると、去年1年間に自殺した人は、速報値2万919人で、過去最少だった一昨年より750人、3.7%増えた。

先行研究ではすでに、コロナ禍による子どものストレスに対する認識に有意な関係が見出されている(Russell et al., 2020)し、うつ症状とスマートフォン依存・インターネット依存、親の問題と関連も明らかにされている(Duan et al., 2020)。つまり、ストレス発散とインターネット依存は、コロナとの関連においてかなり注視すべきであろう。

三つ目は、支援機関においては、平時から、自然災害や新型コロナウイルス感染症のような緊急時においても対応できるような人員体制と支援体制を検討すべきことである。緊急事態宣言下においても乳児家庭訪問事業、養育支援訪問事業、乳児健康診査などの母子保健部門では、いずれの自治体も可能な限りで事業を継続し、特に6月以降に訪問数や受診人数を大幅に増やすなどの対応がされていた。他方、今回のコロナ禍の対応において、児童相談所一時保護所においては、時間外勤務が増加し疲弊している職員の状況が明らかとなっている。すべての子どもが対象の健診業務や全戸訪問事業が縮小される、受診の時期を外したことによる、しわ寄せがのちの子どもに生じることにならないように、事業が止まることが生じても可能な方法を踏まえておくなど対策が必要である。

以下、政策として提案を行う。

① 貧困問題への対応

今回の結果でも様々な給付金などの制度（例えば、「令和2年度子育て世帯への臨時特別給付金」、「ひとり親世帯臨時特別給付金」など）を創設しても使用されない、多くはつながらなかった。制度を作るだけでは意味がなく、制度の方に必要な子どもに活用される仕掛けが必要である。さらに様々な制度創設者や支援者ですら存在する受給者に関する偏見や自己責任論の視線は未だ存在しており、これらを払拭する政府からの理念や価値の提示など働きかけが必要なほどである。こういった世間の壁があることが元々自身から積極的につながりにくい必要な人たちがさらにつながろうとならないことが今回の調査で

も明らかになった。例えば、一部の自治体で取り組んでいるという高校奨学金の一部自動化なども取り入れるべきである。また学習支援は意欲引き上げ支援から奨学金申請、学業に励むなど一連の動きがあり、意欲引き上げから支援として位置づけ、ジョブコーチのように伴奏できるエデュ・コーチのような創設も必要であろう。

②子どものリスクを発見する仕組み

必要な子どもをキャッチアップするために、すでに開発し文部科学省がホームページ（文部科学省・山野研究室，2020）上でも掲載され推奨されているスクリーニングの導入（山野ら，2020；山野ら，2021）を制度化することを提案する。日々日常の些細な気付きを入力し、忘れ物、遅刻、諸費滞納など横断的に確認しながら学校職員（専門職を含む）で議論し、支援方策を決定するという、発見、方向性の決定、支援の実施（意欲引き上げ支援から意識したもの）がスムーズにできるように行うものである。リスクのある子どもにはアラートが出る仕組みである。これを AI 化することが始まりつつあるが、自動で必要な子どもがピックアップでき、学校職員にアドバイスするようなシステムを提案する。

カナダオンタリオ州は、州内の自治体と協調し必要な住民が支援を受けやすいシステムへの移行プログラムを公表した。具体的には前線のワーカーは就労プログラムや技術支援、子育て支援につなげる活動に注力し、州自体の支援申込・支払いシステムをより素早く簡便なものとする事で、新型コロナウイルス感染が危惧される状況下でも継続的な支援が可能になることを企図している。

③福祉行政と教育行政の連携のデジタル化について

福祉分野と教育分野において情報を共有して確認できたり、利用できたりする DX 化を行う必要がある。多忙で無駄な働き方を改革し、事務作業は最小限の力として教員や福祉の専門家の知恵を出し合うところは生かしていくことを推奨したい。内閣府においてこの教育と福祉の壁や教育や福祉現場におけるデータへの抵抗感を払拭させる制度構築が検討される予定である。法改正含め、子どもの最善の利益のために、今後に期待したい。

イギリスでは同じデータを関係機関で共有し、データのみ共有しているのであって、関係機関で連携会議を行っているわけではない。効果もすぐに確認でき、お互いに頑張るモチベーションになるし、成功した方法の共有にもなっている。

④オンラインカウンセリングなどの導入

新型コロナウイルス感染症においてオンラインがかなり広まったことで、ストレスなく気軽に相談できるツールとして、オンラインカウンセリングも考えられるであろう。すでにアメリカカリフォルニア州の一部で導入され、感染拡大後に素早くオンラインカウンセリングに切り替えることで、ケアが必要な子ども・家庭、そこにおけるストレスへの対応を新型コロナ感染拡大後も継続的に行っている。

⑤地域資源の活用

このようななかで、注目すべきこととして、コロナ禍の食事支援が難しく打撃を受けるなか、子ども食堂の活動がどうすべきか悩みながら、新たな動きとして宅配を多くのところで開始し、子ども食堂自体の個所数が増加していた。これは見えない貧困や孤立に世間の関心がコロナによって高まり、人々の主体性

を動かしたと考えられよう。こういった地域密着した支援は先述した孤立へのケアに有効であり（沖縄県・大阪府立大学，2019）、今後、貧困対策だけでなく孤立対策にとっても重要な施策となるであろう。また本人からなかなか動き出せない点については、アウトリーチによる支援展開を幅広く実施する必要がある。これもすでに先行研究は存在し（沖縄県・大阪府立大学，2019）、家庭訪問による支援によって就学援助や無料塾につながり、支援に結びついた多さがわかる例がある。

せっかく様々な素晴らしい取り組みがなされているが、必要な子どもに活用されないというミスマッチも起きており、子ども食堂のような地域密着の取り組みをネットワーク化することで主体性をアップし持続可能なものにする仕組み、スクリーニングのような学校と地域をつなぐ仕組みが必須であろう。誰もがふらっと立ち寄れる場を増やし、そこにしっかりつなぐ仕組みが必要である。こうした貧困対策と以前さかんであった児童虐待予防の方策である子育てサークルのネットワーク化などと必要な仕組みは基本同じような点が多く、先行事象に学ぶべきであろう。

最後に、本調査における限界について触れる。保護者・子ども調査については、今回の厚生労働科学研究特別研究の半年という限られた期間のなかで、インターネットで実施したため、全数把握の形で実施した「大阪府子どもの生活に関する実態調査」などとは違い、年収の低い方が多くアクセスしていないことが限界といえる。また、もう1点は、機関調査では、国で行われている調査を参考に調査票を作成したが、全国1,750ほどの自治体は様々で、自治体によっては実態とずれが生じ、回答がしづらいものがあったと思われる。先述したように、半年という非常に短い調査期間との兼ね合いで調査票の検討に時間をかけることができない等、調査の限界があった。

付記 本調査を実施するにあたり、多くの方にご協力をいただきました。ここに、心より感謝の意を表します。調査対象者の皆様方には、新型コロナウイルス感染症対策のご多忙のところを、調査配布、回収にご協力いただきました。非常に高い回収率を得ることができたことは皆様方のご協力の賜物です。最後になりましたが、ご回答いただいた調査対象者の皆様にあらためて深く感謝いたします。

参考文献

文部科学省（2020）．令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

総務省．第32次地方制度調査会第25回専門小委員会．
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/singi/chihou_seido/singi/02gyosei01_03000176_00043.html
（2021年3月4日閲覧）

Government of Ontario. Ontario working with municipal partners to improve social assistance.
<https://news.ontario.ca/en/release/60316/ontario-working-with-municipal-partners-to-improve-social-assistance>. February 11, 2021（2021年3月4日閲覧）

Duan, L, Shao, X, Wang, Y, Huang, Y, Miao, J, Yang, X, and Zhu, G (2020). An investigation of mental health status of children and adolescents in China during the outbreak of COVID-19. *Journal of Affective Disorders*, 275:112 – 118.

Russell, B, Hutchison, M, Tambling, R, Tomkunas, A, and Horton, A (2020). Initial Challenges of

Caregiving During COVID-19: Caregiver Burden, Mental Health, and the Parent–Child Relationship. *Child Psychiatry & Human Development*, pages 1–12.

山野則子（2019）．子どもの貧困調査．明石書店．

大阪府立大学（2017）．大阪府子どもの生活に関する実態調査．公立大学法人大阪府立大学．

沖縄県・大阪府立大学（2019）．平成 30 年度沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート調査報告書．公立大学法人大阪府立大学山野則子研究室．

文部科学省・山野則子研究室（2020）．スクリーニング活用ガイド～表面化しにくい児童虐待、いじめ、経済的問題の早期発見のために～．公立大学法人大阪府立大学山野則子研究室．

山野則子・石田まり・山下剛徳（2020）．学齢期における子どもの課題スクリーニングの可能性．社会問題研究．69(148): 1-11.

山野則子・小倉康弘・石田まり（2021）．見えない貧困，子ども虐待などを背景にした子どもへの支援システム作り．教育システム情報学会誌．38(1): 31-41.

Ⅲ. 資料

1. 調査票：教育委員会調査

令和2年度厚生労働行政推進調査事業（厚生労働科学特別研究事業） コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究

市町村調査：教育委員会

本調査は、厚生労働省特別研究の一環として、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会生活の急激な変化の下、子どもの生活・またその公的支援体制への影響を明らかにし、政策提言を行うことを目的としております。本調査では、児童相談部門、保健福祉部門、教育部門に共通項目も含めてお伺いしております。業務のご多忙の折に大変心苦しいですが、日々子どもたちのために働く皆様のご苦労や思いを受け止め、政策に反映されるよう、少しでも可能な範囲で調査にご協力を賜りたく存じます。なお、貴部局でのご回答が困難な場合は、管轄部局に参照の上でご回答をお願い致します。ご回答いただきました調査票データの取り扱いには、個人情報の漏洩に伴う不利益を生じないよう厳重に管理し、本件委託業者とは「個人情報に関する覚書」を取り交わすなど、個人情報の保護に最大限の配慮を致します。本調査により得られた情報は、上記特別研究完了に伴う研究報告書、論文・学会発表等の研究目的以外に使用されず、研究における使用の際には個人が特定されないような記述を行う等、取扱いに関しても細心の注意を払います。調査票へのご回答の中断・再開が可能であり、ご回答を控えたいと感じになった場合には、無理にご回答を要求するものではありません。本調査票への回答を以て、本調査へのご協力に同意を頂いたものとさせていただきます。その他本調査票に関してご質問等ございましたら、下記のお問い合わせ先にてお受け致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先：大阪府立大学 人間社会システム科学研究科
山野則子研究室
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
電話：072-254-9783
E-mail: eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp

提出期限 2020年12月4日（金）】

回答者様の職種・役職	回答欄→	
------------	------	--

問1. 貴自治体の規模について、1～7のうち該当する数字を回答欄にご記入ください。

1. 政令指定都市
2. 中核市（児童相談所設置あり）
3. 中核市（児童相談所設置なし）
4. 1～3以外の人口10万人以上の市
5. 人口10万人以下の市
6. 町
7. 村

回答欄 数字)→

図表 Ⅲ-1 市町村調査：教育委員会調査票

問2. 貴自治体において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校・休園措置があったかどうか、下記にご回答ください。
 ※回答が難しい場合には「8. 不明」をご入力ください。

1. あり
 2. なし
 3. 不明

回答欄 数字)→	公立小・中学校	
	幼稚園	
	認定こども園など	

問3. 他機関・他部局との連携体制についてお聞きします。

①新型コロナウイルス感染拡大前 ②休校期間中 ③学校再開後における、貴部署あるいは貴職からみた以下の他機関・他部局との連携体制について、該当する数字をご記入ください。

※休校措置をとっていない場合は、①③のみご回答ください。

	まったく行わない	あまり行わない	行う	頻繁に行う	(本人兼務など) 非該当	回答欄 数字)			変化の主な背景・要因等がありましたら ↓にご記入ください
						①コロナ前 (～2020年2月)	②休校期間中 2020年3月～)	③学校再開後 2020年6月頃～)	
記入例) A 機関との連携	1	2	3	4	5	4	2	2	
1-1. 学校との連携	1	2	3	4	5				
1-2. 学校への情報照会	1	2	3	4	5				
2-1. 母子保健部局との連携	1	2	3	4	5				
2-2. 母子保健部局への情報照会	1	2	3	4	5				
3-1. 児童相談部局との連携	1	2	3	4	5				
3-2. 児童相談部局への情報照会	1	2	3	4	5				
3-4. 女性母子相談部局との連携	1	2	3	4	5				
3-5. 女性母子相談部局への情報照会	1	2	3	4	5				
3-6. 保育部局との連携	1	2	3	4	5				
3-7. 保育部局への情報照会	1	2	3	4	5				
4-1. 警察との連携	1	2	3	4	5				
4-2. 警察への情報照会	1	2	3	4	5				
5-1. 児童相談所との連携	1	2	3	4	5				
5-2. 児童相談所への情報照会	1	2	3	4	5				
5-3. 児童相談所からの専門的助言	1	2	3	4	5				
5-4. 児童相談所からのバックアップ	1	2	3	4	5				

図表 Ⅲ-1 市町村調査：教育委員会調査票（続き）

問4-1. 貴委員会における支援状況についてお聞きます。
 2019年1月～9月・2020年1月～9月それぞれの1ヶ月間について、以下の項目の数をご記入下さい。
 ※人数等が0の場合は0とご記入下さい。また回答が難しい箇所につきましては空欄として下さい。

		回答欄 数字)																	
		2018年度			2019年度						2019年度			2020年度					
		(2019年)			(2019年)						(2020年)			(2020年)					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1. いじめ	認知件数																		
2. 出席停止措置	件数																		
3. 長期欠席者 病気)	人数																		
4. 長期欠席者 経済的理由)	人数																		
5. 不登校	人数																		
6. 暴力行為 小学校)	発生件数																		
7. 暴力行為 中学校)	発生件数																		
8. 不登校に関する相談	相談件数																		
9. 学業・進路に関する相談	相談件数																		
10. 家庭に関する相談	相談件数																		
11. いじめを除く友人関係に関する相談	相談件数																		
12. 教職員との関係をめぐる相談	相談件数																		
13. 児童虐待に関する問題	対応件数																		
14. 貧困に関する問題	対応件数																		
15. 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題	対応件数																		
16. 心身の健康・保健に関する問題	対応件数																		
17. 発達障害等に関する問題	対応件数																		
18. その他の問題	対応件数																		
19. 就学援助	申請者数																		
	受給者数																		
20. 高校生等奨学金	申請者数																		
	受給者数																		

* これらの調査項目は、文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」や「SSW 活動報告フォーム」などを参考に作成しております。

図表 Ⅲ-1 市町村調査：教育委員会調査票（続き）

問4-2. 支援人材についてお聞きます。

①スクールカウンセラー

1. いる

2. いない

回答欄 数字)→

②スクールソーシャルワーカー

1. いる

2. いない

回答欄 数字)→

問5. その他, 新型コロナウイルス感染拡大の前後で状況が大きく変化したとお感じになる点や困っていることについてご自由に記述して下さい。

--

図表 Ⅲ-1 市町村調査：教育委員会調査票（続き）

2. 調査票：学校調査

令和2年度厚生労働行政推進調査事業 厚生労働科学特別研究事業) コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 学校調査

本調査は、厚生労働省特別研究の一環として、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会生活の急激な変化の下、子どもの生活・またその公的支援体制への影響を明らかにし、政策提言することを目的としております。コロナ禍の貴校における状況を率直にお答えいただきたく存じます。業務の多忙の折にご協力を賜ることを大変心苦しく思いますが、日々子どもたちのために働く皆様の御苦労や思いを受け止め、国の政策に反映されるよう、少しでも可能な範囲で調査にご協力賜ることをお願い申し上げます。

ご回答いただきました調査票データの取り扱いは、個人情報の漏洩に伴う不利益を生じないよう厳重に管理し、本件委託業者とは「個人情報に関する覚書」を取り交わすなど、個人情報の保護に最大限の配慮を致します。本調査により得られた情報は、上記特別研究完了に伴う研究報告書、論文・学会発表等の研究目的以外に使用されず、研究における使用の際には個人が特定されないような記述を行う等、取扱いに関しても細心の注意を払います。調査票へのご回答の中断・再開が可能であり、ご回答を控えたいと感じになった場合には、無理にご回答を要求するものではありません。本調査票への回答を以て、本調査へのご協力に同意を頂いたものとさせていただきます。

その他本調査票に関してご質問等ございましたら、下記のお問い合わせ先にてお受け致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先：大阪府立大学 人間社会システム科学研究科
山野則子研究室
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
電話：072-254-9783
E-mail: eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp

提出期限：2020年12月4日（金）

問1. 回答者様の職種・役職について、1～4のうち該当する数字を回答欄にご記入ください。

1. 管理職 3. 養護教諭
2. 教員 4. その他（ ）

回答欄 数字)→

問2. 貴校の属する自治体の規模について、1～7のうち該当する数字を回答欄にご記入ください。

1. 政令指定都市 5. 人口10万人以下の市
2. 中核市（児童相談所設置あり） 6. 町
3. 中核市（児童相談所設置なし） 7. 村
4. 1～3以外の人口10万人以上の市

回答欄 数字)→

図表 III-2 学校調査調査票

問3. 貴校の種別をお答えください。

1. 小学校 2. 中学校

回答欄 数字)→

問4. 貴校の全校児童生徒数をお教えください。

回答欄 数字)→

問5. 貴校において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置はありましたか？

1. あり 2. なし

回答欄 数字)→

問6. 休校措置を行った場合) 休校中に貴校全体で実施したことをお教えください。複数回答可)

1. 家庭訪問 対面) 5. オンライン授業 中継)
2. 家庭訪問 非対面…プリント類をポストインするなど 6. 教員による児童生徒預かり
3. 各家庭へ個別に電話・メール 7. 教員以外による児童生徒預かり
4. オンライン授業 録画) 8. その他 ()

回答欄 数字)→

図表 III-2 学校調査調査票 (続き)

問7-1. コロナ禍における子ども・保護者・学校の状況の変化についてお聞きします。

①新型コロナウイルス感染拡大前・②休校期間中・③学校再開直後・④現在における総合的な状況について、該当する数字を回答欄にご記入ください。

* 休校措置をとっていない場合は、①③④のみご回答ください。

	まったく 良好でない	あまり 良好でない	どちらとも いえない	まあまあ 良好	とても 良好	回答欄 数字)			
						①コロナ前 ～2020年2月)	②休校期間中 2020年3月～)	③学校再開直後 2020年6月頃)	④現在 2020年10月)
0. 回答例) 子どもと教職員の関係性	1	2	3	4	5	4	1	2	5
1. 子どもと教職員の関係性	1	2	3	4	5				
2. 子どもの他児との関係性	1	2	3	4	5				
3. 子どもの学習意欲	1	2	3	4	5				
4. 子どものストレス・精神状態	1	2	3	4	5				
5. 保護者と子どもの関係性	1	2	3	4	5				
6. 保護者と教職員の関係性	1	2	3	4	5				
7. 保護者のストレス・精神状態	1	2	3	4	5				
8. 子どもの家庭の経済状況	1	2	3	4	5				
9. 教職員同士の関係性	1	2	3	4	5				

図表 Ⅲ-2 学校調査調査票（続き）

						回答欄 数字)			
	非常に 少ない	少 ない	ど ちら とも いえ ない	多 い	非常 に多 い	①コロナ前 ～2020年2月)	②休校期間中 2020年3月～)	③学校再開直後 2020年6月頃)	④現在 2020年10月)
10. 子どもが希望を話す	1	2	3	4	5	4	1	2	5
11. 子どもが過去を話す	1	2	3	4	5				
12. 子どもが家族を話す	1	2	3	4	5				
13. 子どもの忘れ物の数や回数	1	2	3	4	5				
14. 子どもの学校の遅刻	1	2	3	4	5				
15. 子どもの学校の欠席	1	2	3	4	5				
16. 子どもの問題行動	1	2	3	4	5				
17. 子ども間のいじめ	1	2	3	4	5				
18. 子ども間の友人関係トラブル	1	2	3	4	5				
19. 子どもの自傷行為	1	2	3	4	5				
20. 保護者の問題行動	1	2	3	4	5				
21. 保護者からの苦情の回数	1	2	3	4	5				
22. 家庭訪問の回数	1	2	3	4	5				
23. 保護者との連絡回数	1	2	3	4	5				
24. ケース会議の実施	1	2	3	4	5				
25. 他機関との連絡回数	1	2	3	4	5				
26. 他機関への訪問回数	1	2	3	4	5				
27. 制度やサービスの利用	1	2	3	4	5				

図表 Ⅲ-2 学校調査調査票（続き）

問7-2. 上記の1～27の項目のうち、特に「コロナの影響を受け深刻化している」と感じる項目を【 】つ】選択して数字をご記入ください。

回答欄 数字)→			
----------	--	--	--

問8. 貴校における支援状況についてお聞きします。

2019年4月～9月・2020年4月～9月 それぞれの1ヶ月間について、以下の項目の数をご記入下さい。

※人数等が0の場合は0 とご記入下さい。また回答が難しい箇所につきましては空欄として下さい。

		回答欄 数字)											
		2019年度						2020年度					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1. いじめ 警察への相談・通報	件数												
2. いじめアンケート	実施率												
3. いじめ	認知件数												
4. 長期欠席者（病気）	人数												
5. 長期欠席者（経済的理由）	人数												
6. 不登校	人数												
7. 暴力行為	発生件数												
8. 児童虐待に関する問題	対応件数												
9. 貧困に関する問題	対応件数												
10. 虐待、貧困以外の家庭環境に関する問題	対応件数												
11. 心身の健康・保健に関する問題	対応件数												
12. 発達障害等に関する問題	対応件数												
13. その他の問題	対応件数												

* これらの調査項目は、文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」や「SSW 活動報告フォーム」などを参考に作成しております。

図表 Ⅲ-2 学校調査調査票（続き）

問9. 以下の①②について、あてはまる数字をご記入ください。

①コロナ感染防止を理由に、家庭訪問を断った保護者の実人数

1. 0人 3. 5人～9人

2. 1人～4人 4. 10人以上

回答欄 数字)→

②コロナ感染防止を理由に、登校しない児童生徒の数

1. 0人 3. 5人～9人

2. 1人～4人 4. 10人以上

回答欄 数字)→

問10. その他、新型コロナウイルス感染拡大の前後で状況が大きく変化したとお感じになる点や困っていることについてご自由に記述して下さい。

--

図表 Ⅲ-2 学校調査調査票（続き）

令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業
(厚生労働科学特別研究事業)
コロナ禍における子どもへの影響と支援方策
のための横断的研究

機関調査：③市町村調査：教育委員会、学校調査
報告書

令和 3 年 3 月
公立大学法人大阪 大阪府立大学 山野則子研究室